平成27年第３回定例会会議録

平成２７年　第３回菊池市議会定例会会期日程表（会期１８日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
９月　１日	火	本　会　議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・議案上程・提案理由説明
９月　２日	水	休　　会	議案調査
９月　３日	木	休　　会	議案調査
９月　４日	金	休　　会	議案調査
９月　５日	土	休　　会	（市の休日）
９月　６日	日	休　　会	（市の休日）
９月　７日	月	休　　会	議案調査
９月　８日	火	本　会　議	質疑・委員会付託・一般質問
９月　９日	水	本　会　議	一般質問
９月１０日	木	本　会　議	一般質問
９月１１日	金	本　会　議	議案上程・提案理由説明・委員会付託
９月１２日	土	休　　会	（市の休日）
９月１３日	日	休　　会	（市の休日）
９月１４日	月	委　員　会	常任委員会　（総務文教　第１委員会室） （福祉厚生　第２委員会室） （経済建設　第４委員会室）
９月１５日	火	委　員　会	常任委員会　（総務文教　第１委員会室） （福祉厚生　第２委員会室） （経済建設　第４委員会室）
９月１６日	水	休　　会	議事整理
９月１７日	木	休　　会	議事整理
９月１８日	金	本　会　議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣告

平成２７年　第３回菊池市議会定例会会議録（目次）

９月１日（火曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第１号…… 33
２．本日の会議に付した事件…… 35
３．出席議員氏名…… 37
４．欠席議員氏名…… 37
５．説明のため出席した者の職氏名…… 37
６．事務局職員出席者…… 38
７．開　会…… 39
８．開　議…… 39
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 39
10．日程第２　会期の決定…… 39
11．日程第３　総務文教常任委員会・福祉厚生常任委員会視察研修報告…… 40
12．日程第４　議案第６７号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 44
13．日程第５　議案第６８号から議案第９６号まで一括上程・説明…… 48
14．日程第６　報告第１８号から報告第２２号まで一括上程・報告・質疑…… 62
15．日程第７　陳情第５号　上程…… 65
16．日程通告　散会…… 66

９月２日（水曜日）　休　会
９月３日（木曜日）　休　会
９月４日（金曜日）　休　会
９月５日（土曜日）　休　会
９月６日（日曜日）　休　会
９月７日（月曜日）　休　会

９月８日（火曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第２号…… 69
２．本日の会議に付した事件…… 69
３．出席議員氏名…… 69
４．欠席議員氏名…… 70
５．説明のため出席した者の職氏名…… 70
６．事務局職員出席者…… 70

７．開　議…… 72
８．日程第１　議事第２号　議会運営委員会委員の辞任及び選任について…… 72
９．日程第２　議事第３号　企業誘致促進特別委員会委員の辞任について…… 72
10．日程第３　質疑…… 73
11．日程第４　常任委員会付託…… 75
12．日程第５　議事第４号　決算特別委員会の設置について…… 76
13．日程第６　一般質問…… 77
（１）城　典臣君質問…… 77
「職員の健康管理について」…… 78
○総務部長　馬場一也君答弁…… 79
城　典臣君質問…… 80
○総務部長　馬場一也君答弁…… 80
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 81
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 82
○健康福祉部長　木原雄二君答弁…… 82
○経済部長　松野浩一君答弁…… 83
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 83
○教育部長　松岡千利君答弁…… 84
城　典臣君質問…… 85
○七城総合支所長　楳田邦昭君答弁…… 85
○旭志総合支所長　水上満弘君答弁…… 86
○泗水総合支所長　上田譲二君答弁…… 86
城　典臣君質問…… 87
○市長　江頭　実君答弁…… 87
（２）城　典臣君質問…… 88
「健康志向を市の活性化につなげては」…… 88
○経済部長　松野浩一君答弁…… 89
城　典臣君質問…… 90
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 90
（３）城　典臣君質問…… 91
「地方創生について」…… 91
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 92
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 93
城　典臣君質問…… 94

○教育部長　松岡千利君答弁…… 95
城　典臣君質問…… 95
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 95
休　憩…… 96
開　議…… 96
（１）水上隆光君質問…… 96
「菊池の食材について」…… 96
○経済部長　松野浩一君答弁…… 97
水上隆光君質問…… 97
○経済部長　松野浩一君答弁…… 98
水上隆光君質問…… 99
○経済部長　松野浩一君答弁…… 99
（２）水上隆光君質問…… 100
「ホールクロップサイレージ（ＷＣＳ）について」…… 100
○経済部長　松野浩一君答弁…… 101
水上隆光君質問…… 102
○経済部長　松野浩一君答弁…… 102
水上隆光君質問…… 103
○経済部長　松野浩一君答弁…… 104
（３）水上隆光君質問…… 104
「市長に就任して２年間の手ごたえは」…… 104
○市長　江頭　実君答弁…… 105
水上隆光君質問…… 107
○市長　江頭　実君答弁…… 107
水上隆光君質問…… 108
○市長　江頭　実君答弁…… 108
水上隆光君質問…… 109
○市長　江頭　実君答弁…… 109
昼食休憩…… 110
開　議…… 110
（１）荒木崇之君質問…… 110
「竜門ダムについて」…… 110
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 111
荒木崇之君質問…… 112

○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 114
（２）荒木崇之君質問…… 114
「菊池市の道路整備について」…… 114
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 115
荒木崇之君質問…… 116
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 117
荒木崇之君質問…… 118
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 119
（３）荒木崇之君質問…… 119
「ＧＩＳについて」…… 120
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 121
荒木崇之君質問…… 121
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 122
休　憩…… 123
開　議…… 123
（１）平　直樹君質問…… 123
「補助金窓口業務について」…… 123
○経済部長　松野浩一君答弁…… 124
平　直樹君質問…… 124
○経済部長　松野浩一君答弁…… 124
平　直樹君質問…… 125
○総務部長　馬場一也君答弁…… 125
平　直樹君質問…… 126
○総務部長　馬場一也君答弁…… 126
（２）平　直樹君質問…… 127
「文化会館の利用について」…… 128
○教育部長　松岡千利君答弁…… 128
平　直樹君質問…… 128
○教育部長　松岡千利君答弁…… 129
平　直樹君質問…… 129
○教育部長　松岡千利君答弁…… 130
（３）平　直樹君質問…… 131
「市内中学校について」…… 131
○教育部長　松岡千利君答弁…… 132

平　直樹君質問…… 132
○教育部長　松岡千利君答弁…… 133
平　直樹君質問…… 133
○教育部長　松岡千利君答弁…… 134
平　直樹君質問…… 135
○教育部長　松岡千利君答弁…… 135
平　直樹君質問…… 135
○教育長　原田和幸君答弁…… 136
14．日程通告　散会…… 137

９月９日（水曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第３号…… 141
２．本日の会議に付した事件…… 141
３．出席議員氏名…… 141
４．欠席議員氏名…… 141
５．説明のため出席した者の職氏名…… 142
６．事務局職員出席者…… 142
７．開　議…… 143
８．日程第１　一般質問…… 143
（１）岡﨑俊裕君質問…… 143
「社会資本の整備について」…… 143
○水道局長　藤本辰広君答弁…… 144
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 145
岡﨑俊裕君質問…… 146
○水道局長　藤本辰広君答弁…… 146
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 147
岡﨑俊裕君質問…… 147
○市長　江頭　実君答弁…… 148
（２）岡﨑俊裕君質問…… 149
「新庁舎等の整備について」…… 149
○総務部長　馬場一也君答弁…… 150
（３）岡﨑俊裕君質問…… 151
「菊池渓谷について」…… 151
○経済部長　松野浩一君答弁…… 152

岡﨑俊裕君質問…… 153
○経済部長　松野浩一君答弁…… 154
○市長　江頭　実君答弁…… 154
休　憩…… 155
開　議…… 155
経済部長　松野浩一君発言の申し出…… 156
（１）坂本道博君質問…… 156
「七城地域へのあいのりタクシーの導入について」…… 156
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 157
坂本道博君質問…… 157
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 158
坂本道博君質問…… 159
○市長　江頭　実君答弁…… 159
（２）坂本道博君質問…… 160
「台風１５号による農業被害について」…… 160
○経済部長　松野浩一君答弁…… 160
坂本道博君質問…… 161
○経済部長　松野浩一君答弁…… 161
坂本道博君質問…… 162
○市長　江頭　実君答弁…… 163
昼食休憩…… 164
開　議…… 164
（１）泉田栄一朗君質問…… 164
「選挙権年齢引き下げについて」…… 164
○選挙管理委員会委員長　中村道夫君答弁…… 166
泉田栄一朗君質問…… 166
○選挙管理委員会委員長　中村道夫君答弁…… 167
○教育長　原田和幸君答弁…… 168
（２）泉田栄一朗君質問…… 168
「職員採用について」…… 169
○総務部長　馬場一也君答弁…… 169
泉田栄一朗君質問…… 170
○総務部長　馬場一也君答弁…… 170
泉田栄一朗君質問…… 171

○総務部長　馬場一也君答弁…… 172
泉田栄一朗君質問…… 172
○市長　江頭　実君答弁…… 173
（３）泉田栄一朗君質問…… 173
「振り込め詐欺について」…… 173
○健康福祉部長　木原雄二君答弁…… 174
泉田栄一朗君質問…… 175
○健康福祉部長　木原雄二君答弁…… 176
休　憩…… 176
開　議…… 176
（１）出口一生君質問…… 176
「旭志幼稚園閉園施設の利活用と管理について」…… 177
○教育部長　松岡千利君答弁…… 177
出口一生君質問…… 177
○教育部長　松岡千利君答弁…… 178
出口一生君質問…… 179
○教育部長　松岡千利君答弁…… 179
（２）出口一生君質問…… 179
「小・中学校の交通安全教育について」…… 179
○教育部長　松岡千利君答弁…… 180
（３）出口一生君質問…… 180
「家庭からの可燃ごみ収集について」…… 181
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 181
出口一生君質問…… 182
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 183
出口一生君質問…… 183
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 183
出口一生君質問…… 184
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 184
出口一生君質問…… 185
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 186
９．日程通告　散会…… 186

９月１０日（木曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 191
２．本日の会議に付した事件…… 191
３．出席議員氏名…… 191
４．欠席議員氏名…… 191
５．説明のため出席した者の職氏名…… 192
６．事務局職員出席者…… 192
７．開　議…… 193
市民環境部長　倉原良則君発言の申し出…… 193
８．日程第１　一般質問…… 193
（１）東　奈津子さん質問…… 193
「マイナンバー制度について」…… 193
○市民環境部長　倉原良則君答弁…… 195
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 195
○市長　江頭　実君答弁…… 196
（２）東　奈津子さん質問…… 196
「地方創生について」…… 197
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 198
○市長　江頭　実君答弁…… 198
（３）東　奈津子さん質問…… 199
「介護保険制度について」…… 199
○健康福祉部長　木原雄二君答弁…… 201
東　奈津子さん質問…… 201
○健康福祉部長　木原雄二君答弁…… 203
東　奈津子さん質問…… 203
○市長　江頭　実君答弁…… 204
休　憩…… 206
開　議…… 206
（１）柁原賢一君質問…… 206
「図書館建設について」…… 206
○教育部長　松岡千利君答弁…… 206
柁原賢一君質問…… 207
○教育部長　松岡千利君答弁…… 208
柁原賢一君質問…… 208
○教育部長　松岡千利君答弁…… 208

柁原賢一君質問…… 209
○教育部長　松岡千利君答弁…… 209
（２）柁原賢一君質問…… 209
「空き家対策について」…… 209
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 210
柁原賢一君質問…… 211
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 211
柁原賢一君質問…… 211
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 211
柁原賢一君質問…… 212
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 212
柁原賢一君質問…… 212
○総務部長　馬場一也君答弁…… 213
柁原賢一君質問…… 213
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 214
柁原賢一君質問…… 214
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 215
柁原賢一君質問…… 215
○市長　江頭　実君答弁…… 216
（３）柁原賢一君質問…… 216
「農業後継者支援について」…… 217
○経済部長　松野浩一君答弁…… 217
柁原賢一君質問…… 218
○経済部長　松野浩一君答弁…… 218
昼食休憩…… 220
開　議…… 220
（１）大賀慶一君質問…… 220
「まち・ひと・しごと創生について」…… 221
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 221
大賀慶一君質問…… 222
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 222
大賀慶一君質問…… 223
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 223
大賀慶一君質問…… 224

○市長　江頭　実君答弁…… 224
（２）大賀慶一君質問…… 226
「道路の整備について」…… 226
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 226
大賀慶一君質問…… 227
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 227
大賀慶一君質問…… 228
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 229
（３）大賀慶一君質問…… 229
「図書館の整備について」…… 229
○教育部長　松岡千利君答弁…… 229
大賀慶一君質問…… 230
○教育部長　松岡千利君答弁…… 231
大賀慶一君質問…… 232
○教育部長　松岡千利君答弁…… 232
休　憩…… 233
開　議…… 233
（１）木下雄二君質問…… 233
「台風１５号の被害状況について」…… 233
○総務部長　馬場一也君答弁…… 234
○経済部長　松野浩一君答弁…… 235
木下雄二君質問…… 236
○市長　江頭　実君答弁…… 236
（２）木下雄二君質問…… 237
「道路整備について」…… 237
○建設部長　櫨川博久君答弁…… 237
木下雄二君質問…… 238
○市長　江頭　実君答弁…… 239
（３）木下雄二君質問…… 239
「菊池市老人福祉センター跡地の対応について」…… 239
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 239
○総務部長　馬場一也君答弁…… 240
木下雄二君質問…… 240
○総務部長　馬場一也君答弁…… 241

○建設部長　櫨川博久君答弁…… 241
（４）木下雄二君質問…… 241
「学校跡地の活用について」…… 241
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 242
（５）木下雄二君質問…… 242
「小川基金の奨学金への活用について」…… 243
○教育部長　松岡千利君答弁…… 243
木下雄二君質問…… 243
○教育長　原田和幸君答弁…… 244
○市長　江頭　実君答弁…… 244
（６）木下雄二君質問…… 245
「環境問題について」…… 245
○経済部長　松野浩一君答弁…… 245
（７）木下雄二君質問…… 246
「予算編成方針について」…… 246
○政策企画部長　小川秀臣君答弁…… 247
木下雄二君質問…… 247
○市長　江頭　実君答弁…… 248
９．日程通告　散会…… 249

９月１１日（金曜日）　本会議　頁

１．議事日程第５号…… 253
２．本日の会議に付した事件…… 253
３．出席議員氏名…… 253
４．欠席議員氏名…… 254
５．説明のため出席した者の職氏名…… 254
６．事務局職員出席者…… 255
７．開　議…… 256
８．日程第１　議案第９７号から議案第１００号まで一括上程・説明・質疑・常任委員会付託…… 256
９．日程第２　報告第２３号　上程・報告・質疑…… 260
10．日程通告　散会…… 262

９月１２日（土曜日）　休　会

９月１３日（日曜日）　休　会

９月１４日（月曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）

９月１５日（火曜日）　常任委員会（総務文教・福祉厚生・経済建設）

９月１６日（水曜日）　休　会

９月１７日（木曜日）　休　会

９月１８日（金曜日）　本会議

頁
１．議事日程第６号…… 265
２．本日の会議に付した事件…… 265
３．出席議員氏名…… 265
４．欠席議員氏名…… 266
５．説明のため出席した者の職氏名…… 266
６．事務局職員出席者…… 266
７．開　議…… 268
８．日程第１　各常任委員長報告…… 268
・総務文教常任委員長報告…… 268
・福祉厚生常任委員長報告…… 272
・経済建設常任委員長報告…… 275
委員長報告に対する質疑…… 278
休　憩…… 278
開　議…… 278
委員長報告に対する質疑…… 278
討　論…… 280
（１）東　奈津子さん討論…… 280
採　決…… 282
９．日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 283
休　憩…… 284
開　議…… 284
10．追加議事日程（第６号の追加１）…… 284
追加日程第１　意見書案第３号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 284
11．閉　会…… 288

第　１　号

９　月　１　日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

平成２７年９月１日（火曜日）午前１０時開議

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　総務文教常任委員会・福祉厚生常任委員会視察研修報告
第４　議案第６７号　専決処分の報告及び承認を求めることについて（平成２７年度菊池市一般会計補正予算第４号）
　上程・説明・質疑・討論・採決
第５　議案第６８号　菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定について
　議案第６９号　菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について
　議案第７０号　菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　議案第７１号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　議案第７２号　菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定について
　議案第７３号　菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定について
　議案第７４号　平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）
　議案第７５号　平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）
　議案第７６号　平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）
　議案第７７号　平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）
　議案第７８号　平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
　議案第７９号　平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
　議案第８０号　平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）
　議案第８１号　平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）

議案第８２号　平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）
議案第８３号　平成２６年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について
議案第８４号　平成２６年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第８５号　平成２６年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第８６号　平成２６年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第８７号　平成２６年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第８８号　平成２６年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第８９号　平成２６年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第９０号　平成２６年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第９１号　平成２６年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第９２号　平成２６年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第９３号　平成２６年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について
議案第９４号　菊池市定住自立圏形成方針の策定について
議案第９５号　字の区域の変更について
議案第９６号　字の区域の変更について
まで一括上程・説明
第６　報告第１８号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
報告第１９号　継続費精算報告について
報告第２０号　専決処分の報告について（公用車車両事故）
報告第２１号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）
報告第２２号　専決処分の報告について（消防団活動事故）
まで一括上程・報告・質疑
第７　陳情第　５号　街路灯設置に関する陳情書

上程

――――――――――――――――――――――― ○ ―――――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　総務文教常任委員会・福祉厚生常任委員会視察研修報告

日程第４　議案第６７号　専決処分の報告及び承認を求めることについて（平成２７年度菊池市一般会計補正予算第４号）

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第５　議案第６８号　菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定について

議案第６９号　菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について

議案第７０号　菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第７１号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第７２号　菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定について

議案第７３号　菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定について

議案第７４号　平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）

議案第７５号　平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

議案第７６号　平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）

議案第７７号　平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）

議案第７８号　平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）

議案第７９号　平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）

議案第８０号　平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）

議案第８１号　平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第

１号）

議案第８２号　平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）

議案第８３号　平成２６年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第８４号　平成２６年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第８５号　平成２６年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第８６号　平成２６年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第８７号　平成２６年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第８８号　平成２６年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第８９号　平成２６年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第９０号　平成２６年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第９１号　平成２６年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第９２号　平成２６年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第９３号　平成２６年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について

議案第９４号　菊池市定住自立圏形成方針の策定について

議案第９５号　字の区域の変更について

議案第９６号　字の区域の変更について

まで一括上程・説明

日程第６　報告第１８号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

報告第１９号　継続費精算報告について

報告第２０号　専決処分の報告について（公用車車両事故）

報告第２１号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）

報告第２２号　専決処分の報告について（消防団活動事故）

まで一括上程・報告・質疑

日程第７　陳情第　５号　街路灯設置に関する陳情書
　上程

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん
７番	松　岡	譲　君
８番	荒　木	崇　之　君
９番	柁　原	賢　一　君
１０番	工　藤	圭一郎　君
１１番	城	典　臣　君
１２番	大　賀	慶　一　君
１３番	岡　﨑	俊　裕　君
１４番	水　上	彰　澄　君
１５番	泉　田	栄一朗　君
１６番	森	清　孝　君
１７番	樋　口	正　博　君
１８番	木　下	雄　二　君
１９番	山　瀬	義　也　君
２０番	境	和　則　君

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江　頭	実　君
副市長	木　村	利　昭　君
政策企画部長	小　川	秀　臣　君
総務部長	馬　場	一　也　君
市民環境部長	倉　原	良　則　君
健康福祉部長	木　原	雄　二　君

経　済　部　長	松　野　浩　一　君
建　設　部　長	櫨　川　博　久　君
七城総合支所長	楳　田　邦　昭　君
旭志総合支所長	水　上　満　弘　君
泗水総合支所長	上　田　譲　二　君
財　政　課　長	中　村　喜　範　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳　永　孝　博　君
市長公室長	上　田　俊　介　君
教　育　長	原　田　和　幸　君
教　育　部　長	松　岡　千　利　君
農業委員会事務局長	原　　和　徳　君
水　道　局　長	藤　本　辰　広　君
代表監査委員	宮　川　貞　雄　君
監査事務局長	松　永　隆　則　君

○

事務局職員出席者

事　務　局　長	城　　主　一　君
事務局課長	徳　永　裕　治　君
議　会　係　長	松　原　憲　一　君

午前１０時１６分　開会

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

ただいまの出席議員は２０名です。定足数に達していますので、ただいまから平成２７年第３回菊池市議会定例会を開会します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　ここで日程に先立ちまして諸般の報告をいたします。

８月７日、菊池地域市町議会議員研修会が開催されました。公益財団法人地方経済総合研究会から講師を招き、「地方版総合戦略における競争と連携」と題して、人口減少社会における本市が取り組んでいくべき課題等について講演を受けました。

次に、８月１８日、熊本県市議会議長会として、県庁において知事への要望活動を行いました。

県北地域の共通の課題であります地域振興策のために、観光ルートの開拓支援とともに、交通の利便性の向上を図ること、また、ＴＰＰ交渉を初めとする国際競争の激化による産業の衰退や雇用機会をなくさぬよう、特に本市の基幹産業であります農畜産業対策については、県の積極的な政策展開と支援を要望してまいりました。

次に、監査委員から平成２７年７月分までの一般会計、特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査の報告があっておりますので、ご報告を申し上げます。

なお、詳細については、事務局に備えつけの書類によりご承諾いただきたいと思います。

以上で諸般の報告を終わります。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

午前１０時１８分　開議

○議長（森　清孝君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（森　清孝君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定により、柁原賢一君及び工藤圭一郎君を指名します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○議長（森　清孝君）　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期につきましては、去る７月２１日の議会運営委員会におきまして、本日から９月１８日までの１８日間とすることに結論を見ておりますが、これにご異議はございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、会期は本日から９月１８日までの１８日間と決定しました。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第３　総務文教常任委員会・福祉厚生常任委員会視察研修報告

○議長（森　清孝君）　次に、日程第３、常任委員会の行政視察報告の件を議題とします。

総務文教常任委員会、福祉厚生常任委員会が実施した行政視察の報告を求めます。

総務文教常任委員会委員長、工藤圭一郎君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（工藤圭一郎君）　おはようございます。総務文教常任委員会の視察研修について、ご報告を申し上げます。

今回の研修は北海道砂川市の「市民との協働によるまちづくり」についてと北広島市の「図書館の運営及び図書館視察」について、８月１０日から１２日までの２泊３日の日程で、委員７名、執行部１名、事務局１名、計９名で研修を行いました。

初めに、砂川市は北海道のほぼ中央に位置し、石狩川が市内を流れ、平地地帯が広がっています。かつては石炭産業が盛んで人口が４万人を超えていましたが、平成２７年３月末現在の人口は１万７，９７２人、豊かな緑と水に囲まれた商工農のバランスのとれたまちであります。

研修内容は、「市民との協働によるまちづくり」についてであります。

平成２３年度から１０年間のまちづくりの最上位計画である砂川市第６期総合計画において、めざす都市像を「安心して心豊かにいきいき輝くまち」と定め、その実現に向け、「協働によるまちづくりの推進」をまちづくりにおける共通した考えとして掲げて、協働のまちづくりに取り組まれています。

そこで、町内会の現状と課題を把握するため、町内会実態調査の実施、協働の意識の向上を図るため協働のまちづくり講演会を開催し、協働の理念や推進の基本的な方向性を示す協働のまちづくり指針を策定し、協働を推進するための土台づくりに努めて、よりよいまちづくりに向けて、協働についての理解と意識を高める意識づくり、市民との懇談や意見交換を行い現状と課題を把握する環境づくり、地域課題の解決を図る仕組みづくりに取り組まれています。

協働のまちづくりが求められる背景についてですが、これまで地域の課題は、行政サービスとして市主導で解決されていましたが、しかし、時代とともに少子・高齢化と人口減少の進行、住民ニーズの多様化、地域主権の進展など、社会・経済情勢が変化していくのに合わせて、地域の課題を解決し、住みよいまちを築いていくためには、地域を知り、地域に愛着を持たれている市民の皆さんの力、地域の力を生かしていくことが大切となってきている。このことから、市民、町内会、ボランティア団体、ＮＰＯ、事業者と市が協力し合いながら、まちづくりを進めているとのことでありました。

主な事例として、花いっぱい運動、町内会による街区公園管理、在宅老人配食サービス、放課後子ども教室、民間団体による学童保育、挨拶運動などに取り組んでおられます。

今後の課題として、協働の考え方が市民に浸透していない、指針の考え方に基づいた施策の具現化、協働事業を定期的に評価する仕組みづくり、市民活動団体に対する支援策の検討、条例化に向けた研究があるということであります。

本市においては、平成２７年度策定の第２次総合計画の基本構想において考え方を、基本計画の各施策において市民協働との関係や対象者及び今後取り組む内容が明記されていますが、本市でも自治会加入率が低下傾向にあり、若い世代が地域活動に参加していない現状があり、また、少子化で担い手不足が深刻となりつつあります。地域活動を維持していくために、市民との協働のまちづくりを市民や各種団体と行政が話し合いを進め、市民参加のまちづくりを進めていく必要性を感じました。

次に、北広島市は札幌市の南東に隣接しており、農村として発展してきましたが、ニュータウンが開発され、札幌市都市圏のベッドタウンとして人口が増加しています。平成２７年３月末の人口は５万９，５１９人で、自然に恵まれ、豊かな都市機能と潤いに満ちたまちであります。

図書館の概要を申し上げますと、平成１０年に図書館と芸術文化ホールが建設され、延べ床面積約４，０００平方メートル、蔵書規模３５万冊、そのほかに地区図書館分室４カ所、移動図書館車１台、専任職員７名（うち有資格者４名）、非常勤職員２６名、平均年間資料費２，３００万円、１人当たりの年間貸出冊数８．１９冊で、１日約１，０００人の利用者があり、市民の読書への関心の高さと学習意欲から多くの利用となっています。

より多くの方に快適に利用していただくため、開館当時から各種のサービスを展開されている。一例を挙げると、インターネットによるウエブ予約サービス、ウエブレファレンスサービス開始、高齢者等図書館宅配サービス、ＣＤ貸し出しサービ

ス本格実施、フェリカでの貸し出し開始・館内Ｗｉ－Ｆｉ設置など行われている。

また、ボランティアを中心にした図書館活動が盛んで、ボランティアグループが「図書館フィールドネット」として活動されております。活動の内容としては、読み聞かせ講演会、人形劇、本の展示、英語の読み聞かせ活動、本の修繕、図書館イベントの手伝いなど多種にわたっており、約１５０名が活動されている。独自の運営委員会を持ち、市の交付金と事業収入をもとに事業を主催されております。

図書館の運営について、職員とは別にボランティアで携わっておられる方の多さにびっくりしました。ボランティアなので報酬はもらわないという意識の高さが図書館の運営を支えていると感じました。

開館後も市民の多様なニーズを的確につかみ、ソフト面、ハード面において市民目線で改善されており、市民の図書館に対する満足度の高さに驚かされました。

本市において、本年度から生涯学習センター内に図書館が建設される予定でありますが、市民が快適な状態で利用できる図書館づくりに向けて、市民のニーズを聞きながら、市民の読書への関心を高める図書館を目指さなければならない。また、子どもから高齢者、障がいをお持ちの方まで利用しやすい図書館にしなければならないと感じました。

また、市民の読書普及活動のためのボランティア養成も必要と強く感じました。

今回の視察研修は本市にとって大いに参考とすることができました。

以上、総務文教常任委員会の視察研修報告とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　次に、福祉厚生常任委員会委員長、岡﨑俊裕君。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（岡﨑俊裕君）　おはようございます。閉会中の福祉厚生常任委員会視察研修について、ご報告を申し上げます。

去る８月４日から８月６日までの２泊３日の日程で、委員５名及び議長、事務局１名、執行部１名、計８名により、石川県小松市、富山県射水市及び富山市で視察研修を行いましたので、その視察研修内容について申し上げます。

初めに、石川県小松市は、加賀平野のほぼ中央部に位置し、東は霊峰白山を望み、西は日本海に面し、風光明媚で豊かな自然に恵まれ、面積３７１．０５平方キロメートル、人口は１０万８，０００人で、南加賀の中心都市であります。古くから絹織物が栄え、小松綸子、小松ちりめんで知られるほか、九谷焼など全国的に有名です。また、コマツのブルドーザーとして国際的に知られる（株）コマツを中心に、関連企業が立地しています。

研修内容は、小松市が進める「子育て支援について」であります。

事業の主なものは、マイ保育園事業、子ども医療費の助成事業です。

マイ保育園事業については、事業趣旨は、教育・保育施設を身近な子育て拠点と位置づけ、保護者が希望する施設へ登録し、保育士等による育児相談や一時預かりの利用を通じて、妊娠時から児童を有する子育て家庭の育児不安の解消を図るとのことであります。対象者は、母子手帳の交付を受けた者、または３歳までの入園していない子どもを持つ保護者が対象となっています。

事業としては、マイ保育園登録事業と子育て支援プラン事業の２つがあります。

マイ保育園登録事業は、育児見学として、おむつ交換、授乳、離乳食づくり、その他育児に関する保育の見学、一時預かりとして、月曜から金曜日の午前半日預かりがあり、半日預かりの無料券３枚を出産時に配付するとのことでありました。育児支援として、育児相談及び育児教室の実施があります。

子育て支援プラン事業では、子育てに不安を抱えており、定期的に見守りが必要と思われる家庭に子育て支援コーディネーターが子育て支援プランの作成を行い、経過観察と記録を行うものです。効果としては、育児不安の解消が図られ、児童虐待を早期発見することができることで、課題としては、未登録家庭に声かけを行っているが、登録につながらないことで登録率は６７％にとどまり、各家庭の実態調査が必要であるとのことでありました。

子ども医療費の助成事業は、現在の対象年齢はゼロ歳から１８歳に達する最初の３月３１日までで、一部自己負担がありますが、平成２７年１０月からは対象年齢はそのままで自己負担がなくなります。助成方法は償還払いから現物払いになり、さらに充実した内容になります。

マイ保育園事業は、保護者や未就園児のことを考えた事業で、各園では市民から選ばれる施設になるために切磋琢磨されており、市民目線に立ったすばらしい事業だと感じました。

次に、富山県射水市は、富山県のほぼ中央部に位置し、海、川、丘陵地など緑と潤いあふれる自然豊かな都市です。面積は１０９．４３平方キロメートル、人口は９万４，０００人です。半径７キロメートルのコンパクトでまとまりのある中に港湾、ＪＲ、北陸自動車道など社会基盤が整備された都市です。水が豊かで、古くから栄えた土地でもあります。

研修内容は、「バイオマス産業都市」であります。

射水市のバイオマス産業推進の大きな特徴は、市民や企業へ経済的リスクを抑え、継続性の高い成功するビジネスを前提とし、新技術やハイテクの導入を最小限に抑え、究極のローテクを駆使する現実的な事業展開を目標としています。

主な事業は、ハード事業として、堆肥製造、もみ殻の有効利用、木質バイオマス発電、また、福祉事業として、廃食用油混合燃料製造が進められています。

堆肥製造事業は、木材業から廃棄される樹皮や製材廃材、刈り草や食品残渣などから市内のバイオマスで土づくりの基礎となる堆肥をつくります。

もみ殻有効利用は、射水市では年間３，０００トンのもみ殻が排出されており、これを燃料として使い、灰は堆肥、肥料や次世代コンクリート製品に生まれ変わります。

木質バイオマス発電は、間伐材を主としてバイオマス発電を実施し、発電出力は５，７５０キロワットです。年間５万トンの間伐材を利用する計画で、発電から排出される灰も有効利用するための研究開発が進められています。

廃食用油混合燃料製造は、灯油７に対し、廃食用油３を混合するもので、現在は年間５万トンの混合燃料を市内の温浴施設に納入し、温室効果ガスの排出抑制と障がい者の自立支援にも貢献しているとのことでありました。

ここでは、資源のリサイクルを初め、バイオマス事業についても、研修時に対応されました職員が言われていた「各自治体に合った事業を研究することが大事だ」という言葉が心に残っています。

次に、富山県富山市は、富山県中央に位置し、面積１，２４１．７７平方キロメートル、人口は４１万９，０００人の中核都市であります。

研修内容は、「エコタウン事業」についてです。

エコタウン事業とは、産業から出る全ての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにする環境と調和したまちづくりを推進する事業です。経済産業省と環境省により、エコタウン制度として平成９年度に創設され、富山市は平成１４年５月に全国で１６番目に承認されています。

現在、エコタウン産業団地（約１８ヘクタール）に、第１期事業として、平成１５年度に自動車リサイクル施設など４施設が操業開始、第２期事業として、平成１７年度に１社、平成１８年度に２社が操業開始し、これにより現在７施設が資源循環を推進しているとの説明を受けたところであります。

その中の木質系廃棄物炭化リサイクル事業施設では、製品化された木炭、木炭ボードやその製造過程の視察研修を実施したところであります。

ここでは、市と民間企業との良好な相互関係により、ごみから資源へと、そして、雇用や教育の分野まで多岐にわたり市の発展に寄与されていると感じました。

最後に、今回の視察研修について、大変充実した実のある研修ができたことを申し上げまして、福祉厚生常任委員会の研修報告といたします。

○議長（森　清孝君）　以上で報告を終わります。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第４　議案第６７号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（森　清孝君）　次に、日程第４、議案第６７号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして皆様おはようございます。本日、平成２７年第３回菊池市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、本会議にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

本定例会の会期につきましては、先ほどご決定をいただきましたように、本日から９月１８日までの１８日間の日程でご審議をお願いするものでございます。

さて、提案理由をご説明いたします前に、８月２５日に１６年ぶりの熊本県上陸となりました台風１５号でございますが、本市にも大変大きな被害をもたらしたところでございます。

現段階での被害状況につきまして、ご報告を申し上げます。

今回の台風では、２５日朝から市内全域にわたり停電が発生しまして、復旧は翌２６日の夜までかかりました。

人的被害としては、強風にあおられての軽傷者が２名、家屋被害として、倒木による一部損壊３棟を初め、瓦など屋根材の飛散は市内全域に多数でございました。

市道関係では、市内１３４カ所で風倒木による通行どめが発生しまして、現在、３カ所が復旧中でございます。

農業関係では、栗、梨、メロン、カスミソウなどを初めとした農作物の被害額が約１億２，４７１万円と見込まれております。ビニールハウスの破損など、園芸施設等の被害額が約１，４９５万円、その他、水路、農道、林道などの農業用施設被害額が約１，２６８万円など、現段階での被害の取りまとめ状況でございます。

被害に遭われた市民の皆様に改めて心からお見舞いを申し上げるところでございます。

それでは、ただいま上程されました議案第６７号について、ご説明を申し上げます。

議案書１ページをお願いいたします。

本年６月から７月上旬にかけて発生いたしました豪雨災害の復旧費用の補正につきまして、地方自治法の規定により専決処分をいたしましたので、これを報告し、承認を求めるものでございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　おはようございます。それでは、議案第６７号をご説明いたします。

議案書の１ページをお願いいたします。

議案第６７号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。

提案理由は、地方自治法の規定により専決処分をいたしましたので、議会に報告し、承認を求めるものでございます。

あけて２ページが専決第１５号専決処分書で、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第４号）でございます。

専決日は平成２７年７月３０日でございます。

４ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に６，１７１万５，０００円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２９２億４，５６５万５，０００円とするものでございます。

６月から７月にかけましての豪雨により発生しました災害復旧事業に係るものでございます。

内容につきまして、事項別明細書によりご説明をいたします。

まず、歳入でございます。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。

１枠目の分担金、目１０災害復旧費分担金４１５万円につきましては、農地及び農業用施設災害（国庫補助災害復旧事業）３件に係る地元分担金でございます。

２枠目の国庫負担金、目１０災害復旧費国庫負担金、節３公共土木施設災害復旧費負担金１００万８，０００円及び節４都市施設災害復旧費負担金１６０万円につきましては、市道１件及び公園施設１件に係る国庫負担金でございます。

３枠目の国庫補助金、目１０災害復旧費国庫補助金５３０万円につきましては、１枠目で説明いたしました農地及び農業用施設災害３件に係る国庫補助金でございます。

最下段の枠、市債、目１０災害復旧債、節５農林水産施設災害復旧債１１０万円及び節７公共土木施設災害復旧費９９０万円につきましては、農地及び農業用施設災害５４件及び単独災害の市道２件に係る市債でございます。

なお、４枠目の繰越金につきましては、今回の補正の財源調整のためでございます。

次に、歳出についてご説明をいたします。

１２ページ、１３ページをお願いいたします。

１枠目の目１農地等災害復旧費、節１３委託料５５万円及び節１５工事請負費１，

０００万円の増額は、茂藤里、下出田地区の農地及び妻越地区の農業用施設災害復旧、計３カ所に係る測量設計等委託及び工事請負費でございます。

同じく節１４使用料及び賃借料１４５万円の増額は、市が管理します農道４カ所（下河原２カ所、大迫、小原各１カ所）の復旧に係る建設機械借り上げによるものでございます。

同じく節１９負担金補助及び交付金７５０万円の増額は、農地及び農業用施設災害５４件に対する小災害復旧事業補助金でございます。

目３林業施設災害復旧費、節１４使用料及び賃借料３７８万３，０００円の増額は、林道竜門線ほか１５路線の復旧に係る建設機械借り上げによるものでございます。

２枠目の目２の現年度補助災害復旧費、節１５工事請負費の２１０万円の増額は、市道大坪鍋田２号の復旧に係る工事請負費でございます。

同じく目３単独災害復旧費、節１４使用料及び賃借料２，１４５万２，０００円の増額は、災害発生後の市道等の応急処理６９件に係る建設機械借り上げによるものでございます。

同じく節１５工事請負費８９０万円の増額は、市道袈裟尾辺田線の復旧に係る工事請負費でございます。

同じく節１６原材料費３５８万円の増額は、市道及び河川等１９カ所の復旧に係る原材料費でございます。

３枠目の目１その他公共施設災害復旧費、節１５工事請負費２４０万円の増額は、菊池公園内にあります官軍墓地石積みの復旧に係る工事請負費でございます。

それでは、６ページに戻っていただきたいと思います。

第２表、地方債補正でございます。

農地等災害復旧事業及び公共土木災害復旧事業に係る地方債の補正でございます。

補正後の限度額等は記載のとおりでございます。

以上、議案第６７号の説明とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第６７号は、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに

決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。議案第６７号は原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、議案第６７号は原案のとおり承認することに決定しました。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第５　議案第６８号から議案第９６号まで一括上程・説明

○議長（森　清孝君）　次に、日程第５、議案第６８号から議案第９６号までの２９議案を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま上程されました議案第６８号から議案第９６号につきまして、ご説明申し上げます。

議案書１５ページからになります。

議案第６８号、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定についてにつきましては、執行機関の附属機関の設置につきまして、条例で定めるものでございます。

議案第６９号から議案第７３号につきましては、関係法律の施行に伴う菊池市個人情報保護条例の改正及び菊池市職員の再任用に関する条例の改正、執行機関の附属機関の設置に伴う特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の改正、関係法律の施行及び改正に伴います菊池市手数料条例の改正、そのほか菊池市老人福祉センター条例の改正など、改正する条例５議案でございます。

次に、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）につきましては、歳出の主なものといたしまして、４月の人事異動に伴う人件費補正及び特別会計の事業費確定に伴う返還金に係る財源繰り出しのほか、空き家を有効活用し、移住促進による人口増及び地域活性化を図る移住定住推進事業５５０万円、お茶の降灰対策に係る農業用施設整備等補助金９，９６１万８，０００円、学校施設のつり天井落下防止対策に係る工事請負費４，４２１万円などでございます。

総額４億５，９５３万円を追加するものでございます。

議案第７５号から議案第８２号は、各特別会計の補正予算でございます。

平成２６年度事業費確定に伴う返還金及び人事異動に伴う人件費補正のほか、簡易水道事業等特別会計のろ過機改修に係る工事請負費１，２７４万４，０００円などが主なものでございます。

また、議案第８３号から議案第９３号までの１１議案につきましては、平成２６年度各会計歳入歳出決算の認定について、上程させていただいたものでございます。

次に、議案第９４号につきましては、菊池市定住自立圏形成方針の策定について、地方自治法第９６条第２項の規定による議会の議決すべき事件を定める条例の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第９５号及び議案第９６号につきましては、菊池東部２期地区中山間総合整備事業の実施に伴い、字の区域に変更が生じましたので、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、議案第６８号から議案第９６号まで一括してご説明をいたします。

議案書の１５ページをお願いいたします。

議案第６８号、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定についてでございます。

提案理由は、地方自治法の規定により、執行機関の附属機関の設置について条例で定めるものでございます。

あけまして１６ページ、１７ページが制定する条例案でございます。

まち・ひと・しごと創生法の規定により総合戦略を策定し、総合的かつ計画的に推進するため、推進会議を設置するものでございます。

第２条から、所掌事務、組織、会議の運営等を定めております。

なお、この条例は公布の日から施行することとしております。

次に、１９ページをお願いいたします。

議案第６９号、菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

提案理由は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（番号法）の施行に伴い、条例の一部を改正するものでございます。

あけて２０ページから２３ページが改正する条例案でございます。

ここでお手元の新旧対照表をお願いいたします。

１ページでございます。左側が現行、右側が改正案でございます。改正点は下線で表示をしてございます。

番号法の規定により、特定個人情報、これは個人番号をその内容に含む個人情報ということでございますけれども、その情報の利用、提供及びオンライン結合の制限を行うほか、個人情報の利用停止請求等の規定の整備を行うものでございます。

主なものといたしまして、１ページの第８条から２ページの第９条で特定個人情報の利用、提供及びオンライン結合の制限を追加するほか、７ページの第２８条から９ページの第３１条で自己情報及び特定個人情報の利用停止請求等の規定を追加するものでございます。

議案書に戻っていただきまして、２３ページをお願いいたします。

附則でございますけれども、この条例は平成２７年１０月５日から施行することとし、その他必要な経過措置を定めることとしております。

次に、２５ページをお願いいたします。

議案第７０号、菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

提案理由は、被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴い、条例の一部を改正するものでございます。

あけて２６ページが改正する条例案でございます。

特定警察職員等を規定する法律名等を改めるものでございます。

なお、この条例は平成２７年１０月１日から施行することとしております。

次に、２７ページをお願いいたします。

議案第７１号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

提案理由は、先ほどの議案第６８号の菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の設置に伴い、条例の一部を改正するものでございます。

あけて２８ページが改正する条例案でございます。

記載のとおり、当該委員の項を追加するものでございます。

なお、この条例は公布の日から施行することとしております。

次に、２９ページをお願いいたします。

議案第７２号、菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

提案理由は、番号法の施行及び住民基本台帳法の改正に伴い、条例の一部を改正

するものでございます。

あけて３０ページが改正する条例案でございます。

条例の別表の「住民基本台帳カードの交付（再交付を含む。）」の項を削除しまして、記載のとおり「個人番号の通知カードの再交付」及び「個人番号カードの再交付」の項を追加するものでございます。

なお、この条例は平成２７年１０月５日から施行することとし、その他必要な経過措置を定めることとしております。

次に、３１ページをお願いいたします。

議案第７３号、菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

提案理由は、施設の開館時間等を改めるため、条例の一部を改正するものでございます。

あけて３２ページが改正する条例案でございます。

開館時間、午前８時３０分を午前９時に改め、別表の使用料規定の整理を行うものでございます。

なお、この条例は公布の日から施行することとしております。

次に、３３ページをお願いいたします。

議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）でございます。

あけて３４ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に４億５，９５３万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２９７億５１８万５，０００円とするものでございます。

内容につきましては、事項別明細で主なものをご説明いたします。

４２ページ、４３ページをお願いいたします。

まず、歳入でございます。

３枠目の国庫補助金、目７土木費国庫補助金６，１８９万円の減額は、社会資本整備総合交付金の交付額決定による減額でございます。

同じく目９教育費国庫補助金、節２小学校費補助金３１９万８，０００円及び節３中学校費補助金１，１６１万３，０００円の増額は、隈府小学校、菊池南中学校及び泗水中学校の施設に係るつり天井落下防止対策工事に係る補助金でございます。

４枠目の委託金、目９教育費委託金２３４万１，０００円の増額は、泗水中学校長寿命化改善に向けた基本構想の策定に対する文部科学省からの委託金でございます。

最下段の枠、県補助金、目５農林水産事業費県補助金、節１農業費補助金１億２，２８９万３，０００円及び節４林業費補助金４，３５８万５，０００円の増額は、

農林業における生産基盤強化のため、ＪＡや生産組合等が実施する施設整備及び機械導入などに対する補助金でございます。

４４ページ、４５ページをお願いいたします。

１枠目の繰入金、目２５環境整備基金繰入金４，２６３万円の増額は、市道古川伊倉線改良事業の財源として繰り入れるものでございます。

４枠目の雑入、目２過年度収入１，０２９万３，０００円の増額は、平成２６年度保育所運営費に係る事業確定に伴う国、県からの運営費負担金の追加交付によるものでございます。

最下段の枠、市債、目２総務債４，２５０万円の増額は、当初予算で計上しておりましたキャニオン駐車場用地購入費に対し、合併特例債の充当が可能であるとの確認ができましたものですから、計上しているものでございます。

同じく目５農林水産業債２，５３０万円の増額は、龍龍館施設整備に対する市債でございます。

同じく目７土木債２，４８０万円の増額は、市道西迫間寺小野線ほか７路線に係る道路改良事業に対する市債でございます。

同じく目９教育債、節２小学校債１，１２０万円及び節３中学校債２，３８０万円の増額は、国庫支出金でもご説明しました学校施設のつり天井落下防止対策等に対する市債でございます。

続きまして、歳出でございます。

４月の人事異動に伴います人件費の補正を行っております。

その他につきまして、事項別明細書でご説明をいたします。

４８ページ、４９ページをお願いいたします。

１枠目の総務管理費、目９地域振興費５５０万円の増額でございますけれども、空き家を有効活用し、移住促進による人口増加及び地域活性化を図るための補助金でございます。借り手側に改修費用として１００万円を限度とし５件分、貸し手側に奨励金として一律１０万円を５件分計上してございます。

２枠目の項２徴税費でございます。目２の賦課徴収費、節２３償還金利子及び割引料７５４万円の増額は、平成２６年度の法人住民税確定に伴います前納超過分の還付金でございます。

３枠目の目１戸籍住民基本台帳費、節４共済費、社会保険料６１万円、節７賃金、節１８備品購入費等の増額は、社会保障・税番号制度に伴います個人番号カードの発行事務に要する臨時職員の社会保険料と賃金、個人番号カード専用プリンター等の購入費用でございます。

５０ページ、５１ページをお願いいたします。

２枠目の社会福祉費、目１社会福祉総務費、節２８繰出金５，８１１万２，０００円の増額は、平成２６年度国民健康保険事業特別会計の事業費確定に伴います国庫及び県支出金への返納金並びに社会保険診療報酬支払基金への返還金に係る財源として繰り出すものでございます。

最下段の高齢者福祉費、目１高齢者福祉費でございます。

あけて５２ページ、５３ページをお願いいたします。

１枠目の節１９負担金補助及び交付金でございますけれども、４８８万１，０００円の増額は、住宅型有料老人ホームのスプリンクラー設置に係る補助金でございます。国庫支出金として１００％交付され、市の負担はございません。

同じく節２８繰出金８８８万５，０００円の増額のうち、介護保険特別会計につきましては、平成２６年度事業費確定に伴います社会保険診療報酬支払基金への返還金に係る財源として繰り出すものでございます。

特別養護老人ホーム特別会計につきましては、４月の人事異動に伴います人件費に対する繰り出しでございます。

２枠目の児童福祉費、目４母子福祉費１，０７３万４，０００円の増額でございますけれども、８月から児童扶養手当給付費の算定が平成２７年度所得を基準とすることに伴う増額分と助産施設入所者１名に対する措置費によるものでございます。

５４ページ、５５ページをお願いいたします。

１枠目の保健衛生費でございます。目４環境衛生総務費、節２８繰出金１，３４８万８，０００円の増額は、平成２９年度に予定しております水道事業会計統合に伴う簡易水道設備整備及び人事異動に伴う人件費に対する繰り出し、地域生活排水処理事業浄化槽施設の維持管理に係る消耗品購入及び修繕等に対する繰り出しでございます。

同じく目５環境対策費、節２５積立金４，２６３万円の増額は、歳入でご説明いたしました市道古川伊倉線改良事業の財源として繰り入れました環境整備基金に対して同額を積み立てるものでございます。

２枠目の農業費、目３農業振興費、節１９負担金補助及び交付金１億２，３４９万２，０００円の増額は、茶の降灰対策に係る洗浄脱水機施設及び摘採機能付除灰機を整備する特殊自然災害対策施設緊急整備事業補助金９，９６１万８，０００円のほか、生産組合等が購入する農業用機械などに対する補助金が主なものでございます。

５６ページ、５７ページをお願いいたします。

１枠目の目４農業振興施設費、節１３委託料１８０万円及び工事請負費２，４８０万８，０００円の増額は、龍龍館施設整備に伴うものでございます。

２枠目の林業費、目２林業振興費、節１９負担金補助及び交付金でございます。４，２９７万１，０００円の増額は、バックホーやトラック購入及びシイタケ等の特用林産物の生産・加工施設等の整備など林業事業者に対する補助金でございます。

５８ページ、５９ページをお願いいたします。

１枠目の商工費でございます。目２商工業振興費、節１９負担金補助及び交付金、まちなかづくり推進事業補助金２８６万４，０００円の増額は、御所通り「おもてなしまちづくり」景観整備事業として御所通り繁栄会に対し補助するものでございます。

６０ページ、６１ページをお願いいたします。

１枠目の道路橋りょう費でございます。目３道路橋りょう維持費、節１１需用費２，９００万円、節１４使用料及び賃借料６５３万９，０００円及び節１６原材料費６００万円などの増額は、既設道路の維持管理に対するものでございます。

６２ページ、６３ページをお願いいたします。

最下段の枠になります。小学校費、目１学校管理費、節１３委託料２１万４，０００円及び節１５工事請負費１，５５４万８，０００円の増額は、隈府小学校多目的ホールのつり天井落下防止対策に係る設計監理業務委託及び工事請負費などが主なものでございます。

６４ページ、６５ページをお願いいたします。

１枠目の中学校費でございます。目１学校管理費、節１３委託料のうち設計監理業務委託料１３６万３，０００円及び節１５工事請負費４，４２１万円の増額は、菊池南中学校プール・武道場及び泗水中学校武道場のつり天井落下防止対策に係る設計監理業務委託及び工事請負費でございます。

それでは、３７ページに戻っていただきたいと思います。

３７ページ、第２表、地方債補正でございます。

各学校施設のつり天井落下防止対策に係る地方債及びキャニオン駐車場用地購入費に対しての合併特例債の充当の地方債の補正でございます。

次に、７１ページをお願いいたします。

特別会計の補正予算でございます。議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

７２ページをお願いいたします。

予算の総額に１億４８９万２，０００円を追加しまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ８３億１，５６７万８，０００円とするものでございます。

内容は、平成２６年度の事業費確定に伴います国庫及び県支出金への返納金並びに社会保険診療報酬支払基金への返還金による増額補正となってございます。

次に、７９ページをお願いいたします。

議案第７６号、平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて８０ページでございます。

今回の補正は、９３３万２，０００円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ５２億９，０３１万２，０００円とするものでございます。

内容は、平成２６年度の事業費確定に伴います社会保険診療報酬支払基金への返還金による増額補正となっております。

次に、８７ページをお願いいたします。

議案第７７号、平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）でございます。

８８ページでございます。

今回の補正は、予算の総額に２，４９３万５，０００円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ２億４，５２３万８，０００円とするものでございます。

内容といたしましては、鳳来・穴川地区のろ過機改修に係る工事請負費及び菊池２地区（鳳来・穴川）、旭志３地区（上伊萩、南桜ケ水、北桜ケ水）の量水器設置などによる増額補正となっております。

８９ページ、地方債補正につきましては、ろ過機改修工事に係る地方債補正でございます。

次に、９７ページをお願いいたします。

議案第７８号、平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

９８ページでございます。

予算の総額から５６万４，０００円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ８億５，４６２万２，０００円とするものでございます。

浄水センター施設に係る修繕料が増額の主なものでございますけれども、人件費の補正に伴う減額補正となってございます。

次に、１０５ページをお願いいたします。

議案第７９号、平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

１０６ページをお願いいたします。

今回の補正は、５３８万３，０００円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ６億５，６３６万１，０００円とするものでございます。

増額の内容は、道路改良工事に伴う下水道施設（マンホール）の補修工事が主な

ものでございますけれども、人件費の減額に伴いまして、全体としまして減額補正となっているところでございます。

次に、１１３ページをお願いいたします。

議案第８０号、平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

１１４ページでございます。

今回の補正は、予算の総額に１２５万３，０００円を追加し、歳入歳出それぞれ１億４，２２２万円とするものでございます。

内容は、浄化槽施設の維持管理に係る消耗品購入及び修繕等による増額補正でございます。

次に、１２１ページをお願いいたします。

議案第８１号、平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

１２２ページでございます。

予算の総額から２３万８，０００円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ３億６，６７６万４，０００円とするものでございます。

内容といたしましては、人件費の補正でございます。

次に、１２９ページをお願いいたします。

議案第８２号、平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）でございます。

１３０ページでございます。

予算の総額に４８９万３，０００円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ７億３，３３４万５，０００円とするものでございます。

内容は、人件費の補正でございます。

次に、議案第８３号から議案第９３号までは平成２６年度各会計歳入歳出決算の認定についてでございますが、議案書は別冊の菊池市歳入歳出決算書として製本をしているものでございます。

まず、議案第８３号、平成２６年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定についてから議案第９２号、平成２６年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定についてまでの１０議案につきましては、地方自治法の規定により、決算認定をお願いするものでございます。

次に、議案第９３号、平成２６年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定についてでございますが、ただいま説明しました製本の次に、別冊としてとじております。

地方公営企業法の規定により、水道事業会計利益の処分及び決算の認定をお願いするものでございます。

以上、議案第８３号から議案第９３号までの各会計の決算認定に当たりましては、監査委員の審査意見書を付して認定をお願いしているものでございます。

なお、そのほかの資料といたしまして、各会計の決算に係る主要施策の成果及び科目別の事業費一覧表等を添付いたしております。

以上、決算に係る議案についての説明とさせていただきたいと思います。

それでは、議案書に再び戻っていただきまして、１３７ページをお願いいたします。

１３７ページ、議案第９４号、菊池市定住自立圏形成方針の策定についてでございます。

提案理由は、地方自治法第９６条第２項の規定による議会の議決すべき事件を定める条例の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

あけて１３９ページから１５１ページまでが策定する方針案でございます。

まず、１４１ページをお願いいたします。

第１条に記載のとおり、中心市宣言を行いました本市におきまして、各地域が相互に役割を分担する形をつくり、本市の目指す「安心・安全・癒しの里きくち」の実現に向けた取り組みを強力に進めることにより、人口の流出を食いとめるとともに、当圏域への人の流れをつくり出し、自立性の高い圏域を形成することを目的として策定するものがこの方針ということでございます。

第２条をお願いします。

基本方針としまして、次に掲げる政策分野について、菊池地域、七城地域、旭志地域及び泗水地域の役割分担、相互連携のあり方を定め、圏域全体の活性化を図るものとするということで、（１）から（３）まで政策分野を規定しています。この３つの政策分野につきましては、国が示しております要綱の３つの視点、これは全国で統一して要綱が示されておりますけれども、その３つの視点ごとに３つの政策分野を定めております。

目次のほうで簡単にご説明をさせていただきます。全部説明しますと時間がかかりますので、目次の左のページをお願いします。

（１）、（２）、（３）というのが大きな３つの政策分野ということになります。そして、それぞれの括弧ごとにアルファベットでＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅとか書いてございます。これが政策分野の下にぶら下がる分野ということでございまして、例えば、（１）の「生活機能の強化に係る政策分野」においては、７分野を規定していると。医療、福祉、教育、都市基盤、産業振興、環境、防災、そして、（２）の大

きな政策分野の「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」としまして、地域公共交通、２つ目としまして道路等の交通インフラの整備、３つ目としまして地域内外の住民との交流・移住促進ということで分野をぶら下げているということでございます。

そして、片仮名のア、イ、ウというふうにそれぞれがありますけれども、それが取り組み事項ということになろうかと思います。また参考までに１４１ページ、右のページを見ていただきますと、下のほうになりますけれども、大きな政策分野の医療の分野でいきますと、何に取り組むかというア、取り組み事項、地域医療体制の充実ですよと。そして、取り組み内容を全体として規定し、菊池地域の役割、それと、近隣であります七城地域、旭志地域、泗水地域の役割のような形で、それぞれ記載がしてあります。

わかりやすいところで言いますと、今の医療のところを見ていただきますと、例えば、１４１ページの（１）のＡ、医療の②でございますけれども、菊池地域の役割として、一番最後の２行目の終わりのほうから災害時の対応や高度な救急医療を総合的に提供しますということで、市の中核的な位置づけですよと。そして、２ページに行っていただきますと、今、申し上げました災害拠点病院や病院群輪番制の救急機関、あるいは菊池郡市医師会立病院との連携により、各地域において必要な医療を提供するのがそれぞれの地域の病院というような形での地域医療体制の充実を図っていきたいというようなことが書いてございます。

それと、具体的にわかりやすいところをあと２点ほど申し上げますと、１４４ページでございますけれども、中ほどに同じく生活機能の強化に係る政策分野の中に教育という分野を規定しております。Ｃの教育ということで、特にわかりやすくここは規定してございまして、全国的に図書館の取り組みがなされているようでございます。菊池市においても、今後整備を進めます生涯学習センターの、仮称ではございますけれども、中央図書館を中核を担う図書館という位置づけで役割を持たせ、③のそれぞれの地域の役割として、地域の拠点としての図書館、生涯学習センター、中央図書館と連携しながらサービスの向上を図っていくというような規定をしてございます。

それともう１点だけご紹介しておきますと、１４８ページをお願いいたします。

同じく生活機能の強化のところの防災ということでございますけれども、取り組み内容は全体を通してということでございますけれども、菊池地域の役割ということでございますので、本庁舎があります菊池地域のほうが防災情報を一元的に集約し、いろんな情報を提供し、関係機関と連携して防災、あるいは救急救命活動等を実施していくと。そして、各地域においては、各地域の防災情報を集約し、本庁、

菊池地域の一元的な集約に情報を伝達すると。そして、市民への周知も徹底させていくというようなそれぞれの役割分担をそれぞれの取り組み事項ごとに書いているというのが形成方針でございます。

目次を見ていただいて、どういった分野、あるいは取り組み事項について今のような流れで書いてあるかというところがございます。概念的な書きぶりもございますけれども、一応形成方針としては、こういった記載をしてございます。

形成方針自体の目的は第１条で説明したとおりでございますけれども、これまで中心市宣言から、今回提案をしております形成方針、それと、実はこの形成方針を議決いただいた折には、この後、年度内に定住自立圏共生ビジョンというのを策定することになります。より具体的な事業を位置づけまして、ビジョンを策定する運びとなります。この菊池市が定住自立圏域に取り組むもう１つの大きな目的としましては、この宣言、方針、それと今説明しましたビジョン、これを一連として取り組みまして、このビジョンに沿った取り組みをやることによって、国の財政措置、特別交付税措置が講じられるということになっておりますことからも、このような取り組みを実施しているものでございます。

以上で議案第９４号の説明とさせていただきます。

次に、１５３ページをお願いいたします。

議案第９５号、字の区域の変更についてでございます。

提案理由は、地方自治法の規定により、市の区域内の字の区域を変更することについて、議会の議決をお願いするものでございます。

１５４ページから１５６ページまでが字の区域の変更をお願いします菊池東部２期地区麦迫換地区の字界変更調書及び変更位置図でございます。

次に、１５７ページをお願いいたします。

議案第９６号、同じく字の区域の変更についてでございます。

あけて１５８ページから１６０ページまでが菊池東部２期地区中原換地区の字界変更調書及び変更位置図でございます。

以上が議案第６８号から議案第９６号の説明とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で議案の説明を終わります。

次に、代表監査委員から監査報告の申し出があっておりますので、これを許します。

代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　おはようございます。それでは、平成２６年度決算における審査の報告をさせていただきます。

議会選出の松岡監査委員とともに審査を行いましたところ、審査に付されました一般会計、特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書及び実質収支に関する調書は法令に準拠して作成されており、決算計数は各関係帳簿及び証拠書類と照合しました結果、いずれも符号し、誤りのないものと認めます。

なお、各種基金の運用状況を示す書類の計数につきましても、関係諸帳簿及び証拠書類と符号しており、誤りのないものと認めます。

また、審査に付されました水道事業会計決算報告書、その他の財務諸表はいずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿と一致し、正確であります。

さらに、決算報告書は予算の収入支出の状況を、また、財務諸表は当期の経営成績及び期末における財政状態を適正に表示しているものと認めます。

以下、決算の概要のみ触れてみます。

菊池市の平成２６年度の決算では、一般会計、特別会計の歳入は、総計が４１７億３，６８３万円で、前年度４２７億４０９万４，０００円に比べ２．２７％減少しました。

また、一般会計、特別会計の歳出は、総計が４０２億１，６２７万５，０００円で、前年度４１０億２，１３１万円に比べて１．９６％減少しております。

財政状況の現状認識ということで、財政健全化法による議会と市民への公表とともに、総合的な財政指標にも留意する必要がありますが、普通会計の財政指標については、財政力指数が０．４３で前年度と同数であり、財政力は前年度と変わりません。また、公債費負担比率は１５．３％と、前年度に比べて０．６ポイント上昇していて、類似団体指数の１４．５％を０．８％上回っております。今後の財政硬直化が懸念されます。その他の指標でも、財政構造の弾力性を示す経常収支比率が９２．５％と前年度に比べ０．７ポイント低下したものの、依然として財政の硬直化が進んでおります。中でも、一般会計の地方債残高については２８２億９，８７８万３，０００円で、前年度に比べ３億９，９８７万６，０００円と１．４％増加し、債務負担行為額は５３億２，０９１万２，０００円で、前年度に比べ５億６，５２１万円と１１．８８％増加しております。

本市では、合併後の１０年間、平成１７年度から平成２６年度までの新市建設計画を根底に、当年度は菊池市総合計画後期基本計画の最終年度として「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」のまちづくり理念のもとに、合併の果実を求めての精力的な取り組みが進められ、一定の成果を達成することができたものの、多くの課題が山積しております。

特に、少子・高齢化に伴う高齢化の進展と菊池市の人口減少や中山間地、商店街

の活性化対策とともに、合併当初からの懸案であります新市庁舎や生涯学習センター、ふるさと創生市民広場や諸施設の建設、整備等が予定されております。それらの各種の課題を乗り越えていくための施策と推進が待っております。さらに、合併に伴い増額されてきました地方交付税は、平成２７年度からは減額の一方で、新たな地方交付税の配分がスタートする状況にありますが、より計画的な財政運営に取り組み、歳入歳出面での工夫と思い切った削減努力が一段と欠かせない状況にあります。

これからも総合的な面での行財政改革を継続させながら、的確な財産管理のもと市有財産の効率的な活用と不用財産の適切な処分も含めて、健全な財政運営の推進を希望します。

予算執行面では、前年度までに要望してきました次の項目での固定的な支出形態を見直し、新たな発想のもとに、より市民の目線に立った機動的な行政支出の執行を求めます。

①収入の調定手続や基金積み立て、取り崩しでの厳格な執行、②社会環境の変動等による変更を除き、補正予算の編成措置や予備費の充用、科目内での予算流用等のより慎重な取り扱い、③合併後１１年であり、固定的な委託契約や長年にわたる随意契約の総合的な点検。

行政施策としては、豊かな自然環境に恵まれている本市発展のため、江頭市政の基本方針であります農業と観光を今後の発展の両輪として「癒しの里菊池」を目指していく中で、日本一の桜の里や森の中のまちづくりなどによる文化的で住みたくなる社会環境の整備が一段と必要です。同時に、県営工業団地の菊池テクノパークへの優良企業の進出を期待する一方で、本市の田島工業団地のあきもありますため、今後も企業誘致への総力を挙げた取り組みを求めます。

ふるさと納税寄附金の大幅な増加、租税や使用料、住宅費の徴税や収納率が改善していることは評価しつつも、固定的な滞納額も多いため、個人情報への厳格な対応とともに、今後も負担の公平性を担保する観点から、収納の確実な確保と不納欠損処分の必要な対応を図り、収納率の向上及び適切な債権管理を望みます。

職員の行政事務では、毎年要望しておりましたが、自治体間の競争、知恵比べの時代において、情報を活用したスピード感あふれる各種施策の実施が求められております。それには、江頭市政を支えていく多様な職員の専門集団づくりが欠かせません。既に推進されております役職に応じた研修や意識の高い職員養成のための体系的な研修制度のさらなる拡充、そして、細やかで適正な人事評価制度の具体的な推進とその評価に応じた給与システムの採用、年齢的な順送りだけでなく、適材適所の人事も不可欠となります。

今後、第２次総合計画の策定により、具体的に各種施策を推進される状況にある中で、一段と留意していただきたい事項として、将来の菊池市の一層の発展につながる江頭市政の基本方針と諸政策を支えて展開していきます行政のプロである事務方の推進体制の整備と充実をより確立してほしいということがあります。市長が推進されております諸施策に、庁内の関連する縦横の担当部署の責任者、チーム、担当者の施策推進に対する熟慮と情報収集を駆使した万全な事務的な裏づけの確保は基本事項です。当然に円滑な手続を経た実施要綱、推進計画等を基礎として、それに沿ったスムーズな施策が一層実施されていくことを願います。

菊池市の未来へのかじ取りは、まさしく江頭市長を頂点として幹部の皆様、職員各位の双肩にかかっていると言っても過言ではなく、これからのご努力とご奮闘には大いに期待しております。そのため、前述と重複しますが、本市の全ての行政部署で、市役所職員は菊池市の頭脳集団でもありますため、専門性と各種コミュニケーション力と情報力を高め、菊池市の将来展望での立脚が不可欠です。その上に立ち、市民、本市のための多様な政策立案の中で施策が採択、確定され、施策の実施に当たっては、用意周到な体制のもと、ぬくもりのある行政推進が幅広く効果的に展開される行政システムづくりをさらに求めます。

次年度以降、社会の変化を機敏に捉え、事業の効率性、必要性、優先順位の適切な選択により、健全な行財政運営が展開され、本市の限りない発展と公共の福祉向上が実現されていくことを切望しまして、決算審査意見といたします。

○議長（森　清孝君）　以上で代表監査委員の報告を終わります。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第６　報告第１８号から報告第２２号まで一括上程・報告・質疑

○議長（森　清孝君）　次に、日程第６、報告第１８号から報告第２２号までを一括議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、報告第１８号から報告第２２号まで一括してご説明をいたします。

議案書の１６１ページをお願いいたします。

報告第１８号、健全化判断比率及び資金不足比率の報告についてでございます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定により、監査委員の意見を付して報告するものでございます。

まず、上段枠の実質赤字比率につきましては、平成２６年度における普通会計の

実質収支額が黒字でございますので、赤字比率として算定されず、数字は表示されません。

次に、連結実質赤字比率につきましては、普通会計に特別会計、公営企業会計を加えた全会計が対象となるものですが、この場合でも実質収支が黒字でございますので、数値が表示されないということでございます。

次に、実質公債費比率でございますが、これは普通会計、特別会計の公債費に加え、一部事務組合等の地方債の償還に充てられた負担金等の標準財政規模に占める割合で、資金繰りの危険度を示す指標でございます。

本市の実質公債費比率は８．２％となっておりますので、早期健全化基準２５％を下回っておる状況にございます。

次に、将来負担比率でございますけれども、土地開発公社、第三セクターを含めた指標となっておりまして、将来負担すべき債務の標準財政規模に占める割合を示すもので、数字が大きくなるほど将来見込まれる負担が大きく、財政運営を圧迫する可能性があるということが示されます。

本市の比率は０．７％となっており、判断基準を大きく下回っており、適正水準を確保しているという状況にございます。

次に、下段の枠、公営企業会計の資金不足比率につきましては、水道事業会計を初めとする６会計を対象とします資金不足額を事業規模で割ったものでございます。

各会計において資金不足が発生していないために、資金不足比率についても数字は表示されないということでございます。

今、説明しましたいずれの数値につきましても基準内ではございますが、先ほど監査委員からもありましたとおり、今後の社会経済の動向でございますとか公共施設の老朽化に伴う維持補修費の増大等を考慮した場合に、この数字が、財政状況が悪化することも見込まれるところでございます。今後も健全な財政運営を図っていく必要があると考えております。

次に、１６３ページをお願いいたします。

報告第１９号、継続費精算報告についてでございます。

平成２６年度まで継続費の設定を行った事業について、地方自治法施行令の規定により、議会に報告するものでございます。

あけて１６４ページが平成２６年度菊池市継続費精算報告書でございます。

款２総務費、項１総務管理費、庁舎等整備設計業務委託事業でございます。

継続費の設定年度は平成２４年度から平成２６年度までの３年間でございます。

表の左側が全体計画、中央に実績、右側が比較となっております。

表下段の計の欄でご説明をいたします。

全体計画額が１億１，６８１万６，０００円に対しまして、支出済額、いわゆる実績額でございますけれども、１億６４５万９，４６２円でございまして、右側の比較、差し引きで１，０３５万６，５３８円の残額となっており、財源内訳は記載のとおりでございます。

次に、１６５ページをお願いいたします。

１６５ページから１７０ページまでの報告第２０号から報告第２２号は、地方自治法の規定により、議会において指定されている事項につきまして専決処分をいたしましたので、報告するものでございます。

まず、報告第２０号でございます。

１６６ページが専決第１６号の専決処分書でございます。

車両事故による損害賠償に係る額の決定について専決処分したものでございます。

専決日は平成２７年８月１１日でございます。

事故発生日は平成２７年４月２１日で、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、公用車で国道３号藤崎宮方面より水道町方面へ進行中、水道町北交差点において助手席側より横断してきた相手方電気自転車の発見がおくれ、公用車左側部に接触し転倒させ、相手方に損害を与えたものでございます。

なお、本件処分に係る損害賠償の範囲は対人賠償に関するものでございます。

損害賠償の額は７万８，２４０円で、その他決定事項につきましては、記載のとおりでございます。

なお、本件事故につきましては、さきの第２回定例会におきまして対物賠償に係る専決処分の報告を行ったものでございます。今回は対人賠償に係る示談が調い、専決処分いたしましたので、報告するものでございます。

次に、１６７ページ、報告第２１号でございます。

あけて１６８ページが専決第１７号の専決処分書でございます。

市道の管理瑕疵による損害賠償に係る額の決定について専決処分したものでございます。

専決日は平成２７年８月１１日でございます。

事故発生日は平成２７年５月２５日でございます。相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、市道稗方寺小野線を相手方が通行した際に、市道カーブ上の陥没穴に左後輪から脱落いたしました。その際、車両左後方のテールランプを破損させ、損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は２万４，６１３円で、その他決定事項につきましては、記載のとおりでございます。

１６９ページ、報告第２２号でございます。

１７０ページが専決第１８号の専決処分書でございます。

消防団活動中の事故による損害賠償に係る額の決定について専決処分をしたものでございます。

専決日は平成２７年８月１８日でございます。

事故発生日が平成２７年７月５日でございます。相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、本市消防団第７分団２部の防火水槽清掃作業中に、ホースの破れによる漏水が発生し、隣接倉庫の軒下から倉庫内に水が入り、電化製品に損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は５万９，２６０円で、その他決定事項につきましては、記載のとおりでございます。

以上、報告第１８号から報告第２２号の説明とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　代表監査委員、宮川貞雄君。

［登壇］

○代表監査委員（宮川貞雄君）　財政健全化法に基づきます審査意見を申し述べさせていただきます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第２２条第１項の規定により、審査に付されました平成２６年度菊池市一般会計及び特別会計の歳入歳出決算における財政健全化判断比率及び公営企業決算における資金不足比率とその算定の基礎となる事項を記載した書類につきまして、７月２７日から８月２４日におきまして、議会選出の松岡監査委員とともに審査しました結果、いずれも適正に作成されているものと認められます。

以上、審査意見とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第７　陳情第５号　上程

○議長（森　清孝君）　次に、日程第７、陳情第５号を議題とします。

陳情第５号が今定例会までに提出されました陳情であります。

その内容については、お手元に配付しているとおりです。

以上で本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。次の会議を来る８日午前１０時から開き、質疑、委員会付託及び一般質問を行います。議案に対する質疑を行う方は、事務局備えつけの様式により、その要旨を具体的に記載し、明日、９月２日の正午まで事務局に提出をお願いします。

本日はこれにて散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――――

散会　午前１１時５２分

第　２　号

９月８日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

平成２７年９月８日（火曜日）午前１０時開議

第１　議事第２号　議会運営委員会委員の辞任及び選任について
第２　議事第３号　企業誘致促進特別委員会委員の辞任について
第３　質疑
第４　常任委員会付託
第５　議事第４号　決算特別委員会の設置について
第６　一般質問

―――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　議事第２号　議会運営委員会委員の辞任及び選任について
日程第２　議事第３号　企業誘致促進特別委員会委員の辞任について
日程第３　質疑
日程第４　常任委員会付託
日程第５　議事第４号　決算特別委員会の設置について
日程第６　一般質問

―――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん
７番	松　岡	譲　君
８番	荒　木	崇　之　君
９番	柁　原	賢　一　君
１０番	工　藤	圭一郎　君
１１番	城	典　臣　君
１２番	大　賀	慶　一　君

１３番	岡　﨑　俊　裕　君
１４番	水　上　彰　澄　君
１５番	泉　田　栄一朗　君
１６番	森　　清　孝　君
１７番	樋　口　正　博　君
１８番	木　下　雄　二　君
１９番	山　瀬　義　也　君
２０番	境　　和　則　君

○

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	木　村　利　昭　君
政策企画部長	小　川　秀　臣　君
総務部長	馬　場　一　也　君
市民環境部長	倉　原　良　則　君
健康福祉部長	木　原　雄　二　君
経済部長	松　野　浩　一　君
建設部長	櫨　川　博　久　君
七城総合支所長	楳　田　邦　昭　君
旭志総合支所長	水　上　満　弘　君
泗水総合支所長	上　田　譲　二　君
財政課長	中　村　喜　範　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳　永　孝　博　君
市長公室長	上　田　俊　介　君
教育長	原　田　和　幸　君
教育部長	松　岡　千　利　君
農業委員会事務局長	原　　和　徳　君
水道局長	藤　本　辰　広　君
監査事務局長	松　永　隆　則　君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　主一君
事務局課長	徳永裕治君
議会係長	松原憲一君
議会係	新永晶子さん

○議長（森　清孝君）　全員ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（森　清孝君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

ここで日程に先立ちまして諸般の報告をいたします。

経済建設常任委員会副委員長の辞任に伴い、副委員長の互選が行われましたので、その結果を報告します。

経済建設常任委員会副委員長、木下雄二君。以上です。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　議事第２号　議会運営委員会委員の辞任及び選任について

○議長（森　清孝君）　次に、日程第１、議事第２号、議会運営委員会委員の辞任及び選任についてを議題とします。

９月１日、境和則君から議会運営委員会委員の辞任願が提出されましたので、委員会条例第１４条の規定により、これを許可しました。

議会運営委員会委員に欠員が生じましたので、委員会条例第８条第１項の規定により、水上彰澄君を指名します。

議会運営委員会副委員長の委員辞任に伴い、副委員長の互選のため、暫時休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時０１分

開議　午前１０時０２分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定に基づく議会運営委員会の副委員長の互選の結果を報告します。

議会運営委員会副委員長、木下雄二君。以上です。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第２　議事第３号　企業誘致促進特別委員会委員の辞任について

○議長（森　清孝君）　次に、日程第２、議事第３号、企業誘致促進特別委員会委員の辞任についてを議題とします。

９月１日、樋口正博君から企業誘致促進特別委員会委員の辞任願が提出されましたので、これを許可しました。

企業誘致促進特別委員会委員長の委員辞任に伴い、委員長の互選のため、暫時休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時０２分

開議　午前１０時０３分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定に基づく企業誘致促進特別委員会の委員長の互選の結果を報告します。

企業誘致促進特別委員会委員長、柁原賢一君。以上です。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第３　質疑

○議長（森　清孝君）　次に、日程第３、質疑を行います。

ここで申し合わせ事項について申し上げます。質疑は一括質疑として３回までとなっています。質疑は提出議案に対して疑義をただすものであり、一般質問と違って自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　おはようございます。議席番号２番、日本共産党、東奈津子です。通告に従って質疑を行います。

まず最初に、議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）について、お尋ねします。

議案書の７７ページをお開きください。

３、歳出、款１総務費、項２徴税費、目１賦課徴収費、節１３委託料の国民健康保険税システム改修委託料６万５，０００円とありますが、何のシステム改修の予算ですか。システム改修の目的をお聞かせください。

２、次に、議案第９４号、菊池市定住自立圏形成方針の策定についてをお尋ねします。

議案書の１４５ページをお開きください。

（１）、Ｄ、都市基盤、ア、市街地の魅力ある基盤整備の①取組内容のところです。

２段落目に「拡散した都市機能を集約させ、生活圏の再構築を図るため、中心地と近隣地域相互の交通ネットワーク整備や情報発信基地の活用などにより、利便性の向上を図りながら、連携されたコンパクトで快適な市街地形成を推進する。」とありますが、この内容では、公共施設や行政サービスが拠点となる中心自治体、旧菊池市に統廃合され、身近な住民サービスの低下と周辺部の切り捨てが進められ、地方の衰退を加速させていくことにつながらないかと懸念されますが、その点はどのようにお考えでしょうか。

以上、２点質問いたします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　皆さんおはようございます。それでは、東議員の質疑にお答えいたします。

国民健康保険税システム改修委託料につきましては、平成３０年度より都道府県が、本市の場合は熊本県でございますが、国民健康保険の財政運営の責任主体に移行するため、熊本県が各自治体の納付金額や標準保険税率等の設定を行うこととなり、それらを来年度より試行的に行うために必要なシステム改修の経費でございます。

熊本県としましては、保険料算定方法を厚生労働省及び国民健康保険中央会が開発した保険料適正算定マニュアル、いわゆるシステムを利用することとしておりますので、本市の国民健康保険税情報等を抽出する必要があることから、本市の国民健康保険税システムの改修を行うものでございます。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　おはようございます。２番目にお尋ねの菊池市定住自立圏形成方針の策定についてということの中で、「連携されたコンパクトで快適な市街地形成を推進する。」という部分についてのお尋ねかというふうに思います。

ご説明申し上げます。

菊池市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の予測によりますと、２０年後の平成４７年度には４万１，０７５人となるであろうという、大幅に減少するということが推測されております。

人口減少に伴い、厳しい財政運営が予想されておりまして、各市街地周辺部への商業施設や住宅の拡散は、道路や上下水道などの後追い的インフラ整備が必要となり、維持管理面も含めて大きな負担になると推測されます。考え方としまして、市

の財政能力に応じたコンパクトな市街地形成を進めることにより、今後とも維持可能な都市構造を目指すものでございます。

また、定住自立圏構想では、中心地域と近隣地域の機能が連携し、定住のための暮らしに必要な機能を確保することにより、全体として魅力ある圏域を形成していくことを目的としているものでございます。

したがいまして、この制度が周辺地域の生活基盤を脅かすというものではなくて、無理のない圏域全体の発展を図っていくものと理解していただきたいと思います。

以上、質疑にお答えいたします。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　以上で質疑は終わります。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第４　常任委員会付託

○議長（森　清孝君）　次に、日程第４、委員会付託を行います。

議案第６８号から議案第８２号まで及び議案第９４号から議案第９６号まで並びに陳情第５号については、お手元に配付しております議案・陳情等付託表のとおり、それぞれ所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますようお願いします。

平成２７年　第３回菊池市議会定例会議案・陳情等付託表

付託委員会	議案番号	件名
総務文教常任委員会	議案第６８号	菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定について
	議案第６９号	菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第７０号	菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第７１号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第７４号	平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）
	議案第９４号	菊池市定住自立圏形成方針の策定について
福祉厚生常任委員会	議案第７２号	菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第７３号	菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定について

付託委員会	議 案 番 号	件　　名
	議案第７４号	平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）
	議案第７５号	平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７６号	平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第８２号	平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）
経済建設常任委員会	議案第７４号	平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）
	議案第７７号	平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）
	議案第７８号	平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第７９号	平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第８０号	平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第８１号	平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第９５号	字の区域の変更について
	議案第９６号	字の区域の変更について
	陳情第　５号	街路灯設置に関する陳情書

―――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――

日程第５　議事第４号　決算特別委員会の設置について

○議長（森　清孝君）　次に、日程第５、議事第４号、決算特別委員会の設置についてを議題とします。

お諮りします。議案第８３号から議案第９３号までの１１議案につきましては、８人の委員をもって構成する決算特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中の継続審査とすることにしたいと思います。これにご異議はございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　ご異議なしと認めます。よって、議案第８３号から議案第９３号までの１１議案につきましては、決算特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

ただいま設置しました決算特別委員会につきましては、委員会条例第８条第１項の規定により、お手元に配付しております特別委員の名簿のとおり指名します。

ここで正副委員長互選のため、暫時休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時１０分

開議　午前１０時１１分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定に基づく決算特別委員会の正副委員長の互選の結果を報告します。

委員長に大賀慶一君、副委員長に荒木崇之君、以上です。

決算特別委員会名簿

◎決算特別委員会　８名

東　奈津子	水上　隆光	猿渡　美智子	荒木　崇之
工藤　圭一郎	大賀　慶一	水上　彰澄	木下　雄二

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第６　一般質問

○議長（森　清孝君）　次に、日程第６、一般質問を行います。

ここで一般質問の申し合わせについて申し上げます。

質問の順序は通告順です。質問時間は、答弁を含めまして６０分以内です。通告事項以外の質問並びに関連質問はできません。質問は一問一答となっています。

発言の通告があっておりますので、これより順次質問を許します。

初めに、城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　おはようございます。暑かったことしの夏もやっと過ぎまして、朝晩はしのぎやすくなりました。暑いのは苦手であります。やっと過ごしやすくなり、うれしく思っているところでございます。

今回は１点目に、職員の健康管理について、２点目に、健康志向を市の活性化につなげてはどうか、３点目に、地方創生について、以上３点について質問させていただきます。

市長におかれましては、いろいろと事情はございましょうが、市民の皆様のためでございます。前向きなお答えをいただければ質問のしがいもあると考えます。い

いお答えをよろしくお願いしておきます。

まず初めに、職員の健康管理についてであります。

心の病は外からはわかりません。さまざまな要因でストレスになり、誰にも打ち明けられず一人悩み、気がついたときには仕事もできなくなっているということがございます。最悪の結果も考えられます。そうならないためにも、今回質問させていただくのは重要なことと考えます。

そこで、このたびメンタルヘルス義務化に伴い、市の対応はどうかということでお聞きしたいと思います。

この制度改正は民間企業だけでなく、公立、私立を問わず学校の職員や地方公務員も労働安全衛生法の適用があり、今回のストレスチェック制度についても実施対象になるため、お聞きしたいと思います。

この制度は、厚生労働省公表の資料「改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度について」によれば、ストレスチェックの実施、その結果に基づく医師による面接指導、面接指導結果に基づく業務上の措置とあります。ストレスチェックの結果、集団ごとの集計、分析など、労働安全衛生法第６６条の１０に係る事業場の一連の取り組み全体を言うとされております。事業者でいえば、どれだけの規模の会社が対象かといえば、常時５０名以上の労働者を使用する事業者となります。

ストレスチェックの実施回数はといいますと、１年以内に１回以上です。そのため、定期健診と同じ時期に実施することもできます。チェックの結果、高ストレスと判断された労働者から申し出があった場合、事業者は医師による面接指導を実施しなければなりません。

次に、面接指導の結果に基づき、事業者は医師の意見を聞き、必要に応じて業務上の措置を講じなければならないとあります。また、ストレスチェック、面接指導の結果の通知は検査を実施した医師、保健師等から本人に通知されます。本人の同意なく事業者に提供することはできません。そして、その結果は何らかの方法で保存することが求められるとあります。

以上、改正労働安全衛生法によるストレスチェック制度のあらましと、今後、行政がとるべき対応、対策のポイントを少しだけ解説させていただきました。

そこで、質問ですが、現在、職員に対するチェックはされていると考えますが、改正法を軸にメンタルヘルスマネジメント体制の見直しを検討しなくてはなりません。次に挙げる項目について、お答えを願いたいと思います。

職員の中で休職されている方が何人おられますか。現在、その人たちに対する市の対応はどのようにされておりますか。

メンタルヘルスケア義務化に伴い、市はチェック体制の見直し作業に着手されるのか、どのような手を打たれるのか、お示し願いたいと思います。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　おはようございます。城議員の職員の健康管理についてというところでのご質問でございました。

まず、市職員の休職者等の数ですが、仕事の内容や人間関係、その他プライベートな事情等によってストレスを感じて心の病気を患い、現在４名の職員が休職等の状況にあります。

これまでのこのような状況も踏まえまして、平成２６年４月に菊池市職員心の健康づくり計画を策定し、職員のメンタルヘルス対策のための研修を開催するなど、職員の心の健康づくりの推進、いわゆる体制づくりのために積極的に取り組んでまいったところでございます。

また、外部委託を行っておりまして、臨床心理士によりますストレス相談窓口を毎月１回開設しまして、平成２６年度からこれまでに職員から延べ４４件の相談を受けたところでございます。

あわせまして、心の病気により休職をしました職員の職場復帰後のフォローアップなどに努めており、トータルとしまして、研修からこういった窓口を設置する体制によってフォローをしているところでございます。

［「来年度に向けてはどんなですか。実施に向けて」と呼ぶ者あり］

○総務部長（馬場一也君）　来年度に向けましても、平成２６年４月に健康づくり計画を策定していますので、これに基づいて研修等を進めてまいりたいと思います。

それと、メンタルヘルスの義務化のところも一緒に答えていいですか。

［「はい」と呼ぶ者あり］

○総務部長（馬場一也君）　先ほど議員がおっしゃいました平成２６年６月２５日に公布されました労働安全衛生法の一部を改正する法律により、ストレスチェックと医師による面接指導の実施を義務づける制度が創設されました。これによりまして、平成２７年、今年１２月１日より、従業員数５０人以上の事業場については、毎年１回のストレスチェックを実施することが義務づけられ、平成２８年１１月３０日までに１回目のストレスチェックを実施することになります。

市の場合で申し上げますと、ストレスチェックの結果通知を受けた職員のうち、高ストレス者として面接指導が必要と評価された職員から申し出があったときには医師による面接指導を行うことが義務づけられたというところになります。

ストレスチェックを実施するに当たりましては、実施者となれる者は医師、保健

師のほか、一定の研修を受けた看護師や精神保健福祉士で職場の状況を日ごろから把握している者、産業医等がなることが望ましいとされております。

しかし一方で、個人情報の保護や職員に対する不利益取り扱いの防止対策として、人事に関して直接権限を持つ監督的地位にある者につきましては、ストレスチェックの実施の事務に従事することができないという一定の制限がございます。

したがいまして、今後、ストレスチェックを実施するに当たりましては、産業医を含め、外部の専門機関へ委託するなどの対応が必要となってまいります。来年度から法令に沿ったストレスチェックができ、また、医師による面接指導が実施できるよう、関係機関等と協議を行いながら準備を進めてまいりたいと考えております。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　今、部長が答えられましたけれども、外部委託とか考えて、法令を遵守してやるということで前向きに検討して作業をされているということを言われましたけれども、また、４４名の相談があったということで、結構多いなという思いがしました。

そこで、各部の部長にお聞きしたいと思います。今から言う項目を１人ずつ順次答えていただきたいと思います。

自分の部の職員の生活上の悩みであったり、健康上の悩みなどの相談がありますか。あなたは相談されやすい上司ですか。部下である職員のことをどこまで把握されておりますか。それぞれの部で仕事上や健康上のストレスに対し取り組まれていることが部としてあれば、順次お答え願いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、私のほうからまず順番にお答えしたいと思います。

部下職員からの相談は受けたことがございません。

それと、部下から見て相談しやすい上司かと、私としてはどうかということでございますので、そこはわからない。相談しにくい上司かなと思っております。というのは、私は県から交流で来ていますので、なかなかいきなり部長にこういったメンタル的な相談をやってくれるかと思うと、そこはちょっと厳しいのかなと思っております。ですから、先ほど申しました計画で記載していますけれども、ラインでやるということにしていますので、係長とか、課長とか、同僚とか、そういったラインでこういったケアをしていきたいというふうに考えております。

それと、部下の状況につきましては、日ごろ私のところには決裁が多く回ってき

ますので、職員の日ごろの状況等変わったところがないかとか、時間を見つけては総務部の各課に出向いて、直接業務はなくても、いろんな話をしに行って、気になる職員の表情とか、そういったところでメンタルヘルスケアに努めているところでございます。

そして、最後の４点目の部として何か取り組んでいるかということでございますけど、これはいい取り組みが総務部では実はあっています。平成２５年４月より総務部の女性職員、これは正職員、臨時職員も含めまして女子会が設けられておりまして、二月に１回ぐらい、懇親会とか学習会とか、あるいは市の行事とかに参加をしていただいております。これは目的はストレスケアということでございまして、非常にいい取り組みではないかなと思っているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　皆様おはようございます。城議員のメンタルヘルスケアについての答弁をさせていただきたいと思います。

部長として部下の悩みや健康面で相談を受けたことがあるかということでございますけれども、それに関しましては、部長となりましてからはございません。

その後、職員に対してのふだんからの心がけとしましては、声かけということで、今、部署のほうが２つに分かれておりますけれども、それぞれのところにて声かけをしながら状態を把握しているというのが実情でございます。

また、プライベートな部分がありますので、相手方もありますけれども、相談内容や話しやすさといった面もありますので、細部にわたっては余りできていないんじゃないかというふうに感じております。

メンタルヘルスに関しての部としての特化した取り組みはやっておりませんけれども、今後も声かけはもちろん、報告、連絡、相談といったものを徹底しながら、お互いに相談しやすい雰囲気づくり、職場づくり、環境づくりをしていきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

［発言する者あり］

○政策企画部長（小川秀臣君）　しやすい人かと言われると、私個人では判断はできませんけれども、自分では立場上はなかなか相談しづらいのかなというふうには感じております。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　それでは、私のほうから市民環境部について、お答えいたします。

これまでの相談ということは、私が部長になりましてからはございません。

また、相談しやすい上司かということについては、これもちょっと私ではわかりませんが、なるべく相談しやすいような雰囲気をつくるように努めているところでございます。

それと、各部の状況の把握ということでございますけれども、市民環境部の場合は、庁舎整備等に伴いまして本庁舎や第３庁舎、第４庁舎というふうに分かれております。日常的に職員の状況がなかなか把握しにくいという状況でございますので、今現在では月２回ほど各課長との協議を定期的に行っておりますし、そのほかには、なるべく各課のほうに赴いて職員と直接話す機会をつくって、話しやすい雰囲気をつくっていきたいというふうに努力をしているところでございます。

４つ目の部としての取り組みということなんですけれども、このメンタルヘルスに限った取り組みというのはやっておりません。ただ、いろんな場面で各課で共有して協力しながら、業務も含めてですけれども、やっている部分がございます。特に若手職員では、先日の市民レガッタなども若い職員を中心に男性チーム、女性チームの２チームつくっていただきまして、そういう和気あいあいの中で業務以外でもやっていこうということで、そういう協力をしながら、いい雰囲気の中で仕事ができるようにというふうに努めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　健康福祉部長、木原雄二君。

［登壇］

○健康福祉部長（木原雄二君）　おはようございます。まず、部下からの悩みとか健康面での相談についてでございますが、私が部長になりましてから数件ございます。

次に、自分は相談しやすい上司かということでございますが、これは先ほどほかの部長も言われましたが、なかなか自分では判断することができません。

次に、部下の状況をどれくらい把握できるかということにつきましては、健康福祉部につきましては、庁内の４つの課以外に保育園が２園、特別養護老人ホームがまたございまして、職員数につきましては、嘱託、臨時職を含めますと２２０名を超えるぐらいの職員でございますので、なかなか把握は困難な状況でございますが、各管理職からはメンタル面を含めて情報の提供をお願いしているところでございます。

次に、部として何か取り組んでいるかということにつきましては、基本的には取

り組んでおりません。ただ、月２回程度、管理職会議を開きまして、先ほども言いましたけれども、部下についての情報提供とか、いろんな面での話し合いをしているような状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、経済部の場合でございますが、部下からの相談とか健康面の相談を受けたことがあるかということでございます。これにつきましては、相談は受けたことがございます。

また、相談しやすい上司であるかということでございますが、これは職員が思うことでありまして、なかなか自分では判断できないということでございます。

それと、状況の把握でございますが、やはり仕事、プライベートな問題も含めまして、報告、連絡、相談がしやすい雰囲気をつくって、なるべく職員の状況を把握するように努めているところでございます。また、特に決裁とかがありますと話す機会が多いもんですから、意識して声かけをいたしまして把握に努めている状況でございます。

部として何かを取り組んでいるのかということでございます。経済部の取り組みといたしましては、それまで旅行とか年末年始の忘年会、新年会につきましては各課で個別に行われていたところでございます。それをさまざまなイベントも含めまして部で行うようにやっているところでございます。今年度も部で旅行を行いたいというふうに思っているところでございます。そうすることで管理職と職員とのコミュニケーションがとれまして、話しやすくなるのではないかというふうに思っております。また、職員が休暇が取得しやすいように、管理職が率先して取得することや、職員が定時退庁できるように、管理職は何もないときは定時退庁するように心がけているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　続きまして、建設部でございます。

まず、部下職員から悩みや健康面での相談を受けたことがあるかということでございます。過去に２度ほどございました。

自分は部下から見て相談しやすい上司であるかということでございますけれども、なかなか自分としては取っつきにくい性格であるかなというふうに自己分析をしております。努力はしているものの、非常に難しい部分はあるかなというふうに考え

ております。

それから、部下の状況をどれぐらい把握できているかということでございますけれども、先ほども話がありましたように、できるだけ声をかけて顔を見るようにしております。努めてはおりますけど、これが十分であるとは思っておりません。

それから、何か取り組んでいるかということでございますが、先ほどラインの話が出ましたけれども、なかなか職員一人一人まで目が届かないところもありますので、課長を対象に集めまして、啓発会議という形で健康面のチェックだとか、そういうものを指導しているところでございます。これにつきましては、定期的に今後も行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　おはようございます。それでは、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、１点目の相談につきましてですが、過去には数件相談を受けたことがございますけれども、現職の教育部長としてはございません。

２点目の相談しやすい上司であるかという問いですが、大変難しい質問でございまして、自分では判断をしかねるところでございますが、努力はしているというふうに自分では思っているところでございます。

３番目の部下の状況把握でございますけれども、教育委員会事務局教育部は正規の職員で７４名、臨時、嘱託まで合わせますと１００名を超えることになります。さらに、勤務する場所も本庁舎、第２庁舎から３カ所の教育分室、幼稚園、学校給食などと広範囲にわたっているところでございます。努めてそれぞれの部署に顔を出すようにしておるところでございますけれども、なかなか十分にはできていません。したがいまして、部下の状況の把握につきましても、十分とは言えないところがあるかもしれないと思っております。

４点目の取り組みでございますけれども、メンタルヘルスケアに限って申しますと、部としての取り組みは現在のところ行っておりません。しかし、コミュニケーションということから考えますと、部全体の懇親会等も実施しておるところでございます。

それから、メンタルヘルスケアについての取り組みとは直接言えないかもしれませんけれども、私はやっぱり組織というのは人が一番だというふうに思っておりますので、この人によって構成されました組織は、その目的意識や課題を共有するということが一番大事ではなかろうかというふうに思っております。このことから、

教育部では、それぞれの部署の幹部職員１７名を集めまして、教育部庁議を毎月２回、約１時間程度行って、縦と横をつなげるための双方向の報・連・相による情報交換と情報の共有を大切にしておるところでございます。

今後につきましては、この庁議を生かしながら、その中でメンタルヘルスケア等についても取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　答えていただきまして、ありがとうございました。

次に、総合支所が離れておりますので、本庁から目が届きにくいということもありますので、各総合支所長に同じ質問をしたいと思います。順次お願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　七城総合支所長、楳田邦昭君。

［登壇］

○七城総合支所長（楳田邦昭君）　おはようございます。七城総合支所長の楳田でございます。七城総合支所の私の場合ですけれども、１点目の相談を受けたことがあるかとの質問ですけれども、日常の職員との会話の中で相談されまして、メンタル面でのアドバイスを行い、対応したことがございます。

２点目の相談しやすい上司かというご質問ですけれども、職員がどのように私のことを思っているのかというのはちょっとわかりませんけれども、部内での話しやすい職場の環境づくりを目指しているところでございます。

３点目の部下の状況の把握をしているかというご質問ですけれども、支所の月２回の庁議の際に課長を通じ、職員の健康、仕事の対応状況などを確認するなど、全体の把握に努めております。また、自身も日ごろから職員との会話をふやすなどし、状況の把握を図っているところです。

４点目の部としての取り組みというご質問ですけれども、七城総合支所では、４月の人事異動に伴います新旧の職員間の親睦を図るためにバーベキューなどの親睦会を行っております。それから、環境づくりのための課の職員旅行を計画するなど、また、部内でのレクリエーション、それから、地域づくりへの参加ということで取り組んでおります。

このように、職員同士がお互いに支え合い、融和が図れる環境づくりに取り組んでいるところです。職員同士のコミュニケーション、それから、仕事のサポート体制が重要と私としては考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　旭志総合支所長、水上満弘君。

［登壇］

○旭志総合支所長（水上満弘君）　おはようございます。旭志総合支所です。１の相談を受けたことがあるかとの質問ですけれども、これまで相談を受けたことはございます。

２の相談はしやすい上司かという質問ですけれども、できるだけ職員とのコミュニケーションをとるように心がけております。

３の部下の状況を把握しているかとの質問ですけれども、旭志総合支所の職員数は男性が１１名、それから、女性が７名、計の１８名でございます。一人一人に話しかけをして把握に努めているところでございます。また、職員の状況の変化に関しましては、各課長のほうからも相談や報告を受けているところでございます。

４の部として何か取り組んでいるかとの質問ですけれども、コミュニケーションを図るためには、私は挨拶が一番大切だと思っておりますので、朝の挨拶、それから、帰りの挨拶をこちらから積極的に行っているところでございます。また、年に一、二回、懇親会等を行い、職員間の親睦を図っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　泗水総合支所長、上田譲二君。

［登壇］

○泗水総合支所長（上田譲二君）　おはようございます。ご質問のありましたメンタルヘルスケアにつきまして、泗水総合支所での取り組みについて、お答えを申し上げます。

まず、１点目でございますが、部下からの悩み、相談につきまして、これまで受けたことはございます。

２点目の相談しやすい上司であるかということでございますけれども、直接部下から聞いたわけではございませんので、わかりかねますけれども、職員に話しかけるなり、会話のしやすい職場づくりに努めているところでございます。

３点目の部下の状況把握につきましては、特に宿直日誌等で一定時刻以降の帰宅者につきましては確認ができるようにしております。特に遅くまで長期にわたって残っている職員等につきましては、特に気にかけて対応しているところでございます。

４点目の総合支所としての取り組みといたしましては、年１回ほど全職員を対象といたしまして、講習会、また、軽スポーツ大会あたりなどを実施しておりまして、職員同士のコミュニケーションを図っているところでございます。また同時に、係長以上の職員、幹部会ということで月２回実施しておりまして、職員からのそう

いった相談あたりを出してもらう場を設けております。

今後も職員が一人で仕事を抱え込まない、また、一人で仕事を抱え込ませない、そういった目配りのきく職場環境づくりに努めてまいりたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　ほかに農業委員会と水道局がございますが、同級生でありますので、また今度飲んだときでも聞きたいと思います。時間がございませんので、よろしくお願いしたいと思います。

次に、再質問します。

各部の部長、総合支所長に答えてもらいましたが、大きな組織ですから見た目で判断するのも難しいと思います。生活に入り込んで判断することもできませんので、大変難しい問題だと思います。また、気をつけなければならないことは上司のパワハラもございます。職員一人一人の性格も違いますので、みんな一律に指導するということではなかなか難しいことがあるんじゃないかと思います。

そのためにも、日ごろからの声かけ、相談体制、先ほども何人か言われましたけど、そういう体制をとっておられるところもあるとお聞きしました。そういうことが必要だろうと考えます。そこで、上司である皆さんに期待するところであります。

しかし、上司は男性が多くて、男性同士でしたら酒でも飲みながら話を聞いて相談に乗れるかもしれません。しかし、女性の職員が男性の上司に相談することはいろいろと問題が生じて、難しいのではないでしょうか。

最後に、市長にお聞きしたいと思います。

女性職員の悩みを解決するためにも、女性の幹部が少ない本市ですから、思い切って女性を多く管理職へ登用する必要があると私は考えます。今回、国会でも女性の管理職登用を促すため、女性活躍推進法が成立いたしました。女性の管理職比率などの実態を把握して、行動計画を制定、公表し、達成目標は数値で示すことが義務づけられております。ちょうどいいタイミングです。職員の健康管理と女性の管理職登用とあわせて、市長の思いをお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　おはようございます。それでは、城議員からご質問のございましたメンタルヘルスケアと、それから、女性の相談しやすい環境づくりと、そういうご趣旨の質問でございました。

今までお話しありましたように、心の健康問題を抱える職員が増加するということは、職員本人のみならず、本市にとっても大きな損失でございます。そういうことから、本市としても職員が心の病気にならないように、さまざまな研修ですとか外部相談窓口の設置といったことで環境の整備に努めてきたところでございます。

しかしながら、依然として心の病気を患う職員がいることも現実でございます。とりわけ、今、ご指摘がありましたように、女性が相談をしにくいというふうな環境が、特に男性の上司だった場合にはあるやもしれません。あるいは身近な同僚としても、やはり女性特有の悩みがあったりしたときには、なかなか難しい面もあろうかと思います。そのような場合には、先ほどから申し上げています外部相談窓口等も十分活用していただければと考えているところでございます。

先般成立した女性活躍推進法では、３０１人以上の事業所においては、平成２８年４月１日までに女性職員の活躍状況の把握、課題分析や行動計画の策定等を行う必要がございます。これと加えまして、私自身もぜひ女性の力というものをもっともっと市政に活用していきたいというふうに考えておりますので、本市においても、今申しました法の趣旨を十分踏まえながら、女性でも相談しやすい職場環境をつくっていくことが、翻って女性の力が発揮できる環境につながっていくんではないかと思いますので、力を入れて取り組んでまいりたいというふうに思います。

いずれにいたしましても、職員の心の健康というのは、職場の公務能率の向上のため、ひいてはよりよい行政サービスを継続的に市民に提供するために重要な課題であると認識しておりますので、心の健康問題を抱えた職員を出さない、出させない、そういう予防の取り組みを基本に、今後も積極的に推進していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　年に１回のストレスチェックは大切なことでございますけれども、その上でパワハラ、セクハラ、モラハラ、マタハラ等々、ハラスメントに気をつけて業務に当たらなければならないと思っております。私たち議員も一緒でございますので、よろしくお願いしたいと思います。

このようなことから、相談しやすい組織をつくるということが大事ではないかなと思います。ここで上司の日ごろからのチェックが最も効果的と考えますので、よろしくお願いいたしまして、次の質問に行きたいと思います。

健康志向を市の活性化につなげてはということで、養生園を中心にして癒しの里づくりと相まった健康づくりで市の活性化を考えてはということで質問したいと思

います。

私は平成２２年６月、議員となり初めての議会で森林セラピーについて一般質問いたしました。この森林セラピーとはどのようなものか、簡単に説明させていただきます。

この原点はドイツのクナイプ療法から用いられております。クナイプ療法とは自然療法で、自然の力を利用して人間の持つ自然治癒力を最大限に引き出す療法のことです。森林セラピー事業は、森林の持つ癒し効果を生かし、健康増進やリハビリに役立つものです。ドイツでは保険が適用された事業であります。

そのときの質問で、健康と環境を結びつけ、菊池には歴史があります。清流の菊池渓谷、雄大なダム、何より広大な森林を抱えております。健康増進に地域の食材、温泉施設も充実しております。市独自の活性化対策を図ってはどうかということで質問しております。そのときのお答えは、本市としても国、県並びに既に実施されている市町村の具体的な事例、内容等を調査いたしたいと考えておりますと、その上で、庁内各部長と協議してまいりたいということで考えておりますと、以上のお答えを時の経済部長がされております。

そこで、質問ですが、あれから５年、お答えのように調査や協議をされたのか、お聞きしたいと思います。今まで何の音沙汰もありませんので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

森林セラピー事業につきましては、先ほど申されましたとおり、林野庁が考案いたしまして、ＮＰＯ法人森林セラピーソサエティーが認定する制度でございます。森林セラピーの基地につきましては、現在、全国で６０カ所が認定を受けております。県下では水上村が平成２２年４月に認定を受け、開設をされているところでございます。

当時、本市におきまして認定に向けての検討がされてまいりましたが、認定基準には森林の自然環境、整備面、アクセス等の立地条件を含めましてさまざまな基準がございまして、導入については、施設整備はもとより、管理運営、人員、財政的にも厳しい状況であると考えられたところでございます。

したがいまして、当面は既設の菊池渓谷の九州自然歩道や鞍岳のパノラマコース、森林コースなどに接続するルートの創設等も含めまして、関係機関と今後協議してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　森林セラピー事業に加えて、フットパスとか森林ヨガ、サイクリングロードの整備とか、健康に関する事業があります。

そこで、私は養生園を巻き込んだ健康発信基地として市の活性化につなげられないか、質問します。

このセラピー事業は県内では水上村が実施されております。さっき言われました全国では６０カ所されております。長野とか福岡とか取り組まれております。幸い菊池市は市の６１％が森林で、加えて清流豊かな菊池渓谷、そして、どこの温泉にもまさる温泉源と、ほかの地域にはないものを持ち合わせております。先日も燃料タンクの清掃に来られた会社の方が話されておりました。菊池の温泉は温度が高くてかけ流しなので、レジオネラ菌などは検査しても余り出ませんよと言われ、菊池の温泉はどこにも負けないすばらしい温泉ですよと言われました。このすぐれた温泉をもう少しＰＲしたらいかがですかというアドバイスを受けました。

それにプラスして、養生園がございます。健康づくり、健康発信にすぐれた施設であります。養生園では、健康食の指導、健康食の提供等もできるのではないでしょうか。これらの施設、場所を活用して、ほかの自治体とは違った本市独自の取り組みを市の活性化で考えてはどうでしょうか。

以上、私の思いを述べさせていただきましたが、執行部のお考えをお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、城議員の健康志向ということで、養生園を中心にした癒しの里づくりというようなことだったかと思います。

議員ご質問の趣旨に沿った事業としまして、本年度、菊池養生園を活用した菊池温泉を利用しまして宿泊型新保健指導事業、スマート・ライフ・ステイを試行事業として取り組んでおります。

この事業は厚生労働省が開発し、生活習慣病を効果的に予防することを目的に、糖尿病が疑われる者などを対象として、宿泊施設や地域の観光資源等を活用して、保健師、管理栄養士、健康運動指導士等の多職種で連携して、新たな保健指導プログラムを提供しようというものでございます。

全国から本市を初め大分県竹田市などの７自治体、公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団など１６の民間団体が事業採択され、本年度に効果検証を行うところでございます。

本市としましては、庁内関係部署におきましてプロジェクトチームを立ち上げ、協議を行うとともに、菊池養生園を中心に、観光協会、旅館組合などの協力を得て、観光、水、食などの豊富な資源を生かした２泊３日のプログラム開発を行うもので、先週９月２日から４日まで並びに１４日から１６日の２期に分けて、合計３０名を対象に事業を行います。このプログラムの内容としましては、菊池渓谷の散策、森林ヨガ、聖護寺での座禅、フットパス、湯中運動の体験を組み入れ、食事においても菊池の特産品を使用した懐石料理、郷土料理を味わっていただくこととしております。

２泊３日のプログラム終了後は、その後、６カ月間にわたり菊池養生園による保健指導を継続し、数値改善などのデータの裏づけをとることとしております。

今年度の試行事業終了後に事業の効果検証を行い、新たな観光、ヘルスツーリズムとして癒しの里きくちをさらにＰＲしていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　先日、熊日紙上に載っていたことですかね、あれをやっておられるということでありますね。

何が幸いして活性化につながるかもしれません。よろしくお願いしたいと思います。

もう時間がありませんので、次の質問に行きます。

地方創生について、お伺いしたいと思います。

地方版総合戦略の策定作業の進捗状況をお聞きします。そして、地域間の格差と過疎地振興について、そして、市の歴史や観光地を漫画の本をつくり紹介し、郷土愛や定住促進、市の活性化につなげてはどうかと、以上、３点についてお聞きしたいと思います。

今回の地方創生の制定に当たり、資料を見てみますと、長期ビジョン、総合戦略として、中身は基本目標、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」「新型交付金の創設」ということで５点、いろいろごちゃごちゃカラーで書いてありました。

それでは１点目に、この内容を本市に当てはめて考えた場合、地方版総合戦略について、基本目標１から５まで話しましたので、現在の進捗状況をお聞きしたいと思います。

２点目に、地域間の格差と過疎地振興についてということで、大きな視点からではなく、私は小さな話になりますが、地域が抱える問題を解決し、見直す作業から地方創生はできるのではないかと考えます。

そこで、市道や河川の人築作業について考えてみました。高齢化している地域、まだ若い世代がいる地域、住んでいる人の数も地域で違う。山間地であったり、平地であったり、さまざまです。あと５年、１０年したら高齢者ばかりで何もできなくなるのは、山間地だけの話じゃなく、どこの地区も同じ状況ではないでしょうか。

私はこの人築作業は全地区が無償で手弁当で行われていると思っておりましたら、聞くところによりますと、人築作業に補助金が出ている地区の作業もあるようで、補助金の対象外の地区もあるみたいです。

そこで、補助金はどのような作業に何という名目で出ているのか、お示しください。

次に、このことが一番大事なんですが、合併前から慣例で市道での人築作業に補助金が出ている集落があるとも聞いております。補助金が出る集落、出ない集落とは、同じ市民としておかしいと思います。同じように税金を払っていてサービスが違うという話じゃないでしょうか。地域間で格差があって、不公平だと考えます。

そこで、人築の取り扱いについて、合併協議会の中に協議項目として入っていたと聞いたことがありますが、協議項目に入っていたのか、入っていたのなら、協議されたのか、協議されなかったのか、お示し願いたいと思います。

それから、他の自治体で人築など地区の作業に対して、この地方創生にかけて参考になるような施策を考えているところがあればお聞きしたいと思います。

３点目に、市の歴史や観光を紹介する漫画の本をつくり、郷土愛や定住促進、市の活性化につなげてはどうかという質問をします。

本市には随分前に漫画の本で菊池の歴史を描いた本が出版されておりますが、合併１０年を記念してでも新しい内容に一新して市の活性化につなげられないかと考えます。例えば、観光でいえば、外国の人は日本の漫画が好きです。その観光客に菊池の歴史、観光地を紹介するためにも、また、内容は英語とか中国語とか韓国語に翻訳した本を出す。市の子どもたちには市の歴史、観光地を学んでもらい、菊池の秘密の場所の探検や菊池の宝探しなど授業に利用したり、観光に漫画の本をつくり利用できないかと思い、そのことをお聞きしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、まず最初に、地方版総合戦略の進捗状況について、お答えいたします。

地方創生に係る取り組みとしましては、平成２６年１１月１日に庁内検討組織として、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略本部を設置し、地域活性化・地域住民生活等緊急支援として、地域消費喚起・生活支援型交付金及び地方創生先行型交付金の補助申請及び予算化を行っております。

国は全ての都道府県及び市町村に対しまして、平成２７年度中に人口ビジョン、地方版総合戦略の策定を求めており、その策定に係る財源については、地方創生先行型交付金により対応することとされております。

総合戦略の策定につきましては、コンサルタントへ委託して作成する自治体もございますけれども、本市におきましては独自で作成することとし、庁内の若手職員によるプロジェクトチームによって「人口減少問題に対して今後取り組むべきことは」とのテーマで検討を実施したり、政策調整会議により意見聴取や情報共有を行っているところでございます。

また、総合戦略策定に当たっての基本資料とするべく、住民アンケート、内容につきましては、商工業を営む方への事業承継調査、また、農林業を営む方への農林業振興に関する調査、３番目に、一般市民の方への幸福度、世帯動向調査などを実施し、その取りまとめ及び分析を専門機関へ委託しております。

地方版総合戦略の策定については、人口減少の克服及び地方創生を目的とするものであり、基本目標の設定や基本目標ごとの施策については、本議会での条例議案で設置をお願いしております産・官・学・金・労・言の有識者で構成します菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議における協議を踏まえまして、菊池市の未来を考える懇談会や市議会の皆様のご意見をいただきながら、１２月末の総合戦略の策定を目指しております。

菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議のメンバーにつきましては、戦略策定に当たって、地域における創意工夫を結集する観点から選任をすることとしておりまして、３回ほどの会議開催を予定しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは、お尋ねの河川及び市道についての人築等がございまして、それの補助金の差があるというようなお話がございましたので、それについて、お答えさせていただきたいと思います。

まず、河川につきまして、菊池川水系の国及び県が管理します河川の堤防等の除草作業につきましては、国、県より市への委託がなされ、この委託費を財源として４９地区及び２団体に関係河川周辺の除草作業を委託しております。市が管理する

準用河川等につきましては、旭志及び泗水におきまして、沿川の各行政区に除草管理を委託し、除草作業を行っていただいております。

次に、市道についてでございます。

市道の管理につきましては、基本的には嘱託職員及び作業員でその作業を行っておりますが、旭志及び泗水においては、一部市道沿線の各行政区に委託し、除草作業を行っていただいているところでございます。

合併協議会の協議項目の中に、建設関係の取り扱いとしまして、現行のまま新市に引き継ぎ新市において調整するということになっておりましたけれども、先ほど説明した状況になっておりまして、まだ十分な調整がなされていない状況でございます。

ほかの自治体での人築の作業に対し、地方創生に関連してどのような施策を検討しているかにつきましては、他の自治体においても地方版総合戦略の策定作業中であると推測できるため、把握できておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　１番の質問では、戦略推進室を立ち上げているということで、今回から各種団体と検討に入るということであります。メンバー構成はどうなりますか、会合はどれぐらい持ちますかということをお示し願いたいですけれども、次にまた答えてください。

２番目の質問について、本来、全市民が平等に扱われなければならないと考えます。各地域が抱える問題を考えると、残されている時間は余りないと思います。人築には全地区補助金を出すか、全地区出さないか、全ての市道は市で管理してやるかやらないか、はっきりしてもらいたいと思います。

公民館の維持活動や軽度の作業は地区でできるかもしれませんが、全地区、これが重荷になっていると思います。

そこで、新型交付金が創設されております。支給対象の中に人口減少対策５カ年計画を立て、地方に移住する高齢者の生活拠点を整備するなど、地方版総合戦略を来年３月まで作成した都道府県、市町村が対象ということであります。特に地方の自主性、主体性の確保と適切な効果検証の仕組みを導入するというところがとても気になっております。この新型交付金を人築等に、全ての人築は市で管理し、負担していくということが一つの地方創生つながらないかとの思いで、考えを述べさせていただきました。

人築など地域で負担になっていることを一つでも解決することが若い世代が都市

部へ流出することを食いとめ、定住化や移住を促進することで地方へ新しい人の流れをつくるという総合戦略につながると考えましたので、提案いたしました。

３番目の質問は、隣の合志市が漫画の本をつくっておられます。全国には埼玉県が「埼玉県のひみつ」という漫画の本をつくっておられます。内容はストーリー仕立てになっておって、サッカー少年が親の仕事の関係で埼玉に転校するところから物語が始まっております。そして、歴史的名所や観光地を少年の目線から紹介した漫画の本です。やはり漫画にしたほうが活字ばかりより親しみやすいのではないでしょうか。もしも漫画の本をつくるとしたら、漫画家は誰でも知っている一流の方にお願いしたがいいと思います。中途半端な話や絵では飽きられます。例えば、「Ｄｒ．スランプアラレちゃん」の鳥山明氏とか、現在、菊陽に住む「巨人の星」の川崎のぼる氏とか、有名な先生方にお願いしたがいいと考えます。

このことに新型交付金を使えるように、子どもの教育、定住促進、観光で市の活性化を考えて支給対象事業として認定を受けられるように働きかけをし、漫画の本をつくりませんか。再度お聞きしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　地方創生の事業として、市の歴史や観光地を紹介する漫画本の件について、お答えさせていただきます。

教育委員会といたしましては、菊池一族にかかわる史跡を初めとした指定文化財等に関する小冊子を作成し、市内外へ市の歴史紹介を行っておるところでございます。また、子どもたちの郷土愛を育むために副読本も作成しており、各学校の授業で活用を図っております。

このようなことから、これまで刊行された文化財冊子や副読本を活用して、郷土愛の育成並びに市の歴史を紹介してまいりたいと考えておりますので、現在のところご提案の漫画本につきましては作成を考えておりませんけれども、貴重なご意見といたしまして、今後の参考とさせていただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　建設部長に人築を市でやらないかということをちょっと最後に。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　人築作業が市でできるかどうかということでございますけれども、現在、道路、河川の維持管理等には多額の費用がかかっておりまして、人

口減少とともに財政規模の縮小を求められる中で、維持費が問題となってきているところでございます。

今後、市道及び河川の……。

○議長（森　清孝君）　質問時間の６０分となりました。発言を中止します。

ここで１０分間休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１１時１１分

開議　午前１１時２０分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　こんにちは。議席番号４番、水上隆光です。我がふるさとの里山の裾野に広がりますこの菊池市が活気づくまちになりますよう、いろんな質問をしていきたいと思います。

それでは、一般質問として、最初に菊池の食材について、２番目にホールクロップサイレージ（ＷＣＳ）について、３番目に市長に就任して２年間の手応えはどうですかという質問をしていきたいと思います。

それでは、最初の菊池の食材について質問します。

８月１１日の西日本新聞によりますと、農林水産省が１０日に発表した２０１５年上半期の農林水産物の輸出額は、前年同期比２４．９％増の３，５４７億円となり、伸び率、金額ともに上半期の統計を始めた２００５年以降の最高を記録したと。世界的な日本食ブームや、アジアを中心とした生鮮食品の需要の高まりを受けて急拡大したのであろうという記事が載っております。日本食ブームが後押ししていると思われますけれども、和食の日本人のきめ細やかさ、また食としての美しさあたりが受けているのかなと思っております。

そういうこの時期、菊池の食材としてもチャンスの時期と思われるところでございます。菊池市として売れ筋を目指して、ブランド推進室なるものがあるわけでございますけれども、そのブランド推進室から見てブランドになり得た菊池の食材というものはどういうものがあるのかをお聞きし、また、現在ＪＡがオリンピック・ベジタブル・プロジェクト、ＯＶＰなるものを立ち上げています。このプロジェクト会議は月３回から４回も開かれているそうです。このプロジェクト会議に本市としても参加しているということでございますので、このＯＶＰはどういうもので、何を目的にしているのか、どういうプロジェクトなのかということを、まず質問し

たいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、１点目のブランドになり得た菊池の食材につきましては、日本穀物検定協会食味ランキングの最高評価であります特Ａを７年連続受賞しております「七城米」を初めといたしまして、全国に先駆けて栽培を始めました「きくち水田ごぼう」、メロンドームの「七城メロン」、菊池で唯一生産されているシイタケ「黒香」などがございます。

また、ご当地ブランド牛といたしまして「旭志牛」や、自然環境にやさしい特産牛と言われる「えこめ牛」も菊池ブランドと呼ばれるようになりつつあると考えているところでございます。

２点目のオリンピック・ベジタブル・プロジェクトとは何かということでございますが、生産者の高齢化や後継者の不足などによる園芸作物の作付の減少を食いとめ、菊池地域を野菜を全国ブランドにしようとＪＡ菊池を事務局に、県、市町の行政とＪＡグループが参加いたしまして昨年度発足したプロジェクトでございます。

このプロジェクトは、２０２０年東京オリンピックの開催年度を目標といたしまして、安全・安心においしさを加えた高品質で安定供給ができる野菜の生産地域として全国展開していこうというものでございます。昨年は、１年かけまして産地のあるべき姿を検討し、菊池地域の農業の現状、課題を分析、検証いたしましたビジョン・アクションプランを作成しているところでございます。本年度は、プランの内容に基づき、産・学・官連携によります菊池野菜とスポーツ栄養の研究調査や畜産との連携強化を図るとともに、後継者がつくりやすい品目の選定等を進めることとしているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

今、部長のほうから、ブランドになっているということで水田ごぼうの話がありました。この水田ごぼうの話になりますけれども、私の地域でも１戸の農家さんがつくっておられます。水田こぼうは収益が上がると非常に喜んでおられました。

また、去年ですかね、ブランド推進室が東京のシェフを五、六人呼んで、菊池の食材の畑を見て回るという催しがありました。私も旭志のネギ農家を一緒に回らせていただきました。そのときのシェフで、現在、渋谷の道玄坂で居酒屋「新市街」

をやっておられる高橋シェフという人に、たまたまでございますけれども、１月に政務活動費で行かせてもらった「農業を考える議員の会」というもので東京に研修で行ったわけですけれども、そのときお話をしたときに、店長は「菊池産の水田ごぼうは関東では高値なので、なかなか買えませんよ」と言っておられました。

菊池の水田ごぼうというものは、ブランドということになっておりますけれども、その歴史と、またなぜ売れ筋になったのかあたりを質問したいと思います。

それから、ＪＡには１１５名の水田ごぼう農家の皆さんが出荷されているそうです。そのオリンピック・ベジタブル・プロジェクトに関することですけれども、このプロジェクトは野菜・果物農家を対象とした取り組みということでした。市役所として一緒にこのプロジェクト会議をする中で、役所としてできることはどういうものなのかということ、この２点を質問いたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、１点目の菊池の水田ごぼうにつきましては、昭和４０年ごろの旧菊池市農業協同組合が始まりとされているところでございます。当時のゴボウは畑地での栽培でされておりまして、連作障害などが問題となっておりました。そこで、試験的に水田での栽培を行ったところ、食感もよく香りも保たれたゴボウがとれることがわかり、昭和４２年より本格的な生産と出荷が始まったというところでございます。

当初の水田ごぼうは、従来の畑ゴボウに比べ根が短かったために、市場からも敬遠され消費が伸び悩んでおりました。このため、水田をトレンチャーで深く溝を掘っての試験栽培や品種の変更などの試行錯誤を繰り返しながら、見た目もよく、やわらかさと香り豊かな水田ごぼうができ上がったと聞いているところでございます。昭和５７年からは関東圏での発売がスタートいたしまして、水田ごぼうの魅力が広く知れ渡ることとなり、現在の菊池ブランドとして確立をしているところでございます。

また、水田ごぼうの振興につきましては、ＪＡが中心となりまして土づくりや減農薬栽培の技術指導を行うとともに、農業機械の開発や導入により生産性の効率化が図られているというところでございます。また、洗浄後のあく抜き作業をいたしました洗いごぼうでの出荷など、高付加価値をつけた販売展開も実施されております。

本市といたしましても、特産品としての位置づけを行いまして、広く県内外に水田ごぼうの魅力を発信してきたところでございます。

２点目のご質問でございますが、オリンピック・ベジタブル・プロジェクトにつ

きましては、本市といたしましても立ち上げから参加しており、今後も積極的に協力してまいりたいと考えております。

本プロジェクトにおいて作成されましたビジョン・アクションプランでは、経営の現状把握と点検を行う「経営のみえる化」、推進品目の選定や所得を明確にする「目標のわかる化」、ＪＡが核となる組織再編成や生産者への指導体制を強化する「つながりをすすめる化」、販売チャンネルの拡大や野菜とスポーツを結びつけた物語をつくる「菊池をみせる化」の大きな４つの戦略の柱となっているところでございます。また、この細やかな戦術プランが今後示されているところでございます。この戦略、戦術を具体的にしていきますためには、本市経済部のみならず、あらゆる部署がかかわってくると想定されているところでございます。つきましては、市全体といたしまして情報を共有しながら取り組んでまいりたいと考えております。

次に、菊池産野菜のスポーツ栄養へのアプローチにつきましては、現在のところ本市とつながりのある大学や企業はございませんが、機会があれば積極的にＪＡとつないでまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

ＪＡの担当の方と話し合いをしました。何よりも最大の目的は、今、部長言われたように野菜・果物農家の後継者確保と、担い手育成と、そういうものを確立したいという願いだと思いました。５年後のオリンピックで使ってもらえるような野菜・果物を生産すれば、きっと後継者確保にもなるだろうという思いを話されていました。

活動としては、先般ＪＡのほうで鹿屋体育大学の学食に研修と売り込みに行ってきたという話もされておりました。そのようなスポーツの強い大学や企業にアプローチしていきたいと言っておられます。この菊池市が知っているようなスポーツの強い大学や企業あたりに後押しをしてほしいと思いますけれども、先ほど部長がちょっと言われましたけれども、どうですか、もう一回、大学とか企業とつながりがあればお願いしたいと思うんですけれども。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　ご存じのとおり、本市におきましてはさまざまな大学とただいま連携を保っているところでございます。その中でも、スポーツ等が強い大学もございますし、文科系が必要なところもございます。

まず、東海大学等が一番身近なところでございまして、阿蘇にございます東海大学の農学部等が最近特に我々といたしましては連携をお願いしているところでございます。さまざまな農作物の特産品化におきましてもご協力をいただきながら、現在やっているところでございます。

また、今後企業におきましても、大学、高校等も含めまして関係する熊本県内の出身者のおるような企業につきましては、積極的にお願いしてまいりたいというふうに考えております。これもＪＡを通じまして、できるならば数多くの品物をやっていたきいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

オリンピック・ベジタブル・プロジェクトの今後の目標といいますか、予定を少しお知らせさせていただくと、２０１５年度は菊池産野菜の抗酸化力等をデータ蓄積し、それをもとにメニューあたりを開発したいという目標を持っておられます。２０１６年が、先ほどから言っております行政とともにスポーツの強い企業、大学、学校への食材とメニューの提案ということを言っておられます。２０１７年が、目標としては県の観光課国際スポーツ大会推進班との連携を言われております。そして、２０１９年、ハンドボール世界大会への食材使用という大目標を掲げ、そして、いよいよ２０２０年はオリンピック・パラリンピックのキャンプ地及びオリンピック選手への食材の使用という目標で頑張っておられますので、本市としても、また私たち議員としても後押しせにゃいかんなと思っているところでございます。

それでは、次の２番目の質問に入ります。

ホールクロップサイレージについて質問します。

ホールクロップサイレージは、ＷＣＳというふうに呼ばれます。ＷＣＳは稲発酵粗飼料米ということでございます。ＷＣＳとは、稲の実、茎、葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料のことです。皆さん９月の後半に水田に白いロールあたりを見るかと思いますけれども、それはホールクロップサイレージだと思ってもらっていいと思います。農水省も、ホールクロップサイレージの利用は水田の有効活用や食料自給率の向上に貢献するというふうに言っています。

そこで、８月２５日の農業新聞におきまして、２０１５年度の主食用米の作付面積は飼料用米を中心に転作が大きく進んだ結果、目標を８，０００ヘクタール程度下回る水準まで大幅に減る見通しであると農水省が言っております。生産調整が現行の仕組みになって以来、初めて過剰作付が解消され、平年作であれば生産量は目

標の７５１万トンを割り込む異例とも言える大幅な需給改善が一段と鮮明になり、米価安定に追い風になりそうだということが書かれてあります。

どういうことかといいますと、２００６年、２００７年は国が米をつくる面積はこれまでですよと決めている面積よりも７万ヘクタールも全国的に多くつくられていたわけでございます。それが、ことし２０１５年、その国が言った基準よりも８，０００ヘクタールも主食用米が少なくなっているということでございます。これは、今年度の転作作物の増産に向け、農水省が異例とも言える積極的な活動を展開して、特に飼料用米、ホールクロップサイレージについては国への申請期限を７月末までに１カ月間延長し、農水省の幹部が直接、県知事やＪＡ組合長あたりを訪ねて増産を呼びかけるキャラバンを実施したと、そういうふうな行動も発表されております。

菊池市における主食用米、飼料用米、ＷＣＳの作物面積はどれぐらいなのか、それから、飼料用米、ＷＣＳのここ１０年の推移はどうなっているのかをお尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、主食用米、ＷＣＳ、飼料用米の本市におきます平成２６年度の作付面積につきましては、主食用米が１，８５７．７ヘクタール、ＷＣＳが３６３．８ヘクタール、飼料用米が９３．２ヘクタールとなっているところでございます。

次に、飼料用米とＷＣＳのここ１０年の推移についてでございますが、ともに本格作付が始まりましたのが平成２２年からでございますので、２年ごとの作付面積についてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、平成２２年度は、飼料用米が６７．５ヘクタール、ＷＣＳが１６４ヘクタールでございました。

平成２４年度は、飼料用米が９１．６ヘクタール、対平成２２年度比にいたしますと１３５．７％。ＷＣＳが２７８．８ヘクタール、対平成２２年度比較といたしまして１７０％へと拡大をしているところでございます。

平成２６年度につきましては、先ほど申し上げましたとおり、飼料用米が９３．２ヘクタール、対平成２４年度比の１０１．７％。ＷＣＳが３６３．８ヘクタールとなっており、対平成２４年度比が１３０．４％となっているところでございます。

なお、本年度作付計画といたしましては、飼料用米が８６．６ヘクタール、対前年度比の９２．９％でございます。ＷＣＳが４３８．８ヘクタールとなり、対前年度比１２０．６％へと推移をしているところでございます。

作付面積を平成２２年度と本年度と比較いたしますと、飼料用米は１９．１ヘク

タール増加をしておりますが、平成２６年度を頂点に減少しているところでございます。一方、ＷＣＳにつきましては２７４．８ヘクタール増加をしております。今後も作付面積は拡大をしていくものと見込んでいるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

飼料用米は加工して配合飼料となるものですから、飼料工場に任せるしかないので、ＷＣＳ、ホールクロップサイレージについて提案していきたいと思います。

円安ということで、輸入穀物、乾燥牧草が高値で推移しているところでございます。２０年ほど前は、中国、台湾、韓国、北朝鮮、タイ、インドネシアあたりから、ヤンソウとかケイントップとかいう輸入乾燥牧草を輸入していたところでございますけれども、そのころはアジア諸国からは安値で入ってきていました。

ところが、１０数年ぐらい前ですかね、口蹄疫というものがアジアで伝染いたしまして、その伝染を恐れてといいますか、日本に入ってきてもらったら困るということで、今はアメリカ、カナダ、オーストラリアということから円安が直撃する形となっております。現在はアジア諸国からの輸入はゼロということになっています。

そういう中、菊池農業高校の畜産科学科の山下先生と話をする機会がありました。菊農も餌代に苦労されておられました。その中で、「乳雌の育成牛にＷＣＳを食べさせたいんですけど」と言っておられました。

今、食べさせている乾燥牧草は、先ほど言いました北米、オーストラリアから来るチモシーという牧草なんですけれども、これが一番安いのでキロ５７円、一番刈りとか上質なものになるとキロ８０円とかするそうです。育成に５７円ほどのチモシーを食べさせていると。私たちが今、私もやっていますけれども、このＷＣＳはキロ換算すれば２０円ほどかなと思っております。

そこで提案ですけれども、市のほうでＷＣＳを作付したい農家、それとＷＣＳが欲しい畜産農家の希望をとってみたらどうかなと思い、提案します。実質は経営所得安定対策、集落会議とか説明会とかあるし、毎年５月に計画書、また契約書を提出しなければならないということから、次年度ということになるかと思いますけれども、どうかこのつくるほうと使うほうの中に入った行動というものを本市がとれないか、質問したいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　先ほどお答えいたしましたとおり、本市におきましてはＷ

ＣＳの生産面積は近年急速に拡大をしており、飼料増産の重要な柱と位置づけているほか、水田の有効活用や水田機能の維持、耕畜連携による資源循環型農業の推進、地域農業の活性化等への効果を期待しているところでございます。

ＷＣＳは、生産する稲作農家、利用する畜産農家と、これらを調整する農業再生協議会を初め、関係機関とが密接に連携することが地域での取り組みを進める上では重要となってまいります。そのような中で、作り手と受け手におきまして契約が進まないといった場合には、両者間の情報等につきましては、必要に応じて提供してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　まず、大目標として全国的な米余りを解消し、七城米に代表される菊池米は全国的に有名ですから、売り込んでいくチャンスということで話を持っていきたいと思いますけれども、ある米の販売所が言っておられました。ブレンド米をつくるのに、菊池、七城、泗水、旭志ですね、そこの米を７割、３割をどこか違うところの米をまぜると。そうやってずっとつくっていって、米の味を落とさないようにしているんですよと言っておられました。そういうふうに、菊池米というのは非常にある程度おいしいということがわかっているわけでございますから、米農家が適正な米の価格というものを得られるように、全国的にも展開していかなければならないと思っています。

国のほうからすれば、余った米を倉庫に置いとくだけでも、その倉庫料というのが莫大なお金がかかるというふうな話も聞きますので、ことしから主食用米が通常の量に戻ったということを基本に、ぜひともこの菊池米を銘柄米として売り込むチャンスじゃないかと思っております。

ＷＣＳにおいては、菊池の場合は飼料用米よりもＷＣＳのほうが５倍ほど面積的に多いわけでございますけれども、全国的には飼料用米が７万９，０００ヘクタール、ＷＣＳ等が６万２，０００ヘクタール、全国的にはまだ飼料用米のほうが多いわけでございますけれども、菊池市は畜産地帯ということでＷＣＳが飼料用米の５倍ほどとなっております。ぜひとも来年の米・食味分析鑑定コンクール国際大会を控えた中で、先ほど申しました米販売の人が７対３なんかじゃなくて、菊池米１００％という米を売り出され、価格が農家が納得する価格になるということを目指してほしいと思いますけれども、本市のお考えをお尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　ただいま水上議員がおっしゃいましたとおり、ＷＣＳの推進とともに、主食用米につきましても菊池米としてのブランドの確立は急務と考えているところでございます。

このため、平成２５年度からは米のおいしさの追求とブランドとしての確立を図るため、菊池米食味コンクールを開催しております。本年度は「目指せ、世界一」をサブタイトルに、食味コンクールの充実を図りながら、より多くの参加者を募っているところでございます。

販路の拡大につきましても、ネットショップ「菊池まるごと市場」におきまして、コンクール上位入賞者のお米を「匠米」といたしまして、本年度も販売をお願いしております。

また、８月には、三越伊勢丹百貨店の食品統括部米取り扱いバイヤーや、東京都府中市の米穀店との商談を行いまして、コンクールの上位入賞のお米が１２月上旬より百貨店売り上げ日本一の三越伊勢丹百貨店新宿店と、都内の高級スーパーのクイーンズ伊勢丹２０店舗におきまして販売されることとなっているところでございます。また、福岡市の老舗百貨店岩田屋におきましても、コンクールの最優秀賞に輝いたお米の販売も計画しているところでございます。

このように、菊池米のブランド化を進める中、平成２８年度には米・食味分析鑑定コンクール国際大会の本市開催が決定しております。現在、菊池米ブランド推進協議会を立ち上げ、生産者やＪＡはもとより商工会や菊池観光協会等も参加いたしまして、国際総合部門における金賞獲得に向けて市全体で取り組みを始めているところでございます。

この国際大会を契機といたしまして、菊池米の知名度を上げ、全国的なブランド展開を図ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

初めて聞きましたけれども、三越新宿ですか、そういうふうなつながりができたということは、いよいよ菊池米が売れていく波に乗るというきっかけになってくれればと心から思っております。

それでは、最後の質問に入ります。

市長に就任して２年間の手応えはどうですかという質問をさせていただきます。

まず、市長、２年間ちょっとされたわけでございますけれども、２年間を振り返ると全体的に言ってどうだったのかと。また、後半２年間を全体的にどういうふう

な展望を持っておられるのか、お聞きしたいと思います。

それから、市長は民間からマニフェストを掲げ、市長選挙という、いわゆるドラフト会議で１位指名されプロになられたわけでございますが、民間企業のトップから見て、民間と違ってこういうのが行政なんだなと、こういうのが政治なんだなと思われたことはありますか、ここをまず質問いたします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま水上議員から３点のご質問がございました。２年間の振り返り、それから今後の展望・抱負、それから民間との違いに関する感想と、こういったことかと思います。

ざっくり振り返ってみますと、約２年半前に就任以来、「安心・安全の癒しの里」の実現に向けてこれまで邁進してきたわけでございまして、柱としては「経済の活性化の仕組みづくり」、そして「住みやすさ日本一の菊池づくり」という２本柱でプロジェクトを推進してきております。一言で感想を申せば、着実に前に進んできているなという手応えを感じているところでございます。

今申し上げた経済の活性化という中では、特に農業と観光ということで力を注いできたわけでございますけれども、農業に関しては菊池基準というものをつくるとともに、インターネットショップの「菊池まるごと市場」も開設しました。こういうふうに着実に具体化してきていると思います。

また、東京などの都市部での菊池の食材のＰＲにも努めまして、これはつい最近のニュースでございますけれども、経産省が国中からピックアップした日本の選りすぐりの名品という「Ｔｈｅ　Ｗｏｎｄｅｒ　５００」というのを海外に展開していこうということを発表したわけでございますけれども、この中で食品が１１５点ほど選ばれた中で、実は菊池市の産品が２点も選ばれたところでございます。

また、菊池米食味コンクールの取り組みが評価されまして、来年の国際大会の開催にまでつながったところでございますし、今お話しありましたように、それを聞きつけて、三越伊勢丹の本店であるとか、あるいは系列の高級食材店で、もう既に高値で成約に結実しているところでございます。そういう意味では、確実にプレゼンスにつながっているというふうに思います。

また、観光のほうは、楽しさや癒しなど魅力がないと人は来ないわけです。菊池の場合、素材はいいんですが、魅力的な商品になっていないと。また、イメージも長年にわたり低下してきていたということで、いわば菊池という眠った素材を健康、癒しという軸で、魅力的な商品化するための基盤づくりをやってきたというのがこの２年半でございます。しかし、観光として訴えるためには、この暮らしのよさそ

のものがいわば魅力の本質になるため、官民一体で力を合わせるということに注力をして、とりわけ温泉街ですとか、街中の緑化、美化等にも注力してきたところでございます。

このほか、田舎のよさを生かしたアウトドア型滞在のインフラの仕掛け整備が進んできていると思います。フットパスが整備されたほかに、これに呼応する形で民間からも「イデベンチャー」とか「ＳＡＳＵＫＥ」といったふうなアウトドア商品も伴ってきていると思います。また、観光協会がこれと連携してインバウンド型商品を大幅にふやしたところでございます。

また、来年、全日本マスターズレガッタ獲得にもつながっておりますので、これは一つの大きな成果であると考えまして、次の飛躍につなげるチャンスであろうと思います。

また、広報戦略に力を入れてホームページを刷新したほか、特にテレビ等ですね、メディア全般での露出がふえてＰＲ力が大いに強化されたんではないかというふうに思います。

また、一方、暮らしの環境づくりという意味でも、市民参画のプロジェクトを進めることで市民力を結集していこうということに意を用いたわけでございますが、特に日本一の桜の里プロジェクトは、スタート初年度に全国シンポジウムをここで開けるという幸運に恵まれまして、今、着実に市民の手によって桜並木がふえてきているところでございます。

また、こうしたことが契機となって、市民参画ということでは世界一のそうめん流しであるとか、市民劇であるとか、うれしい進展が続きまして大きな手応えを感じているところです。

また、子育て世代の支援にも力を入れてきまして、病後保育を始めましたほかに、病中保育も実現をいたしました。また、小・中学生医療費の現物給付、子宝祝金の増額など、今、近隣自治体比でも子育てに対する支援体制というのはレベル的には非常に高いものがあるんじゃないかというふうに感じております。

こうしたことから、先般、住みたい田舎ランキングでも全国１６位という評価をいただきまして、熊本県下でも最高位に位置したわけでございます。また、このチャンスを生かすべく、集落・定住支援センターというものをせんだって設置したところでございます。

以上、ざっくりとした振り返りでございますけれども、私自身の個人的なスピード感から言えば、もっともっと早くしたいというふうに実は思っておるところでございますけれども、自治体ならではの制約というのも、手順というのもございます。また、特に初年度は、以前からの幾つもの重たい難しい懸案事項がございましたけ

れども、議会のご協力も得て、おかげさまで比較的早期に解決することができました。中には「ちょっと市長、急ぎ過ぎるぞ」という声もいただくぐらいでございまして、こうしたことを総合して考えますと、一つ一つが着実に具体的な成果につながっているということで、私としては今非常に手応えを感じているところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　民間企業のトップから市長になられ、こういうのが行政なのかな、政治なのかなと思われたことというのは、今の答えの中に入っていませんので、よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　失礼しました。

３点目のご質問でございます。民間との違いに関する感想というご趣旨かと思います。

企業経営も、それから自治体の経営も、限られた人、物、金をどう最大限に効率的に生かすかという意味では、実は本質的には大きな違いはないというふうに思っていまして、むしろ、民間での経験を生かせる分野は非常に多いと思います。

ただ、やはり私が感じます一番大きな違いは、この時間軸と、それから求められるスピード感かなというふうに思います。民間であれば、いかに早く効率的にゴールに到達するかということが求められますので、とにかくやりながら考えると。トライ・アンド・エラーというのが非常に尊重されておりまして、大体私の感覚ですと、３カ月単位で結果が求められるというのが一般的かと思います。行政の場合ですと、どうしてもやはり公平公正という観点からも、決定のプロセスが事細かな手順、手続というのがございますし、合意形成というものが非常に大事であると、ここにかなり時間を注ぐ必要もあると。

ということでございますので、何か動こうと思った場合にいろんな手順を埋めていかなきゃいかんものですから、アイデアを思いついて全ての計画が固まって実施するまでに、下手すれば１年、１年半とかかることが非常に多いということで、タイミングを逃さないように、こうしたプロセスの短縮化といったものには努力していきたいと、こういうふうに今感じているところでございます。

以上です。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

そういう中で２年経験されたわけでございますけれども、この２年を経験して、今までにない、改めての新しいマニフェストというものが出るのか、思いついたのか、思いつかなかったのか。

それと、次の質問で、ホームページに載っています市長の座右の銘についてお尋ねいたします。

「人生我以外皆我が師なり」と。ちょっと私は理解できない座右の銘でございますけれども、どういう意味合いのものか、市長に説明をいただきたいと思います。２点お願いします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問、１点目は残る期間での新しいマニフェストの考えはあるのかと。２点目が、私の座右の銘である「人生我以外皆我が師なり」ということの意味合いをというご質問でございます。

１点目でございますが、戦略と戦術という言葉がございます。特にマニフェストで描きましたのは、やはり当市が取り組むべき大きなこの戦略の柱でございます。

戦略というものは、ある意味では中期的に求めていくべきゴールの像でございますから、余りころころと短期間に変えるべきものではございません。ですから、私の基本としては、健康や命といったものを軸に自然を生かしながら、それで外貨を取り入れていこうという戦略は、これはもう不変でございます。

ただ、その中の戦術、別の言葉で言えばアイデアでございますね。アイデアという意味ではまだまだいっぱいありますし、これからも出てくると思います。それらが具体化する中で、また考えてもみなかったような新しいアイデアも化学反応で生まれてくることは大いにあろうと思います。今も幾つかのアイデアはございますけれども、これは調査や分析を行った上で、きちんと組み立ててからご説明したいというふうには思っております。いずれにしても、基本戦略は変わらないということです。

それから、私の座右の銘の意味合いでございますけれども、「人生我以外皆我が師なり」というのは、自分以外は先生だと。これはもうある意味、言葉どおりでございます。

ただ、我が師という意味は、私としては２つの意味で捉えておりまして、１つは多様性の重要さといいましょうか、人間の性格、考え方、生き方というのは本当に人それぞれでありまして、そうした違う人の考え等に触れることで自分の考えの幅

が広がるし、自分の学びや成長につながると。ですから、どんなに主義・主張が違っても、それを一回受けとめて、何でそういうことを考えられるのかなと、何でそうおっしゃるのかなといったことをそしゃくする中で、なるほどという新たな発見、あるいは発想につながりますし、あるいは、やっぱり自分の考えはこれでよかったんだというふうな自分の考えに自信を深めることにもなるかもしれません。それが一つの側面であります。

もう１つは、俗に「反面教師」という言葉がございますけれども、やはりあんなふうになってはいけないなというふうなことを学ぶことにもなるわけですね。周りにはいろんな方がいらっしゃいますので、ああいうことをやっちゃいけないなとか、あれをやると人の信用をなくすなとか、いろんな意味で反面教師というのもありがたいものだというふうに私は思います。ですから、学ぶ気持ちさえあれば、誰でもありがたい自分の先生であると、嫌な人はそういう意味ではなくなるわけですね。それを自分なりに言い聞かせて、自分が今まで人生で学んできた中では一番革新的な考え方かなというふうに自分では思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

最後の質問となりますけれども、行政、政治において、市長、この座右の銘と寄り添っていけていますか、質問いたします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今の私の人生訓というのは、まさに仕事であれ、プライベートであれ、私が生きていく上での自分自身への指針ということでございますから、行政だからこうだ、自分の私生活だとこうだと使い分けているわけではございませんで、何かに生かすつもりでやっているわけではないわけです。しかしながら、私というのは公的な立場で、市政をあずかる非常に重要な責任ある立場でございます。ですから、いつもこのような気持ちで、さまざまな立場の人々の考えに耳を傾けて、そして、それを踏まえて判断していくということを心がけているところでございますし、これからもこの姿勢は失わずにいきたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　水上隆光君。

［登壇］

○４番（水上隆光君）　ありがとうございました。

菊池の再建に、市民は江頭市長に期待している部分がかなりまだ残った状態でございます。何とかその期待に応えていただくよう期待して、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで昼食等のため暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時１５分から始めます。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午後零時１１分

開議　午後１時０９分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　皆さんこんにちは。議席番号８番、創成会の荒木崇之です。今議会より４名で会派を結成し、活動することになりました。創成会の意味は、成熟した議会をつくるという意味であります。菊池地域の議会では、さまざまな不祥事が起こり、非常に厳しい目が議員に向けられていますが、チェック機能と立案能力をあわせ持った集団を目指して、是々非々の姿勢で活動してまいります。

それでは、通告に従い、一般質問をいたします。

初めに、竜門ダムの活性化策について、質問いたします。

先月の８月２３日に市民レガッタ大会が開催されました。私も職員時代から合わせると、５年連続で出場しています。日ごろ乗ることのないレガッタに乗り、また、日ごろ見ることのない湖面からの竜門ダムの景色は、陸上とは違った、また景色を映し出します。この市民レガッタ大会は、ここ数年、教育委員会の広報活動の努力もあってか、参加チームが年々ふえているように思います。竜門ダムは、江頭市長がおっしゃる菊池市の宝の一つだと私も思っています。なぜなら、今議会に提案されています議案第９４号の癒しの観光地菊池づくりにもあるように、見る観光から体験する観光へ、旅行者のニーズが、需要が変化しているからです。観光地に行かなくとも、行ったように感じさせる写真や動画がインターネット上にあふれ、実際に行ってみると、期待外れだったというような経験をされた方は私だけではないと思います。そのようなことから、体験する観光へとニーズが変化していると思っています。実際、大分県竹田市は長湯ダムに日本初のウェイクケーブルパークという、ウェイクボード専門のコースをつくり、ことしの７月にオープンし、１日９，０００円の使用料を取っています。ほかにも、下益城郡美里町は、民間ではありますが、フォレストアドベンチャーというテーマパークを緑川ダムの湖畔につくり、木と木

の間をワイヤで結び、ターザンのように渡っていく施設を誘致しています。ちょうど日曜日の夜のドラマで、限界集落の活性化策としてあっていました。

私も一度、子どもを連れていきましたが、２時間遊んで、１人約３，６００円と結構なお値段ですが、大人でも十分遊べる施設であります。

紹介しました自治体は、ダムをうまく活用し、体験する観光でテレビでも紹介されたことから、訪れる方も多いと聞いております。

竜門ダムは、体験する観光にぴったりの場所、宝の山ではないでしょうか。しかし、宝の山も、お金に変えなければ、ただの山でしかありません。

そこでお尋ねしますが、竜門ダムの活性化策のため、職員による検討チームが発足していると聞いています。どのような活性化策を検討されているのか、お尋ねをいたします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、荒木議員のご質問にお答えします。現在行っておりますプロジェクトチームの内容かと思います。現在進めております竜門ダム周辺資源利活用プロジェクトについてでございますが、本プロジェクトは、平成２８年５月に開催の第９回全日本マスターズレガッタを控え、龍龍館を含め、竜門ダム建設時に整備されました資源の活用と、新たな視点での観光客集客及び地域活性化を目的として立ち上げられたプロジェクトチームでございます。

チーム編成としましては、企画振興課、社会体育課、土木課、農政課、商工観光課の各担当課に地域おこし協力隊６名を加えたチームとなっており、平成２７年４月より、これまで３回の会議と１回の現地視察、また、市長と語る会として竜門地区の住民の方々と資源活用をテーマに、地域活性化に向けた懇談会を開催したところでございます。

これまでの利活用案としましては、地域おこし協力隊のよそものの視点によるさまざまなアイデアを含め、日帰りや宿泊のどちらでも楽しめる体験コースづくりや、ターゲットを絞ったコースづくりなどが提案されております。

例えば、サイクリングやボート、登山、キャンプ場などのアウトドア関連の総合受け付けを龍龍館で行い、そこを拠点として寺小野地区での川遊び、カヌーを使った滝めぐり、聖護寺での座禅など、体験観光として周遊できるようなコースづくりが提案されております。

また、都会の喧騒を離れて、癒しを求めて都会の人たちへの体験型ツアーとして、龍龍館や寺小野の宝篋印塔、神龍八大龍王神社、穴川菅原神社、斑蛇口湖に映る夕陽を眺めるなど、自然や文化、歴史を感じられるような癒し体験ツアーづくりなど

を検討しているところでございます。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　それでは、再質問いたします。

部長のお答えでは、今さまざまな活性化策を出している段階で、まだどれにするかというのは決まっていない状態だと思うんですよね。ちょっとそういう状態で矛盾に思う点が１点ありまして、それは今議会に龍龍館の改修費２，５００万円が計上されています。まだ竜門ダムの活用策が決まっていないうちに何を焦って龍龍館の改修をするのでしょうか。これは議案に関する質疑になるので、答弁は求めませんが、龍龍館を合併特例債を使って改修する計画は、新市建設計画、合併のときに定められた新市建設計画のどこにも記載はしてありません。経済建設常任委員会でもきちんと審議していただけることをお願いして、話をもとに戻します。

では、私なりに竜門ダムの活性化策を考えてみましたので、ご提案したいと思います。

竜門ダムには、ブラックバス、日本名でオオクチバスという魚が生息しています。このブラックバスは、ワカサギやフナといった日本古来の在来種を食い荒らし、日本本来の生態系を崩してしまうため、特定外来種に指定されています。特定外来種に指定されると、飼育、保管、運搬に規制があり、ブラックバスは駆除対象魚。見つけたら駆除しなきゃいけないという魚に指定されています。

しかし、その個体数は減ることはなく、在来種を駆逐してしまうために、熊本市にある江津湖のように、先日、熊日にも載っていましたが、自治体が税金を投じて電気ショックとかでブラックバスを駆除するなど、いわば迷惑魚であります。しかし、このブラックバス特有の強い引きと疑似餌、ルアーですね、を使うゲーム性から、ブラックバス釣りは非常に人気が高く、日本でのブラックバス釣り人口は約３００万人。釣り具市場にもたらす経済効果は１，０００億円と言われています。本場アメリカでは、１，５００万人の愛好者で、経済効果は１兆２，０００億円と言われております。日本にもアメリカにもプロがいまして、そのプロの方は、ブラックバス釣りのプロの方は数千万円稼ぐというようなことも言われています。

人気が高いブラックバス釣りですが、平成１６年の特定外来生物被害防止法が施行されてからは、ブラックバス釣りを禁止するダムや河川がふえました。そんな中において竜門ダムは禁止されていないために、許可の要らないブラックバス釣り場として釣り人の間は有名になっていて、週末には湖面にボートを浮かべ、釣りをしている風景を目にします。その結果、レガッタコースへの侵入やヘラブナ、ワカサギ釣りの人たちとのもめ事、ごみの散乱等の問題が発生しています。私も釣りが好

きで、過去にブラックバス釣りの大会に出場したこともありますし、竜門ダムにボートを浮かべたこともあります。そのときに、大分県の松原ダムのように、許可をもらって釣りをしているわけではないので、安心して釣れないといいますか、注意されるのではと考えながら竜門ダムで釣りをしていた経験があります。

そこでご提案ですが、ボートの乗り入れに対し、決められたスロープからボートをおろすように決めて、スロープ使用料として、ボート１台につき１，０００円を徴収するという案です。パネルを使って説明します。

［パネルを示す］

○８番（荒木崇之君）　まず、釣りをする人は龍龍館に行き、氏名、住所、電話番号を記載して、スロープ使用料１，０００円を払います。そして、許可証のかわりに、ボートに掲げる旗をもらい、あわせて進入禁止や注意事項を書いた竜門ダムの地図を受け取ります。決められた時間まで釣りを楽しんだ後は、許可証を龍龍館に返却し、決められた場所に、釣ったブラックバスを廃棄するという流れです。

徴収した１，０００円の使い道ですが、一部をワカサギ放流基金として、菊池川漁協に寄附し、残りは龍龍館の歳入へと充てます。春から秋にかけては、週末は少なくとも１日１０隻は利用すると計算すれば、１人分の人件費は出ると考えます。龍龍館は現在、経営が悪化し休館していますが、再度、開館の予定と聞いています。そのために予算も計上されているのでしょう。この案は、朝と夕方にしか受け付け事務はありません。ですので、片手間でできます。また、この案は、設備投資が必要ありません。現在のスロープを使えばよい。初期投資は、許可証となる旗とダムの地図の印刷代のみと安価です。使用料だけでなく、釣り人による龍龍館での昼食、自動販売機の利用、ワカサギの繁殖環境への一助、釣り大会誘致による温泉街への経済効果、実際この釣り大会、市房ダムとか、宮崎の野尻ダムとか、野尻湖とかで行われているんですが、ＮＢＳという団体がありまして、これは日本バスフィッシング協会というのがありまして、この大会を公式でやると、約３００人は優に越える大会なんですね。それぞれがまたボートを持ってくるといったような大会が開催すれば、かなり温泉街への経済効果は高いんじゃないかと考えます。

また、佐賀県北山ダムというのがありますが、ここでは貸しボートだけで、民間で４件、経営されています。全く第三セクターとか、市の運営じゃなくて、民間の会社が４件も貸しボートをやって、このブラックバス釣りの方にボートを貸すというようなことで経営されています。

自治体がお金を使って駆除をしているのを逆手にとって、竜門ダムを活性化する案ですが、一つの案として検討してはどうでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　まず、現在のダム湖の一般的な利用の考え方をお答えさせていただきます。

現在、ダム湖での釣りについては、ボートコース内に入らないこと、ボート競技の練習、大会の開催の妨げにならないようにすることを前提に、広く地域に開かれたダムを目指して、一般に無料で湖面を開放しているところでございます。

また、ご案内のように、斑蛇口ボート場は西日本一のボート場としての評価をいただいております。そのことも踏まえ、良好なボート場の維持のためにボート及びカヌーといったサイレントスポーツの場としての利用を中心に進めており、県ボート協会と連携をとりながら、各種大会の開催やボート関係団体の練習の場として利用促進に取り組んでいるところでございます。

ただいま荒木議員のほうからご提案がございました件も含めまして、さまざまな角度から検討を重ねていきまして、先ほど申し上げましたプロジェクトチームの中で龍門地域の方々や、菊池川漁業協同組合、菊池川河川事務所等々のいろんな団体との協議を進めて竜門ダムの活性化に努めてまいりたいと思います。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　先ほど竜門ダムはサイレントスポーツ湖、音の出ないやつをするということだったんですね。このブラックバス釣りのダムに持ち込むボートというのはほとんどエレキ、電気で動くモーターを使用しているわけなんですね。この北山ダムというのもエンジンは禁止です。全部電気で、バッテリーを積んで、それでバッテリーで回すといったような形で釣り大会が行われているので、サイレントスポーツには十分適しているかなと私は思っています。

私がこの提案をしたのは、これを絶対してくださいということを提案したんではなくて、職員の検討チームが活性化策の方向性を決めるときに、単純にキャンプ場だとか、釣り堀だとか、そういうふうに言うんじゃなくて、ストーリー性を持った提案をしてほしいと、これをこうすればこうなると。ここにメリットがあって、ここにデメリットがあるというような一連の流れとして提案をしていただきたいなと。ただ単純にキャンプ場はいいなとかいう案じゃなくて、そういったことでストーリー性のある提案をしていただきたいと思ってご紹介をいたしました。夢のある、そして体験したくなる活性化策を期待しまして、次の質問に移ります。

次に、菊池市の道路整備についてとしていますが、隈府中央線について質問いたします。

隈府中央線については、過去に多くの方が一般質問されていますが、幾つか疑問

に思うところがありますので、これまでの経緯とあわせて質問いたします。パネルを示します。

［パネルを示す］

○８番（荒木崇之君）　隈府中央線は、大琳寺木庭橋線、このキャニオンのある通りですね、から御所通りまで区間８７０メートルに、幅１２メートルの道路を建設するために、ここですね、この水色とオレンジの部分が隈府中央線、色づけしています。この工期ごとに。建設するため、昭和３６年に計画されました。大琳寺木庭橋線、キャニオンの通りから国道３８７号、セブンイレブンが今あるところです。前は製材所がありました。までの区間４３０メートルについては、昭和４４年までに工事を終えています。ちょうど市役所前の正面玄関の前の道路のことです。

しかし、国道３８７号からセブンイレブンのある通りのところから、御所通りまでの水色の区間４４０メートルの区間は、いまだ整備が終わっていません。

そこでお尋ねしますが、これまで隈府中央線にかかった経費と、どこまで工事をすれば完了となるのか、お尋ねをいたします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは、お尋ねの隈府中央線についての経緯をお話しさせていただきたいと思います。

今、議員のほうからご説明がありましたとおり、隈府中央線は、昭和３６年に大琳寺木庭橋線から御所通り間の延長８７０メートル、幅員１２メートル、うち大琳寺木庭橋線から国道３８７号間の延長４３０メートルは、幅員１６メートルで都市計画で決定されたものでございます。

国道３８７号から御所通り間４４０メートルにつきましては、昭和６３年に幅員１２メートルから１６メートルに都市計画の変更が行われております。

大琳寺木庭橋線から国道３８７号間の延長４３０メートルは、昭和４４年に事業が完了しております。隈府中央地区につきましては、商業機能の向上や居住環境の改善など、市街地活性化が求められていたため、昭和６２年ごろより隈府中央線等の都市基盤施設の整備・改善と宅地の利用増進を一体的に進める土地区画整理事業が計画され、平成４年に事業認可を受け、事業着手予定でありました。しかし、菊池市の財政的事情から、平成５年に一時凍結、平成１２年３月に事業中止が決定されたところでございます。

さらに、平成１３年度に都市計画街路隈府中央線単独で事業に着手しようとしましたけれども、土地区画整理事業を望む地元の声が上がったこと、単独の街路事業だけでなく、ほかの事業も一体的に行うほうが、よりまちづくりの効果が期待でき

るとして、平成１５年度からまちづくり総合支援事業に取り組むものとなったものでございます。

平成１５年度から着手しました国道３８７号から御所通り間４４０メートルにつきましては、現在まで設計費、補償費、工事費等含めまして、おおよそ１６億円の費用がかかっていることになっております。残りの事業は、延長約４５メートル、事業費約１億２，０００万円ほどかかりそうでございます。いつまでかかるかということですが、現在、対象地、残っている部分が妙蓮寺というお寺でございまして、共有となっていた土地の整理は完了しましたが、墓石についての交渉を今現在進めているところでございます。早急な完了を目指しているところでございます。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　再質問いたします。

答弁で、これまで平成１５年度から着工した４４０メートルの区間、この水色の区間については、約１６億円の費用がかかっているとのことであります。また、ちょっと今回で聞こうと思っていたんですけれども、妙蓮寺前の未整備区間４５メートル、この赤い網かけのところですね、小さくなりますが、ここには今からやって約１億を投じるというように言われております。完成年度はなるべく早くということでありますが、先ほど隈府中央線のこの水色の区間ですね、４４０メートルは、１６億円の整備費用がかかっているとのことでした。これは１メートル当たりに換算すると、何と４００万円になります。１メートルで４００万円。また、昭和３６年から５０年も経過してなお、完成していない道路が本当に必要であったか、疑問に思うところです。実際市役所前の４３０メートルの整備は、昭和４４年に完了していますが、それから平成１５年まではほとんど隈府中央線の動きは見えず、平成５年には当時の牧市長が、隈府地区の土地区画整理事業を財政難を理由に凍結されています。私はこの凍結は、ご英断だったと思っています。しかし、その後の福村市長時代に再び隈府中央線事業が動き出し、約１６億円もの巨額な費用が隈府中央線に投じられることとなったわけです。そこでお尋ねしますが、平成１５年からの隈府中央線事業は、街中のにぎわいや活気を取り戻すための一助になったのか、どのような費用対効果があったのか、お尋ねします。

あわせて、残りの未整備区間４５メートル、妙蓮寺前の４５メートルの整備には約１億円の費用を要するとのことですが、この整備には多くの問題があると思います。

まず１点目、お墓移転に係る同意の問題。

通常、公共事業というのは神社仏閣は避けて通るんですよね。ところが、これはお墓があるとわかっているのに、ここを通るような計画をされていた。今さらそれを言っても遅いんですけれども、非常にずさんといいますか、私にとっては不可解な計画なんじゃないかなと、ちょっと西側に振ってやれば、お墓は避けれたんじゃないかなという気はしますが、まずその１点目ですね、お墓移転に係る同意の問題。

２点目、この妙蓮寺には、文化財に指定されているクスノキがあります。クスノキの根を避けて歩道を設置する。クスノキが下に根を張っていますから、掘るとできないので、要はこういうふうに段を上げるわけですよね。それで歩道を設置することから、道路と歩道の間に高低差が約１メートルできるという設計が今されておるんです。歩道は傾斜がついたスロープになることが考えられるので、安全で快適な歩行空間とは言いがたい。また、見た目にも、こっちは道路、こっちは歩道というような形で、こういう波を打ったような、山をつくったような歩道になるのではないでしょうか。果たして車椅子での通行は可能でしょうか。

３点目、合併から１０年が過ぎ、国からの交付金が減らされ、５年後の平成３１年にはピークを迎える中で、財政の問題も考えられます。このような幾つかの問題があることを認識されているのか、あわせて最初の質問、費用対効果とあわせてご答弁をお願いいたします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　まず、お尋ねの費用対効果、正当性について少々お話をさせていただきたいと思います。

先ほど経緯につきましては、説明したとおりでございますけれども、隈府中央線は安全で快適な歩行空間の確保による回遊性の向上、それから、地域コミュニティの増進、それから、火災や地震時の避難活動、消火・救急活動を助ける道路として整備を並行して進めてきたものでございます。

都市計画道路で未整備部分は、隈府中央線と立町北原線との交差点でもあり、現在の状況は交通事故等が懸念されますが、それを含めて考えますと、整備は急ぐものであるというふうに考えております。

それから、ご指摘の墓の同意、それから、計画性の妥当性、この辺についてまずお尋ねでございます。

これにつきましては、当初の都市計画決定を受けた道路に忠実に作業を進めてきていたということで、今進んできているのを確認しております。ご指摘のとおり、このコースについての配慮については、当時、最初の時点で少し考慮する必要も考えられたのではないかというふうには考えております。

ただ、現在、既に投資がなされておりますことを考えますと、この計画で最後まで、もうあとわずかでございますので、そこまでしなければ、この投資が無駄になってしまいますので、そこまでは計画どおり進めるところでございます。

それから、文化財、クスノキがございます。これも議員ご指摘のとおり、非常に苦慮しているところでございます。県の教育委員会、文化財保護の係のほうからも指導を受けておりまして、具体的な話になりますと、もう今からでございますが、当然、一緒になって、これを枯らさないようにさまざまな工夫をしながら、完成に向けたいというふうに考えております。

それから、財政的に非常に厳しい中で、これを進める余裕があるのかというようなお話でございましたけれども、先ほども申しましたように、今まで投資された額も含め、それから、この隈府中央線にかける地域の期待ですね、これが非常に大きなものがありまして、先ほども申しましたけれども、もう既に火災、災害のときのための災害防止としての機能は非常に高いものがございまして、そういう面でも非常にこの町にとっては有効であるというふうに判断しているところでございます。

以上、お答えさせていただきました。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　今の部長の答弁では、計画どおりに進めていきたいということでありますが、先ほどちょっと休憩時間に木下議員とお話ししたんですけれども、なかなかお墓の同意も難しいと、余りとれていないということもお聞きしていますし、また、これがクスノキを避けてお墓を掘り上げるといいますか、お墓を掘るということは、バックホーを使えないわけなんですよね。じゃ、手掘りでお墓を掘るかということになると、工事費が物すごく今よりはね上がるんじゃないかと思いますので、非常に苦労されるのが多々今からあるんじゃないかと思います。

確かに残り４５メートルで完成するならば、問題があっても完成させたいとの考えはわからなくもありませんが、隈府に人が来ないことには、どれだけ道を広くしても、どんなにきれいにしても意味がないのではないでしょうか。私が思いますに、大琳寺木庭橋線、キャニオンの通りですね。そこから今橋へとつなげて、そして、３２５号を並列する形で道路をつくると。そして、３２５号の４車線にどこかで信号で結ぶという、この並列路線をつくるほうが、よほど隈府のために私はなるんじゃないかと思います。実際３２５号を４車線化してきても、サンジェルマンのところで信号が３つあるんですよ。サンジェルマンのところで３つ信号があるので、これが渋滞の原因なんですよね。ただ、隈府に行くほうは、この並列路線、野間口とかあっちに行くほうは３２５号で左折をするというような長期的にですね、大き

く見てほしいなというのが私の考えです。

まずは菊池市に入ってくる道路、つまりは近隣の自治体、大津や合志、熊本市をつなぐ路線の整備をすることが急務と考えますが、近隣との接続道路を見直す計画があるのか、お尋ねをいたします。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　今のご指摘されました話の内容を聞きまして、私たちも非常に広域での道路計画というのは非常に関心がございまして、今度、計画をするところでございます。

まず、昭和３６年３月に隈府市街地の発展を促すため、市街地の骨格をなす８路線の整備計画を立て、整備を進めてまいりましたけれども、人口減少等、大きな社会情勢の変化を受けて、平成２３年度に隈府中央線の廣現寺から先のほうの万福線、それから、今、御所通りとなっております木の本線、この２路線を３キロの計画の廃止を行っております。この事業も残すところ４５メートルとなりましたので、早期完成を目指し、進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、今後の道路整備につきましては、先ほども言いましたが、広域交通を考慮した機能的な交通網を整備するために、平成２８年度から２９年度の２カ年をかけまして、菊池市道路マスタープランの作成を計画しております。その中では、議員ご指摘のとおり、菊池市内だけではなく、広域での交通状況を踏まえた道路網の機能的な整備計画を立てていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　今、答弁で道路マスタープランが来年度に計画されているとの答弁で安心しました。

ちょっと隣の菊陽町のお話をさせていただきたいと思います。菊陽町からも傍聴に来られているので、余り褒めるのは嫌なんですが、菊陽町は道路をH型につくるんですね。バイパスを通して、横につくってまたつくると。こういうH型につくって、熊本市、大津町、合志市とつなぐことで店舗が次々に建てられ、企業も進出し、人口がふえ、今や４万人を超す町へと飛躍しています。私の持論は、道便利さえよければ、民間企業は勝手に入ってくるし、定住政策をしなくとも、人口は自然とふえていくと思っています。一日でも早く道路マスタープランを作成して、他市町との接続道路を整備していただきたいと思います。それがひいては隈府へと人が流れ、隈府中央線がそのときに生きてくるとご提言して、次の質問に移ります。

次に、ＧＩＳについて質問いたします。

ＧＩＳについては、以前にも泉田議員が平成２５年１２月定例会において、ＧＩＳの活用についてと題して質問されました。重複するところがあるかと思いますが、ＧＩＳの説明から入っていきたいと思います。

ＧＩＳは、ジオグラフィック・インフォメーション・システムの略で、簡単に言いますと、地籍データ、土地の広さや土地の種類、所有者等の情報を地図に表示し、パソコン上で管理するシステムであります。パネルで示します。

［パネルを示す］

○８番（荒木崇之君）　この赤い網かけのところが私の自宅なんですが、このように、その土地の地番を入れると、私のこの福本の地番を入れると、このように、その土地の航空写真や地籍データ、これは地籍データはちょっと載せられないんですよ、個人情報にさわるということで、役所のほうから出してもらえなかったので、それは当然だと思いますが、地籍データが表示されます。土地の種類は住宅だとか、この土地は何平米あるだとか、そういったのが表示されます。

このシステムですね、このＧＩＳのシステムは、菊池市は平成２１年度に総額１億３，５００万円をかけ導入し、毎年２，７００万円の維持管理費を要しています。しかし、ＧＩＳは、職員にとって仕事をするに当たり欠かせないシステムであり、住宅地図、道路台帳図、農政情報図、公共下水道地図などの情報を全庁で共有し閲覧できるため、本庁、支所を問わず、なくてはならないものであります。

では、なぜ今回質問するかといいますと、ある出来事があったからです。それは、菊池市にお茶畑を持つお茶農家の方から、阿蘇中岳噴火による火山灰被害に対する補助金を県へ申請するに当たって、県への提出書類の中に、茶畑の航空写真の添付が必要ということで、農政課にＧＩＳの航空写真のコピーを申し出たところ、航空写真を出すことはできませんと断られたとのことです。そこで、どうにかならないかと私のところに相談があり、私は税務課に相談をしました。そしたら、証明書という形ではなく、カラーコピーでの発行では大丈夫だということで発行していただいて、無事に県へ補助金申請ができ、事なきを得ました。

私は、この対応をした農政課の職員を責めるつもりはありません。なぜなら、規則に従って出せないというご対応をされたので、問題ないと思います。では、税務課の方が規則を破っているかといいますと、そうではありません。先ほど言いましたように、カラーコピーでならとの条件で発行してもらって、問題なく補助金申請ができたわけですから、どちらにも非はないと思います。では、何がいけないかといいますと、航空写真を発行してもよいという条例がないのが問題なんです。

そこでお尋ねしますが、ＧＩＳの航空写真の発行をしている自治体は多々ありま

す。私が知っているだけで福岡県八女市や宮崎県都城市は発行をしているとのことですが、なぜ八女市や都城市にできて、菊池市にはできないのか、お尋ねをいたします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　ＧＩＳの件について答弁させていただきます。

ＧＩＳにつきましては、庁内におきまして、ＧＩＳ作業部会というところでいろいろな案件について、今、協議をしているところでございます。ＧＩＳ作業部会におきましては、平成２２年度導入当時から毎年開催しているところでございます。協議内容としましては、使用上の問題点でありますとか、利用上の改善、それから、著作権の問題、それから、外部効果へについてというようなものを今まで協議してきたところでございます。その中で、平成２５年度の作業部会において検討を行ったときに、航空写真の発行は、地籍調査の未完了地域等の取り扱いとともに、窓口対応等の課題もあるため、個人情報の問題整理ができていないため、発行については見送ることとしたという経緯があるところでございます。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　それでは、再質問いたします。

航空写真の発行につきましては、私が税務課時代、実際に市民の方から苦情をいただきました。それは県外から来られた方で、何十年も前に祖父が購入した土地が菊池市にあって、権利書や登記簿謄本はあるので住所はわかるが、場所がわからないので教えてほしいとのことでした。そして、早速、ＧＩＳで検索して航空写真をお見せすると、やっぱり言われるのが、コピーをくださいと言われるわけなんですね。それで、コピーができないために、絵で描いてくださいといってお断りした苦い経験があります。この放送を聞いている税務課の職員なら、あるあるとうなずかれているのではないでしょうか。今回の質問で、見せることが大丈夫なら、これを携帯電話で撮ることは可能かというようないじわるな質問をしようかと考えましたが、それは建設的ではないので先に進みますが、その経験から私は、平成２５年の決算特別委員会で早速問題提起いたしました。また、泉田議員も平成２５年１２月議会において指摘されています。そのときの執行部の答えは、今後の検討課題としてとらせていただきますと答弁されています。たかだか航空写真の発行を検討するのに２年もかかっているとはどういう理由でしょうか。

先ほどＧＩＳの作業部会の中で、個人情報に当たるというのがありましたけれども、この地理空間情報の活用における個人情報の取扱いに関するガイドラインとい

うのがあります。これは測量行政懇談会というところが出しているんですが、その中に、撮影時に記録される情報と他の情報と照合した場合でも個人の特定にはつながらない情報のみであるため、現在の技術水準で撮影される航空写真は個人情報に該当しないとはっきり書いてあるんですね。この作業部会の勉強不足がはっきりわかる、これは答えです。私は思いますけれども、では、お尋ねします。航空写真を発行しているほかの自治体の手数料条例を手本に改正すればすぐにできると思いますが、いかがでしょうか。今議会中に条例の改正案を提出するお考えはあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、荒木議員のご質問にお答えいたします。

先ほどありましたように、個人情報の問題整理につきましては、平成２５年度でやっておったわけでございまして、今ご指摘のところについては承知しておるところでございます。一般的には航空写真は個人情報の、写真のみであれば、ならないということで認識はいたしております。

それから、現在、先ほど議員のほうからもお話があっておりますけれども、宮崎県の都城市や福岡県八女市など、情報化社会の進展や利活用の促進から既に航空写真のみの発行を行っている自治体もありますので、今後、先進自治体の研究とともに課題を整理し、発行に向けた準備を進めてまいりたいというふうに考えております。

ただ、いろんな、まだ問題整理ができておりませんので、その点につきましては、ＧＩＳ作業部会を中心に取りまとめた上で進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　今、明確には今議会での提案をするというようなご答弁はいただけませんでした。２名の議員が提言してから２年間何をしていたのか。ＧＩＳ作業部会については、しない、できない理由を探す部会になっているようで、非常に残念でなりません。なるべく早く航空写真１個出す、これに何日もかかるような、そんな行政というのは、先ほど市長が言っていたスピード感というのが全く感じられないと私は思っています。実際、都城市は出しているわけですから、急いでいただきたいと思います。

最後に、かのナポレオンはと言いたいところですが、余りにもテレビ番組に影響

されてしまいますので、私の尊敬する政治家、田中角栄は、相談には必ず返事を出すんだ。結果が相手の希望どおりでなくても、聞いてくれたんだとなる。大切なことだよと言っています。議員への返事にはお時間がかかるようですが、市民の声にはしっかり返事していただくことをお願いして質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

休憩　午後１時５３分

開議　午後２時０３分

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　皆さんこんにちは。過日、菊池市に台風がやってまいりました。台風被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、それに伴って対応していただいた職員さんには本当によく頑張っていただいているなという感謝を申し述べたいと思います。

政治理念、菊池市民がうれしいこと。政治目標、政治をもっと近くに。判断基準、子どもたちが大きくなったときにどうなのか。この３本柱で日々の議員活動を行っております議席番号１番の平直樹です。

ことしの８月１５日は７０回目の終戦記念日という大きな節目の年でした。昨今の我が国・日本を取り巻く情勢は油断をしていられるような余裕はなく、我々政治に携わる者は国民と国土をしっかりと守るという強い意思を明確に国内外に示していかねばならない状況ではないでしょうか。

戦争は決して繰り返してはなりません。この国と今を生きる我々、そしてこれからの日本人の安泰のためにその身を捧げていただいた英霊たちに深く感謝と哀悼の誠を捧げるものであります。私も国民、特に子どもたちの生きていくこの世界がいつまでもいつまでも続きますようにと念じながら、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、補助金窓口業務についてお尋ねをいたします。

これまで農政関連の補助金窓口業務で、間違った情報を市民に説明し、不利益を与えてしまったことはありますか。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、経済部の農政関連部署におきまして事例はなかったかということでございます。少し経済部の内容につきましてお話をさせていただきたいと思います。

毎年、農政関連の部署におきましては、国・県の補助対象事業を初めまして、市の単独事業によります補助事業を実施しているところでございます。

参考までに、平成２６年度におきましては、農政課及び農林整備課の事業の対象といたしまして、延べ２，５２２件に対し約１４億３，３００万円を交付しているところでございます。

補助事業に取り組む場合におきましては、その事業ごとに交付要綱等が定められております。特に事業主体が遵守すべき補助事業の要件等が明確に示されているところであり、関係法令にのっとって事務を執行しているところでございます。

事業推進段階におきましては、関係機関と事業主体との間に疑義が生じた場合、協議、確認を進めながら業務に当たっているところでございます。しかしながら、中には解釈のずれが生じたことがあったのではないかというところもないとは言えないところでございます。結果的に市民の皆様に不利益を与えてしまうような事例につながったことがあるとすれば、大変申しわけなく思っているところでございます。

今後の補助事業の推進に当たりましては、関係機関との連携を密にしながら、さらに適正な執行に努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　今の答弁では、あるとするならばということでありましたが、これはありました。あったからこそこういう質問をするのであって、市民の方からのそういった声をここでお聞きするわけですから、ここはしっかりとあったと、そしてご迷惑をおかけしてしまったということだと思います。

いろんな研修を今までされてきていると思うんですね。補助金と一口に言っても、本当に多種多様な補助金がある中で、職員もそれについていかなきゃいけない、しっかり覚えなきゃいけない、さらには説明をしていかなきゃいけないということが業務の中であっていると思いますが、単純に、これまでそういった職員の能力向上のための研修というのは今までされてきていますか。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　私どもから農政関係のほうのことで申し上げさせていただきますが、補助金等の申請を行う前におきましては、当然、職員は県・国からのご

説明も受けておりますし、その内容にのっとって例を挙げてのさまざまな質疑応答等があっているところでございます。

ただ、それでも漏れるような場合もございますので、これにつきましては周辺の市町村の動向を踏まえながら、いろいろ聞いた上で判断をしているところもございます。かなり研修のほうにつきましては、法律が変わるたびに必ずやっているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　不利益を与えてしまった事実がある以上は、そこに課題があるわけですね。また、この課題というのが、私が考える課題はいろいろあるんですが、そもそも、じゃ、補助金とは何だろうというふうに考えたときに、私なりに調べて出した答えは、事業者のために国の施策目標というのがあります。目標を達成するためには、その目的に合った事業を事業者に広く、あるいはしっかりと取り組んでもらうことがとっても重要です。補助金というのは、その事業者に対して実施のために給付するお金のことだと私は認識しております。

重ねまして、地方公務員、もともと市の職員はどういった仕事なのか、原理・原則に返ったときに、地方公務員法３０条に「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当つては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。」とあります。

私が問題にしている窓口業務の不利益を与えてしまったという事例は、単純に言えば、電話をもう一本かけて、本当にこういった条件では補助金対象外にはなりませんかと、県の担当課に電話をしたら解決していた話なんですね。全力を尽くすことが地方公務員法３０条に明確に書かれてあるにもかかわらず、全力を尽くしていなかったから、そういったことを市民に対して説明をしちゃったんじゃないのか、結果、不利益を与えてしまったんじゃないのか。さらには、職員のその能力の差でこの補助金がもらえたりもらえなかったりすること、このことが課題なんじゃないかなというふうに思うんですね。この課題をどういうふうに乗り越えていこうと、その課題をどういうふうにやっていこうというふうに思われていますか、教えてください。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　平議員からは、補助金の窓口の対応に関して職員の能力をどう向上していくかということでございますけれども、補助金に関せず、今、スペ

シャリストを養成するというのが職員にとっては重要なことかなと。多様化する市民の皆さんのニーズに対応した多種多様な国の補助事業もあります。そういった面から見ますと、職員は日々ＯＪＴというのが一番の研修の中身かと思います。補助金に関しましても、いろんな面におきましても、研修の内容としましては、いわゆる机上でこういったことで研修するよりも、今言いましたＯＪＴ、現場で事例に取り組むことによって、研さんを深めて専門的な知識を習得していくということが一番のことかなと思っておるところでございます。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　今議会に提出されております菊池市定住自立圏形成方針の中の（３）「圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野」、Ｂ「職員の能力向上」、ア「職員の能力向上の取組」の①「取組内容」、「多様化する市民ニーズに的確に対応していくため、各種研修等を通して職員のスキルアップを図り、本市が抱える各種の課題解決ができる人材の育成に取り組む。」と明確にここでも書いてあります。

本当に多種多様で大変だと思うんです。でも、それは仕事ですから全力をもって対応していただいて、市民の幸せにつながる、ひいてはそれが市の発展に寄与するわけですから、対応していただきたいと思うんですが、今後はですね、本当にたくさんある補助金の中でも、補助金担当課という窓口を一つにする担当課や係をつくって、そこに農政だけじゃなく、農商工関係なく、全ての各部、課、係からの補助金情報を集約させた総合窓口をつくって管理するといったことはどうだろうかというふうに私は思っております。

保険の世界にもいろんな保険がありますから、それを紹介する保険の窓口というような業種もあります。気軽に誰でも、現在どんな補助金があるのか、もちろん市民だけじゃなくて職員同士でさえ情報交換ができて相談に乗れる部署をつくるというのは、これからの地方創生の他の自治体との競争に勝つだけじゃなくて、市民の幸せに直結するばかりか、市民の幸せを全力でお手伝いするという公務員の職務に完全に一致することになると思います。

今回、実際にご迷惑をかけてしまった市民の方がいらっしゃいます。しかし、このピンチをチャンスに変えるいいきっかけだと私は思います。市長、この補助金の窓口創設の考えはありませんか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　ただいまの質問について、私のほうから答弁をさせていた

だきます。

平議員のほうからは、各部局を横断的につながるような補助金に特化した担当の設置についてのお尋ねということでご理解しておりますけれども、補助金の情報については、先ほど申し上げましたとおり多岐にわたり、各部署に直接通知されております。また、通知される時期や条件が本市に該当するかどうか、あるいは事業に精通している担当部署でなくては到底把握できるものではございません。一括管理をするということにつきましては、かえって補助金の取りこぼしにつながるおそれがあるということでございます。

単に、平議員がおっしゃるように補助金の申請とか事務的な面だけを市民の方にお知らせするというか、ご指導、ご助言、ご支援をしていくということであれば、それは冊子、要綱等を見て、いつまでにこの書類を出してくださいというふうなことはできる可能性はございますけれども、先ほど申し上げますとおり、補助金はその事業の内容の専門的な知識を要するということで、スペシャリストがいないと、その部署その部署で補助金の担当がいないと到底できるものではないというふうに考えております。

したがって、このような事柄を踏まえますと、補助金専門部署の設置につきましては非常に実現性は難しいというふうに考えております。したがいまして、今後も補助金の的確な情報収集に努めるとともに、関係機関との連携を図りながら、職員一人一人が日々研さんに努め、市民の皆様の適切な対応に努めてまいることが解決方法だと考えております。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　私なりの提言だったんですが、私の感覚では各課にいろんな補助金の情報があるので、とりあえず今、私たちはこういう情報があるというのが一つのところに集まって、それを紹介する職員が１人いたら、いろんな人が聞いて、そこから先は専門部署につなげばいいと私は思っているんですね。

前回の議会でも言いましたが、市長の年頭の挨拶の中に、できない理由を探すんじゃなくて、できる理由を探してやんなさいと、そしてスピード感を持ってやりたいというふうに思っていらっしゃいますので、もうやれないやれないという答弁は本当がっかりして残念なんですけれども、先ほども言いましたが、地方創生にもかかわって、市民の幸せに直結することなので、できないできないと言わないで、ちょっとこうしたらできるんじゃないかというような前向きな意見をしっかり持っていただいて、ちょっと提言させていただきながら、次の質問に移っていきたいと思います。

続きましては、菊池市文化会館の利用についてお尋ねいたします。

この質問は本年度第１回の定例会の続きであります。

前回、Ｘ協会というふうにご紹介したら暫時休憩になりましたので、しっかりとお名前をお伝えしますが、菊池市文化協会の皆さんのご利用では、大・小ホールの使用料は半額免除、そして３つある練習室に至っては使用料無料、それが大きく関係していると思いますが、半年前から可能な予約は文化協会所属団体でほぼ埋まっております。

なお、市が主催するものは全額免除でありまして、要はその仕組みを知っている人、そしてそのように利用できる人たちだけが半額または無料で使用しているという現実があり、それは全市民に対して不公平があるんじゃないですかという質問に対しての答弁が、前回はちょっと調べてみないとわかりませんという答弁でございました。

あれから半年たちました。精査して今後の方針まで決められる十分な時間がたったと思いますが、調査結果は済みましたか。そして、その結果を踏まえ、全市民に対して不公平はありませんでしたか。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　この件につきましては、平成２７年第１回の定例会で平議員のご指摘を受けております。

教育委員会としましては、その後、平成２６年度の実績をもとに調査いたしております。その内容というものは、文化会館の利用、そして予約のあり方、それから使用料の減免等について調査を行ったところです。その内容につきましては、市民会館の条例並びに条例施行規則に基づき、適正な運営であったかということについても整理をしたものでございます。

ご指摘の文化協会等の利用について、不公平がなかったかということにつきましては、ただいま議員のほうからありましたように、６カ月前からの予約が既に入ってしまっているということから、ほかの利用団体さんがそこに申し込んできたときに自分が望むところが確保できないという事情は判明いたしておりますので、その件につきましては予約ができなかった人から見ると不公平に感じたということじゃなかろうかというふうに思います。

以上です。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　部長、私が聞きたいのは、単に予約ができなかったら不公平が

あるんじゃないかではなくて、文化協会の方は練習室が無料で使えるから半年前から全部押さえちゃう。だから、ほかの方が利用できないんですよという、そこに不公平はありませんかと言っているんですよ。そこの根拠が違いますよ。ただ、できなかったから不公平があるかどうかじゃなくて、そこを不公平と感じているかどうかです。そこを教えてください。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　文化協会の方は練習室を使うのに無料であったということなんですけれども、これは減免・免除の規定というのが条例施行規則にありまして、その第８条第４号の規定に基づいてやっている免除がございます。

その内容といいますのは、「公益上特に必要があると市長が認めるときは、使用料を減額し、又は免除することができる。」という条項を使って、結果的に減免・免除をしておったということでございますので、議員がおっしゃるとおり、ただだからどんどん使っているというご指摘もあろうかと思いますけれども、適切な減免・免除の中で予約をされとったというふうにこちらでは捉えております。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　私も今、菊池市民会館条例施行規則の（４）のところですね、「前３号に掲げる場合のほか、公益上特に必要があると市長が認めるときは、使用料を減額し、又は免除することができる。」と、これが練習室を無料で使えるという根拠だというふうに言われますが、僕は全く反対の意見ですね。どこがこの条項の「特に必要があると市長が認めるときには」というところに該当するんでしょうか。市民が使いたい、同じ市民ですよ、何かイベントをされるときに半額というんだったらまだわからんとは言いませんが、日々、毎日使われている練習室をその団体の方が全部ただで使っちゃうというのは、これは市長が必要と本当に認めていますか。私はそう思わないですね。

ぜひここは見直してほしいと思うんですけど、その見直しの方法もですね、今後なんですけど、現在、同様の施設を本市と同じようにふ指定管理者制度で運営されている自治体で、それぞれの文化協会への減免がないところとういのがございまして、それが熊本県立劇場、玉名文化会館、ウイングまつばせ、小川ラポート、美里町文化交流センター、上天草市松島総合センター、宇土市民会館、荒尾総合文化センター、八代ハーモニーホールの９施設であります。

そして、本市では市の主催となっており、全額無料で行われている文化祭も、県劇、玉名、まつばせ、小川、美里の５施設では一切の減免はありません。

前回、文化祭について教育委員会の主催であるにもかかわらず、担当課の職員は一切打ち合わせに来ず、文化協会の事務局をされている教育委員会ではないほかの課の職員とか文化協会の方だけで打ち合わせされているのが実情であって、全額無料なのはおかしいのではないですかという質問に対しても、これも問題ないという答弁でした。

繰り返しますが、私は文化協会の方が悪いと言っているんじゃなくて、市民への公平性が保てないのは問題だというふうに認識しております。そのためには、市の主催であってもお金を払う、それは全ての市民に対して公平性を保つための唯一の方法だと思うんですね。今後どういった形でこの公平性を担保されていきますか、教えてください。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　先ほどご説明しましたとおり、調査の結果としまして、１つは利用のあり方、これは会館の利用申請につきましては６カ月前から、さっき議員からもありまして、先着順となっておりますので、このあり方につきまして利用者の全ての皆様に公平であったのかというのが課題ということに捉えております。

なおかつ、減免につきましても、先ほど私ご紹介いたしましたけれども、この「公益上特に必要があると市長が認めるとき」と、この解釈につきましても若干課題として捉えております。以上の２点。

それから、先ほどまたご指摘もございました文化祭のあり方でございますけれども、これも先般のときにも私、答弁しましたとおり教育委員会の主催ということになっておりまして、文化協会と２つの名前が載っております。したがいまして、この減免の１号に市が入っておることによって、いろいろな減免とか免除の対象にもなり得たのだろうというふうには思っております。しかしながら、ただいま他自治体の例もご紹介ございました。うちのほうでもちょっと調査をいたしております。そこから見ますと、それも一つの課題として捉えなければならないというふうに思っております。

したがいまして、この課題につきましては、予約方法の見直しですとか、それから６カ月前というのは漠然としておりますので、日にちを指定して、この日から受け付けできますよということを広く利用者の方にお知らせをして、誰もがそこに同じ条件で申し込むことができるということをやらなければいけないんじゃないかなというふうに考えております。

それから、施設使用料の減免につきましてですが、これは基本的に公平公正な受益者負担の観点というのが原則でございますので、条例並びに施行規則、このあた

りを再度徹底して対策してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　払わねばならなかった分、本当は一般市民の方であったら普通かかっていたお金というのは、その事業費ですね、委託している管理費なんかと勘案すればいいですし、そのほかの団体にもいろいろ新しい知恵が生まれると思うんですね。支える方法というのは今のあり方だけではないと思いますので、そういったところでいろいろまだ考えるべき余地はあるんじゃないかなというふうに私は思っております。

そもそも私は個人的に、文化というのはただでは育たないと思っております。ただで使えるからどんどん育つなんてことは絶対ないと思っています。それは、場所代に始まって、必要な道具とか、例えば、音楽であれば楽器にお金がかかるというのは、これはもう必要、当たり前のことなんですね。

これは少しずれますけれども、子どもの医療費と一緒で、一部免除とか無料にすると確かにありがたいです。でも、それになれてくると、無料が当たり前とか半額免除が当たり前というふうになること自体に大きな疑問を持ちます。払わなくて済んだ、それで終わりじゃなくて、払わなくて済んだ分は誰かが払うんですね。それは、それを利用していない人たちであったりとか、現在とか、そしてこれからの未来の子どもたちが払っていくことになります。利用した人がちゃんとその分のお金を払えば、払わなきゃならなかったお金を子どもたちに払わせることはないわけですから、しっかりと今後も文化の育成とは、本当はどういったことだろうと、本当にお金を免除してあげることが文化の育成につながるかどうかというのをしっかり考えていただいて、公平な対応をいただきたいなというふうに提言しながら、次の質問に移りたいと思います。

続いては、市内の中学校についてお尋ねをいたします。

平成２３年６月に、当時の隈府小学校ＰＴＡ会長から隈府小学校の児童を同一の中学校へという請願書が提出され、全員一致で採択となりました。その後、平成２４年３月には１，０００名を超える要望書が上がり、それを受けて菊池市教育委員会より諮問を受けた学校規模適正化審議会が立ち上がって、平成２６年３月２７日から平成２７年１月１１日の全６回の会議を経て、「隈府小学校児童に係る中学校通学区域は、菊池南中学校とする。」との答申書が提出されました。

私はその審議会を数回傍聴いたしましたが、とても慎重な議論が重ねられておりました。その後、答申を受けた教育委員会内でも議論が重ねられたことと思います。

そして、今回、隈府小学校児童に係る中学校通学区域の適正化方針についての正式決定、審議会答申書には３つの附帯意見がありました。その中でも、特に今後、北中生徒が減少することにより北中の将来に不安を抱く保護者もいるので、校区への定住化の促進も含めてその不安を取り除けるような対策を菊池市全体で考えていくことという２つ目の意見に注目をしていました。

そこでお尋ねをいたします。教育委員会の協議の中で、北中の今後についてどのような意見や協議がありましたか。

もう１点、北中の１０年後、２０年後の生徒数をどれくらいと見込んでいますか、教えてください。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　方針を決定する際に、教育委員会会議で協議検討いたしました。その内容についてご報告させていただきます。

教育委員会議では、現在、兄姉、お兄さん、お姉さんが北中学校に通学している家庭においては、その弟さん、妹さんが菊池北中学校へ入学を希望する場合は申請により菊池北中学校へ入学できる緩和措置についてという意見がございました。

これは、この方針の施行日を来年の４月１日というふうにしておりますので、この方針に従いますと来年の４月１日から現在の隈府小の６年生は菊池南中学校に行きますよという条件設定のもとでの緩和ということになります。

それからもう１つは、北中学校の生徒数の減少、先ほどご指摘ございましたけれども、これに対する保護者の、それから地域の皆様方の不安というのもございましょうから、この解消をどのようにするのかというようなご意見というのも出ております。

それから、２点目の菊池北中学校の今後の生徒数の見込みでございますけれども、１０年後は１年生が５０人程度、２年生が約４０人、それから３年生が約５０人。ですから、１３０人から１４０人程度の生徒数ということが見込まれます。これは通学区域内の生徒が全員入学した場合の人数ということになりますので、現状では私立の中学校に入学する生徒もいるということから、こういうことを考えますと、より減少することも考えられます。

さらに、２０年後の生徒につきましては、この１０年後の人数よりもさらに減少するんじゃなかろうかというふうに思っております。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　やっぱり審議会の中でも、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいるとこ

ろはどうなのというような、もちろん当然の中であったんですけれども、１０年後は１３０人から１４０人程度をおおよそ見込んでいて、これよりも少なくなっちゃうだろうというようなことであると。２０年後に至っては、もう言わずもがなで、もうちょっと減るよということですね。

そもそも北中の見込み数というのがどんどんやっぱり減っていく、全体的に減っていっているんですけれども、ここにその当時の議員もいらっしゃるので、その議員にも後ほど聞こうとは思うんですが、新しく去年から議員になった私があえて質問させていただきますが、菊池北中学校は菊池にある中学校の中で建物が一番新しいんですよ。市民はこのまま隈府小学校の子どもたちが全部南中に行って、北中が今後なくなっちゃうんじゃないのというふうな不安、プラス、あんなに新しい校舎なのにって誰でも思うと思うんですね。

１１年前に北中の校舎が新しく建てられたときに、執行部サイドでは、北中の生徒がこのまま減少していくんじゃないだろうかといったような議論はありましたか。もしあったならば、どういった協議があったかというのを少し教えていただけないでしょうか。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　現在の菊池北中学校の校舎は、平成１５年度に建設をされておるところでございます。その時点におきましては、もちろん当時の生徒さん、それからＰＴＡ、こういう方々の協力が不可欠で理解を得なければならないということで、検討委員会たるものを設けて検討されておると思います。

その中では当然、人にやさしいというものを基本としたユニバーサルデザインを基本に、学校側の強い要望と、教科ごとに教室を移動する教科教室方式というもので校舎の形が大体決められたということですから、当然、生徒数の予測につきましても、平成１５年度の中学３年生の生徒数が１２２名、１１年後の平成２６年度は中学３年生の生徒数を約８４名、３クラス、全体で９クラスというふうなことで試算をされておりますので、現状のように減るということは、ちょっとそのときでの試算では出ていなかったのじゃなかろうかというふうに思います。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　その当時の試算ではこんなに減るはずじゃなかったというような考えのもとに立てられたと。それはそれでいいと思うんですね、そういった協議を重ねた上での結果であれば。ただ、そこから見えてくるのは、そんなに減らないだろうと言っていた当時から考えてまだ減っている。これからもっと減るとわかっ

ていて南中に隈府小学校の子どもたちをやるということは、北中よりも上に住んでいらっしゃる保護者の方からすると切り捨てられたんじゃないかというふうにとられると思うんですよ、もう北中はなくなるんじゃないかって。そのために審議会の方々が一番心を砕かれていたのが附帯意見の２ですね、定住化を進めるように、北中の生徒が減らないようにやってねって。それを附帯意見としてつけるから、子どもたちの思いもあるから南中に通わせてあげてねという答申だったと思うんですね。

どうやれば北中の生徒が今からふえていくのかということだと思うんですけど、私なりにどうすればというふうに思うと、単純に家を建てたらいいのかといったら、そうでもないんじゃないかというふうに思うと、北中で私が見せていただいた中で一番特徴的なのは、やっぱり給食が自校式であるということ。自分の学校でまだ給食をつくっているということ。あと１つは、ランチルームがあるということですね。普通は教室で食べるんですけど、北中の場合はランチルームという大きなところに行って、みんなで一遍に給食を食べることができるすばらしい取り組みをされております。

ここだと思うんですよ。この給食、市長も言っておられますが、今こそこの菊池北中のランチルーム、自校式といったこのキーワード、そしてさらに、今先ほど市長の言葉にもありましたけど、インバウンド、外から中へ入り込んでいくという、地域おこし協力隊の方で適任の方もいらっしゃいます。それと、市長がもともと言われている日本一の給食というのを北中でつくり上げていくという、これが北中の生徒をふやしていく一つのいい手だてになるんじゃないかと私は考えておりますが、そういったことを含めて、今後その２つ目の附帯意見、北中区域の生徒をふやしていくというようなものを、どういったことを考えているのか、教えてください。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　附帯意見の中での北中の人口の増加といいますか、その方策についてでございますけれども、市では平成２７年の４月１日より、ご案内のとおり移住・定住の総合窓口としまして、企画振興課内に集落・定住支援室を創設しております。これは、恵まれた自然環境を初めとした資源を活用して、空き家・空き地の活用や住宅整備、子育て支援、就労支援など定住化促進に向けた取り組みを進めるとしております。

また、地域づくりのお手伝い人として地域おこし協力隊を採用しておりまして、そのうち２名が、現在、旧龍門小学校に設置しました集落・定住支援センターを拠点として、市を挙げて取り組んでいるところでございます。

もう１つありました北中の自校式給食のランチルーム、これは私も拝見しました

けれども、全校生徒がそこに一堂に会して、先生ももちろんですけれども、楽しく給食を食べておるということでございます。この辺は、議員からもご指摘がございましたとおり、よそにはない非常に恵まれた環境でもありますので、その辺をＰＲしながら、教育委員会のほうでも考えていきたいと。なおかつ、この学校給食につきましては、地元の食材等を生かしながら食育の推進も図っていかなければならないというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　いい答弁ありがとうございます。

先ほども言いましたけれども、見込みよりもどんどん子どもが減っていくというところは事実として受けとめて考えていった場合に、もし北中が１０年後にもう運用できないとか、できないというふうになった場合には、考えられるのが統廃合が進んで、じゃ、新しい校舎が余っちゃうよねというふうになると思うんですけれども、今現在、もしなくなってしまったらというふうなものを前提として、北中の跡地利用なんていう考えは今ありますか。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　北中の校舎、あれだけ立派な校舎でございますので、教育委員会としましては、現状のまま、生徒たちの学舎としてやっぱり生かしていくことが一番だろうと思っておりますので、今ご質問のことはまだ、今のところ検討いたしておりません。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　安心しました。私も北中出身ですので、もう是が非でも北中は残していただきたい。それはやっぱり、前回、小学校が統廃合になって、小学校がなくなる、学校がなくなるというその衝撃というか、地域からなくなると、こうも寂しくなるものかというのを目の当たりにしたからこそ、やっぱりちょっと厳しい言葉も交えながら、どうにかやっていっていただきたいというのがあるからですね。

それと、北中、北中と言っておりますけれども、これをきっかけに各中学校、全ての中学校の校長先生にお会いしていろんなお話を聞いてきました。すると、見えてきたことが、やっぱり菊池市全体として人口が減っている。まあ日本全国ですからしようがないのかなというふうには思うんですけれども。中期的なプランとか、長期的なプランというのも同時に考えていっていただきたいのかなというふうに思

うんですけれども。実際に子どもがふえているのは泗水中だけです。現状、泗水中だけでふえていっているという中で、旭志も七城も１クラスで大変なんだというような校長先生からのお言葉をいただきました。

各中学校の校長先生に同じ質問をしてみたんですけれども、中学校を運営していくのに最低でも何クラス必要だと思いますかというような質問に対して、各校長先生は、少なくとも２クラス、多いところで４クラスは必要だと。それはなぜですかと。適正な競争環境がそこに必要だと思うからですと。１クラスしかなかったら、なかなか競争環境が整わないからですねと。部活もなかなか成り立ちませんというお答えでした。

私なりにいろいろ調べさせていただいて、中期的には小中一貫校というものがあります。これは県にも確認しましたが、国も県もこの小中一貫校というものを進める立場であるということでございます。ただ、国が進める小中一貫校の思いと、我々地方に住む田舎の地域の小中一貫校が進める思いというのは少しずれがあって、中央で考えている小中一貫校というのは、小中一貫、９年間の長きにわたって学力アップなどが見込めるんだって。ただ、田舎の場合は子どもたちがいないから成立しなくなってきたから、しようがなく小学校と中学校を一緒にしなきゃいけないというふうな背景が違うというところがあると思うんですね。

全てメリット、デメリットがあると思いますが、長期的に、北中と南中を一遍にしたほうがいいんじゃないかとか、新しく菊池中学校と大きなものをどんと建てて、もう分けないで１つの中学校にやるとか、旭志中と七城中も含めて、泗水中は伸びていますので、旭志中、七城中も含めて、全体的な中学校として今後どういうふうに考えていらっしゃるのか、ちょっとお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育長、原田和幸君。

［登壇］

○教育長（原田和幸君）　ただいまの議員のご質問のお答えになるかどうかわかりませんですけれども、まず一番最初の隈府小の子どもたちが南中へみんな行くとなったことについて、ちょうど私、隈府小の校長時代でしたので、やっぱり小学校段階で６年間一緒に学んで、それが北中と南中に分かれていくという、それがやっぱりとてもきついという子どもたちの声がたくさんあったというのは事実です。

それで、審議会におきましても、やっぱり最終的には子どもたちの思いを一番大切にしたいということで、苦渋の決断として南中にというふうになったわけです。ですから、北中のほうが非常に少なくなったという、非常に申しわけないという思いもあります。

まず、小中一貫につきましてですけれども、やっぱり中学校１年に上がったときに、なじめずに不登校になったりというような中１ギャップとかがございますので、そういったものの解消あたりにおいてはメリットがあるんじゃないかというふうに思いますが、まず先進地の事例等を情報収集しながら、導入した場合のメリット、デメリットあたりを明らかにして、そして慎重に検討していきたいというふうに考えております。

また、中学校の統合につきましては、３年前に龍門小、迫水小、水源小、河原小も含めてですけれども、統合して閉校になったわけですね。そういうときに、閉校してまだ３年しかたっていない、そういう中で、やっぱり保護者の皆さんや子どもたちの心情を察しますと、安易にやがて統合に向けていくでしょうなんていうことは軽々しく言えることじゃないというふうに思います。

まずは、菊池北中校区への定住化の促進、それには先ほど議員おっしゃいました給食を売りにするあたりも参考とさせていただきながら定住化の促進に努め、そして、学年２クラスを維持できるようにしていきたいというふうに思いますし、北中だけじゃなくて、議員おっしゃったように市内の小・中学校の児童・生徒数が非常に減少しているというのも事実でございます。今後、教育委員会としまして、市内の小・中学校の将来のあり方については、子どもたちの幸せというのを一番に考えて、しっかり検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　平直樹君。

［登壇］

○１番（平　直樹君）　私もやっぱり、先ほど言いましたけれども、中学校、小学校がなくなるというのを別に推進しているわけではなくて、絶対残していかないかんと思うとですよ。ただ、現実として、政治として、そういった場合も考えて対策を練っていかなければ、さあ、来年、再来年ですよというふうになったときに、もうそれでは遅いから、そういったことも考えたくないんだけれども、対策として考えられておかなければならないのがお仕事の一つなのかなというふうに思っております。ぜひ北中、南中、菊池の中学校全部が子どもたちがふえていきますように、これこそ各課横断になっていくと思うんですね。子どもは地域の宝でございますから、しっかりと育てていけるようなすばらしい環境をつくっていただきたいと提言しまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　以上で本日の一般質問は終わりたいと思います。

あすも引き続き一般質問を行います。

本日はこれで散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――――― ○ ―――――――――――――――――――――――

散会　午後２時５３分

第　３　号

９月９日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

平成２７年９月９日（水曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん
７番	松　岡	譲　君
８番	荒　木	崇　之　君
９番	柁　原	賢　一　君
１０番	工　藤	圭一郎　君
１１番	城	典　臣　君
１２番	大　賀	慶　一　君
１３番	岡　﨑	俊　裕　君
１４番	水　上	彰　澄　君
１５番	泉　田	栄一朗　君
１６番	森	清　孝　君
１７番	樋　口	正　博　君
１８番	木　下	雄　二　君
１９番	山　瀬	義　也　君
２０番	境	和　則　君

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江頭　実君
副市長	木村利昭君
政策企画部長	小川秀臣君
総務部長	馬場一也君
市民環境部長	倉原良則君
健康福祉部長	木原雄二君
経済部長	松野浩一君
建設部長	櫨川博久君
七城総合支所長	楳田邦昭君
旭志総合支所長	水上満弘君
泗水総合支所長	上田譲二君
財政課長	中村喜範君
選挙管理委員会委員長	中村道夫君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳永孝博君
市長公室長	上田俊介君
教育長	原田和幸君
教育部長	松岡千利君
農業委員会事務局長	原　和徳君
水道局長	藤本辰広君
監査事務局長	松永隆則君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　主一君
事務局課長	徳永裕治君
議会係長	松原憲一君
議会係	安武則貴君

○議長（森　清孝君）　全員ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（森　清孝君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（森　清孝君）　日程第１、一般質問を行います。

初めに、岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　おはようございます。議席番号１３番、岡﨑俊裕でございます。議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行います。

その前に、１６年ぶりに上陸をしました台風１５号により、家屋を初め農業用施設等への被災または農産物等についても甚大な被害が出ておりますので、市民の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

ちょうど２４年ほど前になりますかね、１９９１年の９月に、電柱が軒並み倒れ、瓦が舞い、屋根が飛び、家屋や農産物等に甚大な被害をもたらしました台風１９号というのが来ております。そのことを今回の台風で思い出したわけですけれども、当時、電気も何も消えた庁内で、市民から届く緊急事態への対応あるいは被災状況の把握、応急処置の依頼、復旧への対応などなどに奔走した日のことを思い出したわけでございます。今回の台風で被災をされました市民の一日も早い復旧・復興を願うものであります。

今回、３点について通告をいたしております。

１点目が社会資本としての上水道、下水道事業の整備について、このことは昨年の９月議会でお尋ねをしておりますので、ちょうど１年がたっておりますので、今回、改めてお尋ねをします。

２点目に、現在進捗中であります新庁舎等の整備について、３点目に、菊池渓谷について、このことについても、昨年の９月にお尋ねをしたところでありますので、その後の状況についてお尋ねをします。

初めに、市民にとって一番身近で毎日の生活に欠くことのできない社会資本であります飲料水としての上水道整備と、それぞれの家庭の下水処理に関する下水道関

係の処理についてお尋ねをいたします。

先ほども申しましたように、昨年の９月にお尋ねをしておりますので、そのことを踏まえまして、今日まで何か変化はあったのか、なかったのかについてお尋ねをします。

１点目の上水道の整備についてでありますけれども、いまだに上水道、簡易水道等が整備されていない地域の皆さんから、上水道の整備等について要望はあっていませんか。また、これまでにアンケート調査等の実施は過去にされたことはありますか。あれば、その結果をお示しください。

２点目に下水道の整備についてでありますが、市が公共下水道事業処理区域等と定めている区域外の市民の皆さんから、接続についての要望はあっていませんか。また、これまでにアンケート調査等の実施は過去にしてありますか。あれば、その結果をお示しください。また、下水道処理施設事業関連について、先般、各地域の説明会が実施をされています。どういった意見、質問等が市民から出たのかもあわせてお示しをください。

以上、１回目の質問とします。

○議長（森　清孝君）　水道局長、藤本辰広君。

［登壇］

○水道局長（藤本辰広君）　おはようございます。それでは、上水道の整備状況につきまして、私のほうから答弁させていただきます。

未整備地域からの要望については、地区単位など大きな枠での要望はあっておりませんが、個別的には伺っております。

昨年９月に答弁いたしましたように、水道事業は地方公営企業法に基づき、水道使用者の皆様が支払う水道料金によって賄われるという独立採算性で運営されております。また、安全で良質な水道水を安定的に供給するという水道事業の基本使命を果たしていくことに加えまして、企業としての経済性を発揮する必要がございます。そのためにも、経費の削減や財源の確保など持続的な経営安定に向けて効率的な運営に努める必要がございます。新たな地域に水道水を供給するためには国の認可が必要になり、そのためには、要望されます住民の皆様の多くの方の加入と同意が必要になってくると考えます。

以上のようなことから、未整備地域への住民アンケートを実施し、多様化する要望に対して意見を聴取しながら事業を進めているところでございます。

直近のアンケート結果を申し上げますと、昨年１２月に、菊池地区の未整備地域と七城地区を対象に、利用している生活用水の水源、その水源についての安全性、また、市営水道事業の必要性や加入に関する項目など１０項目について伺いました。

アンケートを配布した２，６３４件のうち約４８％の１，２７６件から回答を得ました。

その主な結果は、１点目に、現在利用している生活用水の水源でございますが、個人の井戸を利用している家庭が一番多く、約６６％でした。２点目に、現在利用している飲用水について不安があるかという質問に対しては、約１６％が不安、またはどちらかといえば不安との回答でした。３点目に、市営水道事業が必要であるかとの質問に対し、必要または早急に必要であるという回答は約３０％でしたが、整備された場合に利用するかという質問に対しては、約２３％が利用するとの回答でした。

先ほども申し上げましたように、水道事業は独立採算で運営されておりますので、要望されます地域の皆様の大多数の加入と同意が必要になると思います。今後とも、水道事業へのご理解とご協力を得るため、定期的にアンケートを実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　おはようございます。お尋ねにつきまして、ご説明いたします。

旧菊池市の下水道事業は、住民の生活環境改善と河川等の公共用水域の水質汚濁防止を目的としまして、国土交通省所管の公共下水道事業と総務省所管の小規模集合排水処理事業、環境省所管の浄化槽市町村整備推進事業により整備を進めてきているところでございます。

これまでに下水道区域の変更についての要望があっていないかとのご質問でございますが、下水道区域外からの個別でのお尋ねはありましたものの、具体的な区域変更の要望はあっておりませんで、本市の汚水処理計画に沿って事業を実施しているところでございます。

それから、説明会をずっと続けてまいりましたけれども、その中で出た意見は何かありましたかということでしたが、まず、その制度についての浄化槽設置型、これの少人数の家庭における料金の割高感があるということで、それについてのお尋ねがありました。それから、今後の料金改定ですね、これがどういうふうな計画がなされているかというようなご質問が幾つか出ていたところでございます。これは前回の議会で答弁しましたように、きちんとした将来像を踏まえた上でのシミュレーションをつくって、それから、きちんとした料金体系のほうへ進んでいきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　再質問を行います。

さきの台風１５号の影響によって多くの市民が何らかの被害を受けておりますけれども、その中には、上水道整備供給の区域外または下水道整備処理等の区域外があります。水は井戸水がほとんどでありますし、トイレは先ほどもおっしゃっていましたような個別の浄化槽設置となっている地域家庭が市内にはたくさんあるわけです。

先般の台風で停電があり、電気はだめ、もちろん井戸水をくみ上げるポンプも電気がないためにだめ。水は全く使用できない状況下にあったわけであります。

何に一番困られたと思いますか。停電で水が出ないことによってトイレが使用できなかったということがありました。どぎゃんかしてはいよ。これが市民の声です、当時の。つい先般でございます。

昨年の９月の答弁では、菊池市全域での水道普及率は、平成２４年度現在で平均８０．９％との答弁でありました。この数字がよいか悪いかの判断は私にはできませんけれども、この数字は上水道事業、簡易水道事業の認可区域における事業実施後の値であると思うわけですけれども、どうでしょうか。

上水道施設整備にしろ下水道施設整備にしろ、現在の認可区域以外の区域の整備について、先ほど答弁もいただきましたけれども、市民の声に市はどう対応していただけるか。水道については、アンケート調査、「不安だ」で１６％というふうな答えであったろうと思いますけれども、必要が３０％、そのうち加入は２３％利用するということでありました。

先般の下水道の説明会では、料金改定の質問はあったということでありまして、区域変更の要望はなかったということでありますので、個別浄化槽の設置で満足されているのかということですね。それが本当に市民の声かということであります。

ただ、先ほども言いましたように、停電が起これば井戸が出ない、トイレも使えないというのが状況下にあるわけですので、そういう点も含めて２回目の質問といたしますけれども、どうお考えなのかをお示しいただければと思っております。

○議長（森　清孝君）　水道局長、藤本辰広君。

［登壇］

○水道局長（藤本辰広君）　災害時など要請があった場合には、地域や校区単位で給水場所を定め、給水タンクや給水車などを利用し対応してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　今お尋ねの下水道処理についてのお話でございます。

区域がそれぞれの方式に従って決められているわけでございますけれども、皆さん納得しているかということでございますが、それぞれの方式で、旧菊池市の場合は公共下水道が設置されております。結果からいいますと、料金も含めて一番合理的なやり方であるということで、皆さんそれが望まれていることだというふうに考えております。

ただ、平成２６年第３回定例会の一般質問でお答えしておりますけれども、生活排水の処理方式につきましては、下水道のような集合型の処理方式、それから、合併処理浄化槽のような個別処理に大きく分けられております。汚水処理に対する経済性の判断基準につきましては、国土交通省、農林水産省、環境省の３省協定によります共通の経済指標が提示されており、区域決定の基本となっております。

そのために、集合型の処理方式による処理区域は必ず３省協定による共通の経済指標で評価され、有利となった区域のみが対象となるという仕組みになっております。おおむね集合型の処理方式では人口密度が高い地区において経済的に有利であり、人口密度が低い地域においては合併浄化槽などの個別処理のほうが有利となっております。

現在の事業区域につきましては、平成１３年度に菊池市地域排水基本構想を策定し、公共下水道による整備区域を定め事業を進めておるところでございます。大幅な計画区域の見直しは今のところ難しく、予定していないところでございます。

先ほどもありましたように、市民の方が平等に下水処理についての恩恵を受けるという形をとらなければならないと考えておるわけでございますけれども、先ほどから言っていますように、経済性の問題だとか、いかに有効に投資を市民に還元するかというところが一番のネックになりまして、問題となっております。その辺を考えますと、今のやり方が精一杯の制度ではないかというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　再々質問を行います。

今、それぞれに現在の事業の推進についてはベストであると、市民にとって一番いい方法でしているということであります。

上水道施設整備にしろ下水道の整備にしろ、先ほども答弁がありましたように、それぞれの国の所管省庁があるので、その同意が必要であると。認可区域としての認可を受けていないと処理できないということであります。市民はそういうことはほとんど認知していないと、知らない人が多いんじゃないかと思います。これは行政内部の事業するときのそういう段取り、そういう許可・認可を受けなければ、その区域内での処理はできないということであろうと思います。その認可区域以外の地域の整備については、やはり市が何らかの施策を立てて取り組まなければ、当然その処理区域内には入ってこないというのだろうと思いますね。そういう仕組みになっているということをご答弁いただいているというふうに思っております。三省合意、水道の場合は独立採算性ですので、その独立採算性に合ったやり方をしていかなければ、企業として成り立っていかないということでありましょう。

そのことを踏まえまして、市長にお尋ねをしますけれども、菊池市は名水百選の湧水源を初め、多くの自然の恵み、恩恵を受けていることはご承知のとおりであります。上水道施設の整備が十分できていない地域があること、また、公共下水道事業処理区域、あるいは特定環境保全公共下水道事業の処理区域、農業集落排水事業処理区域以外の区域について、現在、市町村設置型の合併処理浄化槽でなっているわけです。このことについては、果たして市民平等、公平公正な行政サービスの享受からして、今後どのように対応されていくのかをお示しいただければと思っております。

さきの下水道関係の処理概要の説明会で、一般会計からの繰入金についても多額の繰り入れをされていることは市民に配られておりますので、ご承知のとおりだろうと思いますので、そういう採算性の問題もありますし、これを一般会計から繰り入れていなければ特会の事業が成り立っていないというのが現実だろうと思います。そういうことを含めまして、市長のお考えをお示しいただければと思います。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆様改めましておはようございます。今、岡﨑議員からのご質問は、上下水道両方ということでよろしゅうございますね。についての考え方ということでございます。

まず上水道のほうでございますけれども、市民の日々の暮らしの中で、水道というのは日常生活に不可欠であるのはもちろんですけれども、生命維持にかかわる根源的な生活インフラでありますので、水道事業というのは大変重大な責務を担っているというふうに認識しております。安全な水を市民の皆様に安定的に届けるということが重要な使命でございますけれども、そのためには、適切な投資というのも

不可欠でございますので、多額の費用が必要になるところでございます。

新たな地域から上水道の整備について要望があった場合には、関係住民の合意形成が必要不可欠でございまして、これは国の認可基準もそういうことになっておるわけでございます。ですから、逆にこれさえ整えば平等に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、下水道のほうでございますけれども、汚水処理事業も大変重要な生活インフラの１つでございます。公共下水道区域の見直しにつきましては、市民サービスの向上と、それから、先ほどから出ています経済性の両方のバランスをとりながら考えていかなければなりませんので、部長が今答弁しましたとおり、大幅な見直しというのは少し難しいというふうに考えております。

ただ、少しでも今の料金の差を縮めたいという努力を続けておりまして、現在、市町村設置型の合併浄化槽の使用料金につきましては、特に個人負担が大きいと思われます少人数世帯の負担を緩和したいということで、お住まいの人数により使用料を課金しています人頭制の見直しを今、検討しているところでございます。あわせて、個人管理の合併浄化槽も、適正に管理されているということが前提ではございますけれども、本市で維持管理をするように切りかえのための寄附採納についても検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　次の質問に入ります。

通告の２点目でございます。新庁舎等の整備について。

新庁舎等の整備につきましてお尋ねをしますけれども、１点目に、菊池市の新庁舎建設については、これまで基本構想、基本計画、パブリックコメントなど、さまざまな意見、提言等を踏まえた計画、検討段階から基本設計、実施設計、入札等を経てようやく目に見える形で現在、本庁舎の建設のための解体工事が現在、進められているところであります。

そこでお尋ねをしますけれども、当初の計画どおりに進んでいますか。現在の進捗状況についてお示しをいただきたいと思います。

２点目には、本庁舎の解体処分に当たっては、ご承知のように、今解体が行われておる中で、非常な騒音、振動、それから、解体時のほこり等があっておりますし予測されますが、周辺地域にお住まいの皆様には、新本庁舎建設に伴う事業計画等について納得のいく十分な説明責任を果たされたかお示しください。こちらから説明に出向いたのか、向こうから要望があったのかもお示しいただければと思います。

３点目に、新庁舎の建設に当たっては、これまでに菊池広報等を通じまして市民への周知がなされ、当議会、区長さん等にも十分な説明を尽くされたと思いますけれども、市民の声として、庁舎に用務で来られた方々が、どこさん行かにゃんかわからん、駐車場も狭うなってしもうたなどの声があります。果たして周辺を含めますと、この市役所以外にも菊池市の土地改良区や菊池市社会福祉協議会、水道局、菊池市商工会、中央公民館、農協などもあります。その際、来訪される市民の方も利用されるのではないかというふうに思いますけれども、また、これから新庁舎の建設工事が控えております。駐車場の確保は十分できていると認識されていますか。お尋ねをします。

１回目の質問とします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　おはようございます。庁舎整備に関するご質問でございます。

まず、１点目の本庁舎整備の進捗状況についてでございますが、本年３月に完了いたしました庁舎等整備設計業務の実施設計に基づき、本庁舎平屋部分の減築、解体工事でございますけれども、現在取り組んでいるところでございます。工事期間は１０月９日までを予定しているところでございます。

解体に当たりましては、何よりも安全を最優先し、解体部分に囲いを設けております。また、ご指摘がありました騒音やほこり等につきましては、防音パネルの設置や、ほこりが飛散しないよう散水を行うなどの対策を講じて施工をしているところでございます。

今後の予定としましては、入札が済み、落札者が決定しましたので、現在、今定例会に追加議案として契約の締結に向けた事務を含めまして、鋭意進めているところでございます。これまでのところ、計画しております工程に沿って順調に進捗しているものと考えているところでございます。

２点目の地域住民の方への説明についてでございますけれども、昨年１１月に文化会館におきまして本庁舎、生涯学習センター建設地の周辺の５地区の住民の方を対象にしまして、関係します教育委員会と合同で住民説明会を開催したところでございます。

この説明会におきましては、施設の位置、施設の階層及び構造、工事のスケジュール等といいました工事の内容について説明を行ったところでございます。また、現在施工しています解体工事に入る前には、関係区長さんへ工事着工のお知らせと工事期間中のご協力のお願い、本庁舎近隣住民の皆様に対しては、内容を回覧

し、さらに業者による解体工事の通知を配布し、解体工事期間、連絡先等の周知を行ったところでございます。そのほか、市のホームページ上に情報を掲載し、住民の皆様へお知らせをしたところでございます。現在までのところでは、工事に関する苦情はあっていない状況でございます。

３点目の駐車場の確保についてですが、解体工事を行うために本庁舎平屋部分に囲いを設けたことによりまして、来庁者用駐車場が減っております。そのため、本庁舎周辺に駐車しておりました公用車及び職員の駐車場所を本庁舎から離れた場所に確保いたしまして、来庁者用の駐車スペースを本庁舎周辺に工事前と変わらない台数を確保できているという状況でございます。また、解体工事関係者の駐車場につきましては、工事の囲いの中に対応させております。駐車場所が変更されるなど、工事期間中は市役所へお越しの皆様には大変ご不便をおかけすることになりますけれども、今後ともご理解とご協力のほどをよろしくお願いしたいと思っているところでございます。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　進捗状況については、現在の工事が１０月９日までで解体が終了するということでありますし、新たな追加議案として提案の予定であるというようなことであります。説明会についても、地域住民を含めたところで文化会館で総合的に開催をされているということでありますので、これは教育委員会も同時ということは生涯学習センターも含めた説明会であったろうというふうに思います。今後とも市民の皆さん方に納得いく説明責任を果していただいて、なるだけ苦情等が入らないように進めていただければというふうに思います。

次の質問に移ります。

通告をしております３点目、菊池渓谷についてであります。

このことについても、昨年の９月に質問をいたしておりますので、同様な感じになりますけれども、よろしくお願いしたいというふうに思います。

菊池の宝には歴史、文化、伝統、自然、農産物とさまざまな多くの宝がありますけれども、その中でも、人の知恵、技術、努力等でつくり出せない貴重な宝物を菊池は有しているというふうに思っております。例えば、菊池渓谷、名湯百選の菊池温泉、菊池の自然の湧水群、あるいは千畳河原や産さん滝といったものがあるというふうに私は思っております。樹齢何百年という巨木等もたくさん残されています。

その中で、菊池渓谷は菊池渓谷を美しくする保護管理協議会によって、自然の癒しを求めて訪れる多くの観光客や自然観察などに入谷する子どもたち等を気持ちよく迎え入れるために、日々清掃作業等に頑張っていただいているところであります。

協議会の皆さんの献身的な努力の陰には、菊池渓谷は菊池の貴重な財産として自分たちの手で守っていこうという強い信念をお持ちだろうと思っております。

さきの１５号台風での被害も出ているというふうに聞いております。これから秋の行楽シーズンを迎えます。災害復旧や施設管理、遊歩道等の整備等については、多くの費用がかかります。入谷者の協力金等だけでは限りがあります。この１年、入谷者の安全確保、トイレ等の施設整備状況について、昨年お聞きしたものと同じでございますけれども、現在までの取り組み、進捗状況をお示しください。

２点目に、市から菊池渓谷を美しくする保護管理協議会への負担金の額が平成２５年度のときは２万円というふうに、たしかお聞きをしていると思います。これは平成２５年度と同額でしょうか。

３点目に、入谷者等へのアンケート調査は実施されましたか。１回目の質問といたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それではお答えいたしたいと思います。

まず第１点目の入谷者の安全確保並びに施設整備の状況についてでございますが、これにつきましては、昨年の第３回定例会でもご答弁をしているところでございます。常日ごろの菊池渓谷を美しくする保護管理協議会によります安全点検を初め、特に入谷者の多い夏、秋における水辺警備員や交通整理員の配置、大雨警報発令時には入谷禁止の措置をとるなどの対応をしているところでございます。また、渓谷のトップシーズン前の７月に森林管理署、県、市、保護管理協議会の合同のパトロールを実施し、危険箇所について情報を共有しながら、その対応について協議を行っているところでございます。

今後とも入谷されます皆様が安心して散策をお楽しみいただけますよう、万全の安全対策を関係機関とともに講じてまいりたいと考えております。

次に、施設整備の進捗状況についてでございますが、今年度から平成２８年度にかけまして、環境省の自然環境整備補助金を活用し、展望所上流側の第２号トイレの整備を予定しておるところでございます。今年度は浄化槽の設置を平成２８年度にトイレ衛生器具の取りかえ及び放流管の敷設を行い、平成２９年４月の供用開始を予定しておるところでございます。このように、少しずつではございますが、癒しの里菊池の観光シンボルとして、多くのお客様に満足いただき癒しを感じていただける場所となるよう、トイレを初めとした施設整備に取り組んでまいりたいと考えております。

２点目でございますが、市から菊池渓谷を美しくする保護管理協議会への補助金

についてでございます。

補助金としての支出はしておりませんが、国立公園美化清掃事業負担金といたしまして６１万８，０００円、九州自然歩道等清掃管理経費といたしまして１０万６，０００円を支出しているところでございます。この負担金に関しましては、過去１０年を見ましても増減はございません。

続きまして、３点目でございます。

アンケート調査につきましては、実施に至っておりません。しかし、渓谷内の観光情報発信施設「きくち渓谷館」の指定管理者によります利用者アンケートや、６月の軽トラ朝市で菊池渓谷に関するアンケートが実施されており、その結果をサービス向上に利用してまいりたいと考えております。

また、維持管理協力金をいただいております料金所では、入谷されるお客様に対しましてお声がけをしており、その中で、お褒めの言葉あるいは苦情などを伺っている状況でございます。渓谷内の整備を進めていく上で、また、サービス向上のためにも、お客様の生の声は大変重要であると認識しておりますので、さきに申しました「きくち渓谷館」で実施しております利用者アンケートや維持管理協力金徴収所におけるお客様への声かけによる触れ合いを続行してまいるとともに、また、直接皆様方からのご意見を伺いながら今後の施設整備等に対応することで、選ばれる観光地菊池渓谷としてリピーターの増加につながるよう努力してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　再質問を行います。

今の答弁で、熊本県の自然公園美化清掃協会菊池支部のほうに６１万８，０００円を負担金で菊池市が出しているということであります。これは菊池渓谷を美しくする保護管理協議会のほうには本年度はゼロという数字が出ておりますけれども、昨年度はたしか前回お尋ねしたときには２万円出ていたんじゃないかというふうに思います。ゼロになった理由についてもお尋ねをしたいと思います。大変な経費がかかることだろうと思いますし、菊池、阿蘇それぞれに負担金を出していたわけですけれども、そこら辺のところは取り扱いはどうなっていったのかというところもお示しをしていただければというふうに思います。

前回、市長の答弁では、観光に関する認識として、大変私としては手応えを感じている、癒しの里菊池の実現に向けて着実に進んでいると思うというような答弁であります。大事なことは、地区全体でおもてなしというのが観光の基本であります

から、官民を挙げて一体となって菊池の魅力を磨き上げていきたいというような答弁をいただいているところです。市長の思い通りに、観光の基本として菊池全体でおもてなしの心、その醸成はでき上がりつつありますか。市長の思いをお尋ねします。

２回目の質問とします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　先ほどお尋ねの、昨年度は２万円で今年度はゼロというお話でございますが、九州自然歩道等清掃管理経費といたしまして１０万６，０００円計上しているところでございます。この経費につきましては、管理業務及び清掃業務賃金といたしまして８万６，０００円、これに関しましては、県の委託金でございます。それに市のほうから原材料の費用といたしまして２万円を支出しているというところでございます。これは負担金といたしましては変わらないというところでございますので、今後、この２万円も負担をしていくというところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま私に対する岡﨑議員のご質問は、おもてなしの進捗状況ということでございます。

通告では菊池渓谷に関することですが、今のご質問は全体に対するご質問ということで了解してよろしゅうございますか。

観光振興を図る上で、大事なのは景色だけではなくて、やはりおもてなしの心であろうと思います。観光客の皆様は、やはり最終的に記憶に残るのは喜び、満足、一言で言えば感動であろうと思います。こうしたことがリピーターにつながっていくと思います。

昨年につきましては、たまたま、さくらシンポジウムでありますとか、日本の名湯百選シンポジウムといった全国規模の大会がございまして、全国からたくさんのお客様をお迎えする機会がございましたので、関係者だけではなく多くの市民の皆様にもご協力をいただきました。こういう経験の中で、ほかの方が菊池はいいところですねという声を耳にして、大変次の励みになっていると思います。ですから、何か自分たちにもっとできないだろうかというふうなお客様へのおもてなしの心につながる意識が確実に生まれてきていると思います。

また、あわせまして、景観に込めたおもてなしの重要性というふうなテーマでの

講座も催したところでございまして、この中から自発的な商店街の動きにもつながってきていると。

特に商店街におきましては、このたび県の補助事業を活用して、おもてなしのまちづくり景観整備事業というものに着手をされます。本事業は緑化推進事業と並行して、相まってベンチやプランター、案内看板等を設置して、お客様に居心地のいい癒しの空間を味わっていただこうという趣旨で始められるものでございます。

加えまして、おもてなしということは、やはり町を歩く市民の皆さんの笑顔や挨拶、声かけ、そういったふうな全体的な雰囲気というのも非常に大きな要素だと思いますので、要すれば人と人の触れ合いということが大変重要な意味を持ちますので、この商店街だけではなくて、市民全員でもてなす心というのが必要であろうと思います。

そういう意味で、今年度におきましては、菊池市観光客誘致対策協議会の事業としまして、観光事業者向けの研修会とあわせまして、市民の皆様もご参加いただける研修会というのを開催する予定でございます。そうした形で着実に今、おもてなし体制を整えていこうという機運が盛り上がっていると思いますし、また、来年大きな大会を控えております。全日本マスターズレガッタ、それから、米・食味分析鑑定コンクール国際大会、これに向けてのボランティア組織をこれからつくってまいりますので、この中でもまた大きな盛り上がりを見せてくることだというふうに考えております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　岡﨑俊裕君。

［登壇］

○１３番（岡﨑俊裕君）　菊池渓谷を初め、名湯百選の菊池温泉、たくさんの菊池の宝を生かして、市長が癒しの里菊池を着実にいい方向に導いていただいて、多くの観光客が菊池に来ていただけるように、また、いろんな会合も引っ張ってきて菊池をにぎわわせていただくように期待をしまして、質問を終わります。

○議長（森　清孝君）　ここで１０分間休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時４７分

開議　午前１０時５９分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで発言の申し出があっておりますので、これを許します。

経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　先ほどの岡﨑議員からのご質問で、負担金の２万円が計上していないということの内容につきまして、私のほうが勘違いしておりましたので、訂正させていただきたいと思います。

この負担金のほうでございますが、これが平成２６年、去年の５月に森林管理署のほうに会計検査が入ったところでございます。そこで内容の指摘がございまして、協力金という形で菊池市、阿蘇市、菊池観光協会が合わせて４万円の負担金を払っているところでございます。これが不適切ということでございましたので、昨年計上はしておりましたが、本市の分の２万円はもう負担しなくていいということになりましたので、予算的には上がっておりません。平成２６年度も上がっていないということでございます。平成２７年度につきましても、指摘がされておりますので、計上をしていないということでございます。

以上、訂正させていただき、おわび申し上げます。すみませんでした。

○議長（森　清孝君）　次に進みます。

坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　こんにちは。議席番号３番、創成会、坂本道博です。８月２５日早朝、菊池市を直撃した台風１５号は、収穫期を迎えていたクリ、梨、ブドウ、メロン、野菜などの農産物、また、ビニールハウス、畜舎、樹木、家屋などに深刻な被害をもたらしました。被害を受けられた市民の方々に心からお見舞い申し上げます。

それでは、通告に従い一般質問させていただきます。

私は菊池市議会議員として、菊池市の皆様が公平に安心して生活できる環境づくりが大事であると日ごろより感じております。議員活動の中で、地域からの相談、要望などさまざまな意見をいただいておりますので、それを踏まえて今回の定例会での質問とさせていただきます。

初めに、七城地域へのあいのりタクシーの導入について質問します。

これまで多くの議員、とりわけ中山間地域と周辺部の議員の多くが交通アクセス、べんりカー、あいのりタクシーの運行の検討、公共交通対策、交通弱者についての意見が述べられてきました。今の菊池市の共通テーマであるとともに、重要な課題であると思います。

そこで、近隣自治体、山鹿市、合志市と菊池市のあいのりタクシーの運行状況、輸送人員、運行日、便数、料金、補助額、運行方法、エリア、ルートについて教えていただきたいと思います。

１回目の質問とします。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　皆様おはようございます。それでは、坂本議員の質問にお答えいたします。

近隣自治体の乗り合いタクシーの運行状況でありますが、県内の乗り合いタクシーについては２７市町村で実施されておりますので、県が調査されます市町村交通施策状況調査により、山鹿市、合志市及び本市の平成２５年度の状況をお答えさせていただきます。

まず、山鹿市につきましては、４つの区域に導入されており、年間に合計で２万８，４２１人の利用があっております。運行日については３つの区域が月曜日から土曜日、１つの区域が火曜日、金曜日となっております。便数は１日５便、料金は２００円から６００円、収支の差額は２，５０８万円となっており、運行方法は区間ごとに発車時刻、運行区間を設定した、どこでも乗りおりできる区域運行となっております。

次に、合志市につきましては、定時定路線として３つの路線が導入されており、年間に合計で５，５７１人の利用があっております。運行日につきましては週に３回、１日に１便から２便、料金は１００円、収支の差額は８５７万円となっており、運行方法は路線バスと同じような起終点及び停留所の時刻設定が定時となる運行でございます。

最後に、本市の状況でございますけれども、水源、龍門、泗水西部、泗水東部、旭志東部の５つの区域に導入しており、年間で合計で１万１，１４９人の利用となっております。運行日については週に３回、１日に３便、料金は２００円から６００円、収支の差額は１，０１３万円となっており、運行方法は山鹿市と同じ区域運行となっているところでございます。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　ありがとうございました。

山鹿市では、路線バス廃止となった地域やバス停から離れた交通不便地域の市内４地域で運行されています。現在では年間３万人近い市民の方々に利用されています。

合志市でも、レターバスの運行とあわせて全地域をカバーするように定時定路線として３つの路線で運行されています。

８月２０日、菊池市子ども議会が開催されました。「よりよい菊池市にするため

に」をテーマに、子ども議員２１名参加により菊池市をよりよくするための提案が行われました。

その中で、子ども議会、宮崎栞汰君より、私の住む七城町は高齢者の割合がふえています。学校の近くに新しい老人ホームもでき上がりました。また、七城中では高齢者の方々に年２回、自分たちで育てた花を届けていますが、自宅に一人で住み生活している方もたくさんいらっしゃいます。花を配りながら、車がない方はどのように生活しているのか、不便ではないのか心配になります。バスも大通りしか通っていないので、そこまで歩いていくのも大変そうです。

そこで、そのような方々が気楽に利用できるように、きくちべんりカーの巡回範囲を中心部だけではなく菊池市全体に広げていただけたらと思います。高齢者にやさしい、みんなにやさしいまちになると思いますとの提案がありました。

この提案に対して市より、公共交通手段のない地域では、あいのりタクシーによって補完しておりまして、自宅玄関から目的地玄関までドー・ツー・ドアで運びますので、高齢者など交通弱者によってやさしい手段となっている。提案いただいた内容を含め、不便に感じられている声もございますので、現在アンケート調査により市民の皆様のニーズをお聞きし、検討を行っているところでございますとの答弁があっております。

そこで、アンケートの結果を受けた本年度の検討結果についてお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、坂本議員の２回目の質問にお答えいたします。

アンケート調査などによる利用者のニーズや地域の需要等を踏まえました市全域を展望した効率的で利便性の高い公共交通を目指したいと考えております。

このため、本年度については公共交通空白地域の解消、路線バス運行の検討、既存公共交通の利便性の向上、公共交通の利用促進の４つの観点から検討を進めているところでございます。

検討の方向性としまして、公共交通空白地域の解消については、公共交通サービスの圏域から外れる空白地域の対象範囲を明確にする定義化を図りたいと考えております。

また、路線バス運行の検討につきましては、補助金を交付している路線バスの乗降データをもとに利用状況をまとめるとともに、既存公共交通の運行の時間帯や運行日について利便性の向上を図ることで検討を行っているところでございます。

そのほか、公共交通の利用促進について、公共交通の維持に関する市民意識の醸成やわかりやすい情報提供に努めたいと考えております。

現段階におきましては、市民が利用しやすい交通コミュニティを構築するため、交通事業者、近隣市町村、運輸局などと継続して協議を行っているところであり、財政負担を視野に入れながら、地域の実情に見合った持続可能な運行を検討しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　市としては、公共交通機関の確保は総合計画重点施策の一つに位置づけ、市民のために必要な施策であること、また、情報収集、課題の整理等を行い、早い時期の交通体系を構築する旨の答弁を以前からされております。

昨年９月の定例会において一般質問をした際に、政策企画部長からは、七城地区については市民の要望をきちんと把握し、実際にマッチした公共交通の再検討が必要であるとの答弁を受けております。

交通体系はこれからますます厳しくなると考えられます。地域間の不公平感もあります。七城地区には、あいのりタクシーの導入を強く望む住民の声があります。そこで、平成２８年度の交通体系の見直しに向けて、市長としてどのようにお考えでしょうか。また、確定できていなければ、その方向性についてお答えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　坂本議員からは、七城地区におけるあいのりタクシーの導入の方向感ということでございます。

交通体系については、地域で暮らすための買い物、通院といった安全で安心な暮らしのための前提であるというふうに思っております。市民のニーズに対応した地域公共交通体系の再構築を今、進めておるわけでございます。

大きな考え方としましては、あいのりタクシーなどの短期的に優先して取り組むべき事業と、それから路線バスなど中・長期的な視点で検討すべき事項に分けまして、公共交通体系を構築したいということで今検討しているところでございます。

それで、お尋ねの七城地域へのあいのりタクシーの導入の件でございますけれども、お年寄りがどんどんふえておりますので、従来の定義でありました、例えばバス停からの距離など公共交通の空白地域という定義がございましたけれども、これを見直しております。簡単に言えば、対象範囲を少し緩和することで利便性を高め

ていこうというふうに考えておりまして、大体今、案が固まりつつありますので、これをもとに、まずは平成２８年度中に空白地域と路線バスをつなぐ区間へのあいのりタクシーの導入に取り組みます。

七城地域のアンケート調査の結果、通院など市民ニーズの多かった菊池地域への乗り入れにつきましては、これは社会情勢も変化しておりますので、バス会社や関係機関と協議を進めながら、実現に向けて取り組んでいきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　ありがとうございました。

平成２８年度に空白地帯の解消に向けて進んでいるということを受けました。施政方針にも上げておられ、交通体系の再検討はしっかりと取り組みたいと言われておられましたので、私として期待しておりました。平成２８年度に向けて、七城町の交通弱者、高齢者の方々が安心して生活できると思いますので、早期の実施をよろしくお願いしておきます。

次に、台風１５号による農業被害について質問します。

県は７日、８月２５日に県内を直撃した台風１５号による農林水産業の被害状況を発表しました。クリ、梨、柿などの果樹は計２，６００ヘクタール、野菜も計１５０ヘクタール、果樹は県内のほぼ全域で甚大な被害があった。野菜もショウガやメロンを中心に大きな被害を受けた地域があると、事態を深刻に受けとめているとの新聞報道がありました。

そこで、本市の農業被害の状況について、農産物と農業施設等の被害の状況を教えていただきたいと思います。

１回目の質問とします。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、台風１５号によります市内の農業被害について申し上げます。

９月４日現在で県が取りまとめました台風１５号によります本市農業関係の被害額につきましてお答えいたします。

アスパラガスやメロンなどの野菜類につきましては１，０４８万５，０００円、クリ、梨、柿などの果樹類では７，３９５万４，０００円、トルコキキョウやカスミソウなどの花卉類では２，１８６万８，０００円となっております。

また、畜産関係では畜舎の倒壊により肥育牛１頭が圧死しており、７１万円の被害額が出ているところでございます。農作物の被害合計で１億７０１万７，０００円でございます。

次に、農業施設関係等の被害状況でございますが、ビニールハウス等の園芸施設では２，３３２万４，０００円、畜舎関係におきましては畜舎１棟の倒壊による１，４４０万円となっているところでございます。

なお、畜舎の屋根材等の一部破損等も多数出ておりますが、今回は含まれておりません。農業施設関係の被害合計でございますが、３，７７２万４，０００円でございます。

農作物関係と農業施設関係を合計いたしますと、１億４，４７４万１，０００円でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　ありがとうございました。

今回の台風被害により、菊池市の農業は大打撃を受けました。地元、七城メロンドームでは、この時期の野菜類が例年の２割程度の出荷になっています。市場での野菜価格は品不足により高値が続いています。

先日、各物産館の関係者に話を聞きましたが、台風の影響により出荷数量は激減しているそうです。ことしの農業収入もかなりの痛手になるでしょう。ということは、平成２７年度は儲かる農業の達成が困難な状況ではないでしょうか。

それでは、本市としての今後の台風対策、対応策についてお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　今回の台風１５号により被害を受けられました農家の皆様におかれましては、今後の農業経営に支障を来すことが懸念されるところでございます。

支援策といたしまして、農林漁業セーフティネット資金を初め、災害関連資金等の円滑な融資と、必要に応じました利子補給により、農家負担の軽減を講じたいと考えております。また、資金繰りが厳しい中で、既に借入されている資金に対する償還猶予などの措置も考えられますので、被害の実情に応じ適切な対応ができるよう、県や関係融資機関等との調整を進めてまいりたいと考えております。

本市といたしましては、これからの台風接近がさらに多くなる時期になりますの

で、台風に関します情報収集などに努め、迅速に対応してまいりたいと考えております。

また、被害を最小限に抑えることができるよう、市民の皆様への情報発信、注意喚起を行いますとともに、県や関係機関との連携を図りながら必要な方策を講じてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　ありがとうございました。市としてできる限りの支援をお願いしたいと思います。

江頭市長の平成２７年度の施政方針実現のための後押しとなったであろう、私が以前に一般質問したハウスリース事業のことを、内容など含めて覚えておられますか。抜群の能力と記憶力をお持ちの江頭市長のことですので、きっと覚えていただいていることでしょうが、内容について再度お話しします。

合併前の七城地区は、農家と農協、農家とメロンドームが一体となり、台風対策としてハウスリース事業を行っていました。それは、平成３年の台風１９号、翌年の台風直撃によりビニールハウスに大きな被害を受けたからです。

このハウスリース事業により、台風に強い耐候性ハウス、また硬質フィルム張りのハウスが建てられました。今回の台風でもさほど影響を受けておりません。台風から作物を守ることができれば、台風被害をチャンスに変えることができるんです。先日も台風後に多くの農業者、物産館関係者、ＪＡに聞き取り調査を行いましたが、いまだに期待を寄せられている事業です。再度、市長にご提案させていただきます。

以前のハウスリース事業は、国５０％、県が１０％、地元自治体が１５％、計７５％の助成があった補助事業でしたが、市長、儲かる農業を実現させるためには、市単独の補助を行い、取り組むべきではないでしょうか。儲かる農業実現のための市長の公約のインターネットの売り上げも、今のところ目標を大きく下回っていると聞いております。市が儲かる農業のための一方通行に進んでいるのではなく、農家みずからがきちんとした管理を行い、生産につなげることが必要ではないでしょうか。

近年、台風の大型化やゲリラ豪雨などの異常気象が続いています。市長、農作物が安定して生産できる、台風や災害に強い園芸施設等の事業への取り組みについて進めるべきではないでしょうか。効果が出ていない事業など見直せる事業については、大きく傷が広がらないうちに早急に見直しをして、財源が必要となりますが、市単独での園芸施設事業など大胆な農業振興政策が必要であると考えておりますが、

市長はどのようにお考えでしょうか、お聞かせください。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　先般の台風１５号の件につきましては、いろいろな機会でこれまでお見舞いを申し上げているところでございますけれども、改めましてまた、被害を受けられた皆様には重ねてお見舞いを申し上げたいと思います。今なお、後片づけ等、大変被害の対応に苦慮されているところではないかと察するところでございます。

本市としましても、非常時に備えまして迅速、的確な対応ができるように体制の整備をさらに図っていきたいと思っておりますし、また、県や関係機関と連携しながら、必要な支援、方策を行ってまいりたいと考えているところでございます。

このハウスリースについてのお尋ねでございます。

台風に強いハウスというのは、私としても、これはあったほうがいいなというふうに考えております。ご指摘の件は、ハウスリース事業に伴う市の単独補助についてのご質問だというふうに理解しております。特に一般質問で同趣旨のご質問を坂本議員からもいただいておるわけでございます。従来と同様に、やはり合併市におきましては当市全体の、農業者全体に対するバランス、公平感ということと、それに伴う財政状況というのを考慮せざるを得ませんので、市の単独補助での上乗せということについては、今、現段階においては難しいものというふうに考えております。

なお、ハウス等の整備に関する国や県の補助事業としましては、強い農業づくり交付金ですとか、くまもと稼げる園芸産地育成対策事業など効果的な事業が用意されておりますので、今後も関係農業者等への周知徹底を図りながら、積極的に支援をしてまいりたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　坂本道博君。

［登壇］

○３番（坂本道博君）　ありがとうございました。

江頭丸が船出して２年が経過しました。任期４年の半分が過ぎています。あとの２年間で農家のさらなる期待に応えるためにも、農家の現状を再度、見詰め直し、儲かる農業に通じる政策を進めていただきたいと思います。

先ほど市長が言われましたとおり、ハウス等の整備に関する国、県の補助事業、強い農業づくり交付金、くまもと稼げる園芸産地育成対策事業について、本市では合併後の旧市町村間の均衡を図る上で、国や県の補助事業に対する市独自の上乗せ

補助は行わないとした経緯がございますとの答弁をことしの第１回定例会で受けています。

しかし、合併１０年が過ぎています。市全体のバランスや財政状態を考慮すれば難しいと思いますが、やろうと思えばできるのではないでしょうか。今回の台風で被害に遭われた生産者が、これから台風に強い畜舎やハウスなどを建設した場合、台風被害の支援策として、経営が回復するまでの期間における固定資産税の免税措置などできるのではないでしょうか。救済策として強くお願いしていきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで議事の都合により暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１１時３１分

開議　午後　零時５５分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　皆さんこんにちは。朝夕少しずつ涼しくなり、秋の気配を感じるきょうでございます。さきの台風１５号で災害に遭われた皆様、特に農産物の収穫前に被害に遭われた農家の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。ことしの夏は長雨と、また連続の猛暑日で自然界のリズムもおかしくなっていると毎年感じてきております。自然界と比例するように人の暮らしもおかしくなっているのではないかと思います。子育て、いじめ、介護、高齢化、詐欺、殺人、自殺と例を挙げれば切りがありませんけれども、物質的な豊かさを手に入れた代償として、大切な心を失いつつあるような気がします。

これらのことを踏まえ、質問に入らせていただきます。

まず最初に、選挙権年齢引き下げについてでございます。

選挙権年齢を現在の２０歳以上から１８歳以上に引き下げる公職選挙法改正案が成立し、来年夏の参議院選挙から１８歳選挙権が実現します。新たに有権者となる１８歳、１９歳の未成年者は、全国で約２４０万人、熊本県で約３万人ということでございます。衆議院、参議院のほか地方自治体の首長や議会の選挙も同じく１８歳以上になります。日本で選挙権年齢が変更されるのは、１９４５年に２５歳以上の男子から２０歳以上の男女となって以来、７０年ぶりになります。

調べたところ、長らく日本では２０歳以上とされてきましたが、世界的には１８歳以上の国が１９８カ国地域のうちに９割以上を占めています。また、特にオーストラリアとかブラジルは１６歳以上に選挙権があります。また、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）に加盟する３４カ国のうち１８歳選挙権を導入していないのは、日本と韓国だけだそうです。

それに伴いまして、飲酒や喫煙、こういうものがこれから検討課題になっていくということになります。１８歳から酒を飲む、たばこを吸う、そしてまたさらには、銃刀法の猟銃所持やいろいろな１８歳の方々の環境をこれから検討していくということでございます。１８歳以上の選挙権年齢が決まった今、大事なことは、政治への関心を高め、主権者教育を中立性を保ち実施することだと思っております。

１８歳以上になったからといって、若者の政治への関心が高まるとは限りません。かえって、無責任な投票をするとの懸念もあります。若者が政治に関心を持ち、国、都道府県、市町村の地域の問題を主体的に考え、行動するようになる主権者教育が大事ではないでしょうか。１８歳選挙権が実現する一番の意義は、学校に政治の話題が入ってくるということでございます。子育て支援から安全保障の問題まで幅広くクラスメイトと議論できる場にすることが重要ではないでしょうか。主権者教育によって若者の政治参加が進めば、未来を見据えた政策をつくっていく社会になると思うし、若者の投票率向上にもつながると思っております。

現在、文部科学省が主権者教育の一環として高校生用の副教材を作成しています。その概要は、政治参加意識を向上させるため、生徒に身近な政策課題への提言を作成させるなど、参加型授業を重視したものが特徴だそうです。有権者としての自覚を持ち、若者の投票率が低いため若い世代の主張が政党や行政が打ち出す政策に反映されにくい現状を認識するよう訴え、公選法のポイントをＱ＆Ａ方式で説明してあるということであります。この秋、１１月に配付されるということをお聞きしております。

また、山鹿市では、山鹿市内の４つの高校の生徒らが市役所で投票率の低下の現状を学び、模擬投票を体験し、山鹿の未来像について市議と意見を交わしました。これは、議会活性化特別委員会が政治を身近に感じてもらおうと企画し、２１人が参加したそうです。また、菊池市で先日行われました子ども議会では、次のような内容の質問がありました。ニュースで選挙権が１８歳以上に引き下げるのを見て、高校３年生になると選挙に行けるのだなと感じましたが、その一方で、それまでに政治や政党のことなどきちんと理解することができるのだろうかと不安がありますという意見でありました。さらに、１８歳以上に引き下げられたことを受けて、菊池市ではどのように政治について知る機会や環境を整備するのか教えてもらいたい

という内容でございます。

子ども議会でこのような質問があり、大変驚きました。まさにこのまま質問をさせていただきます。１つ目は、まず１８歳以上になる、本市では何人くらいの有権者がふえるのか、また２つ目に、本市として政治を身近に感じられるような主権者教育の取り組みの現状と今後どのような啓発活動をしていくのか、質問をさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　選挙管理委員会委員長、中村道夫君。

［登壇］

○選挙管理委員会委員長（中村道夫君）　選挙管理委員会委員長の中村でございます。選挙管理委員会の所管事項につきましてのお尋ねでございますので、私のほうからお答えをいたします。

まず、質問でもありましたが、９月１日現在で１８歳、１９歳を合わせます人口が９４４人でございます。これは有権者全体の２．２５％に当たります。

次に、現在の取り組みについては、選挙のとき若い世代ということではなく有権者全体を対象として、広報紙、ホームページ、防災無線、広報車、街頭啓発運動、懸垂幕、啓発ポスター、選挙公報等を通じて選挙に関心を持ち、投票に行くような啓発活動を行っております。

また、今後の取り組み等につきましては、６月に公職選挙法の一部改正をする法律が公布されまして、来年夏に予定されている参議院議員通常選挙から、選挙の選挙権年齢が１８歳に引き下げられる見込みでございます。これは選挙制度改革の中で非常に大きな改正であると言えます。総務省、文部科学省では、今後政治参加に関する教育のための副教材を作成し、全国の高校生に配付されると聞いておりますので、その内容等、最新の情報収集に努めまして、本委員会としましてもこれまでの啓発に加え、若い世代が関心を持つよう広報やホームページで啓発活動を行えればと、ただいま考えておるところでございます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　今、選挙管理委員会委員長からお答えがありましたけれども、今回が９４４人ということであります。２．２５％ということの方々が新しく今度初めて選挙にチャレンジされるということでございます。そしてまた、その方々に広報、ポスター、さまざまな形で周知していくということをお聞きしました。やはりこれからが非常に重要なこと、大事だろうと思っております。

特に、私ども菊池では高校が３つございます。ご存じのとおり、菊池高校、菊池農業高校、菊池女子高校と、これらの高校３年生の方が来年は選挙される方がおら

れるということでございます。そういうようなことで、できれば全校生徒を対象に、例えば模擬投票、そういうものを行ってご指導していただくとか、または菊池市の未来を考えるということで、いろんな意見交換をしていくという、そういう機会があれば、もっと身近に政治に関心が出てくるのではないかと思います。そういう計画があるかどうか、選挙管理委員会委員長にご質問します。

そして、もう１つ、教育長に質問をさせていただきます。

これは議長にお許しを受けましたので、コピーを持ってきましたけれども、今持っているコピーは、今、中学３年生が社会科の公民という本を使って政治の勉強をされているという中で、今の政治についての内容が書かれておりました。これは菊池市とか合志、または大津、菊陽で使われている教科書と一緒でございます。その一番のテーマの最初のところに、誰を市長に選ぶべきかというような質問が出ています。そういうテーマで、各企業が学校の敷地ほどの大きな土地から撤退するので、このあいた土地をどういうふうに使うかというようなテーマで、４つの公園に使うとか、またはリサイクル工場を建てるとか、または体験型のテーマパークをつくるとかいう、そういういろんなスローガンで誰を市長に選ぶべきかというようなことでございます。そしてまた、ある情報では、来年の新しい社会の公民の教科書には、こういう選挙権が変わるということもありまして、今度は市長になって考えてみようと、ちょっとすみません、私、逆を言いました。今の平成２７年度が市長になって考えてみようということでございます。そして、来年の平成２８年度が誰を市長に選ぶかというような内容で、この主権者としての視点という形で、来年はそういう教科書に、内容に変わっていくというようなことを伺いました。

だから、やはりこれから誰を選んでいくのかという主権者の立場で教科書も変わっていくというようなことで、私も初めてこの公民という教科書を見せていただきまして、勉強になったところでございます。そしてまた、海外に目を転じますと、格差と貧困のないデンマークというところの本を見てみますと、デンマークでは中学校のときから家庭で話し合いを設けて、また学校で話し合いを設けて、自分の意見を言い合うと。そしてまた、自分の国をどう思うかと、自分の地域をよくするために自分がどういうふうに政治に参加するかということを、中学校のときから勉強しているというようなことも書いてありました。

そういうことで、今後、学校教育の立場から小・中学校での義務教育での今後の取り組みをどういうふうにやっていかれるのか、教育長に質問させていただきます。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　選挙管理委員会委員長、中村道夫君。

［登壇］

○選挙管理委員会委員長（中村道夫君）　お答えをいたします。

現在、小学校、中学校、高校等で政治や選挙についての授業が行われているとお聞きしていますが、これまで以上に主権者教育及び若者の政治参加意識の促進に向けた対策は重要だと思います。

先ほどお話ししましたように、今後、高等学校に配付されます副教材内容についても関心を持つところであります。選挙啓発の一環として、熊本県選挙管理委員会は選挙出前授業を県内の小・中・高校を対象に実施していると聞いておりますが、本市におきましても、７月に七城小学校６年生を対象に出前授業が行われました。本委員会も、その授業に参加させていただき、実際の模擬投票を行っているところ等を見学させていただきました。このような出前授業は、主権者として選挙を通じての政治に参加することの重要性を醸成するなど、大変効果があると思っておりますので、教育委員会と連携して市内の学校への周知や啓発活動に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　教育長、原田和幸君。

［登壇］

○教育長（原田和幸君）　今、子どもたちに求められている力というのは、全ての教科領域を通して子どもたちに身につけさせなければならない力というのは、みずから課題を見つけ、みずから学び、みずから考え、正しく判断し、行動し、よりよく問題を解決していこうとする力です。これは数年前からずっと言われ続けている力でございます。

先ほど選挙管理委員長より答弁がありましたように、選挙権年齢を１８歳以上に引き下げられたことを受けまして、若い世代が世の中を担う時代のことを考え、政治への関心を高めるためには、国や社会の問題を自分の問題として捉え、みずから考え、みずから判断し、行動していく力を育む主権者教育が重要であり、民主主義における選挙の意義や仕組みへの理解が深まるように、学校での教育、啓発の充実にしっかり努めていきたいというふうに思います。

今申し上げました主権者教育も、まさに最初、冒頭に申し上げました今、子どもたちに求められている力につながるものだというふうに考えます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　今、選挙管理委員会のほうもしっかりと主権者教育に、教育長も主権者教育に努めていくということで言われていますので、将来の菊池市を担う子どもたちにぜひよろしくお願いしたいと思います。

それでは次に、職員採用についての質問をさせていただきます。

まず、４年前ですけれども、職員採用試験の質問をさせていただきました。そのときに、この試験の内容を日本人事試験研究センターに委託しているということでありました。そして、試験のための塾や予備校に行き勉強だけを重ねてきた者が有利で、学生時代、苦学したりアルバイトをしたり、いろんな社会経験を積んできた人たち、また、スポーツやボランティア活動などに打ち込んできた人たちを採用する機会というものがないだろうかと、勉強だけで来た人だけ以外でもっと採用する幅を持ってほしいという質問をさせていただきました。

そのとき本市の答弁では、日本人事試験研究センターの試験を採用していて、その理由としてどういう理由を挙げられたかといいますと、試験当日の職員の人員を削減できる、そして単独で行うより委託料のほうが安い、公平性、透明性が確保できると。また、受験者の教養、知識が全国的な水準で判明することができるということを挙げられました。私はそれを聞いて、確かに必要な部分もあるかもしれませんけれども、ちょっとこの内容だけでは非常にこの採用試験についてがっかりしたところでございます。学力ありきでは、真の人材発掘ができるのかということを懸念しております。

今、平成ですけれども、戦国時代は武田信玄とか、そういう時代は多くの人材を獲得するために全国に散らして人材を求めていたという歴史もございます。今はどこの企業でも社の運命をかけて優秀な新入社員獲得のために必死の努力をしております。まず適性検査をし、次に面接、最後に学力テストを、さらに面接した上で最終決定をするという企業もあります。画一的な学生や丸暗記する学生を排除し、ある程度の基礎学力と目的観をしっかり持ち、意欲、思考力、実行力、個性があるかどうか等で判断し、合否を決めていくことが大事ではないかと思います。

そういうことで、また、あのときの答弁の中にこうありました。人物重視と言える採用試験をしている神奈川県の２つの市を例に挙げ、こういった自治体の取り組みは興味深いものがありますと、効果や成果を聞いて、本市においても工夫、改善の余地がないか検討すると言われました。その間、検討、検証をされたと思います。

そこで、まず最初に、現在もこの統一の試験研究センターで採用試験をされているのか、そしてまた、その後４年たちましたけれども、菊池市で独自の採用方法があればお答えをしていただきたいと思います。まず最初の質問をさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　職員採用に関してのまず１回目としましては、現状と、ど

ういう試験かというところかと思います。

本市における職員採用につきましては、菊池市職員の任用に関する規則に基づきまして採用を実施しているというところでございます。採用試験の方法につきましては、競争試験といたしまして、筆記試験による１次試験と人物重視の２次試験を実施して、採用を決定しているところでございます。

議員おっしゃいましたとおり、１次試験の筆記試験につきましては、現在、熊本県町村会が県下市町村分を取りまとめ、日本人事試験研究センターに委託して実施する採用共同試験に参加しまして、実施をしております。試験の区分としましては、一般的な教養の程度により大学卒業程度、高校卒業程度、資格免許職の３区分でそれぞれの試験職種ごとに教養試験、専門試験、適正検査等を組み合わせて行っているところでございます。

なお、１次試験合格者は教養試験や専門試験の基準偏差値以上の者の中から成績の高い順に合格としているところでございます。

次に、冒頭申し上げました人物重視の２次試験につきましては、１次試験合格者を対象に実施をいたしております。試験の内容は、集団討論試験、個別面接試験、作文試験の３つの試験の合計点で高い者の順から、当初採用予定数を基準として、年度内の退職者数等を見込みまして最終的に合格者を決定しているというところが、本市の採用試験の現状でございます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　今、試験の内容をお聞きしましたけれども、今言われたのは、４年前と同じ試験の内容と。そして、２次試験の中身についても、これは菊池市独自の内容で、例えば質問をするとか、作文を書いてもらうとか、そういう独自のものが入っているかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　集団討論のテーマでございますとか、当然、個別面接は市長、教育長、副市長、それに私が昨年の場合ですと入っておりますので、市独自というところでございます。集団討論におきましては、コミュニケーション能力とか、そういったところを、どういった性格の持ち主であるとか、積極性とか、広範囲にわたりましてチェックを重ねて点数をつけるというようなことで、市としてやっているという状況にございます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　今、お示しいただきましたけれども、以前と余り変わっていないというような感がします。ただ、この２次試験というのは、非常にやっぱり菊池市の特色を出せるある意味では内容ではないかと思っております。やはりそういう人材を確保するための重要な鍵ではないかと思っております。

そこで再質問させていただきますけれども、この数年、社会人経験者試験を実施する自治体が増加しております。平成２６年度は全都道府県政令市の６割以上の自治体が社会人経験者枠の採用を実施し、年々年齢上限も引き上げる傾向が強まっております。これは、民間企業で培われた経営感覚や専門知識と豊富な経験、技術、意欲を行政に役立てたいという改革意識の高さと市政への即戦力として活躍できる人材を求めているのだと思っております。

例えば、例を挙げますと、札幌市、新潟市、さいたま市、千葉市、宇都宮市、横浜市、川崎市等々たくさんあります。そして、年齢が６０歳未満としているところでございます。また、次に紹介する佐賀県の例であります。佐賀県は、採用試験の取り組みで募集テーマをインターネットで調べてみますと、汗と涙と熱血魂大募集と、そういうような紹介がインターネットでされております。また、合志市ではスポーツ枠の採用もされているということがあります。

佐賀県に戻りますけれども、Ｕターン、Ｉターン経験者採用枠ということで実施しておられます。特に求める経験内容として、広報業務のために広告会社等で企画立案、デザイン等の経験者、２つ目、県産品の国内外の販路開拓や中国との交流業務のために中国語を活用して貿易等経験者、また３番目に、不動産の評価のために不動産鑑定士等の経験者、４番目に会計処理のために税理士、会計事務所での経験者、５番目に施設の設計のために建築に関する専門的業務経験者等々、幅広く募集されております。

また、平成２７年度採用試験に新たに導入した点として、薬剤師の民間企業職務経験者、地域おこし協力隊経験者、ＪＩＣＡボランティア等経験者です。地域おこし協力隊経験者に対しては、各地方自治体から委嘱され、その地域で生じている課題の解決に向け、困難な状況を克服しながら地域協力活動をいろいろな経験を重視しているということであります。また、ＪＩＣＡボランティア等経験者に対しては、異なる文化や価値観を持つ外国、特に開発途上国という厳しい環境において困難な状況を克服しながらボランティア活動に従事した経験を重視して採用基準にしています。いずれも年齢制限が４０歳ということでございます。

そういうことで、前回も前向きにこのキャリアの方々の検討をするということをお聞きしました。今回、本市として社会人経験者や特殊技能保持等の採用枠を設け、いろいろな角度から優秀な人材確保をする考えがあるか、質問します。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　先ほど本市の採用試験の現状を私が説明した中に、資格免許職、これは専門職ということになりますけれども、この採用を３区分で行っているというご説明をいたしました。

お尋ねのキャリアを持つ人の採用という趣旨でいいますと、特に菊池市は、特別養護老人ホームを市有ということで所有しておりますし、保育園も持っております。そういった意味で、資格免許職ということからいきますと、保育士であるとか看護師であるとか、介護福祉士、こういった職を求めているという状況にございます。特に看護師、介護福祉士につきましては、年齢を今年度の例でいきますと３５歳までということで、一般の大学職は２９歳までですけれども、キャリアを積んでいただいた即戦力となる人を雇いたいという面で、そういった免許職の人たちは年齢を上げているという状況にございます。

ただ、先ほど説明しましたように、１次試験を共通でやっているということでございますけれども、各分野を通してどうしてもバランスを持った人材が必要と、１つだけに特化しますと、どうしても私の経験上からいきますと、そういった職員がどうかというところもありますので、バランスを持つためには、まず１次試験をきっちりやるということも大事かなと思っております。

ただ、議員がおっしゃいましたように、一方では、本市同様に熊本県町村会の共同試験に参加している他自治体におきましても、先ほど例がありましたようにスポーツ枠の採用試験でありますとか、県外においては教養試験や専門試験といった筆記試験を廃止しまして、面接試験や適性検査のみということに特化した採用をやっているところもございます。そのような状況を踏まえまして、今後、本市におきまして特殊技能でありますとか専門的キャリアを持った職員が必要となった場合には、その採用法について前向きに検討してまいりたいと思います。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　専門職、うちの中でも老人福祉、保育といろんな形で専門職はとっているということで、うちの場合が３５歳ということをお聞きしました。そういう中で、やはり政令指定都市ということでは菊池市はまだ小さいんですけれども、やはりそういう特殊な技能を活用できるような場をつくっていただきたいなと思っております。

特にスポーツで優秀な方とか、そういうのもおられます。やっぱりそういう方をＩターン、Ｕターンで呼び込んで、菊池市の人材確保につなげていただければと

思っているわけです。

先日、熊日新聞でこれは市職員ではないんですけど、教員採用試験で、やはりこれも外部委託で試験を作成したということで、どんな先生になってもらいたいのかというイメージをして地元がしっかりとその試験をしていくと、外部委託ではなくてということでコラムの中に書いてありました。やはり本市においても、どういう職員を菊池市に求めたいのか、そしてまた、受ける側もこういう菊池市にしていきたいという強い思いを持った人がいたならば、そういう採用の方法を少し見直して、汗をかきながらいい人材を見つける必要があるんではないかと思っております。

最後に、市長に菊池市の人材確保についてのご質問をさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　泉田議員の特殊技能やキャリアを持つ人の採用の考え方についてということでございますが、専門的な分野でその技能を活用したり、あるいは企業で培われた経験や技術等を、即戦力で市役所のために役立てていただくといったようなことというのは、大変大きなメリットがあるんではないかというふうに考えております。

今、こうしたことに対しての枠としてはございませんけれども、今お話しがあったように、必要に応じて対応してきているわけでございますけれども、制度が先かどうかということがございますけれども、まずはやはりどういう人を何に使いたいんだというふうなしっかりした狙い、ニーズのところが必要かと思いますので、そうしたものに基づいて、必要性に応じて的確に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　それでは、次の質問に入らせていただきます。

それでは次に、特殊詐欺についてということでございます。

今、電話を利用して現金をだまし取る特殊詐欺による被害が急増しております。被害額は昨年、過去最悪の約５６５億円と、警察庁は全国の警察に取り締まり強化を指示していますが、認知件数が昨年度より８５０件余りふえて、７，００７件だったと深刻な現状が浮き彫りになっております。価値のない社債や架空の有価証券などが金融商品の取引を装った詐欺は減少傾向にあるものの、オレオレ詐欺やインターネットや電子メールなどを通じた架空請求詐欺は増加傾向が続いているということでございます。６５歳以上の高齢者が被害に遭うケースが急増して、約８割

を占めているということでございます。

群馬県の７０代の女性は、ことし２月、医療費還付を装う容疑者からの電話にだまされて、１０回にわたり５００万円以上を送金させられたそうであります。熊本県内ではことし上半期の被害額は前年度より減ったものの、１億５，０００万円、件数は２０件増の５４件であったそうです。東京に現金を持参させる上京型がふえているということであります。

実は、我が家も電話がかかりまして、医療費還付金の電話がありました。妻が電話に出たのですが、市役所職員を名乗り、３カ月前にお知らせの封書を送りましたがとか、還付金の支払いがきょうまでです、最寄りのコンビニのＡＴＭに行くようにと言われました。うちの家内ももらえるものならということで、すぐ車に乗ってコンビニに向かいましたが、運転しながらおかしいと思い、気づきまして、市役所に確認したそうです。そしたら、還付金はありませんと言われ、危うくだまされるところを未然に防がれたということで、特にその話術が上手だそうです。

そういうことで、私は大丈夫と思っておられるかもしれませんけれども、還付金というと、なかなかこれは皆さんちょっとだまされるんじゃないかと思います。まず、本市に過去３年間の振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害状況と、本市の被害に遭わないための取り組みや対応策の現状を質問させていただきます。

○議長（森　清孝君）　健康福祉部長、木原雄二君。

［登壇］

○健康福祉部長（木原雄二君）　まず、本市におきます被害状況につきまして、菊池市消費生活センターで受け付けました振り込め詐欺等の相談件数でございますが、平成２４年度相談件数２１２件のうち、振り込め詐欺はゼロ件でございました。その他の詐欺が２９件。平成２５年度の相談件数２１８件のうち、振り込め詐欺が１件、その他の詐欺５７件。平成２６年度相談件数２８１件のうち、振り込め詐欺１件、その他の詐欺７３件となっております。

ただいま申し上げました平成２５年度、平成２６年度に受け付けました振り込め詐欺につきましては、相談段階で被害を未然に防止することができております。また、その他の詐欺の内容につきましては、架空請求、アダルトサイト、投資もうけ話等の相談が多くございまして、年々相談件数は増加傾向にあります。

次に、菊池警察署にて受け付けられました振り込め詐欺等の被害届件数でございますが、平成２４年１件、平成２５年１件、平成２６年１０件であり、ギャンブル必勝法、出会い系等による詐欺被害となっておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　この詐欺のほうは非常に少ない件数で、やはり相談の中で未然に防がれたということだと思います。その他というのは結構ありますけれども、やっぱり菊池市は割と優秀じゃなかったかと思います。ひょっとすると、うちの家内がこの１人になっとったかもしれないんですけれども、危ないところでございました。

福岡県では被害防止活動として、官民組織でニセ電話気づかせ隊推進委員会が発足し、県民ぐるみで偽電話詐欺対策に取り組んでいるということを伺いました。これは、全国初の試みで注目を集めております。福岡県ではことし７月までの被害件数が昨年の２倍だったそうです。医療費還付金詐欺のほかに、家族を装って自宅以外の場所に呼び出し、現金を受け取るおびき出し型の被害が目立っているとのこと。こうした実態を踏まえ、福岡県警では被害を防ぐにはだまされない力をつけたり、だまされている人を周りでとめるなど、犯罪に対する社会の抵抗力の強化が必要と指摘し、気づかせ隊はこの指摘に応えるためのもので、高齢者への声かけや異変があった際の警察への通報、詐欺被害防止に向けた広報啓発に取り組んでおられます。

この内容は、県や福岡市、北九州市、県警、各種団体などで構成されており、金融機関や、また配送業者、コンビニといった企業団体に対して気づかせ隊の登録をしてもらうということです。そして、その登録をして、なお、例えばその隊員が県内で５０万円以上の被害を未然に防いだ場合は感謝状と３，０００円相当のお礼の品物が来ると。そして、団体には表彰があるというようなことで、ちゃんとそのやった功績も認めながらされているということです。

この詐欺師にとって一番邪魔なものというと、やはり家族のような存在で、詐欺被害に遭いやすい高齢者を地域でかかわりを持って守ることが、今の社会でもとても重要なことではないでしょうか。本市として、市ぐるみでできる特殊詐欺撲滅運動をしていく計画があるかを質問させていただきます。

また、詐欺に限らず、先ほどメール等でネットとか、そういうところでいろんな被害、トラブルが後を絶たないということを言われておりました。そういうことで、今、消費者生活センターは全国で７６３カ所あり、そのほか全ての市町村に消費生活相談窓口を設けられておりますが、よりアクセスしやすくするために７月から全国どこからでも局番なしで「１８８」で最寄りの消費生活センターにつながるようになっているということをお聞きしました。このことはまだ市民に知られていないようですが、市民に周知する必要があると思いますけれども、このこともあわせて質問をさせていただきます。２点お願いします。

○議長（森　清孝君）　健康福祉部長、木原雄二君。

［登壇］

○健康福祉部長（木原雄二君）　振り込め詐欺等の対応策といたしましては、市民の皆様に最新の詐欺の情報を正しく理解していただき、怪しいと感じましたら警察、あるいは菊池市消費生活センターへいち早く相談していただくことにより被害を未然に防ぐことが大変重要なことだと考えております。

本市では、詐欺被害に遭わないための注意喚起やさまざまな情報を広報紙、チラシ、パンフレット及び防災無線やホームページへの掲載により周知活動を行っており、あわせて消費生活出前講座を開催いたしまして、各地区公民館、福祉施設、小・中学校、高校を巡回し、情報提供、あるいは啓発を行っているところでございます。今後とも市民の皆様の相談窓口であります菊池市消費生活センターの周知を図ることによりまして、菊池市消費者被害防止ネットワークによる各種団体等の連携を図りながら、注意喚起、情報提供による被害の未然防止に努めてまいります。

今、議員の紹介がありました局番なしの「１８８」ということにつきましても、今後、菊池市消費生活センターの周知に向けて一層努力をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１５番（泉田栄一朗君）　ぜひ注意喚起、いろいろな広報等で詐欺件数が少なくなるように努力をしていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。以上です。

○議長（森　清孝君）　ここで１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

休憩　午後１時４６分

開議　午後１時５７分

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　皆さんこんにちは。会派、創成会の出口一生です。先週、農産物販売店に買い物に行きました。台風の影響で、野菜、果物の出荷が大変少なくなっておりました。商品が少ないにもかかわらず、いつもと変わらない販売価格です。驚いたのは、台風の影響のため、野菜、果物に被害が出て商品か不足しておりますので、一家族様１袋の商品のお求めをお願いしますと「ポップ」での、農家の

方、販売者の方の来店者への思いやり、心配りでした。改めて、私も市議会議員として、市民の方の生活が一番であると思いました。台風により被害を受けられた農家の方、市民の方にお見舞いを申し上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

まず初めに、旭志幼稚園閉園施設の利活用と管理についてお尋ねをいたします。

１番、閉園となった施設について、地域住民との利活用に係る協議やその後の利活用についてはどうなっているのか。

２番目、施設の管理はどこで行っているのか、質問いたします。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　お尋ねの旭志幼稚園の件でございますけれども、残念ながら本年３月をもって閉園ということになったわけですが、その利活用につきまして、早速４月から、教育委員会としましては、旭志地域の議員さん方、そして教育委員さん方との意見交換会を開催しまして、ご意見を伺ったところでございます。

その後、７月には旭志区長会のほうにお邪魔をいたしまして、その意見交換会の報告も行い、あわせて区長の皆様方から幼稚園跡地利用についてのご意見など、お伺いの機会をつくったところでございます。いずれの協議におきましても、具体的な利活用案を決定するまでには至りませんでしたが、旭志地域の施設であり、地域の活性化につなげる施設として利用したいという考え方は一致したということでございます。

その後、最近になりまして、新明保育園のほうから地元に貢献したいと前向きに利活用を考えておられる情報をいただきましたので、詳しくお話をお伺いいたしまして、先般、企画書のほうをご提出いただいたというところが現状でございます。これを受けまして、教育委員会としましては旭志地域住民のための利活用を第一と考えておりますことから、仮称ではございますけれども、跡地利用の検討委員会のようなものを設置しまして、今回いただきました新明保育園からの企画案やその他の活用もあわせて検討をしながら、できるだけ早い時期にとりまとめていきたいというふうに考えておるところでございます。

２点目の施設の管理につきましては、教育委員会、学校教育課で管理をいたしております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。旭志幼稚園は平成１３年に開園です

が、まだまだ新しく立派な園舎でございます。

きのう地域の方から、高齢者が生きがいを持ち、お互いにかかわっていきいきと暮らせる地域社会をつくるために、園舎を地域の高齢者の皆さんが集える場所、宅老所などに活用してくださいとの意見をいただきました。

また、旭志には３つの保育園があります。７月に、その中の保育園の先生とお会いする機会がございました。２つの保育園では、今現在、学童保育をされているとのことでした。旭志幼稚園は、小学校に隣接しているので、ぜひとも早く旭志幼稚園園舎を学童保育施設として利用してほしいと言われておりました。また、そのことは、先ほども言われましたが、２つの保育園で行政に申し入れているとも言われておりました。

旭志幼稚園は、１年前倒しで閉園となりました。３月に閉園してまだ５カ月しかたっておりませんが、菊池市の統廃合になった小学校の中には、その後の利活用がまだ決まっていないところがございます。幼稚園園舎は、今は８月の台風被害での不燃物、廃棄物置き場として利用されました。管理についてですが、子どもたちが通っているときは、一定の除草など管理されていましたが、子どもたちがいなくなってしまうと荒れ放題となっております。火災が起きたりしたら、周辺住民も大変心配されます。地域の要望を入れて、早急に利活用をしていただきたいと思います。また、別な意見として、財産処理で払い下げ、売却等をしてはという意見もいただきました。

改めて再質問をいたします。

先ほど保育園のほうから利用価値というか、そういうのをされているということですけれども、４点、ほかのことでつけ加えてお聞きしたいと思います。

まず第１に、高齢者の皆さんが楽しく集える場所としての利用、学童保育施設としての利用、財産処理で払い下げ、売却をしての利用、また、先ほどお昼の時間に、地域の文化関係の方が練習場とかそういうのに貸し出しをしてほしいという意見をお聞きしましたもので、その４点で質問をしてみたいと思います。お願いします。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　ただいま議員のほうから４点についてのご質問がありましたが、その中の２点目にご紹介いただきました保育園の学童施設としてのご利用につきましては、先ほど私が申し上げた件でございますので、これは省略をさせていただきたいと思いますが、高齢者の施設、それから払い下げをすると。それから、文化活動の一環としてということだったろうと思いますが、それにつきましても、貴重なご意見ということで本日承っておきたいと思います。先ほど私のほうでご紹

介しました、地元の皆様を中心とした検討委員会の中で含めましてご検討をさせていただければと思っております。

それから、先ほど議員のほうから台風１５号に関する、今資材置き場として確かに使っておりますけれども、先ほど言いましたが、管理につきましては教育委員会のほうでやっておりますので、草が伸び放題にならないように除草作業等も行っておりますので、あわせてご説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。早急な利活用をお願いしたいと思いますけれども、いろいろな検討会議がございますけれども、利活用する時期としては、来年の何月とか、利用する期間の利用目的の最終的な時期をもしよければ、いつまで検討しますということを教えていただきたいんですけれども。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　先ほどご答弁しました検討委員会をまずつくらなければなりませんので、今月の１８日に市の教育委員会会議を開催する予定でおります。そこにその要綱たるものを諮りまして、教育委員会会議のご了解も得た上で検討会議を発足ということになりますので、そこの中で慎重審議をやっていきたいと思っております。したがいまして、跡地の活用についての時期というものは、今ここで申し上げられませんので、ご了解いただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。

次の質問に移ります。

熊本県の平成２６年度の交通事故件数は７，５８４件の事故。負傷者数９，６５０人、死傷者数７６人でございました。自転車事故発生状況は８３５件、負傷者数８１６人、死傷者数１０人でございます。いまだに根絶していない飲酒運転、社会的に関心が高くなっております自転車利用者のルール、マナーの問題など、交通安全対策の問題は山積しております。

ご質問いたします。

小・中学校の交通安全教育は、どのように行われていますでしょうか。小さいころに交通安全の知識を身につけ習慣化することは、交通事故を防止する上ではかり知れない効果があると思います。交通安全教育が目的の自転車クラブを小学校につ

くれないか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　部活動としての自転車クラブをつくれないかというご質問だったと思います。

最初に、市内小・中学校におけます交通安全教育の取り組みについてご紹介をさせていただきたいと思います。

小学校では、毎日、下校前に行う帰りの会、その中や、夏休みなどの長期休業前に交通安全教育を行っておるところでございます。また、小学１年生に対しましては、入学してしばらくの間は学校になれるまで先生が集団下校に付き添って、危険箇所ごとに交通安全指導をしておるところでございます。公道での自転車の運転が許可をされる小学３年生に対しましては、学年行事の中で自転車教室を実施しております。

一方、中学生になりますと、学校の通学で自転車通学が始まります。したがいまして、４月に自転車点検を行いまして、年間を通して登下校時や適宜交通安全指導を実施しておるところでございます。

そのほかにも、小・中学校では毎年、年度の初めに交通安全協会のご協力をいただきながら、学校主催の交通安全教室を開催しておりまして、さらに各家庭へ配付する生活指導のプリントにも交通安全に関する指導事項を記載しているところでございます。本市では、ただいまご説明をいたしましたように、小・中学校児童・生徒に対する交通安全教育の推進に努めているところでございますので、議員からご紹介がございました部活動としての自転車クラブの新設につきましては、現在のところ考えていないところでございます。

しかし、その反面と言っては何ですが、部活動ではございませんけれども、菊池地区交通安全協会と菊池警察署の主催によりますところの、交通安全子ども自転車大会が毎年開催をされております。この大会では、自転車の運転等の実技と交通規則等を問う学科試験が行われております。子どもたちの交通安全意識の高揚につながる事業と市では認識をいたしておりますので、今後は、この大会にも力を入れていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。私は、交通安全協会の役員を務めております。子どもたちの交通安全教育は、自他の生命の尊重という基本理念に立っ

て、子どもたちの心身の発達段階や地域の実情に応じ、家庭及び地域社会との連携、協力を図りながら行っていかなければならないと考えております。先ほど部長がおっしゃったとおり、交通安全と自転車の技術向上を狙いとした第４２回交通安全子ども自転車菊池大会がございました。出場した学校は菊池市内の小学校１０校のうち４校と大変少ない、寂しい大会となりました。また、県大会も行われております。県大会での優勝は、お隣の山鹿市立山内小学校でした。全校生徒４９人の、来年には統合になる小さな学校です。小さいころに交通安全の知識を身につけ習慣化することは、交通事故を防止する上ではかり知れない効果がございます。さらに、この競技はチーム競技ですので、仲間とのきずなが欠かせません。これまで多くの小学生が仲間と協力し、励まし励まされながら、汗と涙と感動を手にしてきました。競技内容は、主に交通の規則や自転車の安全な乗り方などの実行テストでございます。余談ですが、２００８年９月、神戸で小学５年生の男子児童が坂道を下って散歩途中の女性に衝突をして、女性は頭を骨折し、意識が戻らずという事故が起こっております。自転車事故でも、母親に９，５００万円の損害賠償という事故がありました。小さな学校でも、安全教育が目的の自転車クラブを行っているところも本当にたくさんございます。安全を教えるのは学校でございます。ぜひとも、子どもたちの交通安全のために、市内の全小学校が取り組んでいただきたいと思います。

次の質問に移ります。

次に、３番、家庭からの可燃ごみ収集についてお聞きします。

可燃ごみの収集については、これまで議会定例会や常任委員会等で質問があっておりますが、以下の点についてお尋ねいたします。

菊池地区、七城地区、旭志地区、泗水地区と、地区によりごみの収集方法が違っていると聞いております。４地区のごみ収集方法の違い、ごみ袋に記名をしているか無記名であるか、４地区の収集業者、全菊池市２１１行政区のごみステーション、ごみ収集所の数をお尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　それでは、出口議員のご質問にお答えします。

まず、収集方法についてでございますけれども、先ほど議員が言われましたように、ごみの収集、または分別等につきましては、合併前の旧市町村の状況をそのまま引き継いで行っている状況でございます。

まず、菊池地区、七城地区、旭志地区につきましては、合併前の菊池広域行政事務組合からの流れを引き継いでおりまして、袋ごみ収集等を行っているところでございます。また、泗水地区につきましては、菊池環境保全組合の中で処理を行って

いるという状況でございます。

まず、その菊池地区、七城地区、旭志地区の袋ごみ収集についてでございますけれども、菊池地区は、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみというようなごみ袋で収集を行っております。それに合わせまして、９種分別ということで、資源ごみに該当する９つの種類に分けて毎週日曜日に各地域で収集をお願いしているところです。

また、七城地区につきましても、通常の袋ごみとしまして可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみということになりますが、資源ごみにつきましては、区が指定した場所により拠点回収ということで、１１種類の分類に分けて収集をしているところです。

旭志地区につきましては、通常の袋ごみ収集ということで可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、という３つの種類に分けて回収をしておりますが、資源ごみとの拠点回収等の処理は行っておりません。

また、泗水地区につきましても、袋ごみ収集につきましては、可燃ごみと埋め立てごみということになりますが、資源ごみについては細かく分類をして袋収集をしているという状況でございます。

次に、袋についての名前の記載ということでございますけれども、袋ごみには名前を書くように用意しておりますが、旭志地区において可燃ごみに氏名の記入をお願いしているということでございます。このことにつきましては、旭志地区で可燃ごみに不燃ごみ等が混入するなど、処理に支障を来すというようなことを防ぐために、地域の皆様の発案によって記入を義務化ということにしたものでございます。ほかの地域についても、氏名の記入について協議は行ってまいりましたが、個人情報の保護の観点から反対意見が非常に多く、氏名記入までは至っていない状況でございます。

あと、ごみステーションの数につきましては、今手持ちで資料が設置の数が把握できていませんので、後ほどまたお答えさせていただきたいというふうに思います。

あと、ごみ収集事業者につきましては、それぞれの地域で委託契約を結び業務を行っており、菊池地域が３社、七城、旭志、泗水地域が各１社、合計６社で業務の委託をお願いして行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　すみません、もう一度、記名、無記名の地区というか、旭志地区は記名すると今言われましたけれども、ほかの３地区は記名はしていないんでしょうか、すみません。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　袋ごみへの氏名の記入につきましては、旭志地区において可燃ごみのほうに記入をお願いしております。ほかの地区につきましては、泗水地区の一部において埋め立てごみ、あと、資源ごみのＪという廃プラスチックの分については地域によって記入をお願いしていましたが、現在ではその辺がまだ徹底していない状況でございます。

先ほどは、私のほうで各地区の資源ごみの収集について毎月と言いましたが、資源ごみについては月に２回に変更をしておりますので、訂正させていただきます。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。私の家では、トイレ掃除と風呂掃除と、また、ごみ出しは私の重要な担当任務となっております。特にごみ出しについては、１、きちんと分別して出す、２、区で決められたごみステーションに出す、３、収集日の日にちや時間を守る、４、決められた袋で出すというように、ごみステーションに看板が設置してありますので、きちんとルールを守って出しております。

また、平成２７年度菊池市旭志ごみ収集カレンダーには、ごみ袋に氏名の記入のないものは収集しませんと大きく書かれております。私の地区にも、ごくまれに氏名の記入漏れがあり、「氏名の記入がありませんでした」と書かれたシールを張られたごみ袋が収集されずに残っているときもございます。旭志地区は特別に書くようにということを今言われましたけれども、その話は初めて聞きました。無記名と言われましたほかの地区、旭志地区のように名前が書いていないごみは、シールを張られてごみ袋を収集せずにほかの地区は残してあるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　ごみ袋への氏名の記入につきましては、今言われましたように旭志地区で行っておりますが、収集業者のほうが記名をされていない袋については、そのごみステーションに残すということで、今言われましたようにそういうきちっとしたルールを守るということでごみ袋を収集しないということで、地元でまたその辺の啓発を進めているというところでございます。

そのほかの地区につきましては、記名をしていないということで、記名がなくても全てのごみは持っていくようにしております。ただし、分別がきちんとできていない、内容を見て可燃物の中に不燃物が混じっているとかいう場合には、そのまま

ごみステーションに置くと。そして、きちんと整理をして出し直してくださいというシールを張るように今指導をしているところでございます。

先ほど私のほうでまた修正をさせていただきました資源ごみについてですけれども、ちょっと各地域で収集回数が違っておりましたので、訂正をさせていただきます。

資源ごみにつきましては、菊池地区が月に２回、七城、旭志、泗水につきましては、月に各１回ということですので、訂正させていただきます。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。私は、エコ・ヴィレッジ旭の地元に住んでおります。施設を何度か見学に行っております。見学のたびに、いたずらではないかと驚くことがございます。可燃ごみの中に大きな石や金属が混入しております。施設職員の方の説明では、可燃ごみの自己搬入の際には、施設の職員の方がついているので、このような異物混入は考えられないと言われました。ですから、考えられるのは、ごみ袋の収集時ではないかと思われます。記名があれば、いたずらや異物混入も防げると思います。いたずらや異物混入がなければ、多額の施設の修繕費もかかることはございません。今、先ほど言われましたように、旭志地区は特別に分別が悪かったら残してあると言われましたけれども、名前が書いていないものも残してありました。

またお尋ねをいたします。

菊池地区では、ごみステーション、ごみ収集場所が決まっていないと聞いております。歩道や家の前に点々と置いてあるところがございます。せっかくのすばらしい景観を損なっているように思われます。なぜ、菊池地区にはごみステーション、ごみ収集場所を設けることができないか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　お尋ねの路上収集についてお答えいたします。

菊池地区の、特に隈府地区を中心として、街中での袋ごみ収集につきましては、路上回収を行っているところです。路上回収をしている場所につきましては、各地区において、区長さんや生活環境推進委員さんと協議しながらごみステーションの設置をお願いし、各地区でもその場所の確保に努められてきましたが、当然、共有する場所ということで場所の確保が難しい。あとは当然においとか、あとの管理という面で、非常に苦慮されて、設置する場所がなかなか見つからないということで現在に至っているところでございます。

また、ごみステーション設置につきましては、菊池市でもごみステーション整備補助金交付要綱に基づきまして、行政区が設置する場合においては１ステーション当たり２分の１で、限度額５万円の補助を行っております。今後も市民の皆様にご理解をいただきながら、各地区におけるごみステーションの設置を推進してまいりたいというふうに考えております。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。エコ・ヴィレッジ旭は、平成１６年度から稼働をしております。平成３３年から菊池環境保全組合の施設のもとでごみ処理が行われます。菊池環境保全組合の環境型社会形成推進地域計画の中に、新たにエネルギー回収推進施設を整備することによって、施設の集約を図り、ごみ処理に伴って得られるエネルギーの回収を行うことで、循環型社会に寄与するとともに、広域的な処理により、ごみ処理の効率化を図っていくとうたわれております。既に合志市や菊陽町では、ごみ収集には記名をして決められた場所にてごみ収集が行われております。合併をして１０年がたちますが、いまだにごみ収集ルールが地区によって違っております。ごみ収集のルールは小さなことかもかもしれませんが、菊池市もごみ処理の効率化を図り、循環型社会に寄与していかなければならないと思います。今までできていなかった菊池地区のごみステーション、ごみ収集場所を早急に設置しなければならないと私は思います。

昨日の水上隆光議員の一般質問の市長の答弁の中で、住みやすさ日本一、暮らしのよさ、市民力の結集、桜並木と、耳ざわりの特にいい言葉がありました。

また、荒木崇之議員の隈府中央線の今までの経費と今後の計画についての一般質問で、建設部長の答弁において、地域の期待、投資が無駄にならないよう、機能的な整備計画などと答弁がございました。市民生活の上で道づくり、道路整備は大変重要な必要インフラでございます。今、設置してあるゴミステーションも市民の皆さんが知恵を出して地区の中の公民館の近くや民家にお願いして設置してあるものもございます。

再度質問いたします。

菊池地区の中で、旭志地区が特別に名前を書いて申し合わせと言われましたけれども、その場合、持っていかれるごみは、中のほうに不燃物やそういう機械を壊すものは入っていないと思います、今の答弁ではですね。早急に菊池地区のごみステーション、ごみ収集場所の設置をお願いして、平成３３年度からのごみ収集が統一をされたルールになると聞いておりますけれども、今のままでも全然統一がなっていない状態ですら、平成３３年以降、大変心配を感じております。特に、ＲＤＦ

施設は、私の地元で最終的に受け入れましたけれども、本当に大変な問題で、区民を二分するような意見も出ております。最近、２年延長ということで、菊池市のためだったら仕方ないということで、環境保全のお金も２年間いただくようになっておりますけれども、先ほどの答弁によります菊池の中で旭志地区だけがそういう決まり事をして確実に守っておられますけれども、ほかのところも、もっともっとルールを守っていただくように。そうすれば、本当に工場内の修繕のお金もかからないと思います。

いま一度早急に菊池地区のごみステーション、ごみ収集場所の設置についてお聞きいたします。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　ただいま議員が言われましたように、ごみ袋の収集、方法については各地域で今異なった方法で行っておりますし、氏名の記入についても地域では行っていないのが現状でございます。

先ほど議員のほうからありましたように、菊池環境保全組合の新環境工場が平成３３年４月から稼働ということで、菊池市全域加入ということになっております。菊池環境保全組合で行っているごみの分別方法というのは、現在、泗水地区で行っている方法でございますが、今度新しい新環境工場の処理方式が確定し、あと、それに伴うごみ分別の方法がまた若干変わる可能性もございます。このごみの分別方法につきましては、環境保全組合の関係市町のほうで協議をし、どのように分別していくかというのを今後決定していく予定でございます。この方法が決まりましたら、また市民の皆様には分別方法について周知をしていき、時間をかけて計画的に進めてまいりたいというふうに考えております。あわせて、先ほどありましたように、ごみステーションの設置のほうにも力を添えて、各地域の皆さんに協力していただきながら推進してまいりたいというふうに考えております。

また、先ほど１回目の質問の中でごみステーションの数ということでご質問がありましたけれども、数字の確認が今とれていませんので、後ほどまた確定しましたらご報告させていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　出口一生君。

［登壇］

○５番（出口一生君）　ありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（森　清孝君）　以上で本日の一般質問は終わりたいと思います。

あしたも引き続き一般質問となっております。

本日はこれで散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――――― ○ ―――――――――――――――――――――――

散会　午後２時３５分

第　４　号

９ 月 １０ 日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

平成２７年９月１０日（木曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん
７番	松　岡	譲　君
８番	荒　木	崇　之　君
９番	柁　原	賢　一　君
１０番	工　藤	圭一郎　君
１１番	城	典　臣　君
１２番	大　賀	慶　一　君
１３番	岡　﨑	俊　裕　君
１４番	水　上	彰　澄　君
１５番	泉　田	栄一朗　君
１６番	森	清　孝　君
１７番	樋　口	正　博　君
１８番	木　下	雄　二　君
１９番	山　瀬	義　也　君
２０番	境	和　則　君

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江頭　実君
副市長	木村利昭君
政策企画部長	小川秀臣君
総務部長	馬場一也君
市民環境部長	倉原良則君
健康福祉部長	木原雄二君
経済部長	松野浩一君
建設部長	櫨川博久君
七城総合支所長	楳田邦昭君
旭志総合支所長	水上満弘君
泗水総合支所長	上田譲二君
財政課長	中村喜範君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳永孝博君
市長公室長	上田俊介君
教育長	原田和幸君
教育部長	松岡千利君
農業委員会事務局長	原　和徳君
水道局長	藤本辰広君
監査事務局長	松永隆則君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　主一君
事務局課長	徳永裕治君
議会係長	松原憲一君
議会係	安武則貴君

○議長（森　清孝君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（森　清孝君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

ここで発言の申し出があっておりますので、これを許します。

市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　おはようございます。昨日の出口議員の一般質問の中で、菊池市のごみステーションの設置数のお尋ねがございましたが、お答えできませんでしたので、取りまとめた数のほうをお答えさせていただきます。

まず、菊池地区につきましては、路上収集を除く地域として３８４カ所、七城地区６４カ所、旭志地区が８１カ所、泗水地区が３４６カ所、合計の８７５カ所でございます。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　以上です。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（森　清孝君）　続けて、日程第１、一般質問を行います。

初めに、東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　皆さんおはようございます。議席番号２番、日本共産党、東奈津子です。

まず最初に、８月２５日の台風１５号では、ここ菊池市にも大きな被害をもたらしました。被害に遭われました皆様には心からお見舞いを申し上げます。

それでは、通告に従って質問を行います。

まず最初に、マイナンバー制度についてです。

日本に住民票を持つ赤ちゃんからお年寄りまで全員に生涯変わらない１２桁の番号をつけ、国が管理し、税や社会保障の手続きなどで使用するマイナンバー制度の本格的な実施が迫っています。現在は、年金や税金、住民票などの個人情報は公的機関ごとにそれぞれ管理されていますが、マイナンバー制度では、この情報を一本

に結びつけることが可能となります。行政側からすれば、国民の所得、社会保障給付の状況を効率よく把握できる反面、国民にとっては、分散していた個人情報の収集を容易にするマイナンバーが一たび外部に漏れ出せば、悪用され個人のプライバシーが侵害される危険は飛躍的に大きくなります。１０月からの番号通知カードの発送、来年１月からの運用開始という予定が目前に迫っているにもかかわらず、多くの国民は制度を詳しく知らず、むしろ情報漏れの不安を広げています。内閣府の最新の世論調査で、マイナンバーの内容を知らない人が半数以上という結果でした。

また、ことし６月には日本年金機構から１２５万件の個人情報が流出するという事件が起きました。年金機構のような公的な機関がマイナンバーを保有するから安全だという安全神話が根底から崩された事件でした。マイナンバーの情報が流出した場合、被害の大きさと深刻さははかり知れません。

そこで、まず最初にお聞きしたいのが、菊池市での準備状況とセキュリティ対策についてです。

具体的に３点お聞きします。

１点目は、１０月５日、来月、通知カードの発送状況についてです。特に、ＤＶ被害者など実際に住んでいるところに住民票を置くことのできない方への対応はどうなっているでしょうか。

２点目は、セキュリティ対策についてです。住民基本台帳などの個人情報を保管している基幹系ネットワークとインターネットにつながっている情報系ネットワークが分離されているかどうかという点です。

基幹系ネットワークと情報系ネットワークが遮断されていなければ、基幹ネットワークも情報系ネットワークを通じてインターネットでつながることになります。それは、不正プログラムによる攻撃で基幹ネットワークが保有している個人情報が流出する危険があります。これは基本中の基本ですが、総務省は年金機構の流出事件を受けて、この基幹系ネットワークと情報系ネットワークの接続について、１．物理的に切断された通信不可能な状態にするか。２．もしくは基幹系ネットワークと情報系ネットワークを共有端末で使用する場合でも、論理的切断と言われますが、一方のネットワークのみの利用とする設定などの対策を講じることを求めています。菊池市では、このネットワークの接続状況の安全対策はどうなっているでしょうか。

３点目には、市民の方からの問い合わせに対する市の体制についてです。

１０月の通知カードの発送以降、役所の窓口には多く来庁者が訪れ、通知カードについてまだ届かない、なぜ送られてこないのか、カードはどのように使うのかなどの問い合わせが殺到することが予想されますが、市としての対応、体制はどうなっていますか。

質問の２つ目は、市長にお聞きします。マイナンバー制度の危険性、問題点をどう認識していらっしゃいますか。また、情報漏洩など根本的な問題を抱え、実務面でも大きな課題が残されているマイナンバー制度は、このままスタートさせるべきではない、国に中止を求めるべきと考えますが、見解をお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　市民環境部長、倉原良則君。

［登壇］

○市民環境部長（倉原良則君）　それでは、私のほうから１点目のＤＶ被害者を含む発送準備状況と、３点目の問い合わせの対応体制ということについてお答えさせていただきます。

マイナンバー制度は、今、議員からご説明がありましたように、住民票を有する全ての方に対し１２桁の個人番号をつけまして、社会保障、税及び災害対策の３つの分野で利用するものでございます。

１点目の現在の準備状況でございますが、国が定めたスケジュールに従いまして、関係するシステムの改修を順次行っております。また、先ほどありましたように、１０月より発送します個人番号通知カードの発送情報の登録というのを今現在、行っているところでございます。この通知カードを受領され個人番号カードが必要とされる方は、ご自分で地方公共団体情報システム機構へ申請を行って、来年１月に市役所の窓口で個人番号を受け取ることというふうになっているところでございます。

また、ＤＶ被害者の方への発送の方法につきましては、当然住所の漏洩などあってはならないことということで考えておりますので、市としましては、個別に被害者の方へ連絡をいたしまして、発送方法を確認するという方法をとるところでございます。

３点目のカードについての問い合わせにつきましては、数多くあるということを予想しております。現体制のまま市民課で行うということになりますので、窓口業務の通常業務を行いながらということになることで、事務補助を行うための臨時職員などを配置して、混乱を生じないように対応していきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　皆様おはようございます。東議員の質問の２点目でございます。セキュリティ面での基幹系システムと情報系システムの分離状況についてお答えさせていただきます。

本年８月１２日に総務省が所管します自治体情報セキュリティ対策検討チームの中間報告で、先ほどおっしゃいましたように、１０月５日からのマイナンバー通知開始を前に、特定個人情報の保護の強化としまして、「庁内の住民基本台帳システムがインターネットを介して不特定の外部との通信を行うことができないようにすることが望ましい」と報告されております。

本市では、現在、いわゆる基幹系システムとインターネットなどの情報系システムが同一端末、パソコンで共有した運用を行っているため、市ネットワークの基幹系と情報系の分離を行う必要がございます。このため、県や近隣の市町の状況を確認しながら、市民課や総合支所の窓口等で現在使用のパソコンなどの端末を共有から基幹系と情報系に限定し、住民記録を扱う端末ではインターネットができないようにするといった措置を行うように、１０月５日の実施に向け作業を進めているところでございます。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆様おはようございます。マイナンバー制度に関する私の考えというご質問でございます。

マイナンバー制度につきましては、情報化社会の中で必要不可欠であり、その活用にもさらに期待されるものが大変大きいというふうに感じております。ただ、制度導入に当たりましては、今、議員ご指摘のように、個人情報の漏洩の問題あるいは他人のマイナンバーでの成り済ましなど、さまざまな課題が心配されているということも大変認識しております。そのために、今、国、県のレベルでもさまざまな措置を講じてきておりますし、また、当市としても、それを受けて、必要な措置を、対応案を今、具体化してきているところでございますので、十分これに対応できるものと考えているところでございます。

以上のことから、本制度については、国が示すスケジュールに基づいて引き続き国、県と連携しながら万全を期して取り組んでまいりたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　まずセキュリティの点ですが、答弁を聞きますと、基本的には遮断ということではありますけれども、事前にもう既にお聞きしていますが、菊池市の遮断というのは物理的遮断ではなく、論理的な、政府でいう２番目の論理的な切断となっているということと思います。ぜひ安全を期していただきたいんで

すけれども、しかし、本来であれば、このような保護対策は番号づけを行う前にとられていなければならない、それがされていない。これが菊池市だけじゃなく、今、全国で問題になっています。既に私たち市民にはもう番号づけがされています。しかし、この保護対策がまだ途中であるというところに私は大きな危惧を抱きます。

そして、全国的に問題になっている特定個人情報保護評価というのがありますが、もちろん菊池市ももう行っており、ホームページ上でアップされておりますが、これは第三者によるチェックが制度化されておりません。菊池市の公表されている特定個人情報保護評価も第三者によるチェックを受けていないという状態です。あくまでも菊池市の行っている評価は自己チェックに過ぎないというところにも私は危惧を覚えます。

また、体制面でも市民課が窓口となるということでしたけれども、ぜひ人員の補充など万全を期していかなければならないと思います。

制度への問い合わせの対応はもちろんですが、心配するのは、今後引っ越し等で市民の方が住所変更が必要となると、この新住所というのは通知カードへの書き加え作業が行われます。これはかなりの事務量となると聞いています。これらの手続きを担う担当課にとっては、通常の業務に加え、この書き加えの事務量は膨大なものになります。マイナンバー制度による業務の効率化は、この点でも全く期待できずに、負担だけが大きくなると私は言ってもいいと思います。

９月３日には、２０１８年度から健康情報や銀行口座などとマイナンバーを結びつけるなど、民間分野へと拡大することを盛り込んだ法改定が成立をいたしました。適用範囲が広がれば広がるほど情報漏れのリスクは高まります。

市長の答弁では、危険性は認識しているが、情報化社会の中で必要不可欠ということでしたけれども、国民の支持や理解が広がらない制度を急ぐ必要はないと私は思います。延期しても市民には何の不利益もありません。マイナンバー制度は、税、社会保障の分野を初め、住民の個人情報、多くの行政手続きに関連しており、地方自治体の根幹にかかわる問題です。住民の不安が高まっている中で、スケジュールありきで進めるべきではなく、もう一度制度を根本から見直すことが必要だと思います。再度、地方自治体としてマイナンバー制度の実施中止の声を国に上げるべきであることを最後に述べて、次の質問に移ります。

次に、地方創生についてお聞きします。

まず最初に、先日の城議員の質問にもありましたが、改めて菊池市の地方版総合戦略の進捗状況をお聞かせください。

次に、真に地方再生を目指す立場での地方総合戦略の策定、新型交付金の活用について具体的に提案をいたします。見解をお聞かせください。

ご承知のように、国の総合戦略が定める政策分野の３番目に、若い世代の結婚・子育ての希望をかなえるというのがあります。私の６月の一般質問の中でも述べましたが、内閣府の調査で、将来子どもをさらに持つ上で不安に思う、この項目のトップは経済的な負担でした。同じ２００５年の内閣府の調査でも、少子化対策に関する子育て女性の意識調査で、経済的な措置で医療費の無料化を挙げた女性が半数を占めています。子育て支援の中心に子どもの医療費の無料化の助成の拡大を据えることは、多くの親御さんの願いです。

既に多くの自治体でこの新型交付金を活用して子どもの医療費無料化の拡充が進められています。全国で既に７４市町村がこの交付金を活用して子どもの医療費の助成の拡充を進めています。やはり親御さんが子育て支援として医療費無料化の拡充を望んでいるから、これだけの自治体が既に取り組んでいるのではないでしょうか。私はそう思います。

菊池市でも、地方版総合戦略の中に、この子育て支援をしっかりと位置づけ、新型交付金を活用して子どもの医療費の無料化の拡充、当面中学校３年生までの完全無料化の実現に足を踏み出していくことを提案しますが、見解をお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、東議員の１点目の進捗状況ということでお答えさせていただきます。

地方版総合戦略の進捗状況につきましては、城議員の一般質問において答弁しておりますので、詳しくは申し上げませんが、庁内組織における協議や住民アンケート調査の集計・分析を行っている状況であります。

戦略の検討組織として、本議会に菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の設置条例を上程している状況でございます。本年末を策定期限とし、総合戦略における基本目標の設定、基本目標ごとの施策の設定及び重要業績評価指標となりますＫＰＩの設定等、順次協議を進めていくこととしております。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、子ども医療費助成についての考え方を、地方版総合戦略への織り込み方の考えということでお答えいたします。

総合戦略の基本目標については、既に国、県におきまして、国においては「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という項目でありますけれども、県においてもほぼ同じような項目立てで基本目標の中に組み込まれているわけでございます。本市で設定する基本目標についても、国、県と連携する必要もございます

ので、同じような目標設定をしたいというふうに考えております。

また、昨年度末に策定されました第２次菊池市総合計画においても、施策１２におきまして「子育て支援の充実」との項目があり、重点項目に設定しているところでございます。

議員が要望されております子ども医療費助成については、この基本目標を実現するための一つの施策になるというふうに思います。

この子ども医療費助成についてですが、ご存じのとおり、県内でもいち早く当市では無料化に着手しているわけでございますけれども、議員のご指摘の分は、中学生までの医療費の完全無料化であろうと思いますが、これにつきましては、総合戦略の対象期間が５年であります。当然助成の財源としても５年間ということになりますので、総合戦略にかかわる交付金とした場合に、対象期間終了後の対応が必要となりますので、施策としては菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の審議を踏まえて、議論を尽くして判断をしていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　答弁の中で、５年後の財政措置終了後の対応というところでの、どうなるかわからないという答弁でありましたけれども、私は、人口の減少を食いとめて本当の意味で地方創生を目指すというのなら、全国の自治体を見習って、まずはこの交付金を足がかりにしてでも、子育て世代の一番の願い、経済的負担の解消に取り組むべきだと思います。結果としてこの５年の施策の中で子どもの人口がふえていく傾向が生まれれば、つまり、若い人の定住が進んでいけば、自治体の税収向上にもつながっていきます。逆に、この取り組みがどんどんおくれていけば、他の自治体への若い人の人口流出はさらに加速するのではないでしょうか。ぜひ推進会議の中でもしっかりと議論をしていただくと同時に、市長の総合戦略の中に子どもの医療費の無料化の拡充をしっかりと位置づけていただくことを要望しまして、次の質問に移ります。

次に、介護保険制度について質問をいたします。

ことし４月から介護保険制度始まって以来の見直しが行われました。利用者負担、保険給付の範囲など、介護保険の制度変更は多岐にわたっています。菊池市では来年４月から全面実施となりますが、今度の制度変更には大きな問題点を抱えており、介護保険利用者の生活を脅かすとともに、介護崩壊というべき事態を招きかねません。

まず１番目の質問は、既に実施をされている介護保険法改正の影響についてです。

具体的に３点について質問します。

ことし８月から、これまで一律利用者負担１割だったものが、合計所得１６０万円以上の方は２割負担に引き上げられましたが、菊池市での該当される方の人数とその影響等あれば、お聞かせください。

また、４月からは、特別養護老人ホームへの新たな新規入所者は、原則要介護３以上に限定をされましたが、制度改正以降の申請状況はどうなっていますか。お聞かせください。

また、８月から制度改正によって低所得者の施設利用の食費、部屋代補助の厳格化が実施されています。その結果、補助給付が打ち切られ、食費、部屋代が一挙に全額自己負担となり、施設から退所せざるを得ない人や、ショートステイの利用を控える人が出ることにつながりかねませんが、菊池市でのこの点での影響は出ているでしょうか。お聞かせください。

続けて、質問の２番目は、来年４月から実施をされる総合事業サービスについてです。

来年４月から、要支援者のホームヘルプサービス、デイサービスは、地域支援事業、総合事業に移行することになっています。この総合事業については、私の３月議会の一般質問で問題点、課題について述べていますので繰り返しませんが、私の立場は、要支援外しの総合事業は撤回すべきであります。しかし、実施が来年４月に迫る中で、総合事業に移行しても、現在のホームヘルプ、デイサービスを必要とする全ての要支援者が利用できるよう、自治体の責任を明確にしておくことが大事だと考えます。

そこで、以下の点についてお尋ねします。

１点目は、現行のサービスを継続していく上で問題となるのが単価です。厚労省は、国が定める額を上限として市町村が単価を定めるとしています。３月の一般質問でも確認しましたが、少なくとも現行の予防給付の報酬単価を事業所に保証すべきと思いますが、菊池市の来年４月からの報酬単価はどうなっているでしょうか。

２点目は、利用の入り口、市民の方の申請の手続きについてです。総合事業に移行することにより、介護保険利用の入り口である市町村の窓口で要介護認定の申請が抑制をされることが心配されます。総合事業が実施されると、窓口担当者は明らかに要介護認定が必要な場合は要介護認定の手続きにつなぐが、総合事業サービスのみを利用する場合には、この要介護認定を省略して、基本チェックリストを活用して振り分けを判断することになってしまいます。しかも、厚労省のガイドラインでは、その窓口担当者は専門家でなくてもよいとされていますが、菊池市の窓口には専門家の配置がされているでしょうか。

以上、お聞かせください。

○議長（森　清孝君）　健康福祉部長、木原雄二君。

［登壇］

○健康福祉部長（木原雄二君）　おはようございます。まず１点目の介護保険制度改正の影響でございますが、一定以上の所得のある方でサービス利用料がこれまでの１割から２割になった方は要介護認定者３，１４２名中１０６名、率にいたしまして３．４％となっております。７月下旬に負担割合証を発送いたしましたが、特にご意見はございませんでした。

次に、特別養護老人ホームの入所要件が原則要介護３以上となり、要介護１、２の方で特別の事情がある場合には、市の意見を参考に特例として入所が認められることになっております。現在まで２つの施設から８件の意見照会がございまして、入所についての考えを回答したところでございます。今後は施設ごとの入所判定委員会で入所の適否が判定されることとなります。

また、施設サービスを利用する際の食費や部屋代の負担限度額の認定要件の変更に伴いまして、認定却下となった方が７名おられます。また、提出書類がふえたことにより手続きが複雑になったというご意見がございました。

２点目の総合事業についてでございますが、訪問介護相当・通所介護相当のサービスにつきましては、菊池管内４市町間で協議を進めておりまして、これまでの介護予防給付の共通単価基準のままで統一できるように現在、調整をしているところでございます。

また、市の窓口にサービス利用相談があった場合、相談の目的あるいは本人の状況及び希望するサービスを聞き取り、必要なサービスにつなげられるよう支援することが大切なことと考えております。そのために、これらの対応が十分できる者を窓口に配置する必要があると考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　１番目の質問、既に始まっております介護保険改正についての影響ですが、市として数的なことについては、現在わかる範囲で掌握をされていると思うんですけれども、利用者の方への具体的な影響ですね、特にご意見はなかったと。もちろんスタートして間もないということもありますけれども、私はこの点での実態をつかむのが非常に弱いと思います。

私は先日、菊池市内の小規模通所介護施設に伺い、施設を運営されていらっしゃる責任者の方に今回の改正の影響についてお話を伺いました。責任者の方が言われ

ていたのは、やはり２割負担の問題です。利用者の中に今回２割負担の方がいらっしゃり、今回の負担に関して、不満と同時に今後のサービスが経済的に継続できるかどうか不安を抱えていらっしゃるとのことでした。そして、その施設では、１割負担のときでも月末になると利用を控える方がいらっしゃるとのことでした。

なぜかというと、毎月１０日に施設は利用者に請求書を発行します。そして、２０日前後が支払いの期限となり、支払いを終えた直後の月末というのは、利用者の方にとって経済的な心配が重く影響している。利用を控えるのではないか。責任者の方はこうおっしゃっていました。

菊池市のことしの４月の要支援１から要介護５までの介護度ごとの利用限度額に対する自己負担状況の割合の調査結果を見てみました。つまり、利用限度額に対してどれくらいの利用を市民の方がされているのかの調査ですが、それによると、要支援１、２に関しては、限度額に対して３割の利用しかありません。介護４に関しては７１％ですが、その他の要介護度では５割から６割の利用率です。もちろんさまざまな理由があっての利用率であるかとは思いますが、１割負担のときでさえこの状況です。全国的にも問題になっている、経済的な理由で利用を控えている、この実態が菊池市でも少なからずあると私は思います。それが２割負担となれば、利用者にとってどれだけ重い負担となって利用を控える事態につながることかと思います。

そこでお聞きします。利用者負担の増加に伴い、サービスの利用を控える人が出てくることが心配されますが、この点での市の見解をお聞かせください。また、こういうことも含め、今度の制度改正を受けて実態調査を行うべきと考えますが、どうでしょうか。

２点目の総合事業サービスについてですが、単価は従来どおりの方向で検討しているということでした。現行のサービスを後退させないためにも、この点はしっかりと実行していただきたいと重ねて要望します。

また、窓口の対応についてですが、まだ職員の配置については決まっていないとのことでしたが、介護保険利用者の要介護認定申請の封じ込めにつながらないようにするためにも、必ず専門職の職員の配置をすべきです。そして、窓口で相談があった場合には、まず振り分け前に認定申請を受け付け、市民の介護認定の申請権を尊重すべきと思いますが、その点はどうでしょうか。

また、総合事業へ移行した後、要支援の方のサービスの内容に大幅に事業費の安い無資格基準緩和の訪問型、通所型サービス（Ａ）というのがあります。要支援の方の受け皿として、このサービス（Ａ）の安易な市としての導入はすべきでないと考えますが、どうでしょうか。

以上、お聞きします。

○議長（森　清孝君）　健康福祉部長、木原雄二君。

［登壇］

○健康福祉部長（木原雄二君）　今回の介護保険法の改正に伴います費用負担の見直しにつきましては、サービスの利用に影響することが少ないと考えられる一定以上の所得のある方や、基準以上の資産のある方が該当となりますが、利用者ごとに状況が異なりますので、今後の動向を注視していきたいと考えております。

また、実態調査につきましては、３年ごとの高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画を策定する際に介護・福祉サービスに対する意向を含め、生活や健康状況などについての実態調査を実施しております。

今回の法改正は、費用負担の見直し以外にも改正点が多く、手続きが煩雑な点もあることから、ケアマネジャー、サービス事業所等との連携を密にいたしまして、サービス利用者を含め、市民の皆様の声に耳を傾けながら、これまで同様十分な周知と丁寧な説明に努めてまいりたいと考えております。

次に、総合事業につきましては、受け付け時に相談の目的や希望するサービスを聞き取りまして、明らかに要介護認定が必要な場合等は、要介護認定等の申請手続きにつなぐことになります。

また、総合事業サービスのみを利用する場合は、要介護認定等を省略いたしまして、基本チェックリストを用いて本人の状況やサービス利用の意向を聞き取りまして、迅速なサービスの利用につなげてまいります。

さらに、基本チェックリストの実施によりまして、要介護認定等の申請が必要と判断する場合もあると思われますので、市の窓口において十分な説明を行い、必要なサービスにつなげていきたいと考えております。

次に、生活支援やミニデイサービスなどの緩和した基準によるサービスである介護予防通所型サービス（Ａ）につきましては、事故発生時の対応や秘密保持など、国で定める必ず遵守すべき基準に基づき事業を適切に実施できる者に委託する予定でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　２割負担についてですけれども、ちょっと認識をはっきりさせていただきたいのは、一定の所得がある方が対象ということで、平たく言えば、お金持ちの方だから負担増は仕方がないという認識であるなら、これは私は間違っていると思います。今回のこの利用者負担の改正を決める国会の委員会の審議でも、

この改正の根拠は崩れています。その上で強引な改正でありました。そして、高齢者の方の今の生活の実態は、ゆとりがある方、そういう方はほとんどいらっしゃいません。ほとんどの方は貯蓄を取り崩してでの生活を強いられていると私は思います。そして、この利用者２割負担については、国に撤回を求めつつも、前年の合計所得という方式が生み出すさまざまな不合理、不利益に対しては、サービスの利用控えが起きないよう十分配慮した市独自の救済、軽減策をとっていただくことを要望します。

実態調査についてですが、周知徹底、説明を図っていくということでしたけれども、大事なことは、こちらから徹底するだけではなく、この改正による影響をつかんでいくということではないでしょうか。そうしなければ、具体的な対策は見えてきません。ぜひ調査を行うことを重ねて要望します。

また、窓口での申請手続きについてですが、本人の意向に合わせることはもちろん大事ですが、私がはっきりさせておきたいのは、総合事業サービスの利用を希望する場合でも、まず認定申請を受け付けた上で地域包括支援センターにつなぐようにすること、つまり、被保険者の認定の申請権を侵害するようなことはしてはならないということです。市町村の窓口を訪れる高齢者の方は、介護認定がどういう仕組みになっているのかも知っていられない方もたくさんいます。市の窓口の対応一つで介護認定の入り口を封じ込められるということがあってはなりません。この点はしっかりと行っていただきたいと思います。

最後に市長にお尋ねします。

３月の一般質問でもお聞きしましたが、総合事業実施に当たって、現行のサービスを質、量ともに後退させてはいけないと思いますが、市長の見解を改めてお聞きします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今後の介護サービス、質と量についてということでございます。

本市におきましても、高齢者の増加に伴いまして要介護認定者が増加しまして、介護保険事業費が年々増加しているわけでございます。そこで、総合事業により多様なサービスや支援策を充実させて、在宅生活の安心確保を図るということのみならず、高齢者の方の社会参加を促進するであるとか、元気な高齢者をふやしていくと。要支援状態からの自立を促進する。そして、重症化予防を推進するといったことを、現在、準備を進めておるところでございます。

介護保険事業に取り組むに当たりましては、これまでお答えしてきたとおり、介護サービスの質と量が現状から後退しないように努めてまいりますし、また、今言

いましたように、介護予防サービスにも力を入れていきたいと。そうすることで多様な生活支援の充実や支え合いの体制を構築して、介護予防や認知症施策を推進していきたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　社会参加を促進する、自立を促進する、多様な生活支援の充実、支え合いという答弁でしたが、私自身も元気な高齢者の方がボランティアに参加する、また、地域の方々の積極的なボランティア活動は重要であると認識していますし、その力を大いに発揮していただくことを期待しています。しかし、この住民ボランティアというのは、現行の専門家によるサービスのかわり、総合事業への移行先の受け皿としての位置づけであってはいけないと思います。あくまでも現行相当サービスを土台に、住民ボランティアの方は補完的、補助的な役割を果たす存在として位置づけることが重要だと思います。

介護保険制度をめぐっては、国から地方自治体へ現行相当サービス利用の抑制の方針が今、容赦なく出されています。今大事なことは、国のガイドラインへの追随ではなく、地域と介護現場の実態から出発することだと私は思います。

介護施設の職員の方から最後にこんなお話も伺いました。年金がどんどん減っていき、同居家族の方が援助して支払われているケースも珍しくなくなってきている。援助できる世帯はまだよいが、同居している家族の収入も現在は厳しい状況で、逆に若い世帯が親御さんの年金を当てにして同居をしているというところもある。そういう世帯で親御さんの介護の利用料が発生してくると、介護保険で生活が食われてしまう、そう言われる方もいらっしゃるとのことでした。まさに介護は、今、当事者本人だけでなく、家族をも巻き込んだ社会問題となっています。

政府は、２０１４年４月から消費税を８％に引き上げながら、今年度の予算では社会保障費は削減抑制し、その多くは介護保険の報酬引き下げや利用者負担増、そして保険料軽減の先送りに集中しています。その一方で、防衛費、軍事費の予算は増大し、実質５兆円を超える規模になっています。自治体が国の社会保障分野の相次ぐ改悪政策の下請機関になるのか、住民の暮らしの防波堤になるのか、私は、今ここが問われていると思います。

４月からの総合事業実施に当たっては、執行部の方も準備も含め大変かとは思いますが、住民の暮らし、福祉の増進を図るという地方自治体の役割を介護の分野でもしっかりと果していただくことを強く要望しまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時４４分

開議　午前１０時５７分

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、柁原賢一君。

［登壇］

○９番（柁原賢一君）　皆さんおはようございます。議席番号９番、柁原です。先月の台風被害に遭われました皆様に対して、お見舞いを申し上げます。また、本日は関東地方で、５０年に一度という大雨が降り、多くの河川で決壊が広がっており、その被害が大きくならないことを祈っております。

では、通告に従いまして質問をさせていただきます。

本日は、１番目に図書館建設について、２番目に空き家対策について、３番目に農業後継者支援について、以上３点について質問をいたします。

まず、図書館建設について。

文化会館隣のプール跡地に、１階を図書館、２階を公民館として、生涯学習センターが新しく建設されようとしています。新庁舎建設につきましては、先月、建設業者の入札も完了しましたが、生涯学習センター建設については、残念ながら再入札という結果になっており、さらに図書館のオープンがおくれるのではないかと懸念されます。

次の２点について質問します。

１つ、新図書館の館長は決まったのか。

２つ、新図書館の運営方針は決定されたか。

昨年１２月の私の一般質問の中で、この２点について松岡教育部長の答弁は、１、館長の選任については運営方針とあわせて考える。２、管理運営の方法については図書館運営の根幹にかかわる重要な課題であり、なるべく早い時期に方針を固めさせていただきます。また、準備室の設置についても、取り組みを加速してまいりますと答弁されています。あれから９カ月経過しております。日時のはっきりとした答弁をお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　おはようございます。それでは、柁原議員の２点の質問にお答えさせていただきます。

まず、１点目の図書館長についてでございますけれども、これにつきましては、平成２４年に文部科学省から告示されました図書館の設置及び運営上の望ましい基準というのがございますが、この中で、館長はその職責にかんがみ、図書館サービス、その他の図書館の運営及び行政に必要な知識・経験とともに、司書となる資質を有する者を任命することが望ましいとうたわれております。こうしたことから、１つには図書館の専門家であること、２つにはマネジメント能力があること、３つ目には対外交渉のコミュニケーションがとれること、以上の３つの要素を兼ね備えた人材を採用したいというふうに考えております。

２点目の運営の方針でございますけれども、教育委員会では、ことしの４月に生涯学習センター基本方針というものを策定いたしました。その中の第２章に、中央図書館の基本方針というものを掲げております。これは、図書館法、ユネスコ公共図書館宣言、それから先ほど申し上げました文科省の図書館の設置及び運営上の望ましい基準というものの理念に基づいておるものでございます。この基本方針を基にいたしまして生涯学習センター運営基本計画、これは素案の段階でございますけれども、現在策定作業中でございます。この中で、議員からご指摘をいただきました運営基本方針というものを盛り込むようにいたしております。

一部をご紹介させていただきますと、１つには、地域を支える情報拠点を目指します。それから、子どもの読書活動を支援します。それから、ふるさと菊池の歴史、文化を受け継ぎ、未来に伝えます。など、８つの柱を基本方針として策定作業中でございます。

なお、この運営基本計画に関しましては、図書館運営の根幹に当たるものでございますので、広く市民の意見をお聞きする必要があることから、今後パブリックコメント等を実施いたしまして、本年度中には策定を終えたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　再質問いたします。

本会議初日の工藤総務常任委員長の視察研修報告にもありましたように、８月中旬、札幌市に隣接する人口６万人の北広島市の図書館に行ってまいりました。平成１０年に建設された図書館の床面積は４，０００平方メートル。菊池市の新図書館は、その面積２，２００平方メートル、蔵書数３５万冊、１人当たり年間貸し出し冊数８．２冊、１日の来場者数１，０００人という規模で、ＪＲ駅前に芸術文化ホールと併設して建設されています。

図書館建設に当たっては、建設準備室を７年前に設置し、実施設計まで４年、建設オープンまでさらに３年間を要したとのことでありました。非常に準備に時間を費やして建設されていると感じました。これは松岡部長も同行していただいておりますので、この点についてはおわかりになると思います。

訪問しましたときは夏休みということもあって、学生の勉強スペースは満席で、特別に別の会議室を開放して対応され、盛況を呈しておりました。

また、運営に当たって１５のボランティア団体があり、約１５０人のボランティアの登録がなされ、当日もエプロンがけのボランティアの方が貸し出し本の返本処理を、自分の自由な時間を利用して本棚への返却をされておりました。

なぜ館長選定や運営方針を急がなければならないかについては、これまで図書館を考える会主催による全国的にも有名な２人の講演者の方。１人目は長野県小布施町の図書館長、花井裕一郎氏。２人目は佐賀県伊万里市の図書館長、古瀬義孝館長。お二人の講演の中で、館長の早期選任、準備の有用性の大事さを述べられており、全国各地でにぎわっている図書館全てだとは申しませんが、準備に十分な時間を割き、図書館の配置、各ボランティア室の設置などの検討がなされ、市民が満足する図書館の建設がされています。こういう理由からも、図書館長の選定を急がなければなりません。今年度中に方針を決定するということですけれども、新館長を選任するには条例が必要とのことですけれども、仮に平成２８年４月に選任するとするならば、いつまでに条例をつくる必要がございますか、お答えください。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　ただいまのご質問は、平成２８年度に館長を採用するとしたら、そのための条例整備がいつまでかということだろうと思います。

教育委員会としましては、ことしの１２月ぐらいまでには必要だという今判断を持っておりますので、その調整を今行っているところでございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　早急に条例の制定はお願いしておきたいと思います。

また、図書館の運営協議会の設置、これについての条例の制定というのも必要になってくると思いますけれども、これについてはいかがでしょうか。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　運営協議たるものの組織につきましても、当然、運営上大事な位置を占めるというふうに思いますので、必要ということに認識をいたしてお

ります。ただ、条例の制定につきましては、先ほど言いました館長のほうが優先するかというふうに考えますので、それとあわせて今後検討をさせていただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　来年の４月には館長が決まっているように、ぜひ努力をお願いしたいと思います。

また、図書館の建設に当たっては図書等の購入が必要になってくると思います。これについては、地元でぜひ行っていただきたいと思っておりますけれども、これについては、どういうふうな対応をされていますでしょうか、答弁をお願いします。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　ただいまの図書の購入についてでございます。今度建設いたします新しい図書館は、その使用に合わせたバーコードですとか、あるいはＩＣタグ、それからフィルム等、いわゆる特別な、特殊なといいますか、装備をつけて納品をされますことから、これに対応できる大手の図書流通業者を通じて購入することが一般的だというふうに思われます。しかしながら、地場産業育成の観点というものもございますので、地元業者から購入できるものは、可能な限り地元業者のほうから調達をしたいというふうに考えております。何せ本の数がかなりの数に上りますので、その辺も考慮しながら進めさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　ありがとうございます。地場産業の育成という観点から、ぜひ地元からの購入ということでお願いしたいと思います。

よりよい図書館づくりのためにも、これから市民団体の協力が必要になってきます。また、市民と一緒になってつくっていく新しい図書館、これを私たち菊池市民は熱望しております。これまで、旧菊池市においては図書館がございませんでした。今度つくりますこの図書館につきましては、市民の期待が非常に多く、期待が非常に強いものがございます。ぜひ立派な図書館づくりを目指していきたいと思いますので、そこら辺は市民の協力を仰いぎながら、市民の理解のある、そういう図書館づくりをお願いしてこの質問を終わります。

続きまして、空き家対策について質問いたします。

少子・高齢化に伴い、空き家の有効活用による定住人口の増加を目指すという観

点と、ことし５月２６日に空家等対策の推進に関する特別措置法が施行され、危険な空き家に対する行政の責務が明確化されました。特定空き家、危険な空き家の撤去、以上の２つの観点から、次の３つの点について質問いたします。

１、市内空き家の調査状況について。

２、危険空き家の調査状況、市民からの報告は。

３、空き家条例の制定はいつになるのか。

以上、３点について、６月の城議員の質問と一部重複するとは思いますが、よろしくご回答のほどお願い申し上げます。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは私のほうから、まず、空き家の調査の状況について説明させていただきます。

空き家調査は、平成２３年度から平成２６年度にかけまして、定住化に伴う空き家調査業務として県補助事業を活用しながら、ＮＰＯ法人へ委託し、実施してまいりました。

調査目的は、空き家状況を把握し、空き家への定住化を促進するためのもので、今回お尋ねの危険な空き家を把握するためのものではございませんでした。また、調査範囲としまして、全域を網羅しておらず、菊池地域や泗水地域の市街地等、一部を除いています。

この調査における各地域ごとの空き家件数につきまして、菊池地域が１８９戸、七城地域５７戸、旭志地域７４戸、泗水地域１５０戸で、空き家の全体の戸数は４７０戸でございました。その中で活用が難しい空き家、廃屋という言葉で表現しますと、これが１０７戸という状況でございました。この１０７戸が、議員ご指摘の空家対策の推進に関する特別措置法の特定空き家、危険な空き家に即該当するということではございませんけれども、そのまま管理がなされず放置された場合は、特定空き家に移行することも非常に懸念されることでございます。

次に、危険空き家、特定空き家の調査状況につきましては、先ほどから申し上げていますように、定住化に伴う空き家調査以外は実際に実施しておりません。また、市民からの通報状況につきましては以前の記録がなく、データとしてはまだ整理されていない状況でございます。

平成２７年度におきまして、市民からの通報は３件ほど受け付けておりますが、所有者確認がとれたものは改善等の指導を実施している状況でございます。今後は、危険空き家のデータベース化を図り、個別の処理経過を整理してまいりたいと考えております。

対策に伴います、いつごろ体制づくりをするかということでございます。

空家対策の推進に関する特別措置法に基づく条例等を含めた対応につきましては、本年度を検討期間といたしまして、今後の体制整備とあわせ必要な対応を行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えをさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　再質問いたします。

私が住んでいる立町区の隣保班の空き家状況について、若干説明したいと思います。

班の世帯数は、現在１０世帯であります。加えて上下水道を完備した、すぐにでも人の住める空き家が４件ございます。田舎以上に街中の空き家がふえてきている状況にあります。商店街の活性化が叫ばれておりますが、まちの中の空洞化を防ぐ意味でも、行政、またはＮＰＯ等の公的団体のあっせん、売買等の手助けの方法を早急にお願いしたいと思います。一例として、街中の戸建ての空き家を市営住宅として借り上げ、貸し付ける、そういう方策が考えられると思います。

また、街中の空き家の無調査地区はあと何区ぐらいあるのか。いつまでに調査を終える予定であるのか、この点についてお尋ねしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　今お尋ねの街中の空き家の調査ということでございますけれども、現在のところまだ具体的な対策、どういうふうに調査するのかというのは決めておりません。ただ、議員ご指摘のとおり非常に危ない物件も確認しておるところでございますので、いろんな形で早急に調査はしていきたいとは考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　区数的には何区ぐらいあるんでしょうか。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、柁原議員のご質問にお答えします。

先ほどもうしましたように、菊池の一部と、それから泗水等の街中については空き家調査のほうを行っておりません。現在も、龍門地域を中心に空き家調査のほう

を地域おこし協力隊のもとで調査を行っている段階というところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　先ほど空き家調査を４７０戸というふうに調査されておりますけれども、これは対象区というのがあると思いますので、その全体からこの区数を引けば、街中の区数というのは大体出てくるんじゃないでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　先ほど申しました、ＮＰＯ法人による調査というのが、中山間地を対象とした調査でございまして、街中におきましては不動産業者が把握しているということで、それが届かない部分ということを絞って調査した結果でございます。ですから、街中の具体的な調査というのは、先ほどから申し上げていますように、具体的には調査をしていない状況でございます。ただ、先ほどある程度確認しているというのは、目視による状況判断で幾つか確認したということでございます。具体的な数字としては、まだ調査状況がございません。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　単純に考えて、調査した区数から全体の区数を引けばその区数というのは出るはずで、私にはちょっとそこら辺がわからないんですが。

なぜこういうことを言うかというと、先ほど申しましたように、やっぱり街中にも多くの空き家がございます。これに対する対応策というのも、非常に逼迫の課題になってきております。そういう面から、この区数についてどれぐらいあるのかということをお尋ねしたわけでございます。

それからまた、この区数を調べるのに、例えば今までの調査の、３年かかって調査をされておりますけれども、例えば街中ではあとどれぐらいかかるのか、こういう同じような調査をやったとしてどれくらい期間的にはかかるのか、そういうのがわからないと対応の手の打ちようがないというようなことも状況もございますので、お尋ねしたわけですけれども。これについてはちょっと非常にわからないということで、後ほどお知らせ願いたいと思います。

また、先ほど言われました特定の危険空き家についてお尋ねしたいと思います。

特定空き家の調査について再質問をいたします。

現在、軽トラ朝市が行われております立町区、中央通区、迎町区において、３カ所の危険空き家がございます。これは私の知っている限りなんですけれども。

１つ、立町区においては、もう完全に住居が壊れた空き家、柱は倒れて屋根の瓦だけがかぶっているという空き家、これが１件ございます。

それから、中央通区においては、商店街の裏にある、空き家の玄関の戸が壊れており、防犯上非常に問題がある。高校生とか、不審者が入り込んで住みつくような危険性がある空き家が１つございます。

それから、迎町区では、恐らく皆さんもご存じだろうと思いますけど、松月堂の隣。歩道に面した空き家が、前面のパラペットが落ちておりまして、今にも壊れそうな、２軒長屋のうちの１軒の空き家、そういうふうな危険な空き家がございます。

以上、軽トラ朝市をやっている場所においても３つの危険な空き家があり、特措法による菊池市の条例の制定が急務であると私は思っております。恐らくほかの地域においても、このような空き家はあると思われます。大津町では、空き家調査は地元に詳しい消防団の方が行っているとのことでしたが、危険空き家の調査を、地元に詳しい消防団の方々にお願いすることはできませんでしょうか。これについてお尋ねしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　今、具体的な空き家調査のお話が出ましたけれども、消防団ということでございます。消防団の業務が、そもそもそういった任務があるのかというところもございます。例えば、区長さんあたりに聞けば一番早いのかなとも思いますし、その辺も含めまして、先ほど建設部長がお話ししましたとおり、体制も含めまして、市がどこまでやるのか、そういうことが定まらないと体制も整備できませんし、そういったところを今年度は検討期間ということで、トータルとして考えていきたいと。

そもそも、抑えていかなければいけないと思いますのは、空き家対策の市の業務、責務が余り前面に押し出されるということでなくて、そもそも論を申し上げますと、所有者、管理者の責務がまずありますよということを、きっちり我々はその所有者の方とか、建物の管理をされている方たちに、それを勧告なりお知らせするとか、情報をお流しするとか、そういったことも必要かなというふうに思っているところではございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　今の話の中で管理者の責務ということで、行政のほうはそうい

うものに余りタッチしたくないというような話でございましたけれども、そのタッチしたくないということじゃなくて、管理者の責務は非常に大切である。個人の持ち主の方の責務が大切であるという話が出ました。ただ、この個人の持ち主の方の特定ができていないという面も、この空き家が放置されている現状の中には非常に強いんじゃないかなと。今私が申し上げました３つの物件につきましては、恐らく５年以上そのまま放置されております。まず、事故が起きていないから対応はされておりませんけれども、例えば歩道を歩いている方に、もし上から瓦が落ちてきたとか、窓が落ちてきたとか、そういう事故に遭われた場合は、これは逆に５年間も放置しておいたということは、その管理者の責任でしょうか。私は到底そうは思えません。そういうことで、やはり条例の制定、そういうことで国が特別な空き家に対する法律を定めたわけですから、条例の制定というのは非常に急がなければならないと思っております。できれば来年の４月にでもこの条例は制定していただきたい。恐らく対応というのはそれからの判断になりますので、非常に難しい面があるとは思いますけれども、条例だけでも早く制定することはできませんでしょうか。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　先ほど総務部長が申し上げましたように、まず基本、この空き家といいますか、家の持ち主、その権利者、管理者が責任を持って処理をするというのが原則でございます。今おっしゃったように、周りに与える影響、非常に危険であるとか、そういうものが非常にふえてきたということで、今回、特別措置法を通して法律までできたということでございます。

先ほども言いましたけれども、おっしゃいますとおり、市内、街中にも幾つかそれに近いものを確認はしております。ただ、その持ち主の方々への報告だったり勧告だったりというのが今回の法律に基づいてすることになりますので、その辺、おっしゃるとおり今年度中に、先ほども申しましたように、今年度中を検討期間としていつからそれを実施するかというのはまだ全くの未定でございますけれども、早急にこの話を進めたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　本年度中に検討をしたいと、そういう話でございます。その「検討する」という言葉の中には、来年の４月に条例を制定するということにはなかなかつながっていかないと思いますけれども、条例の制定については、ほかの都市の例がございます。例えば、青森県の五所川原市では、条例及び施行規則が制定

されており、こういうのを参考に、早急に来年度早々の条例の制定をお願いしたいと思います。その条例の内容については、恐らくよその都市も変わらない、この件に関してはほとんど変わらないと思います。そういうふうに実際やっていらっしゃいますので、条例の制定については早くやっていただきたい。また、その中で恐らく市民による検討会議とか、そういうものでやっぱり勧告をしていく、そういう状況になっていくと思いますので、これについても、スピード感を持った条例の制定をお願いしたいと思います。

また、これはちょっと次の内容に移りますけれども、総務常任委員会では、先日の花房小校区、戸崎小校区の区長さん方と、小学校の生徒数の減少問題について懇談会を開きました。戸崎小においては、来年度、複式学級になる可能性があるとのことでございました。本年度発足しました地域おこし協力隊で、ぜひ戸崎小校区での移住・定住促進活動を行っていただくと思いますけれども、これについては、執行部としてどうお考えでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　柁原議員のご質問にお答えいたします。

現在進めております地域おこし協力隊というのは、移住・定住促進に向けたところで、空き家の中でも使えるような住宅のほうを中心に現在調査のほうを行っているというところでございます。

言われました戸崎地区に限らず、現在は龍門地区を中心にやっておりますけれども、全市に広げたところで、そういった調査のほうを進めていきたいというふうに考えております。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　私が言いますのは、もう来年にも戸崎小校区がやっぱり複式学級になろうとしていると。そういうことであるならば、ぜひ戸崎小校区に若い人の、子どもさんのいるそういう移住者をぜひ連れてきてほしいと、そういう思いで提言したわけでございます。まずやるべきこと、先にやらねばならないこと、確かに龍門地区の調査も必要ではあると思いますけれども、この件に関しましては、やはり総務委員会でも問題になっておりまして、早急にやっぱり何らかの対応策を打たないといけない。例えば、戸崎小校区に住宅をつくるとか、例えば戸崎小校区にあるＪＡの倉庫を売っ払って民間に買っていただいて、そこに住宅地域をつくるとか、そういうふうな話が出ております。この件に関して、ぜひ市長の考えをお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　定住促進という問題だと思います。特に今おっしゃった戸崎地区は、生徒数の減少が顕著でございまして、おっしゃったような問題というのは、私どもも大変心にとどめておるところでございます。

戸崎地区にかかわらず、ある意味では、同じ問題を全市的に抱えておるわけでございますので、そのために今地域おこし協力隊を、あれだけの人数、皆様のご理解を得て導入したわけでございますし、また、定住促進の推進室に加えて、定住促進センターという現場をつくったというのも、ある意味では県内でもかなり先進的な取り組みであるとは思います。

一つの悩みは、今、目視で結構空き家がたくさんあるということは認められるわけですけれども、実際に中に行ってみますと、いや、これは貸しはせんとか、売るわけじゃないとか、空いているんだけど中に荷物が入っていて、持ち主は東京に二代目が住んでいて、仏壇だ何だあるわけですね。それはちょっと、なかなか手がつけられないと。それは私どもがお手伝いしますよと言っても、なかなかそこの踏ん切りがつかないとか、さまざまな課題がございますので、こういった問題は、私どもは当然ながら前面に立ってやっていきますけれども、地区の方もご一緒になって、そうしたふうな交渉であるとか整備に関してはご尽力をいただければというふうに思っているところでございますし、また、議員の皆様もさまざまな情報、いろんなルートをお持ちだと思いますので、入ってくればまた、そういったこともぜひ活用させていただきたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　地元の皆さんがなかなか空き家を貸したがらない、それにはいろんな理由があると思います。ただ、その戸崎小校区においては、やっぱり複式学級になるということで、私も詳しくは存じ上げませんが、複式学級になった場合、何名の先生が減になるのか。例えば管理運営が非常に難しくなってくると思いますけれども、この件に関してはちょっとこの空き家問題とは多少離れるかもしれませんけれども、教育長の答弁をお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　通告以外の質問はご遠慮願いたい。

○５番（柁原賢一君）　わかりました。この空き家対策においてぜひやっていただきたいということで、戸崎小校区の問題を取り上げました。複式学級になれば先生が２人減になると。小学校にとっては非常に大きな問題になってきます。だから、ぜひ

戸崎小校区において、地域おこし協力隊による移住促進の定住の方向を進めていただきたい、こういう提案をしたわけでございます。

恐らくまたその地域においても、戸崎地区の皆さんにおいても、そういうことであれば私たちはぜひどこかを探してあっせんしようと、恐らくそういう答えが返ってきます。そういうことで市民の力を、市民と一緒になってやっぱりこういうものはやっていくべきだろうと思っておりますので、ぜひ検討のほうをお願いして、次の質問に移りたいと思います。

次、農業支援について。

ことし１月の議会、農業を考える議員の会の研修で、東京都港区の農林中央金庫研修センター内にあります、日本農業経営大学の視察を行ってきました。まず、視察して感じた点は、これからの農業人は、経営感覚をあわせ持った農業が必要だなと痛感したことでした。今後、この学校の卒業生が点となり線となり、また面となって日本の農業を変えていくのではないかと予感した次第でございます。

また、理事長の話の中で、菊池市は推薦枠を設けているという話を伺い、１点目、日本農業経営大学と菊池市のかかわりについて、また、推薦実績はあるのか。

２点目、これからの推薦人に、奨学金等の市からの助成制度を設けることができないかについてお尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

議員がおっしゃいました日本農業経営大学校につきましては、昨年８月１日に全国の自治体としては初めてとなります菊池市との連携協定を締結いたしました一般社団法人アグリフューチャージャパン、ＡＦＪが運営されている大学校でございます。校舎のほうが東京都港区にございまして、平成２５年４月に開校された新しい大学校でございます。１学年の定員が２０名、教育期間が２年間とする全寮制の大学校でございます。

同校は、日本農業の未来を創造する次世代の農業経営者を育成するために、農業界のみならず、産業界、学会から多くの支援をいただきながら、日本の農業を先導いたします人材を輩出することを目的といたしまして、次世代の農業経営者に必要な資質能力である経営力、農業力、社会力及び人間力を育むとされているところでございます。同校への昨年度までの入学実績はございませんでしたが、本年度より本市から１名入学いたしているところでございます。

また、ＡＦＪとの連携につきましては、経営者に求められます知識や技術を初めまして、農業経営を取り巻く社会環境の適応力等を持った地域農業の担い手を育成

するために実践的農業セミナーを、経営者の経営セミナーを昨年度より共催で実施しており、約２０名参加していただいているところでございます。

本年度におけますセミナーの開催に向けまして、昨年度のセミナー参加者を含めまして、市内の認定農業者及び青年就農者等を含めて、個人、会社組織、合計２２１件へアンケート調査を実施しており、集約後ＡＦＪとの協議を進め、より充実したセミナーを計画してまいりたいと考えております。

次に、奨学金制、助成制度につきましては、農政サイドといたしましては独自に設けることは今のところは考えておりません。

なお、同行の年間給付額１５０万円を上限といたします青年就農給付金の準備型の指定期間となっていることから、本市からの入学者につきましても、給付手続が行われているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　ありがとうございました。現在１名の方が入学されているとのことで、今後も広報等を通じて広く市民、農家、高校生の方々への周知をお願いしたいと思います。

続きまして、非常に農業については詳しくございませんので、現在の菊池市の農家の戸数、農家の経営状況等についてお知らせください。

儲かる農業にしないと後継者は育たない。林業、商業もしかりでございますけれども、行政も、農家１戸当たりの年収を調査し、年収目標を定めて応援すべきではないかと考えております。現在の状況についてお知らせください。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、本市におけます農家の状況につきまして、本年２月に実施されました農林業センサスの確定値がまだ今のところ出ておりませんので、前回、平成２２年度に実施されました農林業センサスの結果に基づき、お答えをいたしたいと思います。

まず、本市におけます耕地面積は、田が３，０６０ヘクタール、畑が１，８３０ヘクタール、樹園地３２８ヘクタールで、合計が５，２１８ヘクタールでございます。

次に、販売農家の戸数につきましては２，４６４戸で、うち個人経営体が２，４４４戸、農業組合法人や会社組織化している経営体が２０戸となっているところでございます。

販売農家の戸数は、平成１２年、調査のちょうど１０年前でございますが、３，０４７戸と比較といたしますと１９．１％減少をしている状況でございます。

また、専業、兼業別で申し上げますと、２，４６４戸のうち専業農家は８９９戸、兼業農家が１，５６４戸となっており、それぞれ平成１２年と比較いたしますと、専業農家につきましては５．９％増加をしておりますが、兼業農家につきましては２８．８％減少をしております。

次に、各農家の主たる収入源別で申し上げますと、米、麦、大豆が１，０８５戸、野菜類が５２６戸、お茶やたばこなどの工芸農作物が５８戸、果樹類が１０１戸、花卉、花木が１１３戸、酪農が１６２戸、肉用牛が１７６戸、養豚が３９戸、養鶏が３戸、その他が２０１戸となっております。

次に、農業就業人口についてでございますが、本市全体でございますが、４，９０９人でございます。男女別で申し上げますと、男が２，５９５人、女が２，３１４人。年齢別では、１５歳から２９歳までが２４０人、３０歳から３９歳が２３０人、４０歳から４９歳が４２５人、５０歳から５９歳が８６２人、６０歳以上が３，１５２人となっており、６０歳以上の割合が約６４％を占めており、平成１２年の５４．５％と比較いたしますと、高齢化が進んでいる状況でございます。

また、認定農業者につきましては、平成２７年３月３１日現在、認定計画数が５８３経営体、認定農業者数といたしましては、本市全体で６４９人、地域別で申し上げますと、菊池地域が１６０人、七城地域が１６３人、旭志地域が１８２人、泗水地域が１４２人となっております。

認定農業者におかれましては、地域営農の中心であるとともに、本市農業の振興を図る上におきましても、担い手の柱となっていただける方々でございます。本市といたしましても、今後、さらなる支援をしてまいりたいと考えているところでございます。また、農家のある行政区数といたしましては、本市、今２１１の行政区中２０７に農家があるというところでございます。

次に、農業生産組織等の状況でございますが、平成２６年度末現在で、法人化した営農組織が４組織でございます。

次に、協業組織であります地域営農組織が３２組織でございます。作業受託組織が２６組織、また、機械協同利用組合が２６組織で、合計８８組織となっているところでございます。

１つ、私のほうが間違って数字を申し上げておりますので、訂正をさせていただきます。

専業、兼業の別で、先ほど兼業農家のほうが１，５６４と申し上げましたが、実際は１，５６５でございます。申しわけございません、訂正させていただきます。

○議長（森　清孝君）　柁原賢一君。

［登壇］

○５番（柁原賢一君）　なぜ農業後継者の支援策を取り上げたか、これにつきましては、やっぱり先ほど申しましたように、農業はこれから儲かる農業でないと後継者は育ちません。農家１戸当たりの収益率の向上が必要であり、農家の所得、そういうものを定数化することによってどのぐらい農業に対して行政が力を注いでいくか、どの部分に対して力を注いでいかなければならないか、そういうものがこれから求められてくるんだろうと思います。

農業従事者の平均年齢は、現在６６歳と言われており、中山間部では平均８０歳くらいまで米の生産に携わっていらっしゃいます。これは、今の菊池の現状ではないかと思います。山間部では、あと１５年ぐらいしたら極端に農家人口が消滅するという可能性も高まってきております。地区単位ということではなく、幾つかの集落で営農法人化を行政が手助けする必要が求められていると思っております。特に山間部の各地域におかれましても、地区単位ということではなく、行政区単位、そういうもので営農化を図っていく、そういうことによって、また逆にちゃんとした後継者をつくっていく、そういうふうな行政の手助けが必要になってくるんではないかと思っております。こういうことで私はこの問題を取り上げました。

これをもちましてきょうの質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで昼食等のため暫時休憩します。午後の会議は午後１時から開きます。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

休憩　午前１１時５０分

開議　午後　零時５７分

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　皆さんこんにちは。議席番号１２番の大賀慶一でございます。

質問に入ります前に、まず初めに、先月２６日早朝に１６年ぶりに熊本県に上陸しました台風１５号で、本市にも負傷された方２名、あるいはまた住宅の損壊、畜舎等の損壊、園芸施設や農作物など、少なからぬ被害が発生いたしました。被災されました方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と本市としての支援に取り組んでいただきますようお願いをいたしたいと思います。また、

職員の皆様方には復旧作業に対応していただきまして、大変お疲れさまでございました。

それでは、早速、通告に従いまして一般質問をいたしたいと思います。

今回は、まち・ひと・しごと創生について、次に、道路の整備について、次に、図書館の整備についての３点をお尋ねしたいと思います。執行部の適切な答弁をよろしくお願いいたします。

まず初めに、１点目に、まち・ひと・しごと創生についてお尋ねをいたします。

先月２６日に、私たち農業を考える議員の会では、本市の泗水町出身で、現在、内閣府の参事官で、地方創生につきまして国の中枢で活躍をされております富田育稔さんを講師にお招きしまして、地方創生と菊池市の活性化について勉強をさせていただきました。そのお話の中で、根本的には地方創生とは、今後国が地方の急速な少子・高齢化による人口減少に歯どめをかけるために、情報支援、財政支援、人的支援の多様な支援を行っていくというものでございました。

本市としましても、地方創生に取り組まれた、組み込まれたまちづくりが必要になることは言うまでもございません。本市としても、既に幾つかの事業に取り組みがなされておりますが、今後、まち・ひと・しごとのために、菊池版の総合戦略の中で事業を推進していかれるものと思います。

そこで、確認の意味で改めまして取り組み当たっての本市の基本的な考え方について２点質問をいたしたいと思います。

１点目に、企画実行に当たっての基本方針についてはどのように考えておられるのでしょうか。

２点目に、今後の施策を行うに当たって、重点的な取り組みはどのように考えておられるのでしょうか。

以上２点をお尋ねしまして、１回目の質問といたします。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、大賀議員のご質問にお答えいたします。

基本方針、それから今後の方向性ということでお答えをさせていただきます。

地方版総合戦略策定の目的は、人口減少問題に伴う課題の克服と地方創生であると考えております。この目標達成のため、国及び県においても基本目標を設定されておりますので、本市においても連携する必要があることから、国及び県と同じような基本目標を設定してまいりたいと考えております。

戦略につきましては、基本目標ごとにその実現のための施策を設定し、なおかつその規模、水準を示す重要業績評価指標、ＫＰＩを設定することが、地方版総合戦

略の策定段階で求められておりますので、ＫＰＩ達成のためＰＤＣＡサイクルを確立し、着実に効果検証、戦略の見直しを行い、有効な手段を研究しながら進めてまいります。

今後、関係団体を委員とする菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議におきまして、基本目標、施策、ＫＰＩの設定について協議し、あわせて、菊池市の未来を考える懇談会や市議会の皆様のご意見をいただきたいと考えております。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　ありがとうございました。それでは、再質問をいたしたいと思います。

まち・ひと・しごと創生の推進を行うためには、それぞれに取り組んで行く中で、私は本市のみならず、それぞれの関係機関などとの連携や市民の皆さんの協力が大変大きな力になると思っておりますが、そこで、３点についてお尋ねをいたしたいと思います。

まず１点目に、本市が本年３月に策定いたしました第２次総合計画との整合性はどのように行うのか。

２点目に、産学官金労言などの外部機関との取り組みはどのようにお考えでしょうか。

３点目に、県や近隣自治体との広域連携はどのようにお考えでしょうか。

以上、３点についてお尋ねをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、大賀議員の再質問にお答えいたします。

総合計画は、菊池市のまちづくり理念及び将来像を示し、まちづくりを支える総合的な行政運営の基本方針をまとめた各種計画の最上位計画でございます。少子・高齢化による人口減少や地域コミュニティ機能の低下など、刻々と変化する社会情勢や社会構造に対応するため、先ほど言われました昨年度末に策定しております第２次菊池市総合計画の中におきましても、総合戦略で求められているＫＰＩと同じような目標値の設定があり、内容についても、総合戦略の目標と重なる部分が多くあると考えますので、整合性をとって施策に盛り込んでまいります。

地方創生を効果的、効率的に推進していくためには、住民や関係団体、民間事業者等の参加協力が必要であることから、国で言われている産官学金労言の立場で構成します菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を立ち上げ、戦略の策定及び進行管理を行っていくところでございます。

また、地方創生における広域連携につきましては、国の総合戦略の基本目標にあり、県においても、その必要性を研究会等で呼びかけられており、総合戦略の中に取り入れられるよう調整してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　ありがとうございました。第２次総合計画を最上位として施策を行っていくということでございました。

それでは、再々質問を行いたいと思います。

このまち・ひと・しごと創生の中で、私は最も重要といいますか、まず先に来るのが「しごと」の創生だと思っております。「しごと」ができれば「ひと」は集まり「ひと」が新しいまちを創出し、地域が潤い、また、「ひと」が集まってきて好循環が生まれてくるものと思っております。「しごと」の創生は、企業の誘致であったり新しい企業の育成であったり、農業の活性化であったり、観光客の誘致であったり、大変いろいろな多岐にわたるものと思っております。仕事を創出しますと、そのことによりまして若い人たちが就労しやすく、結婚しやくすく、出産、子育てがしやすくなります。

そこでお尋ねですが、それらを創生するための基本的な取り組みや本市としての秘策はあるのか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　大賀議員の再々質問にお答えいたします。

先ほど議員がおっしゃいましたように、まち・ひと・しごとといいながら、人口減少が進む中、地方にとっては仕事が一番であり、仕事があれば人が集まり、人が集まればまちが活性化するという考え方は同じでございます。

新規雇用の創出を図るため、これまでどおり積極的な企業誘致活動に取り組んでまいりますし、現在、商工業を営む方への事業承継アンケート調査、それから農林業を営む方への農林業振興に関するアンケート調査のとりまとめを行っておりますので、現在実施しております事業創業支援、後継者の育成の取り組みを踏まえて検討をしてまいりたいと考えております。

なお、商工業に向けた創業支援に関しましては、本年５月２０日に経済産業省の認定を受け、菊池市総合支援事業計画に基づく菊池市商工会熊本産業支援団体、日本政策金融金庫などと連携し、それぞれの強みを生かしながら地域資源の活用、ビジネスモデルの構築、資金調達、販路拡大、経営改善など、創業に必要な支援を行

う事業がございます。

また、農業者に向けた就業支援としましては、就農前の研修期間に給付する準備型や農業を始めてから経営が安定するまでの期間、最長５年でございますが、給付する経営開始型の２つの型がある青年就農給付金や専業農家として就農された方に３０万円を交付しております新規就農奨励金などがございます。このようなものを活用しながら進めてまいりたいと考えております。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　ありがとうございました。基本的には、この事業に対します市の基本姿勢といいますか、取り組みの内容は理解できたと思っております。

そこで、最後に市長にお尋ねをいたしたいと思います。

先日の富田参事官の講演やほかの地方創生に関する講演会に参加してのお話をお聞きしますと、今、江頭市長が取り組んでおられます本市におけるまち・ひと・しごと創生の事業は、おおむね国が考えている取り組みに沿った方向で行われていると私は思っております。本市の地域を生かした事業の取り組みがなされていることは、私も今後に展望を持てるものと期待をいたしております。

この地方創生は、各自治体の知恵の出し合いであったり、また、アイデアや発想の競争でもあると言われております。市長が日ごろよく言われております市民力をいかに引き出すか、活用するかであると思っております。この機をチャンスとして、大いに手腕を発揮していただき、本市の人口の減少の歯どめを図っていただきたいと思っております。

そこで、市長はまち・ひと・しごと創生の事業を推進するに当たり、どのような視点、観点から政策を実施されていくのか、改めて今後の豊富をお尋ねいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今後の菊池のまち・ひと・しごと創生に向けての視点と、こういうお尋ねであろうかと思います。

この地方創生の根幹的な考えでございますけれども、まさに今、議員がおっしゃったように、地方にある資源を掘り起こして、磨きをかけて、それで活性化を図り、仕事もふやし、人もふやし、まちがにぎやかに活性化につながっていく、こういう趣旨でございます。これはまさしく今ご指摘がありましたように、当市においては２年前から、私、就任と同時に皆様といろいろな議論をしながら、まさに取り組んできた大きな考え方そのものであるというふうに思います。

先日の富田さんの貴重なお話を伺いまして、やはり内容としても、これはやっぱり同じようなことをおっしゃっているなということで意を強くしたところでございます。今、私どもがそれを言い出して１年半、２年たったところで、ちょうど国を挙げての地方創生ということになったわけですから、大変自信を持ってこの路線を突き進んでいこうという気持ちが固まると同時に、今度は国がこれに対してお金を用意するというわけですから、私としては大変大きなチャンスが来ておるというふうに思っております。

これまでさまざま述べましたように、やはり菊池の資源を生かすという意味では、大きくはやはりこの農業、特に農産物は既に非常に高い水準を持っておりますので、まずやはりもっともっと外に販売チャンネルをふやして、かつ世の中に受け入れられる高付加価値のものにしていくというのが大きな狙いでありますし、観光については、これは交流人口をふやすということは定住人口同様に非常に重要なテーマでございます。そのために、今、菊池の素材が持っているものに磨きをかけていくと。本当に来たくなるようなまちにしていかなきゃいかん。そのことが交流人口をふやして、いろいろなお金が落ちていくと、こういうことであろうと思いますし、こうしたものに磨きがかかっていきますと、そこに住んでみたいという定住人口にもつながっていくわけでありますから、そうしたものに対してもそれなりの受け入れ態勢の整備等も進めてきたわけでございます。いわば、農業、観光を活性化させて、外貨をどうやって取り込んでいくかというような基本の路線は全く変わらない。ただ、そのためにいろいろな意見がやっぱりもう既に出てきましたね。例えば、ことしの重点としては、もう既に議論になりました龍門ダムの活性化。龍門ダムというのは、足元にありながら本当に今まで生かされていなかったわけであります。これを一つの宝としてまた重点的にやっていこうというふうなことを切り出せば、いろんな知恵がまた集まってきております。荒木議員のほうからも、例えば釣りなんかもいいんじゃないかと、まさにそのとおりでありますから、こういったふうに、これから大事なことは市を挙げて、官民一体となって知恵を出し合う、そしてそれを実現していくということだと思います。これまた図らずも、地方創生の中で産官学金労言と全く同じことをやっぱり言っているわけでございます。我々に問われているのは、これから菊池市全体の力の結集、これが問われているというふうに思いますので、引き続き皆さんのお力を借りながら、今申し上げた路線に沿って自信を持って進めていきたいというふうに思っているところでございます。これからもご指導のほどをよろしくお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　ありがとうございました。市長の強い決意と自信のほどが伺われました。ぜひ今後、菊池の持つ実力を十分に引き出していただきますようお願いいたしまして、次の質問に移りたいと思います。

２番目に、道路の整備についてお尋ねをいたします。

１点目に、本市から阿蘇市赤水へ通じます県道菊池赤水線の改良についてお尋ねをいたします。

その中でも、特に旭志グリーンロードから旭志の片川瀬集落までは、これまでにも再三、県への要望がなされておりましたが、ようやく事業が行われる運びとなりました。長年の悲願の一つでありますし、区民の方々も大変喜んでおられます。今、用地買収が行われていると伺っておりますが、竣工までの日程とかがわかればお示しをいただきたいと思います。

次に、市道中原森北線についてですが、この道路は、県道旭志鹿本線との交差点から国道３２５号との間で非常に路面が悪く、雨が降ればすぐポットホールができて、車両の通行が危険な状態もしばしばございます。

次に、市道中原森北線につきましてお尋ねをします。

この市道中原森北線につきましては、路面の状態がこれもまた悪く、カーブや起伏が多く見通しが非常に悪くて、大型農耕車両も多く通行いたし危険な状況にあります。市は、そのような現状をどのように認識しておられるのか、１点目にお伺いをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは、お尋ねの県道菊池赤水線、それから市道中原森北２号線についての状況といいますか、それをどれぐらい把握しているかということでございますので、お答えしたいと思います。

まず、県道菊池赤水線につきまして、菊池市街地から旭志総合支所付近まではおおむね整備されており、大津町までの区間は、一部改良工事が行われていますが、未改良で狭窄もあり、離合困難な場所があることは十分把握しているところでございます。

また、市道中原森北２号線につきましては、これも舗装の状態が老朽化のため悪化してきており、隣接して排水路がありますけれども、転落防止のためのガードレール等も設置されていない状況にございます。

さらに、市道森北線につきましても、同じく狭窄状況であることはもう十分認識しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　認識はされているということでございますが、そこでまた再質問をいたしたいと思います。

県道菊池赤水線につきましては、旭志の片川瀬集落から大津町矢護川の集落までの間、本当に非常に狭うございます。今、部長も認識しているということでございましたが、このことを県に伺いますと、単県費でやっているということで、なかなか工事が進捗をしないというお話でございました。

そこで、大津町との連携を図っていただき、補助事業で取り組まれたならば、もっと予算の関係で工事の改良が早くなるのではないかと私は思っております。

そこで、大津町との連携の中での補助事業を取り入れることに、市はどのようにお考えでしょうか、お尋ねをいたしたいと思います。

次に、市道中原森北２号線についても状況は把握しておられますが、やはりこの危険な状況でもございますので、早く対応をしていただければと思っております。先ほど部長もおっしゃいました。道路に沿っております排水路が２メートルほどありまして、非常に大きい排水路でございまして、今までにも既に何台か車が転倒したという事実を確認しております。それからまた、それにつきましてはガードレールも設置したいということですが、早く設置をしていただければと思っております。

それからまた、森北線についてでございますが、先ほど言いました理由とともに、妻越泗水線というのが本年度開通いたしまして、泗水から菊池の河原方面にも非常に便利がよくなりました。そのために、最近車の量もふえております。そういうことも加味しますと、非常に早期の改良をしてほしいと思っております。その点についていかがお考えでしょうか。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは、お尋ねにお答えしたいと思います。

まず、県道菊池赤水線でございますが、これは県の管理道路であることは皆さんご存じだと思いますが、この本路線を含む鹿北菊池赤水線改修促進期成会というのがございます。その中で、当然、大津町等も入っておられまして、一緒に改修、要望活動等を、その期成会を通じて行っているところでございます。先ほど連携をということでございましたけれども、この辺については広域にわたっての県道でございますので、当然、連携を図って要望を含めて進めているところでございます。

現在、本路線の改修事業の進捗状況を少しお話ししたいと思います。

旭志中央線、通称グリーンロードから片川瀬地区までの整備につきましては、平

成２４年度から測量設計、用地交渉を進められております。また、片川瀬地区内について、今年度、県北広域本部と大津町、それから菊池市で現地調査を実施し、片川瀬地区内の家屋が並ぶ狭窄区間について、地区内の改修を県に要望しておりましたけれども、家屋移転等に莫大な費用がかかるということから、地区を迂回するバイパス道路を要望するものとして、大津町が要望しております矢護川地区の圃場整備に伴うバイパス道路とあわせ、県に早期改修をお願いする予定でございます。

それから、市道中原森北２号線につきましては、これが延長が長うございますので、単年度での施工がちょっと難しゅうございますために、平成２８年度以降に、複数年かけて計画的に舗装の工事とガードレールの設置を行っていこうと考えております。

市道中原森北線につきましては、全線これは改良工事ということになると思いますが、工事につきましては、今後の整備計画の中で着手していきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　先ほど言われました菊池赤水線のバイパス工事については、もう相当以前から一応、県の計画としては上がっていると私は認識しております。なかなか改良が進まないということは、やはり大津町、菊池市との連携で強く県に言っていただければ、もうちょっと進むのではないかと思っております。

それからまた、森北線につきましては、私は新市建設計画にも掲示をされていたのではないかと思っておりますが、そういう非常に危険な状態も続いておりますので、早期の実現を目指してしていただきますことを切に要望をしております。

それでは、再々質問を行いたいと思います。

中原森北２号線、森北線ともに早期の改良はないということでございますけれども、先日、コッコファームのある幹部の方とお話をいたしました。現在、中原森北２号線沿いにコッコファームの農村公園建設の事業が行われております。これは、公園や遊具施設のほかに、温泉の試掘も進められております。その中で、平成２９年度にはオープンしたいという意向でございました。この公園がオープンしますと急激な車の増加も予想されます。それらのことを考慮しますと、両市道の安全への対応や道路改良を早期に行うことは緊急を要するものと私は思っております。執行部はどのようにお考えでしょうか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　ただいまお話がありましたコッコファームが農業公園を計画しているということにつきましては、いろいろ市道についての調査、その他の相談があっております。したがいまして、この計画があることは存じております。具体的な話まではまだ進んでおりませんで、計画時の協議の中でそういう対策が必要であるかどうかを吟味して、対策をとっていきたいと思います。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　先ほど言いました、そのコッコファームの農村公園事業というのは、これは本市の活性化にも私はなるものだと思っております。やはりそういうアクセスといいますか、道路交通のアクセスを整備するということも、その活性化事業を進めるということに大変大きな意味を持っていると思いますので、早期の対応をお願いしたいと思います。

それでは、次の図書館整備についてお伺いをいたします。

皆さん既にご承知のように、今、本市では新しい図書館の建設計画がなされております。先日の入札の不成立で計画どおりの完成を私は心配しております。図書館建設には、市民の皆さんも非常に大きな関心も持っておられますし期待も持っておられます。

そこで、お尋ねいたしたいと思いますが、その新しい図書館建設は、仮称として中央図書館としての名称がつけられておりますが、その新図書館の、中央図書館の完成後の旧町村にあります図書館、また図書室、これはどのようなあり方となるのでしょうか、その点について１点お伺いします。

２点目に、旭志図書室の現状については、執行部はどのような認識をお持ちでしょうか。

以上、２点についてお伺いをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　まず１点目の、新図書館の完成後における図書館のあり方ですが、全体的な考え方を先に申し上げさせていただきますが、第１に、住民サービスの向上を目的としまして、市民の皆様がどこの図書館、公民館図書室においても、市が所蔵いたします図書の予約、貸し出し、それから返却が行える本の搬送システムなどを構築することといたしております。

また、幼稚園や保育園、そして小・中学校を初め、介護福祉施設への団体貸し出しの拡充を図り、市全域での読書活動を推進するとともに、読み聞かせボランティ

アの地域交流を進めることで、人材の育成を図ることとしております。

お尋ねの、このような中での七城、旭志、泗水地域の図書館、あるいは公民館図書室のあり方でございますが、それぞれの地域の利用者のニーズを把握しながら図書の充実に努め、貸し出しや返却においても、利用者サービスの向上を図っていきたいというふうに考えております。さらに、地域の団体貸し出しの拡充も図り、読書活動を推進していきたいというふうに思っております。

２点目の旭志図書館についてですが、ここで経緯を若干述べさせていただきたいと思います。

合併前は旭志公民館の２階ロビーに数台の書架にて所蔵をしていたというふうに聞いております。合併後は、１階の現在の場所に書庫を移動しまして、新たに旭志公民館図書室として運営をいたしております。合併時は、司書資格を持った職員は配置をしていませんでしたけれども、平成２１年度から嘱託図書職員を１名採用しまして、平成２２年に図書管理システムを導入。さらに平成２３年から図書司書嘱託を１名増員しまして、２名体制となりましたので、現在、嘱託図書司書の方々は、力を合わせて、１人でも多くの方々に利用してもらえるよう日々取り組んでいるところでございます。また、図書購入費も増額をいたしまして、図書室運営の改善を図ってきました。ちなみに、平成２７年３月３１日現在の蔵書数を申し上げますと、１万１７１冊。平成２６年度の利用者は、個人利用者が２，０４９人、貸し出し冊数は８，６１７冊となっております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　答弁ありがとうございました。旭志の図書室につきましては、皆さん、この新しい中央図書館ができますと縮小されるのではないかという懸念を持っていらっしゃいます。図書室につきましても、図書館につきましても、ここは地元民にとっては非常に情報の発信源でもありますし、集いの場所でもあります。そこで住民の皆さんが心配されるというのは、旭志はことし旭志幼稚園が廃止されました。そういう中で、非常に幼稚園に対しては親しみも持っておりましたので、そういう意味からしまして、先ほども申しましたが、また縮小されたり、あるいは統合されたりするのではないかという意見もちらほら聞くわけでございます。今、部長のほうからもされていくということでございましたが、改めまして執行部の明快なご答弁を、求めたいと思います。

旭志の図書館の現状については、今、部長のほうから申されましたが、私が感じるのは、非常に狭いし、図書館としてなかなか目立ちにくい。司書の方に尋ねます

と、入口がわからず、外できょろきょろされていますので、私のほうから招き入れますというようなお話でございました。この場所は、以前、役場当時執務室でございましたので、図書館としての機能といいますか、それが最小限しか備わっていないと思っております。人数につきましても、今、部長のほうから申されましたけれども、私がこの間伺ったところによりますと、今、１日大体十六、七名の方が利用をされていると伺っております。最近は、若いお母さんたちが子どもを連れて利用する人が非常にふえているというお話でございました。利用者の方も増加傾向にあると伺いました。また、夏休み等には、地元の中学生も訪れて勉強をしているということでございますが、何せ狭いということで、机が３人程度のしかございません。そういう状況を把握しますと、ぜひ旭志図書館を改修していただければと私は思っておりますが、その点、いかがお考えでしょうか。先日、出口議員が旭志幼稚園の今後のあり方について、活用についてお伺いをしました。その中で、部長は、まだ次の活用については決定していない。検討委員会を設置して、今後の活用については検討をするというお話でございました。この旭志幼稚園については、地元の保育園からも、放課後保育をしたいというお話を聞いております。

そこで、私はこの旭志図書館の移設を、この幼稚園の跡地に持ってきてはと考えております。子どもたちには、ぜひ子どもたちがここで図書にも触れるし、両方、放課後児童保育と図書館を併設するならば、より大きな効果があるんじゃないかと私は思っておりますが、教育委員会としてのご所見をお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　まず、旭志の現在の公民館図書室が縮小されるのではないかというご心配もあるということですけれども、そういうことは決してございませんので、申し上げておきたいと思います。

先ほども申しましたけれども、今回新しい図書館ができますと、蔵書数だけでも１４万冊を備えることになって、市全体からしますと２０万冊を超えるということになります。加えて、配送システム、こういうものも充実してまいりますので、市民サービスが大変高まるのではなかろうかというふうに期待をいたしております。

２点目の旭志図書室の改善につきましては、そういった全体の取り組みの中で、今後もそれぞれの地域の図書室も大事にしていきたいと思いますので、現状を見詰めさせていただきたいというふうに考えます。

それから、３点目ですけれども、これは旭志幼稚園跡地への図書室の移転というお話だろうと思います。昨日の出口議員にも答弁させていただきました。先ほどご紹介があったとおりでございまして、いろいろな方法が考えられるかと思いますが、

それも地域の皆様方が一番望まれる形がやっぱり一番よいのかなと思っておりますので、地元の皆様で構成する、仮称ですが、検討委員会たるものを設置いたしまして、なるべく早い時期に活用できるように考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　それでは、再々質問を行いたいと思います。

今、検討委員会ということでございましたけれども、検討委員会は本当にスピード感を持ってつくっていただいて、私は結論を早く出していただきたいと思っております。そのようなことで、地域の方々も考えておりますので、どうかひとつスピード感のある対応を期待しております。

次に、子どもの頃から本に親しむことは非常に情操教育にとっても、学力を身につけることにも非常に大切なことでございます。そのような教育面との深いかかわりもありますので、子どもたちに、できる限り多くの本に接してほしいと思っております。旭志図書室は、先ほど部長からございましたが１万１７１冊という蔵書数だと伺いました。私が先日伺いますと９，０００冊ぐらいというようなお話を伺ったところでございますが、当然少のうございますので、本の数も少ないし、種類も少ないということでございますので、今後新しい図書館ができましたならば、ぜひこの新図書館、あるいは泗水図書館との書物の交流といいますか、そういうシステムをぴしゃっとした形で整えていただければと思っております。先ほど柁原議員もお話ありましたけれども、先日、北海道の北広島市の図書館を部長も一緒に勉強に行かれましたけれども、非常に図書館での地域の分館や学校図書館とのネットワークが整備されておりまして、スムーズな運営が行われているように私も関心をいたしたところでございます。

そこで、先ほど言いましたように、本市の中央図書館、泗水図書館や、あるいは学校図書館などの本の交流といいますか、そういうシステムをぜひ構築していただければと思っておりますが、どのようにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　先ほどの旭志幼稚園の跡地の検討委員会につきましてはスピード感を持ってということでございますが、これも９月１８日、教育委員会に早速その方向に向けて協議をすることにいたしておりますので、申し上げておきたいと思います。

それから、先ほどからご紹介にありました北海道の北広島市の図書館の研修に私

も同行させていただきまして、本当にすばらしい図書館で、また、運営においても最先端の状況を見てまいりましたので、非常に参考になりました。

ただいまのご質問の図書の交流ということだろうと思いますが、現在でも泗水図書館、あるいは各公民館の図書室相互において、利用者の皆様方には、本を利用いただいているという状況ではございます。しかしながら新しい図書館が建設されますと、本格的な本の物流、それから配送システムを構築いたしますので、このことによって、これまで地域によって利用者の皆様が享受できるサービスに差異があってはなりません。そのようなことを基本に考えますと、やはり公平公正な利用者サービスの確保を図るということが一番大事なことだろうと思っております。したがいまして、学校も含めまして、市全体的な図書の有効活用、利用者の皆様の読書活動というのができるように取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○議長（森　清孝君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１２番（大賀慶一君）　今、教育部長の力強いご答弁でございました。私たち旭志地区に住みます住民にとりましては、図書館・図書室が充実するということは本当に大きな願いでございます。今お話にありましたように、公正公平な地域の発展、そういう住民サービスをぜひ行っていただきたいことを強く要望しまして質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　ここで１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

休憩　午後１時４１分

開議　午後１時５１分

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　皆さんこんにちは。それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

最初に、台風１５号の被害状況と今後の対策についてお尋ねをいたします。

まずは、先月８月２５日に県内を直撃いたしました台風１５号によって被害に遭われました市民の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

また、私の地元では家屋火災も発生しましたので、被災者の方々にもお見舞いを申し上げます。

火災が台風と重なりましたので、市民の安全対策を初め、被害情報収集等に対応された消防関係、執行部の方々にもお礼を申し上げたいと思います。大変お疲れさまでございました。特に、防災交通課、福祉課、都市整備課住宅係におかれましては、私が平成１８年第３回定例会で提案させていただきました政策空き家で早速対応していただき、市民の住居の確保もできましたので、被災者の方々も大変感謝しておられました。

経済建設常任委員会としても、８月２６日の早朝より、クリ、梨、柿、ブドウ等の被害状況を把握するために現地視察を行いました。生産者ともお会いすることができましたが、梨は今年は天候不順で収穫が少ない上に大変な状況である。また、クリは枝折れも多く、二、三年先まで影響が続くと思われるので、非常にきつい。ある農家の方は高齢者でもあり後継者もいないので、将来に希望が持てないとおっしゃっておられました。市としても大変な問題であります。

昨日、坂本議員より台風１５号については質問をされましたので、被害状況についてはおおむね把握できましたが、確認を含め再度お尋ねをいたします。特に私からは、今後の対策についてお示しをいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、私のほうから台風１５号の被害状況につきまして、９月４日現在の取りまとめ内容についてお答えをいたします。

まず、人的被害につきましては、重傷者、骨折でございますけれども１名、軽傷者１名、計２人でございます。建物被害では、倒木等により住家の半壊が２棟、一部損壊が６棟。車庫などの非住家で、全壊６棟、半壊７棟でございます。

次に、被害額についてですが、まず、農林業関係でございます。農作物の被害額が約１億７０２万円。ビニールハウス等の破損などによりまして、農業施設被害額が約３，７７２万円。農道、林道などの農林業関係、公共施設被害額が約１，２６８万円の合計約１億５，７４２万円でございます。

次に、公共土木施設関係では、市道では、風倒木１４６カ所の撤去費用を含めまして、１５２カ所で約５，９９０万円、公園下水道関係施設では、４件で約１，０７０万円でございます。合計、約７，０６０万円となってございます。現在、市道は前面復旧をしている状況でございます。

その他公共施設の被害としまして、庁舎４件、市営住宅１９件、福祉施設３件、観光施設２件、教育施設１６件、体育施設９件、文化施設４件、その他１件と、合計５８件で、被害額が約４，０６２万円でございます。あわせまして、被害額の合

計で約２億６，８６４万円の被害が出ているところでございます。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、私のほうからは、農政、農業関係のほうの被害についてお答えいたしたいと思います。

９月４日現在で県が取りまとめました台風１５号による被害でございます。

まず、キュウリが４９万２，０００円、メロンが６０４万２，０００円、アスパラガスが３９５万１，０００円で、野菜類の合計で１，０４８万５，０００円となっているところでございます。

次に、梨など品種ごとに申し上げますと、豊水が４３１万５，０００円、新高が３６９万９，０００円、クリが５，９５１万１，０００円、柿が６４２万９，０００円で、果樹類合計で７，３９５万４，０００円となっております。

次に、トルコキキョウが１９６万円、カスミソウが１，９９０万８，０００円で、花卉類合計が２，１８６万８，０００円となっております。

また、畜産関係では、畜舎の倒壊により肥育牛１頭が圧死しており、７１万円の被害が出ているところでございます。

以上、農作物関係被害合計で１億７０１万７，０００円となっているところでございます。

次に、農業施設等の被害状況でございますが、ビニールハウスの園芸施設では、２，３３２万４，０００円、畜舎関係におきましては、畜舎１棟の倒壊による１，４４０万円となっているところでございます。

なお、畜舎屋根材等の一部破損も多数出ておりますが、今回の被害額には含まれていないところでございます。

農業施設関係の被害合計でございますが、３，７７２万４，０００円でございます。農作物関係と農業施設関係を合計いたしますと１億４，４７４万１，０００円となっているところでございます。

また、台風１５号の本市直撃後におきまして、８月２６日に本市市議会の経済建設常任委員会によるクリ、柿、梨、ブドウの被害樹園地視察がいち早く行われ、翌２７日には、県農林水産部長によるクリの被害、樹園地と畜舎倒壊現場の視察。２８日には、県果実連によりますクリと梨の被害樹園の樹園地視察。９月９日には、県議会農林水産常任委員会によるクリ被害樹園地の現地視察が行われているところであり、農政課におきましても、同行をいたしているところでございます。

今後の支援策といたしましては、農林漁業セーフティネット資金を初めといたしまして、災害関連資金等の円滑な融資と必要に応じました利子補給により、農家の

皆様の負担軽減を講じてまいりたいと考えているところでございます。まだまだこれから台風の接近が本格化する時期でございますので、今後も、台風に関します情報収集に努め、市民の皆様への情報発信、注意喚起を行うなど、迅速な対応を行ってまいります。また、県の動向も注視しながら、本市といたしまして必要な報告を講じてまいります。

以上、お答えいたします。

すみません、被災地の日にちのほうを私が少し間違えましたので、訂正をさせていただきたいと思います。

県果実連によります、クリと梨の被害樹園地の視察を９月９日と申し上げました。実際は９月７日でございます。申しわけございません、訂正させていただきます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。今、部長のほうから答弁がありましたように、いずれにしましても甚大な被害でございます。県のほうも、地元県議が先般、今訂正がありました９月７日に、農林水産常任委員会で地元の視察をやっていただいておりますが、もちろん市長も同行されて、地元のいろんな状況についてもご報告があったと思いますけれども、それと、今後、市長として、このような地域の問題に対して、救済策も含めて対応されるのか、その点をお聞きしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　先般の台風１５号の被害に対する今後の対策ということでございますが、何度も申し上げておりますが、このたびの台風１５号で被害を受けられた皆様、本当に心からお見舞いを申し上げたいと思いますし、また、当日おっしゃるとおり火災被害に遭われた方もいらっしゃいます。こうした皆様にも、本当に心からお見舞いを申し上げるところでございます。

私も台風が少しおさまりかけた、台風の当日でございますけど、火災の件、台風の被害と大変気になりまして、早速その日の午後ぐらいから、火災現場、それから台風被害の情報把握ということで菊池市内を見回ったところでございます。本市におきまして、至るところに大きな被害を残しているところでございまして、大分片づいたとは言うものの、今なお復旧活動、片づけ作業などに当たっておられる皆様のご苦労、ご心労に対しまして、本当に頭が下がる思いでございます。

時間の経過とともに、先ほど申し上げたような台風による被害の大きさというものを改めて痛感しているところでございまして、また、果樹等の中には、果実が落

下したわけではなくて、枝が折れたようなものもございますので、この影響はことしだけではないものも当然に多くあろうかというふうに考えているところでございます。この被害につきましては、県と一緒にこの動向を注視しながら、ただいま必要な支援方策を練っているところでございます。連携をしながら、できる限りの支援を積極的に行ってまいりたいというふうに考えているところです。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　いずれにしても、県、国との連携をとりながら、地元の代弁者として一生懸命取り組んでいただきたいと思います。

それでは次に、道路整備について質問をさせていただきます。

古川伊倉線の整備の進捗状況をお尋ねいたします。

この路線につきましては、国道３８７号の交通渋滞を含め、災害時に対する迂回路として、また、産さん滝、千畳河原への観光ルートとして、これまで何度も質問、要望をしてまいりました。おかげさまで、現在、千畳河原から細永橋までの改良が進み、夏は多くの観光客でにぎわっております。今後は、滝区の集落から伊倉区までの整備となると思われますが、現在の状況を詳しくお示しください。

次に、今回は先日の台風時にも、地域住民の方々と市道の片づけ等を人築として行いましたが、現在の市道の管理、特に中山間地域の市道については、市道の雑草や荒廃竹林等による交通障害が地域住民を困らせております。市道ですので、市で管理していただくのが本来の姿でありますが、市としても管理が行き届いていないのが現状であります。今回の台風で特に感じたのですが、私の地元では、県道も国道も一時通行ができなくなり、市道を迂回路として利用することにより目的地まで行くことができました。このような観点からも、市道の管理も重要な施策であります。また、菊池を訪れた方々にも、安全に、そして気持ちよく利用していただくことが大事であります。

そこでお尋ねをいたしますが、市民の生活道としての市道に対する管理の状況をお示しください。

また、昨日、城議員の質問の中でも指摘があったように、各地域によって人築等については不公平感が出ているようですので、その点につきましてもお答えをいただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　それでは、お答えしたいと思います。

市道古川伊倉線につきましては、平成２６年度に２期工事分、約１キロメートルについて地元説明会を既に行い、用地交渉を進めている状況でございます。また、平成２７年度、今年度は年度内に滝集落側からの一部工事着工、着手を目指しまして、用地交渉を推し進めてまいります。この区間については、議員ご要望のとおり、できるだけ早く完成を目指して頑張っていきたいと思っております。

次に、市道の管理についてでございます。

市道の除草等につきましては、現在２名の嘱託職員及び２名の作業員で舗装、補修、除草等の作業を行っております。しかしながら現状を見ますと、市道の管理しております実延長が約９７７キロメートルありまして、このうち中山間地などにおいては、市道に隣接する樹林、竹林から、風や雨などで枝が張り出して通行に支障を来した場所もあり、対応に苦慮しているところでございます。道路に出ている樹木等は土地所有者の管理下でありますので、ホームページや回覧文書、それから広報などで地権者に管理を行っていただくよう周知を行っているところでございます。

また、市で全てを取り扱うことは難しく、今後も今まで以上に地権者の方への周知を図るとともに、道路パトロールを行い、通行に支障のある樹木を早期発見し、適正な管理を求めてまいりたいと考えております。

現在、現状といたしまして、道路、河川の維持管理に毎年多額の費用がかかっておる状況にございます。人口減少とともに財政規模の縮小を求められる中で、このインフラ整備における維持費が問題になってきておりまして、今後、市有施設を含め、維持管理、施設の更新については十分な検討が必要であると考えております。

それから、きのう城議員のほうからもありましたけれども、地域による不公平感、これはまだ調整ができておりませんというふうにお答えしたと思います。これについても、引き続いて調整を重ねていきたいと思います。

以上、お答えさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。いずれにしましても、私どもの中山間地は高齢化率も高くて、なかなか市道の管理もできないような状況でございます。先般、城議員が申されましたように、現地としては非常に大変なんですね。ですから、ある地域にはある面じゃ補助が出て、私どものほうは現状的に出ておりませんので、そういうことも踏まえて、この不公平感についてはやっぱり市長のほうからきちんとした答弁をいただかないといけないと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ご質問は人築にかかわる不公平感のことかと思います。これは、初日の城議員からも同様のご指摘があった点でございます。大変悩ましい問題もいろいろあると思います。公平感の問題、それからやはり農地を含め、この菊池の景観全体を保護していかなきゃいかんという問題、こうしたことを含めまして、何が最適であるか、最善であるかを、今後とも研究をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。余り答えになっていないような答弁でございましたけれども、また引き続きこのことについては質問をしていきたいと思います。

それでは、次に、菊池市老人福祉センター跡地の対応についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、これまで何度も質問、要望を続けておりますが、当初は高野瀬区としては老人センター跡地の活用については、市の老人センターが高野瀬区から移転するということを踏まえ、平成２４年２月には、その当時の区長名による老人センター跡地に関する要望書が市長に対して提出されております。要望書には、現在の老人センターの建物及び土地を無償で貸していただき、高野瀬区の公民館として利用したいと。主な理由を列記して要望書が出ておりましたが、その後、市としては老朽化しており改修もできないので、解体する方向で進めていくので、理解をお願いしたいということでございました。

私としても老人センターの移築に対しては、議会でも送水方式、また、高野瀬区からはこれまでの場所で建築をしていただきたいとの陳情も議会で採択された経緯を踏まえ、老人センター跡地の対応をお願いしてまいりました。

市は、その後老朽化を理由に解体を行い、公民館建設については、コミュニティ事業で対応していくこととなりました。現在は、地元県議のご尽力によりコミュニティ助成事業の助成金の申請が採択され建築が始まっております。

そこでお尋ねをいたしますが、これまでの高野瀬公民館の建築の状況をお示しいただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、木下議員からのご質問で、コミュニティ関係でご説明させていただきます。

菊池市老人福祉センターの跡地につきましては、先ほどおっしゃいましたように、一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業により、高野瀬区のコミュニティセンターの建設が行われております。この事業は、宝くじの社会貢献広報事業として、住民の行う自主的なコミュニティ活動を積極的に推進し、その健全な発展を図るため、住民の需要に応じた機能を有する集会施設の建設などに助成されるものでございます。平成２６年度において、高野瀬区からコミュニティ事業への申請が行われ、県を経由して自治総合センターへ申請を行ったところ、本年４月に交付決定の通知がございました。６月定例会において、コミュニティ助成事業補助金の補正予算の議決をいただきましたので、補助金の交付手続後、建設に着手されているところでございます。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、私は建設に伴います市有地の状況についてご説明を申し上げます。

土地の貸借の状況についてでございますが、高野瀬区から普通財産借り受け申請が行われまして、平成２７年８月１日に土地使用貸借契約を締結したところでございます。

また、貸付料につきましては、公共的団体であることから、市の条例の規定によりまして、無償貸し付けといたしているところでございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。

それでは、次に、菊池市老人福祉センター跡地の周辺整備についてお尋ねをしたいと思います。

先ほど、各部長のほうから答弁がありましたように、高野瀬区の公民館が建設中であります。先日、８月２２日には新たな公民館の上棟式が行われました。地元葉室区長を初めとする役員の方々の計らいで、新公民館の名称は、高野瀬区公民館孔子堂と決定され、また、地区の子どもたちが誇りと品格を持った青年になってほしいと、孔子にゆかりのある高野瀬区として論語から引用した文字を記した石を床下に埋設する一字一石論語塚事業も行われ、また、女性部との協力による餅投げもあり、子どもたちもすばらしい記念になったと思われます。

このように、新公民館の建築は着々と進んでおりますが、これまで菊池市老人福祉センターとして利用されていたときからの問題は、入口の市道の不備と北側の斜面等の整備の問題であります。高野瀬区より、現在、整備に対する要望書が提出さ

れているとのことですが、今後、市としてどのように対応されるのか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、今ご質問がありました北側の斜面、隣接住民からの雨水漏水等の相談があっております。整備が必要であると判断いたしておりますので、実施設計委託料を本議会に提案をしているところでございます。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　隣接地につきましては、今、総務部長がお話をしましたように、裏側の土手の擁壁の部分、それから並行しまして、建設部といたしましては、道路整備をその整備に合わせて行う予定でございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。高野瀬区は、今、区民は約２，２００名だそうです。支館に準ずるような役割も果たしていかれると思いますので、きちんとした整備をこの際やっていただきたいと思います。よろしくお願いしておきたいと思います。

それでは次に、学校跡地、閉校後の活用の進捗状況についてお尋ねをいたします。

平成２５年４月１日から統合された小学校４校のうち、現在、旧水源小学校は美少年酒造として活用され、地元の米を利用した清酒づくりにも取り組んでいただき、地域の活性化にも役立っております。

また、旧龍門小学校は、本年６月１７日に移住者の受け入れを促進する集落定住支援センターが開設され、地域おこし協力隊員が案内役を務めておられます。私も何度か訪問をさせていただきましたが、今後の地域おこし協力隊員の活躍に期待するものであります。

しかしながら、まだ２校が活用されていない状況であります。先般の質問の答弁では、地域の発展、校区住民の利便性の向上などの観点から検討を行っているとのことでありましたが、私は、これまで跡地利用については、地域から小学校がなくなることによって、地域社会に多大な影響を及ぼすことを指摘し閉校と跡地利用については、同時振興での取り組みをお願いしておりましたが、なかなか成果が出ていないようであります。

先般、７月１８日に、「やねだん」で有名な豊重塾長をお招きして、菊池市地域

づくり人材育成研修会が迫間地区で行われ、各地域の問題点の中で、学校跡地の問題が指摘をされました。その中で、消防ＯＢの方から、広域消防の観点から、また地域の住民の安心・安全の観点から、分署として使えないかとの意見も出されました。私たち中山間地にとっては必要不可欠な施設だと思います。

いずれにしましても、閉校後の学校の活用が長引けば長引くほど地域の活力はもちろん、建物の老朽化、維持管理の負担も増加してまいります。市としても、このような観点からも最優先に取り組む必要があると思われますが、活用の進捗状況をお示しいただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　学校跡地の利用についてでございます。閉校後の経緯ということで、先ほど議員がおっしゃったように、水源小学校につきましては、企業に売却を行い、酒づくりが行われているところでございます。この企業におきましては、菊池にちなんだ商品開発や特産品販売への参加、各種視察の受け入れなどにより本市をＰＲしていただくなど、地域の活性化につながっていると考えております。

また、龍門小学校は、先ほど議員もおっしゃったように、６月１７日に移住、定住の拠点として集落・定住支援センター「きくち暮らし」を開所し、８月２９日には空き家を生かす定住促進事業として、市外からの移住希望者を対象に、初めての移住相談会を開催したところでございます。龍門、河原、迫水小学校のグラウンド、体育館につきましては、社会体育施設として、また、災害時の避難所や選挙の投票所としても利用しております。これまで、地域の代表者で組織された検討会委員会や地元へのアンケート調査による意見の集約、民間アイデアや活用の公募を行ってまいりましたが、今年度におきましては、庁内において地域おこし協力隊を加え、プロジェクトチームの体制を整え、建築家などの外部有識者の意見をお聞きしているところです。この中で、地域の交流、野外体験活動、地域福祉などの拠点やＩＴ企業のサテライト・オフィスなど、さまざまなアイデアが考えられますので、地域振興につながるような利活用を進めてまいりたいと考えております。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。あと２校残っております状況でございます。ほかの地域の熊日などに掲載されているのは、いろいろな企業の誘致に成功しているところもたくさんございます。やはり今回もこういった形で改めて質問をするのも、やっぱり常日ごろからこういうふうな形で質問をしないとなかなか

動いていただけないような状況もあるものですから、そういう形で質問をさせていただいたわけでございます。どんどん校舎のほうも老朽化してまいりますし、間があけばあくほど、先ほど申し上げたように維持管理もかかってまいりますので、早急に対応を、最優先でやっていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは、次に、小川基金の奨学金としての活用の時期についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、平成２１年３月定例会の質問以来、これまで何度も質問、要望を続けまいりました。私自身、平成２２年１２月に直接、故小川水實氏のご遺族の小川恵美様とお会いすることができ、青少年育成に対する熱意を感じたところでございます。

先般、平成２７年第１回定例会において改めて活用の時期についてお尋ねをいたしましたが、答弁では、平成２７年度から適用させたいと考えておりましたが、結果的には小川恵美様とは調整がつかず、平成２７年度入学者には対応できず、改めて交渉をしなければならなくなったとのことであります。市民が期待している奨学金、特に入学準備金については、結果的にこのような状況になっていることを踏まえ、今後市としてどのように対応されるのか、お尋ねをいたしたいと思います。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　小川基金の奨学金としての活用についての現在の状況につきましてお答えいたします。

議員ご存じのとおり、その使途につきましては、小川恵美さんのご意向を尊重いたしまして、これまで数回にわたって顧問弁護士を通して協議を行ってまいりました。現在、そのご要望を反映した新しい案を顧問弁護士様のほうへ提示をさせていただいておるところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。この問題については、いずれにしても相手がいらっしゃることであります。小川恵美さんと直接いろんな形でお話をしていただくのが一番いい方法だと思いますけれども、今、部長の答弁にありましたように弁護士の方を通じてという形で、今どうなっているかもわからないというのが現状だと思います。いずれにしましても、これはやっぱり時期があるんですね。やっぱりこの制度をつくって条例などをきちんとするためには、その時期をちゃん

と考えていかないと、年度年度に間に合わないと、そういうことがあるから常に申し上げているわけですね。

本当に、先般、熊日に水俣市議会の記事が掲載されておりましたけど、私ちょっと確認してみました。水俣市は、５，０００万円の寄附を原資に、年間に４名の方の奨学金、もちろん給付型ですね。これを新しく創設するということで、今議会に上程されているということでございました。本来であれば、菊池市がもっともっと早くできたはずなんですね。だから、私はとにかく小川恵美さんと直接お会いしたときから、平成２２年ですから、もう何年たっているかわかりません。また、その後、江頭市長にも直接お会いしてという形の中でずっとお願いしてきましたけれども、なかなか直接会えないようになっているような状況でもありますし、本当に市民は期待しているわけなんですね。教育長はまだ直接お会いされていないと思うんですが、そのことも踏まえて、早急にやっぱり向こうに、本人様とアポをとって会うようなことをやっていただきたいと思いますので、まずはちょっと教育長のほうからそのことについて、自分の考えで結構ですので、お答えをいただきたいと思いますが。

○議長（森　清孝君）　教育長、原田和幸君。

［登壇］

○教育長（原田和幸君）　ただいまのご質問にお答えします。

議員もご存じのとおり、教育長に就任しましてすぐ、夏に１回お会いしに参りました。そして、モノレールに乗ったところで、市長のほうに電話がかかりまして、きょうは会えないということで、私はとんぼ返りで帰ってきた経緯がございます。今、とにかく小川恵美様のほうからは弁護士を通じてということで指示があっておりますので、今は弁護士の方に一応こちらの案として提示をさせていただいております。それをもとにして、お返事が来た段階でまた判断をしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今の件につきまして、私からも補足をしておきたいと思います。

既に部長からも、それから教育長からもお答えしたことでありますけれども、とにかく今回、もう小川さんご遺族からも大変貴重なかつ巨額の寄附であるということで大変ありがたく思っておりますので、そのご遺志をとにかく生かしたいということで、今までご意向を尊重して進めてきておるわけでございます。

今、状況がわからないんではないかというふうなご指摘がございましたが、そういうことではございませんで、小川さんにお話をしてご相談をした折に、これから

の細かい話は一回弁護士とやってくれというご希望がございましたので、大変お忙しい方でもありますので、それを尊重して今弁護士とお話を進めさせていただいていることでございます。

それから、現状は、私どもの案に対して、今、先方でご検討をいただいているという状況でございますから、今、ご回答をお待ちしているところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　市長のほうからわざわざ補足までしていただいてありがとうございました。

いずれにしましても、結果的になかなかこの結果が出ていないと。先ほどから申し上げますように、先方がいらっしゃってのこれは制度でございますので、弁護士を通じて一生懸命やっていただくことは十分理解しておりますので、早急に、やっぱりこの入学準備金の奨学金制度ができますように期待しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは次に、旧市営牧場跡地の環境整備基金での買い戻しの時期と今後の対応についてお尋ねをいたします。

この件は、平成２３年第４回定例会において土地開発基金によって市がコスモチキンから４，５８０万円で取得しておりますが、法的な手続等の条件が整えば、環境整備基金で買い戻すことになっております。これまでの質問の答弁では、保安林の指定を受けた後に買い戻しを行う予定であり、保安林の指定につきましては、各法的手続を済ませ、平成２７年１０月までに完了した場合、それから保安林の指定までおおむね１年程度かかると予測しているとのことでありました。今回は改めて確認も含めお尋ねをいたしますが、旧市営牧場跡地の環境整備基金での買い戻しの時期はきちんと決まったのでしょうか、そのことをお示しいただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　経済部長、松野浩一君。

［登壇］

○経済部長（松野浩一君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

旧市営牧場跡地につきましては、本年４月に県北広域本部へ保安林の指定の申請を行っており、農振農用地からの除外手続が本年６月に完了しているところでございます。現在、県北広域本部によります現地調査、進達のための保安林指定調書の作成が行われているところでございます。その後、県森林保全課の審査を経まして、１１月には国への申請が行われる運びとなっているところでございます。

さらに国の適否審査を経まして、来年１月から指定目的、指定区域の予定公告、

確定公告など、工事期間を含めて法的手続が完了後、平成２８年３月末までに保安林指定が確定する見込みでございます。よりまして、その後に平成２８年度に環境整備基金を取り崩しまして、買い戻しを行う予定でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。この買い戻しについては、これまで環境整備基金というのはずっとためておりますけれども、地元活用も含めて使われていないわけですね。もうこの時期が決まりまして、環境整備基金で買い戻すことによって、今後、地元の使途目的で決まっておりますので、周辺地域の活性化に使えるということで地元の方々もある面では期待しております。旭志のほうは、先般、出口議員も触れられましたように、ＲＤＦのほうが延長になりましたことに対して、環境保全補助金というのが交付されるようになったわけでございます。しかしながら、こちらのほうの産廃の問題については、今のところ地元に特別といったこういった補助金等は今まで出されておりませんので、この環境基金での買い戻しによってそのスタートになるということも踏まえて、今回質問をさせていただいたわけでございます。

いずれにしましても、今、環境整備基金の中には協力金というのが各２１団体ぐらい、今、一般廃棄物はまだあと１０年以上持ち込めるような、産業廃棄物は終わっておりますけれども、一般廃棄物はこれからあと十数年は入ってくるとそういう状況でございますので、地元の人たちのご心労を考えると非常に大変な状況でございますので、今後は、そういう言った形で環境整備基金の活用についても市の対応をお願いしていきたいと思います。

それでは、最後に、予算編成方針についてお尋ねをいたします。

今回は、特に少子・高齢化の進展に伴う本市の厳しい財政状況の中で、何か市長専用の車の購入の予算が計上され、現在、納車され、使用されているとのことであります。平成２７年度の第１回定例回で付託された総務文教常任委員長の報告では、市長車については報告がありませんでしたので、予算を計上してあったこともちょっとわかりませんでしたが、市民の方々から地区の祭り等に市長が公用車として使用されているのを見て、私も知ったというのが現状であります。

もちろん必要性があるから執行部より提案されたと思われますが、これまでの市長専用の新車の購入の経緯と、どのような車を購入されたのか。価格は、リースなのか、または購入方式等もお示しをいただきたいと思います。

○議長（森　清孝君）　政策企画部長、小川秀臣君。

［登壇］

○政策企画部長（小川秀臣君）　それでは、木下議員からの市長車購入の経緯についてご説明をさせていただきます。これまで利用しておりました車は、環境に配慮した電気自動車でございました。しかし、走行距離に制限があるため短く、幅広くトップセールス等を行う上で、支障を来しており不便でありましたので、集中管理者を含め、全庁的な見直しの中で予算計上を行ったものでございます。

車の選定につきましては、企業誘致等も考慮し、本市に関連企業が多数ありますホンダのアコード・ハイブリッド車としたところでございます。

購入金額につきましては、消費税込み額で３９２万円でございます。

また、財源につきましては、エコカー購入ということで、購入額の９０％を起債で対応し、残りは一般財源としているところでございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。必要性があるから買われたということでございますけれども、市長の市政方針のつづりを持ってきておりますけれども、先ほども申し上げましたように厳しい財政状況が今後続くことは、もう誰もが認識しております。そして、聖域なき見直しを図ることが必要と市政方針にも述べられております。めりはりをきかせた歳出の重点化、効率化を図っていき、本市の目指す安心・安全、癒しの里に実現に向けて取り組むという形でおられますけれども、普通、市民目線、これ江頭市長の選挙のときのチラシをちょっと引っ張り出して持ってきましたけれども、市民と同じ目線から開かれた効率的な市政の仕組みをつくりますと。今、この市長車を購入する時期なのか、そういう考えでいいのかというのを私も思いますし、また、市民の方からもいろんな意見を聞きます。乗ってこられたときに、私に、市長の車がかわったねと。余りいい評価はされないのが現実であります。先ほど東議員からも介護保険等のことも触れられました。本当に、私の母親でも、平成２４年度のときは５万円だった介護保険が、もう７万円台になっております。介護保険料も上がるばかり。市民の暮らしは厳しくなるばかりでございます。私どもの市長という立場はトップでございます。やっぱりトップが、自分をいさめて、また、謙虚なところは謙虚な行いをしていくのが私はトップの行動だとは思いますし、また、その考えがなければいけないと思います。そういう観点から、やはり今まで、前市長のときに１回、市長車の購入については区長会から指摘を受けて、リースでしたから、途中で、ほかの企業の社長にそのままリースを持ってもらうようなことをされた経緯もあります。ですから、そういうことも踏まえて、今からどんどん財政的に豊かになる市であればいいと思います。しかしなが

ら、やはり今からは逆にそういうのを廃止していく時代に入っているんじゃないかというふうに私は思っているものですから、そのことも含めて、市長のお考えもお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（森　清孝君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまの市長車に対する考え方ということでございますが、私は、木下議員が市長車というものをどういう観点でごらんになっているかがよく今つかみ切れなかったのですが、私にとりましては、非常に多忙な中で、非常に多くの職責を抱えております。とりわけ今、地方創生ということで、私自身がいろいろとトップセールスで飛び回らなきゃいかん、こういう時代でございます。しかしながら、従来の車は、これは環境には優しい電池車ではございましたけれども、いかんせん長距離が全く運転できません。坂道ではすぐバッテリーを食ってしまうといったふうに、大体何キロメートル、きょうはどこまでいけるだろうかということが非常に不安な状況でございます。

それから、非常に小そうございますので、万々が一、例えばトラック等に挟まれた場合も、非常に安全面、特に同乗しています、お客様も乗せるでしょうし、それから運転手の安全といったことを考えても、いろいろと難があったということで、それで車種については標準的なものをということで、これは事務局のほうで選んでくれたわけでございます。

おかげさまを持ちまして、本当にバッテリーとか距離とかを余り気にせずにあちこちと、企業誘致、例えば学校への企業の誘致ですとか、いろんなものに今使わせていただけいるところでございます。非常に効果も上がってきたところでございます。

必要かどうかというお話がございましたが、そういった点も踏まえて、議会でもご審議をいただいてご了解をいただいたものというふうに理解しているところでございます。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　木下雄二君。

［登壇］

○１８番（木下雄二君）　ありがとうございました。いずれにしましても、市民の声ということも含めて申し上げたことでございます。

議会の車は、たしか平成１３年の購入でございますので、議会の議長も、本当に一生懸命頑張っておられますので、ぜひとも議会のほうの検討もしていただきたいということをお願いして、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（森　清孝君）　以上で一般質問は終わります。

本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――――――

散会　午後２時４４分

第　５　号

９ 月 １１ 日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

平成２７年９月１１日（金曜日）午前１０時開議

第１　議案第　９７号　平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）
　　議案第　９８号　平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
　　議案第　９９号　工事請負契約の締結について（平成２７年度菊池市役所庁舎増改築工事）
　　議案第１００号　財産の取得について
　まで一括上程・説明・質疑・常任委員会付託
第２　報告第　２３号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）
　上程・報告・質疑

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第　９７号　平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）
　　議案第　９８号　平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
　　議案第　９９号　工事請負契約の締結について（平成２７年度菊池市役所庁舎増改築工事）
　　議案第１００号　財産の取得について
　まで一括上程・説明・質疑・常任委員会付託
日程第２　報告第　２３号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）
　上程・報告・質疑

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん

７番	松　岡　　譲　君
８番	荒　木　崇　之　君
９番	柁　原　賢　一　君
１０番	工　藤　圭一郎　君
１１番	城　　典　臣　君
１２番	大　賀　慶　一　君
１３番	岡　﨑　俊　裕　君
１４番	水　上　彰　澄　君
１５番	泉　田　栄一朗　君
１６番	森　　清　孝　君
１７番	樋　口　正　博　君
１８番	木　下　雄　二　君
１９番	山　瀬　義　也　君
２０番	境　　和　則　君

○

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	木　村　利　昭　君
政策企画部長	小　川　秀　臣　君
総務部長	馬　場　一　也　君
市民環境部長	倉　原　良　則　君
健康福祉部長	木　原　雄　二　君
経済部長	松　野　浩　一　君
建設部長	櫨　川　博　久　君
七城総合支所長	楳　田　邦　昭　君
旭志総合支所長	水　上　満　弘　君
泗水総合支所長	上　田　譲　二　君
財政課長	中　村　喜　範　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳　永　孝　博　君
市長公室長	上　田　俊　介　君
教育長	原　田　和　幸　君

教育部長	松岡千利君
農業委員会事務局長	原　和徳君
水道局長	藤本辰広君
監査事務局長	松永隆則君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　主一君
事務局課長	徳永裕治君
議会係長	松原憲一君
議会係	新永晶子さん

○議長（森　清孝君）　全員起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（森　清孝君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　議案第９７号から議案第１００号まで一括上程・説明・質疑・常任委員会付託

○議長（森　清孝君）　日程第１、議案第９７号から議案第１００号までの４議案を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　皆様おはようございます。それでは、ただいま上程されました議案について、ご説明申し上げます。

追加議案書の１ページからになります。

議案第９７号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）でございます。

さきの台風１５号被害に係る災害復旧事業の補正予算でございます。

歳出の主なものといたしましては、災害廃棄物の処理及び収集運搬に係る業務委託料２億２万４，０００円、市道の補助災害復旧事業の工事請負費１，８００万円、同じく市道の倒木撤去等に係る建設機械借上料３，９９０万円などでございます。

総額３億４，４７２万７，０００円を追加するものでございます。

次に、議案第９８号、平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

同じく台風１５号による七城北部浄化センター門扉の修繕料を追加するものでございます。

次に、議案第９９号、工事請負契約の締結についてでございます。

市役所庁舎増改築工事につきまして、前田建設工業株式会社九州支店と契約を締結いたしたく、議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第１００号、財産の取得についてでございます。

消防団活動服等について、株式会社タケモトと物品購入契約を締結し購入いたし

たく、議会の議決を求めるものでございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（森　清孝君）　総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　おはようございます。それでは、追加議案の議案第９７号から議案第１００号までを一括してご説明をいたします。

追加議案書の１ページをお願いいたします。

議案第９７号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）でございます。

２ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に３億４，４７２万７，０００円を追加しまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ３００億４，９９１万２，０００円とするものでございます。

さきの台風１５号被害に伴います災害復旧事業に係る補正予算でございます。

内容につきまして、事項別明細によりご説明をいたします。

まず、歳入でございます。

８ページ、９ページをお願いいたします。

１枠目の項１国庫負担金、目１０災害復旧費国庫負担金１，２００万円の増額は、市道七坪小楠野線ほか１路線に対する国庫負担金でございます。

最下段の枠の項１市債、目１０災害復旧債６００万円の増額は、ただいまご説明いたしました２路線に国庫負担金を充当した残額に対しての市債でございます。

なお、財政調整基金繰入金及び繰越金により、今回の補正の財源調整を行っております。

続きまして、歳出でございます。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。

３枠目の項１厚生施設災害復旧費、目２衛生施設災害復旧費２億１，１４６万７，０００円の増額は、市内４カ所に設置しております災害廃棄物仮置き場に係る特定家電リサイクル手数料、倒木、瓦れき類等の災害廃棄物処理業務委託及び同処分に係る運搬業務委託並びに仮置き場内の移動、積み込みのための建設機械借上料等が主な内容でございます。

４枠目の項２農林水産業施設災害復旧費、目２農業用施設災害復旧費１，４０３万４，０００円の増額は、七城地区の複合経営促進施設（施設園芸ハウス）に係る修繕料及び七城町特産品センター（メロンドーム）災害復旧に係る工事請負費でございます。

５枠目、項３公共土木施設災害復旧費、目２現年度補助災害復旧費１，８００万円の増額は、歳入予算でも説明いたしました市道七坪小楠野線ほか１路線に係る、災害復旧に係る工事請負費でございます。

同じく目３単独災害復旧費４，１９０万円の増額は、市内の市道１４９カ所の倒木撤去等に係る建設機械借上料及び市道日向松島線災害復旧に係る工事請負費でございます。

最下段の枠、項４文教施設災害復旧費、目１公立学校施設災害復旧費１，０３９万８，０００円の増額は、市内の小・中学校、泗水幼稚園に係る修繕料及び小・中学校の倒木撤去業務委託並びに旭志小学校体育館のアルミサッシにおける災害復旧に係る工事請負費でございます。

１２ページ、１３ページをお願いいたします。

１枠目の項４文教施設災害復旧費でございますけれども、目３社会体育施設災害復旧費１，３１７万７，０００円の増額は、斑蛇口湖ボート場、旭志・泗水Ｂ＆Ｇ施設等に係る修繕料及び泗水Ｂ＆Ｇ施設の倒木撤去業務委託並びに泗水Ｂ＆Ｇ施設プール上屋テント取りかえ等、災害復旧に係る工事請負費でございます。

２枠目の項５その他公共施設・公用施設災害復旧費、目１その他公共施設災害復旧費１，４５１万２，０００円の増額は、菊池公園多目的グラウンドナイター、同公園防護柵、鴨川河畔公園施設等の修繕料及び菊池公園等の倒木撤去に係る建設機械借上料でございます。

同じく目２その他総務関連施設災害復旧費１，１７４万５，０００円の増額は、七城総合支所駐輪場、旭志総合支所防災倉庫等の修繕料及びきくちふるさと水源交流館グラウンド防球ネット、道路反射鏡等の工事請負費並びに原材料費でございます。

節の１９負担金補助及び交付金でございますけれども、市内消防団詰所における被害に対する補助金でございます。

それでは、４ページに戻っていただきまして、第２表　地方債補正でございます。

これにつきましては、先ほど説明しました市道２路線に係る地方債の補正でございます。

次に、１５ページをお願いいたします。

議案第９８号、平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて１６ページでございますけれども、今回の補正は、予算の総額に１３９万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ３億６，８１５万４，０００円とするものでございます。

内容は、七城北部浄化センターの大型アコーデオン門扉が被災したことによる修繕料でございます。

次に、２３ページをお願いいたします。

議案第９９号、工事請負契約の締結についてでございます。

市役所庁舎増改築工事につきまして、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

この工事につきましては、８月２０日に条件付一般競争入札を実施し、その後の事務処理を経て、９月３日に仮契約を行ったところでございます。

契約の目的は平成２７年度菊池市役所庁舎増改築工事、工事場所は菊池市隈府地内、契約の方法は条件付一般競争入札、契約の金額は２５億４，１２４万円、契約の相手方は前田建設工業株式会社九州支店でございます。

次に、２５ページをお願いいたします。

議案第１００号、財産の取得についてでございます。

消防団活動服の購入につきまして、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第３条の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

この財産の取得につきましては、８月１４日に条件付一般競争入札を実施し、その後の事務処理を経て、８月２７日に仮契約を行ったところでございます。

取得する財産は消防団活動服上下１，６０３着及びベルト１，６０３本、契約の方法は条件付一般競争入札、取得金額は１，２８０万９，４４４円でございます。契約の相手方は株式会社タケモトでございます。

以上、議案第９７号から議案第１００号の説明とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　議案第９７号について、お伺いします。

１２ページをおあけください。

災害復旧費、それの社会体育施設災害復旧費の中で、節１１需用費のＢ＆Ｇの修繕料というのがあるんですけど、Ｂ＆Ｇはたしか全額、Ｂ＆Ｇのほうで建てた建物は修繕してくれると思うんですけれども、市のほうで組む理由というのを教えていただいてよろしいですか。

○議長（森　清孝君）　教育部長、松岡千利君。

［登壇］

○教育部長（松岡千利君）　予算の中の修繕料の件で、Ｂ＆Ｇ施設については財団のほうからというお話だろうと思いますが、年数も経過しておりまして、施設そのものは市のほうに払い下げといいますか、譲渡を受けておるというふうに聞いておりますので、この修繕料につきましては、軽微なものにつきましては市のほうでするということになっておるんじゃなかろうかと思います。

内容の確認をちょっと詳細にやっておりませんでしたので、申しわけございませんが。

○議長（森　清孝君）　荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　前回の１０年前の台風のときに、たしか泗水Ｂ＆Ｇプールのテントが全部飛んだんですよね。そのときが１，０００万円ぐらいかかっているんですけど、それは全額財団のほうからいただいて修繕をしているので、なるべく市の手出しを少なくするのが一番よろしいので、その辺は調べていただいて、これで上げていて、これで修繕をするけれども、Ｂ＆Ｇのほうからお金をいただけるということであれば、いただいて修理をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（森　清孝君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、委員会付託を行います。

議案第９７号から議案第１００号までの４議案については、お手元に配付しております議案付託表のとおり、それぞれ所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますようお願いいたします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第２　報告第２３号　上程・報告・質疑

○議長（森　清孝君）　次に、日程第２、報告第２３号を議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務部長、馬場一也君。

［登壇］

○総務部長（馬場一也君）　それでは、報告第２３号につきまして、ご説明をいたします。

追加議案書２７ページをお願いいたします。

地方自治法の規定によりまして、議会において指定されている事項について専決処分を行いましたので、これを報告するものでございます。

あけて２８ページが専決第１９号専決処分書でございまして、市道の道路管理瑕疵による損害賠償に係る額の決定について、専決処分をしたものでございます。

専決日は平成２７年９月２日でございます。

事故発生日は平成２７年７月２７日で、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要としましては、相手方車両が泗水町住吉地内市道住吉赤星線を走行中に、道路左側のアスファルト陥没穴に左側前輪が落ち、タイヤとホイールを破損させ損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は１９万６，０４１円でございます。

その他の決定事項は記載のとおりでございます。

以上、報告第２３号の説明とさせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

工藤圭一郎君。

［登壇］

○１０番（工藤圭一郎君）　ちょっと道路の管理のお尋ねをしたいんですけど、こういう陥没穴あたりの見回りというか、そういうのはどういうふうにされていますか。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　おはようございます。市道の巡視についてでございますけれども、原則として作業員による巡視に頼っている状況でございます。時間があるときには、職員ももちろん巡回して回ります。とにかく広範囲で、答弁いたしましたように９７０キロほど延長がありますので、なかなか十分なパトロールができている状況にはないと言わざるを得ないかと思います。

また、区長さんあたりからの情報を頼っている状況でもございますので、それも申し添えておきたいと思います。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　工藤圭一郎君。

［登壇］

○１０番（工藤圭一郎君）　郵便局員さんとか、よく回られる方に協力をお願いするとか、そういうお考えはないですか。

○議長（森　清孝君）　建設部長、櫨川博久君。

［登壇］

○建設部長（櫨川博久君）　今、郵便局のお話が出ましたけれども、これも部内のほうでは、日常的に動いておられる方の情報が何か欲しいなということは常に話が出ております。早速、ちょっと確認をしたいと思います。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

以上で本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は９月１８日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日はこれをもちまして散会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１０時２０分

第　６　号

９ 月 １８ 日

平成２７年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

平成２７年９月１８日（金曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

追加議事日程（第６号の追加１）

第１　意見書案第３号　安全保障関連法案の撤回を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について
追加日程第１　意見書案第３号　安全保障関連法案の撤回を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	平	直　樹　君
２番	東	奈津子　さん
３番	坂　本	道　博　君
４番	水　上	隆　光　君
５番	出　口	一　生　君
６番	猿　渡	美智子　さん
７番	松　岡	譲　君
８番	荒　木	崇　之　君
９番	柁　原	賢　一　君
１０番	工　藤	圭一郎　君
１１番	城	典　臣　君
１２番	大　賀	慶　一　君
１３番	岡　﨑	俊　裕　君
１４番	水　上	彰　澄　君

１５番	泉　田　栄一朗　君
１６番	森　　清　孝　君
１７番	樋　口　正　博　君
１８番	木　下　雄　二　君
１９番	山　瀬　義　也　君
２０番	境　　和　則　君

○

欠席議員（なし）

○

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実　君
副市長	木　村　利　昭　君
政策企画部長	小　川　秀　臣　君
総務部長	馬　場　一　也　君
市民環境部長	倉　原　良　則　君
健康福祉部長	木　原　雄　二　君
経済部長	松　野　浩　一　君
建設部長	櫨　川　博　久　君
七城総合支所長	楳　田　邦　昭　君
旭志総合支所長	水　上　満　弘　君
泗水総合支所長	上　田　譲　二　君
財政課長	中　村　喜　範　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	徳　永　孝　博　君
市長公室長	上　田　俊　介　君
教育長	原　田　和　幸　君
教育部長	松　岡　千　利　君
農業委員会事務局長	原　　和　徳　君
水道局長	藤　本　辰　広　君
監査事務局長	松　永　隆　則　君

○

事務局職員出席者

事務局長	城　　主　一　君
事務局課長	徳　永　裕　治　君

議会係長	松原憲一君
議会係	新永晶子さん

○議長（森　清孝君）　全員ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（森　清孝君）　ただいまより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決

○議長（森　清孝君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、去る９月８日及び１１日の会議において、各常任委員会に審査を付託しました議案第６８号から議案第８２号まで及び議案第９４号から議案第１００号まで並びに陳情第５号の２３案件について、各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題とします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

まず、総務文教常任委員長、工藤圭一郎君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（工藤圭一郎君）　おはようございます。本定例会で総務文教常任委員会に付託されました案件は、条例案４件、予算案２件、議決案件３件の計９案件でございます。

現地調査を踏まえ、２日間にわたり慎重に審議しましたので、その経過と結果について、ご報告いたします。

まず、議案第６８号、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定について申し上げます。

この条例は、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づき、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を設置するものと説明があり、質疑を行いました。

委員より、推進会議委員の人選については、人づくり、地域づくりが大事であり、選考に当たっては慎重に行ってほしいとの意見があり、執行部より、多方面から意見を出していただく人選を考えるとの答弁がありました。

次に、議案第６９号、菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について申し上げます。

この条例は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関す

る法律の施行に伴い、条例の一部を改正する必要があると説明があり、質疑を行いました。

委員より、実施機関は法令等の規定に基づく場合においてはオンライン結合により特定個人情報を提供することができるとあるが、どんな場合を考えているのかとの質疑に対し、業務の範囲内で限定して各自治体間等のやりとりを認めるとの答弁がありました。

次に、議案第７０号、菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定について申し上げます。

この条例は、被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険等の一部を改正する法律の施行に伴い、条例の一部を改正すると説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第７１号、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について申し上げます。

この条例は、菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の設置に伴い、条例の一部を改正するものと説明があり、特に質疑はありませんでした。

議案第６８号から議案第７１号については、別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）について、付託中、主なものについて申し上げます。

総務費、財産管理費の委託料の１１１万６，０００円の主なものは、旧老人福祉センターの崖地に擁壁工事を行うための測量設計委託料と公共用地等の不動産鑑定委託料との説明を受け、質疑を行いました。

委員より、擁壁を設ける理由は何かとの質疑に、執行部より、崖地の下の住民から危険であるから対策をしてほしいとの要望が上がっていたとの答弁がありました。

総務費、地域振興費の負担金補助及び交付金の５００万円は、空き家を購入、または賃借した空き家の改修を行う場合の補助との説明があり、質疑を行いました。

委員より、登録した物件だけに補助金を交付するのかとの質疑に、執行部より、補助金交付要綱に基づき登録した空き家が対象であるとの答弁がありました。

次に、教育費、事務局費の役務費の４７万５，０００円の主なものは、七城中学校及び泗水東小学校の漏水調査手数料との説明があり、質疑を行いました。

七城中学校は早くから漏水していたと聞いているが、何が原因なのかとの質疑に対し、執行部より、何が原因かわからないとの答弁がありました。また、委員より、スピード感を持って行ってほしいとの意見がありました。

次に、教育費、小学校費の工事請負費の１，５５４万８，０００円は、隈府小学

校グラウンド改修工事と隈府小学校多目的ホールつり天井改修工事を行うものとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、排水施設改修については当初予算で説明があったが、追加分の金額が大きい、要望が上がってきた場合は当初予算に計上すべきとの意見がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、議案第９４号、菊池市定住自立圏形成方針の策定について申し上げます。

この方針は、中心市宣言を行った菊池市において、菊池地域、七城地域、旭志地域及び泗水地域が相互に役割を分担する形をつくり、本市の目指す「安心・安全の癒しの里きくち」の実現に向けた取り組みを強力に進めることにより、人口の流出を食いとめるとともに、当圏域への人の流れをつくり出し、自立性の高い圏域を形成することを目的として策定すると説明があり、質疑を行いました。

委員より、方針の中に移住・定住の促進は記載してあるが、市営住宅について何も記載がない。ここでは空き家対策のことで定住は市営住宅も定住と捉えているのか、持ち家だけが定住と考えているのかとの質疑に、執行部より、移住・定住相談の総合的なことを記載している。市営住宅については、総合計画の施策の中で取り組むようにしている。策定に当たっては、総務省の要綱に基づき記載しているとの答弁がありました。

また、委員より、中心地の役割と近隣の役割が考えられているが、総務文教常任委員会では総合支所の役割と機能について話をしているが、この中で総合支所がどの部分を担っていくのか、ビジョンがあれば聞かせてほしいとの質疑に、執行部より、総合支所の役割については庁内会議で検討されているが、これは方針であるので、年度末に向けて共生ビジョンを策定するので、その中で反映できる部分は盛り込む予定であるとの答弁がありました。

委員より、自分たちのまちに合った定住を目指して人口減少に歯どめをかけるビジョンでなければならない。共生ビジョンの策定に当たっては、菊池市に合った事項を考えてほしいとの意見がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、議案第９７号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）については、そのほとんどが台風１５号により被害を受けた公共施設等の復旧に係る経費であります。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、議案第９９号、工事請負契約の締結について（平成２７年度菊池市役所庁舎増改築工事）について申し上げます。

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得に関する条例の規定により、議会の議決を経る必要があるとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、設計監理は発注してあるのか、発注するに当たっての要件があるのかとの質疑に、執行部より、設計をプロポーザル方式で委託している。今回の工事は減築して増築するので、これまでの経緯を熟知している業者で随意契約が考えられるとの答弁がありました。

また、委員より、現場説明書の中に、工事資材の発注についてはできるだけ菊池市内での発注に努めること、中小企業振興基本条例の趣旨を踏まえてと記載してあるが、地域貢献提案書にはこれ以上に踏み込んだことを示しているのかとの質疑に、執行部より、今までは菊池市内からの雇用、下請契約に努めることは記載していたが、今回、新たに地域貢献提案書の提出を求めている。今までより実効性を上げることができると考えている。提案書は議決後に提出されるので、どういう内容かわからないとの答弁がありました。

採決の結果、全会一致で可決すべきものと決定しました。

なお、本工事の施工に当たっては、行政及び建設業者においては、菊池市中小企業振興基本条例の趣旨を踏まえ、地場産業育成の観点から菊池市内からの雇用下請契約に努められるよう要望するとの意見がありました。

この部分に関しましては、当委員会としまして附帯意見として執行部に伝えました。

次に、議案第１００号、財産の取得について申し上げます。

消防団活動服上下とベルトを購入するものであります。議会の議決に付すべき契約及び財産の取得に関する条例の規定により、議会の議決を経る必要があるとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、条件付一般競争入札とあるが、条件つきとはどういう内容かとの質疑に対し、執行部より、菊池市に指名願が提出され、消防制服業者と記載されているものであるとの答弁がありました。

別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上、本委員会に付託されました案件の審査の経過と結果について、ご報告します。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、速やかにご賛同賜りますようお願い申し上げて、総務文教常任委員長の報告といたします。

○議長（森　清孝君）　次に、福祉厚生常任委員長、岡﨑俊裕君。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（岡﨑俊裕君）　おはようございます。本定例会で福祉厚生常任委員会に付託されました案件は、条例案２件、予算案５件です。

２日間にわたり慎重に審議をいたしましたので、委員会における審査の経過及び結果について、ご報告を申し上げます。

まず、議案第７２号、菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定については、マイナンバー法の施行及び住民基本台帳法の改正に伴い、手数料条例の一部を改正し、個人番号の通知カード及び個人番号カードの再交付の手数料を加えるものとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、マイナンバー事業の主たる課はどこかとの質疑に対し、執行部より、まだ決まっていないが、現在進めているのはマイナンバー発行を含めた準備であり、それについては市民課が主で準備を進めている。今まではシステムの改修を福祉部門や税部門で行っていた。今後の活用については、庁内でプロジェクトチームを立ち上げて運用についての検討を進めていくとの答弁がありました。

さらに、委員より、責任の所在を明らかにするため、マイナンバー係などの主たる部署をつくったほうがいいのではないかとの意見がありました。

また、委員より、年金機構で情報漏えいがあったが、パソコンでのセキュリティの対処はどうするのかとの質疑に対し、執行部より、１０月５日の施行日までに基幹系と情報系を同じパソコンでしてはならないと総務省から通知が来ており、その分離を行うよう情報統計係と打ち合わせをしているとの答弁がありました。

次に、議案第７３号、菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定については、老人福祉センターの開館時間の午前８時３０分を実際の運用に合わせて午前９時とするもの。また、冷暖房使用料については現在免除しているが、地域の高齢者の皆さんの健康増進、教養の向上等のために気軽に利用していただくよう、今後も冷暖房使用料は無料が適当であると考え、現状に合わせた条例改正をするものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）中、付託分について、その主なものを申し上げます。

徴税費の電算処理等委託料５３万円は、延滞金のみ残っている方を抽出するための処理項目の設定等の委託料であるとの説明があり、同じく徴税費の過誤納還付金の７５４万円は、法人住民税の予定納付があった場合に、決算において納税分を還付するというケースが特に多く、新たに１件で４２０万円ほどの申請も上がっているため増額するものとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、過誤納還付金の件数は何件ぐらいあるのかとの質疑に対し、執行部より、現在７０件ほど上がっているとの答弁がありました。

また、委員より、電算処理委託料については、その程度であれば業者にサービスでしてもらえないのかとの質疑に対し、執行部より、今の作業を一刻でも早く進めて時効消滅にならないようにするために必要であり、計上している。金額については下げるよう交渉しており、契約時にはもっと下げられるよう努力したいとの答弁がありました。

次に、高齢者福祉費の地域介護・福祉空間整備補助金４８８万１，０００円は、消防法に基づき、宿泊を伴う小規模な高齢者施設等を対象とし、地震や火災発生時の消火の初期対応手段として有効なスプリンクラーの設置を行うもので、１００％国庫補助となり、今回、住宅型有料老人ホームさくらの杜みさとにスプリンクラーを設置するものとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、菊池市にはまだスプリンクラーが設置されていないところがあるのかとの質疑に対し、執行部より、対象施設は１７施設あり、今回設置の施設を除くと残りは４施設となる。これを平成３０年度までに整備しなければならないとの答弁がありました。

次に、議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）ですが、事業費確定に伴う国庫及び県への支出金返納金及び社保支払基金返還金が主なものであり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第７６号、平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）ですが、人事異動に伴う人件費及び事業実績に伴う支払基金返納金が主なものであり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第８２号、平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）については、今回の補正は人件費であり、人事異動による一般会計と特別会計間での職員の異動に伴うものとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第９７号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）中、付託分について、その主なものを申し上げます。

今回の補正は台風１５号に伴う災害廃棄物の処理が主なもので、４地区での災害廃棄物仮置き場の設置状況等の説明を受け、慎重に審議しました。

災害復旧費の衛生施設災害復旧費２億１，１４６万７，０００円は、災害廃棄物処理業務委託料及び災害廃棄物収集運搬業務委託料が主なもので、災害廃棄物の処理については、熊本県災害廃棄物協会との協定である、災害時における廃棄物処理等の支援活動に関する協定書に基づき、業務を委託するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員より、なるべく国の補助金がもらえるよう努力してほしいとの要望に対し、執行部より、今回の災害廃棄物の仮置き場については、行政の分と個人の分を分けていないため、どういった算定の仕方になるのか不明だが、極力、補助金をいただけるよう努力していきたいとの答弁がありました。

また、委員より、前回の泗水の水害のときと比べて非常に迅速に対応されていたが、４カ所の仮置き場での受け付け名簿の記載項目については、場所によって名前でいいところや車のナンバーも記載しないといけないところなどがあったようなので、統一してもらいたい。また、鉄くずは売却できないのかとの質疑に対し、執行部より、受け付けの仕方については、当日は名前と住所のみで、２日目から車両ナンバーも入れるようにした。それぞれの場所によって煩雑さの違いで、行列ができるとなかなかうまく受け付けができなかったり、一日に何回も来られる方がいたりで、今後は統一したい。また、鉄くず等の有価物については、今後、処理業者と協議していきたいとの答弁がありました。

以上、本委員会に付託されました全ての議案については、別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定どおり、ご賛同いただきますようお願いを申し上げまして、付託議案に関する審査の経過及び結果についての報告といたします。

引き続き所管事務調査の報告をいたします。

昨年、当委員会で所管事務調査を行いました、徴税業務における一部不適切な事務処理については、滞納に係る税収納事務改善計画に基づき事務が進められており、これまでの進捗状況の報告がありましたので、その概要について報告をいたします。

執行部より、平成２７年９月３日現在で延滞金未納調査の件数は総数が３万１，１３１件のうち、徴収不可が１万４，９３１件、本税滞納があるために本税完納後に判断するものが１万１，１４９件、詳細調査中が３，５７９件、催告を行っているものが２０３件で、そのうち徴収済みのものが８５件あり、未着手のものが１，２６９件となっている。調査進捗率は８４．４３％となっているが、本税滞納があるため本税完納後に判断するものや詳細調査中のもの及び未着手のものを合わせると５０％以上残っており、これからまだ半数以上がしっかり調査しなければならないとの報告があり、質疑を行いました。

委員より、調査には最初に２年程度かかると言われていたが、現段階でその見込みは変わらないかとの質疑があり、執行部より、これから残った分の調査が難しいところで、詳しく調べないといけないので、一件一件に時間がかかる。その後、調査が終わって確定次第、時効にならないよう順次催告していくこともあわせて行う

ため、これまでの進捗に比べるとかなり遅くなると考えるとの答弁がありました。

また、委員より、分納誓約については文書で残すと改善計画にあったが、１００％履行されているのかとの質疑に対し、執行部より、分納誓約書は文書でいただいているとの答弁がありました。

執行部におかれましては、これからも引き続き延滞金の調査を進めて、適正な事務執行に当たっていただくよう申し上げ、所管事務調査報告といたします。

○議長（森　清孝君）　次に、経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　皆さんおはようございます。経済建設常任委員会委員長の報告をさせていただきます。

経済建設常任委員会に付託されました案件は、予算案８件、議決案件２件、陳情１件です。

現地調査も踏まえ、慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果について、ご報告申し上げます。

議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）中、付託分について、その主なものを申し上げます。

款５農林水産業費、項１農業費、目４農業振興施設費の工事請負費２，４８０万８，０００円について、菊池市交流促進センター龍龍館は、現在閉館しているが、今後もダムフェスタや各種ボート大会等の開催が予定されているため、早期に営業を再開して飲食の提供や特産品の販売ができるよう、また、龍門地域活性化の拠点として機能するよう施設改修を行うための工事費であるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、指定管理者であった地元の龍門ふるさと振興会から要望があっていたときには対応せず、指定管理者を外れてから予算を組むというのは矛盾しているのではないか。経営が厳しい状況のときに施設を改修することができたのではないかとの質疑に対し、執行部より、龍門ふるさと振興会からは経営に対する助成の要望が多く、国の事業ではあるが、平成２１年度から平成２３年度まで、ふるさと郷土料理推進事業として１，８００万円を超える補助金を助成するなど、市としても経営に対する支援に取り組んできた。また、龍龍館の開館中に大規模な改修工事を行うことはできないため、閉館している現在において施設の改修を行うものであるとの答弁がありました。

また、委員より、当初予算で２，１６０万円の工事請負費が計上されていたにもかかわらず、今回の補正でそれ以上に計上している。こういったやり方はおかしいのではないかとの意見がありました。

款５農林水産業費、項１農業費、目８農地費の負担金補助及び交付金６０４万９，０００円について、委員より、竜門ダムから農業用水を送水している配管の破裂事故が多発している。原因究明及び今後の対策について、どのように考えているのかとの質疑に対し、執行部より、配管の設置から数十年が経過しているため、全体的な配管の見直しのための調査を昨年より実施しているところであるとの答弁がありました。

款６商工費、項１商工費、目２商工業振興費のまちなかづくり推進事業補助金２８６万４，０００円について、委員より、ベンチや案内板等の設置を行うとのことだが、御所通りは非常に景観を意識したところなので、統一的なイメージで整備が行われるのかとの質疑に対し、執行部より、癒しの集い、休憩場所の提供を目的に、お客様を温かくもてなす事業として、また、環境に配慮した事業として整備を行うものであり、街並みにふさわしいもので事業を計画しているとの答弁がありました。

款７土木費、項４都市計画費、目４公園費の工事請負費６６万４，０００円について、御所通りの入り口にある県菊池地域振興局横の広くなっている場所にラブベンチを設置するため、木の根と植栽ますの撤去を行うものである。あわせて、髙木医院が隣接する側において、進入路整備を行うものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、菊池神社の鳥居から始まり、御所通りへと続いていく歴史的な景観とラブベンチのデザインが合っていないため、完成後の市民からの評判を心配している。どのようにしてこのデザインになったのか。場所の変更はできないのかとの質疑に対し、執行部より、一般の方から選任して審査してもらっている。御所通りの入り口であるあの場所に設置するというイメージで審査して選ばれているとの答弁がありました。

次に、議案第７７号、平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）において、委員より、工事請負費の１，２７４万４，０００円は、古くなって機能していない穴川・鳳来地区のろ過器を今回設置するとのことだが、耐用年数と経過年数はどれぐらいかとの質疑に対し、執行部より、最低でも１０年はもつが、その都度、膜を交換していけば２０年程度はもつと思われる。また、ろ過器が設置されたのは昭和５８年であるとの答弁がありました。

次に、議案第７８号、平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）、議案第７９号、平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）、議案第８０号、平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）、議案第８１号、平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）、議案第９５号、字の区域の変更について、議案第９

６号、字の区域の変更についてですが、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第９７号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）中、付託分について、その主なものを申し上げます。

款１０災害復旧費、項２農林水産業施設災害復旧費、目２農業用施設災害復旧費の修繕料８３７万４，０００円について、台風１５号によりハウスリース分のビニールハウス２５軒が被害を受けたため、修繕料として計上するものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、作物別での被害状況はどうなっているのかとの質疑に対し、執行部より、メロンが１７名、花卉が６軒、トマトが２軒となっているとの答弁がありました。

また、委員より、今からどういった形で被害に遭われた方に手を打っていくのか。補助事業にしても、いつごろになればはっきりとしたことがわかるのかとの質疑に対して、執行部より、県議会が９月１０日から開会しており、その中で災害に対する単県事業を立ち上げるのかどうかについて注視している。もしそうなった場合、市としてもすぐに取り組めるよう準備していきたいとの答弁がありました。

款１０災害復旧費、項５その他公共施設・公用施設災害復旧費、目１その他公共施設災害復旧費の建設機械８９６万１，０００円について、台風１５号による公園内の風倒木の処理費用として建設機械の借上料を計上しているとの説明があり、委員より、老木が多いため、今回のように折れたりしたものが多いのではないか。これからは予防策として、人通りが多い箇所などの老木を確認して、ある程度カッティングしていくことも考えていただきたいとの要望がありました。

次に、議案第９８号、平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）については、台風１５号により七城北部浄化センター正面のアコーディオン式門扉が破損したため、修繕を行うものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

以上、慎重審議しました結果、別段、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

次に、陳情第５号、街路灯設置に関する陳情書について申し上げます。

この要望書は、昭和４３年に泗水町において街路灯を設置し、昭和６３年に建てかえを行って以来、老朽化が進み、危険な街路灯がふえているものの、泗水町街路灯管理組合だけでの対応が難しい状況であるため、市町村合併前からの経緯も考慮して、市が事業化して建てかえてもらうよう要望するものであります。

委員からは、泗水地区の治安を守るために事業を進めていくべきであるが、今回、陳情者が所用のため委員会に出席できず、陳情の趣旨を聞けなかったこと、また、

現在、業者で街路灯を１基ずつ調査している最中であり、その結果を踏まえて費用や配置等について検討すべきであること、電気使用料について市内で公平な運営を図るべきであることなどから、可否を問うにはまだ時期が早いと思われる。よって、この陳情については継続審議を望むものであるとの意見がありました。

慎重に審議した結果、全員一致で継続審査とすることに決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおりご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員長の報告を終わらせていただきます。

○議長（森　清孝君）　以上で委員長報告を終わります。

ただいまの各常任委員長の報告に対して質疑を行います。質疑はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○８番（荒木崇之君）　工藤総務文教常任委員長にお尋ねいたします。

本来ならば執行部に聞くようなことですが、ここでお聞きすることをお許しください。議案第９９号、工事請負契約の締結についてであります。

１つ目に、予定価格、それと２つ目に、最低制限価格は予定価格の何％であったのか。それと３つ目です。すみません、多くて。応札業者と入札額と、最後、４つ目、落札率というのをお教えいただければと思います。

再質疑はいたしません。よろしくお願いいたします。

○議長（森　清孝君）　総務文教常任委員長、工藤圭一郎君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（工藤圭一郎君）　それでは、荒木議員の質疑にお答えしたいと思います。

１点目、予定価格について、２５億８，９８４万６，０００円であります。

２点目の最低制限価格は予定価格の何％かにつきましては、９０．０２％です。

３点目につきましては、ちょっと執行部と確認をとって、お答えできるか、一度確認をとりたいと思いますので、よろしくお願いします。

４点目、落札率につきましては、９０．８５％であります。

○議長（森　清孝君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時３９分

開議　午前１０時４０分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務文教常任委員長、工藤圭一郎君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（工藤圭一郎君）　じゃ、３点目についてお答えします。

今回とりました前田建設工業以外に、株式会社鴻池組九州支店、入札額が２４億７，９００万円です。もう１つが西松・三和建設工事共同企業体、入札額が２５億１，０００万円です。

以上、お答えします。

○議長（森　清孝君）　ほかにありませんか。

城典臣議員。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　泉田経済建設常任委員長にお聞きします。

款５農林水産業費、項１農業費、目４農業振興費、工事請負費の中で、下のほうなんですけど、「委員より、当初予算で２，１６０万円の工事請負費が計上されていたにもかかわらず、今回の補正でそれ以上に計上している。こういったやり方はおかしいのではないかとの意見がありました」ということで、ありましたで終わっておりますので、執行部はどのような答えを出したのか。また、なぜここで計上したのかという執行部の話があればお聞かせください。

○議長（森　清孝君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　城議員の質疑にお答えします。

当初予算で２，１６０万円の工事請負費が計上されていたにもかかわらず、今回の補正でそれ以上に計上している。こういったやり方はおかしいのではないかというような内容の部分だったと思います。

それで、執行部のほうは、本来ならばこういう計上の仕方はおかしかったかもしれませんけれども、一応、当初予算の計画とは違った形で内容的に必要というふうに見込まれたということで計上したということで、具体的な内容についてはお答えはありませんでしたけれども、この補正が大変重要であるというようなことで提出したというお答えがありました。

以上でございます。

○議長（森　清孝君）　城典臣君。

［登壇］

○１１番（城　典臣君）　では、委員の中から、その答弁に対しては何も出なかったということで理解してよろしいんでしょうか。

○議長（森　清孝君）　経済建設常任委員長、泉田栄一朗君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（泉田栄一朗君）　城議員の再質疑にお答えします。

これについては、委員会としてはしっかりと指摘をしまして、それについて、こういうことがないようにということでしっかりした上で、この内容については終わりました。

以上です。

○議長（森　清孝君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

ただいまの委員長報告で、陳情第５号は継続審査です。

これから陳情第５号を除き、討論を行います。

議案第６８号から議案第８２号まで及び議案第９４号から議案第１００号まで、以上２２件について討論はありませんか。

東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　皆さんおはようございます。議席番号２番、日本共産党、東奈津子です。私は議案第６９号、菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について、議案第７２号、菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定について、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）、議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）について、反対の立場から討論を行います。

まず最初に、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）です。

議案４９ページをお開きください。

款２総務費、項３戸籍住民基本台帳費、目１戸籍住民基本台帳費、節７賃金、臨時雇賃金２３２万円、節９旅費、普通旅費１１万１，０００円、節１８備品購入費３５４万３，０００円、節１９負担金補助及び交付金、通知カード・個人番号カード交付金５万円についてです。

これらの支出は、マイナンバー制度導入に伴う人件費等の関連予算であります。本定例会の私の一般質問でも述べましたが、マイナンバー制度が導入されれば多くの個人情報が芋づる式に引き出され、プライバシーの侵害、情報悪用のおそれがあります。また、菊池市でも施行を目前にして、セキュリティの問題や実務面での体制問題など、準備のおくれや問題を抱えている状態です。現時点でマイナンバー制度を進めることは余りにも危険と言わざるを得ません。少なくとも１０月から予定されている番号通知、来年１月からの運用開始は中止するように国に働きかけるべ

きです。

日本共産党は、マイナンバー制度については、これまでも中止を求めてまいりました。問題点も一層明らかになっています。そういった点からも、議案第７４号、平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）には反対です。

議案第６９号、議案第７２号についても、マイナンバー関連のものであり、反対です。

次に、議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）についてです。

７７ページ、款１総務費、項２徴税費、目１賦課徴収費、節１３委託料、国民健康保険税システム改修委託料６万５，０００円についてです。

議案の質疑でも明らかとなりましたが、本予算は２０１８年度から始まる国保の都道府県単位化に伴う予算です。時間がありませんので、この都道府県単位化の問題については詳しくは述べませんが、国保の都道府県単位化は医療費抑制の新たな政策手法であります。保険料引き上げや徴収強化につながり、保険料の滞納や保険証の取り上げが広がりかねません。市町村ごとに決められる納付金は、医療費の実績や所得水準をもとに決められるため、医療費の一層の抑制が迫られることになります。今でも市民の大きな負担となっている国保税がさらに引き上げられる危険性があります。このような国保の都道府県単位化には反対であります。

以上の理由で、議案第７５号、平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）には反対し、討論といたします。皆さんのご賛同をよろしくお願いいたします。

○議長（森　清孝君）　ただいま議案第６９号、議案第７２号、議案第７４号、議案第７５号に対する反対討論がありましたので、まず、議案第６９号に対する討論を行います。

議案第６９号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで議案第６９号に対する討論を終わります。

次に、議案第７２号について反対討論がありましたので、議案第７２号に対する討論を行います。

議案第７２号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで議案第７２号に対する討論を終わります。

次に、議案第７４号について反対討論がありましたので、議案第７４号に対する討論を行います。

議案第７４号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで議案第７４号に対する討論を終わります。

次に、議案第７５号について反対討論がありましたので、議案第７５号に対する討論を行います。

議案第７５号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで議案第７５号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで討論を終わります。

これより議案第６８号から議案第８２号まで及び議案第９４号から議案第１００号までについて採決します。

ただいま討論がありました議案第６９号、議案第７２号、議案第７４号、議案第７５号を除き、一括採決します。

お諮りします。議案第６８号、議案第７０号、議案第７１号、議案第７３号、議案第７６号から議案第８２号まで、議案第９４号から議案第１００号まで、以上の１８案件については、各常任委員長の報告は原案のとおり可決であります。

各常任委員長の報告のとおり決定することにご異議はありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、以上の１８案件については、各常任委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

次に、討論がありました議案第６９号、議案第７２号、議案第７４号、議案第７５号については、起立により採決します。

お諮りします。議案第６９号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（森　清孝君）　起立多数です。よって、議案第６９号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７２号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（森　清孝君）　起立多数です。よって、議案第７２号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７４号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（森　清孝君）　起立多数です。よって、議案第７４号は原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７５号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（森　清孝君）　起立多数です。よって、議案第７５号は原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○議長（森　清孝君）　次に、日程第２、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

総務文教常任委員会

１　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、防災、教育等に関する諸問題の調査について

福祉厚生常任委員会

１　福祉、環境、市税、健康管理、地籍調査等に関する諸問題の調査について

経済建設常任委員会

１　農政、林業、商工振興、観光振興等に関する諸問題の調査について

２　土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について

３　陳情第５号　街路灯設置に関する陳情書

議会運営委員会

１　議会運営等に関する諸問題の調査について

議会広報特別委員会

１　議会広報に関すること

企業誘致促進特別委員会

１　企業誘致に関すること

決算特別委員会

１　平成２６年度決算認定に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項につい

て、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申し出一覧表のとおり申し出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

ここで暫時休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午前１０時５５分

開議　午前１１時０３分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（森　清孝君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

追加日程第１　意見書案第３号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（森　清孝君）　次に、追加日程第１、意見書案第３号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

猿渡美智子さん。

［登壇］

○６番（猿渡美智子さん）　おはようございます。猿渡美智子です。議長より発言の許可をいただきましたので、意見書案第３号の説明をいたします。

安全保障関連法案の撤回を求める意見書

「憲法９条の下では集団的自衛権の行使は許されない」という見解は、歴代政権で繰り返し確認されてきたものであり、国民の間でも「自衛隊は専守防衛」と認識されてきた。

にも関わらず、安倍内閣は昨年７月憲法の解釈を変えて集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、今国会に安全保障関連法案を提出した。この法案に対し、多数の憲法学者、内閣法制局長官の経験者、最高裁判所の元長官などから、「憲法違反であり、解釈を変更するのであれば憲法改正の手続きを取るべきである。」という指摘が続いている。

加えて、世論調査によると国民の６割が「今国会で安全保障関連法案を成立させることに反対」としており、国会周辺をはじめ全国各地でこの法案に反対する集会

やデモなどの抗議行動が繰り広げられている。国民が納得していないことは明白である。

このような状況の中、衆議院に引き続き参議院でも安全保障関連法案を強行採決することは、数の暴力と言わざるを得ない。民主的な手続きを欠いた解釈改憲は許されないものである。

よって、本議会は政府と国会が下記の事項を講ずるよう強く要望する。

記

１　安全保障関連法案を速やかに撤回すること。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出する。

平成２７年９月１８日

熊本県菊池市議会議長　森　　清 孝

衆議院議長	大島　理森	様
参議院議長	山崎　正昭	様
内閣総理大臣	安倍　晋三	様
防衛大臣	中谷　　元	様
安全保障法制担当大臣	中谷　　元	様

菊池市議会会議規則第１４条の規定により、安全保障関連法案の撤回を求める意見書を提出いたしました。

きょうは、まさにこの法案が参議院本会議で採決されようとしているときであります。日本の進路の大転換となるこの法案に対して、自分の持ち場で意見を表明していくことが大切だと考えました。

提案理由を述べます。

安全保障関連法案に対しては、多数の憲法学者、内閣法制局長官の経験者、最高裁判所の元長官などから憲法違反との指摘が続いております。また、世論調査によると、今国会で安全保障関連法案を成立させることに反対と答えた人が６割に達しており、国民の理解も得られていません。

このような状況の中、安全保障関連法案を強行採決することは民主主義に反するものであり、国に対し本法案の撤回を強く求めるものであります。

これが本案を提出する理由です。

真っ当な立憲主義のあり方と戦争を遠ざけてきたこの国の形を次の世代に引き継いでいかなければならないと考えております。議員各位におかれましては、ご賛同いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（森　清孝君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第３号は、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

東奈津子さん。

［登壇］

○２番（東　奈津子さん）　おはようございます。議席番号２番、日本共産党、東奈津子です。意見書案第３号、安全保障関連法案の撤回を求める意見書について、全面的に賛同の立場で討論を行います。

意見書に述べられているように、３カ月の衆参の審議を通じて、安保法案は憲法違反であることがはっきりしました。圧倒的多数の憲法学者、内閣法制局の元長官に続いて、最高裁判所長官を務められた山口氏が憲法違反と断じました。合憲か違憲か、この論争はもう決着がはっきりとつきました。

そして、提案理由でも触れられていますように、本法案に対する反対の世論は、審議が進めば進むほど広がっています。国会前だけではなく、抗議行動は日本全国２，０００カ所以上、数千回を超え、延べ１３０万人以上が街頭で連日のように声を上げています。そして、その階層は、高校生、大学生、若い母親、中高世代、労働者、医師、宗教者、文化人など、国民の全階層、各分野に広がるかつてないものです。

戦後７０年間、日本国憲法のもとで培われてきた平和主義、立憲主義、民主主義を根本から破壊しようとする今回の法案の審議、そして、きのう見られたような言語道断の強行採決には道理のかけらもない、私はそう思います。

８月１５日の熊日新聞の読者の広場に、菊池市在住１７歳の高校生が次のような投書を投稿していました。「私は安保法制は必要ないと思う。少しでも可能性があるならば、私は全力で反対したいと思う。私の意見に賛成の人も反対の人もいるだ

ろう。だからこそ、政治家は発言に気をつけ、国民のために議論を重ねてほしい」、この思いは、たった一人の高校生の思いではなく、今や圧倒的多数の市民の声ではないでしょうか。

私自身、今回の意見書の賛同者となるには、正直、ためらいがありました。６月議会で市民の方から出された同じ趣旨の請願は賛成少数で否決をされました。今回も結局同じ結果ではないか、こういう思いがありました。しかし、私は２人の息子を持つ母親として、そして、何より市民の代表である市議会議員、政治家として、日本の国のあり方が１８０度変えられようとしているときに、諦めたくない、諦めるべきではない、この思いで今回賛同者となり、賛成討論に立っています。

議員の皆さんお一人お一人の勇気ある決断、ご賛同をお願いいたしまして、私の賛成討論といたします。

○議長（森　清孝君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

工藤圭一郎君。

［登壇］

○１０番（工藤圭一郎君）　私はこの意見書に反対の立場で討論に立ちたいと思います。

現在、国で審議がなされておりますので、当市議会で意見書を提出することにはそぐわないと考えておりますので、反対といたします。

○議長（森　清孝君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（森　清孝君）　これで討論を終わります。

討論がありましたので、起立により採決します。

お諮りします。意見書案第３号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（森　清孝君）　起立少数です。よって、意見書案第３号は否決されました。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全て議了しました。

これをもちまして平成２７年第３回菊池市議会定例会を閉会します。

全員起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

―――――――――――――――――――― ○ ――――――――――――――――――――

閉会　午前１１時１２分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　森　　清　孝

菊池市議会議員　柁　原　賢　一

菊池市議会議員　工　藤　圭一郎

付　　録

平成２７年第３回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（９月１日・９月８日・９月１１日・９月１８日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第　６７号	専決処分の報告及び承認を求めることについて（平成２７年度菊池市一般会計補正予算第４号）	原案承認
議案第　６８号	菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議条例の制定について	原案可決
議案第　６９号	菊池市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　７０号	菊池市職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　７１号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　７２号	菊池市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　７３号	菊池市老人福祉センター条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第　７４号	平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第５号）	原案可決
議案第　７５号	平成２７年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　７６号	平成２７年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第　７７号	平成２７年度菊池市簡易水道事業等特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　７８号	平成２７年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　７９号	平成２７年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　８０号	平成２７年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　８１号	平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第　８２号	平成２７年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第１号）	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議案第　８３号	平成２６年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８４号	平成２６年度菊池市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８５号	平成２６年度菊池市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８６号	平成２６年度菊池市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８７号	平成２６年度菊池市簡易水道事業等特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８８号	平成２６年度菊池市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　８９号	平成２６年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　９０号	平成２６年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　９１号	平成２６年度菊池市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　９２号	平成２６年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
議案第　９３号	平成２６年度菊池市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	継続審査
議案第　９４号	菊池市定住自立圏形成方針の策定について	原案可決
議案第　９５号	字の区域の変更について	原案可決
議案第　９６号	字の区域の変更について	原案可決
議案第　９７号	平成２７年度菊池市一般会計補正予算（第６号）	原案可決
議案第　９８号	平成２７年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第　９９号	工事請負契約の締結について（平成２７年度菊池市役所庁舎増改築工事）	原案可決

議 案 番 号	件　　名	審議結果
議案第１００号	財産の取得について	原案可決
議　事		
議事第　２号	議会運営委員会委員の辞任及び選任について	１人辞任 １人選任
議事第　３号	企業誘致促進特別委員会委員の辞任について	１人辞任
議事第　４号	決算特別委員会の設置について	原案可決
意　見　書　案		
意見書案第３号	安全保障関連法案の撤回を求める意見書	原案否決
陳　情		
陳情第　５号	街路灯設置に関する陳情書	継続審査
報　告		
報告第１８号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	原案報告
報告第１９号	継続費精算報告について	原案報告
報告第２０号	専決処分の報告について（公用車車両事故）	原案報告
報告第２１号	専決処分の報告について（道路管理瑕疵）	原案報告
報告第２２号	専決処分の報告について（消防団活動事故）	原案報告
報告第２３号	専決処分の報告について（道路管理瑕疵）	原案報告

菊 池 市 議 会 会 議 録
平成２７年第２回７月臨時会
平成２７年第３回９月定例会

平成２７年１１月発行

発行人　菊池市議会議長　森　　清　孝
編集人　菊池市議会事務局長　城　　主　一
作　成　株式会社小出速記事務所
電　話(0952)30-2621

菊 池 市 議 会 事 務 局

〒861-1392　菊池市隈府888
電 話 (0968)25-2325